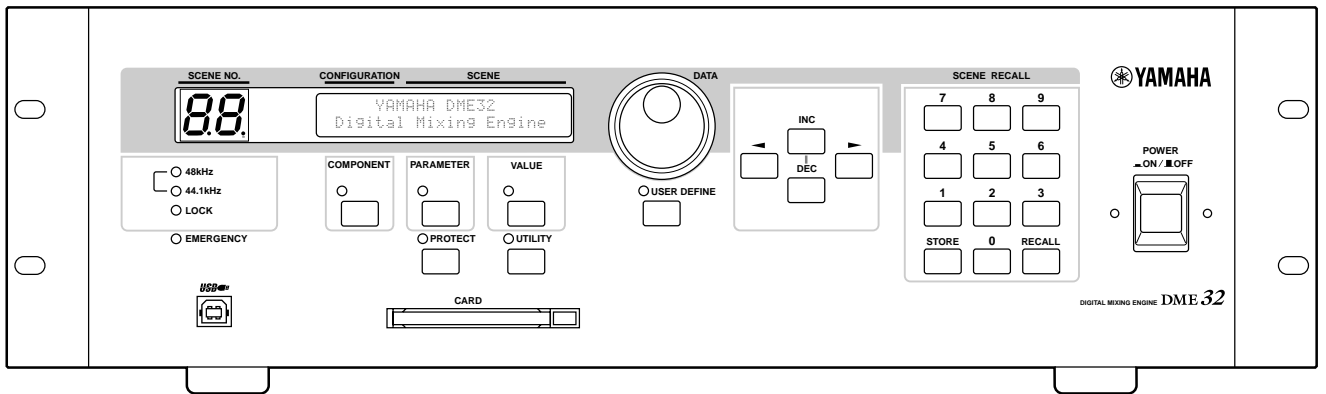




DIGITAL MIXING ENGINE

DME 32

取扱説明書



この説明書をお読みになったあとは、保証書とともに保管してください。






！安全上のご注意

安全にお使いいただくため

安全にお使いいただくため、ご使用前にこの「安全上のご注意」をよくお読みください。またお読みになったあと、いつでも見られるところに必ず保存してください。

絵表示 この取扱説明書および製品への表示では、製品を安全に正しくお使いいただき、あなたや他の人々への危害や財産への損害を未然に防止するために、いろいろな絵表示をしています。内容をよく理解してから本文をお読みください。

絵表示の例

-  : 注意(危険・警告を含む)を促す事項
-  : 決しておこなってはいけない禁止事項
-  : 必ずおこなっていただく強制事項






警告

この欄に記載されている事項を無視して、誤った取扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性があります。

設置されるとき	
	<p>この機器はAC100V専用です。それ以外の電源(AC200V、船舶の直流電源など)では使用しないでください。火災・感電の原因となります。</p> <p>この機器に水が入ったり、機器がぬれたりしないようご注意ください。火災・感電の原因となります。雨天・降雪時や海岸・水辺での使用はとくにご注意ください。</p> <p>電源コードの上に重い物をのせないでください。コードに傷が付くと、火災・感電の原因となります。とくに、敷物などで覆われたコードに気付かず重い物を載せたり、コードが本機の下敷きになることのないよう、十分にご確認ください。</p>
	 <p>プラグをコンセントから抜く</p> <p>雷が鳴りだしたら、早めに機器本体の電源スイッチを切り、電源プラグをコンセントから抜いてください。</p>
	 <p>接触禁止</p> <p>落雷のおそれがあるとき、電源プラグが接続されたままならば、電源プラグには触れないでください。感電の原因となります。</p>
使用中に異常が発生したとき	
	 <p>断線・芯線の露出など、電源コードが傷んだら、販売店に交換をご依頼ください。そのまま使用すると、火災・感電の原因となります。</p>
	 <p>プラグをコンセントから抜く</p> <p>万一、この機器を落としたり、キャビネットを破損した場合は、電源スイッチを切り電源プラグをコンセントから抜いて販売店にご連絡ください。そのまま使用すると、火災・感電の原因となります。</p>
	 <p>煙が出る、変なにおいや音がするなどの異常がみとめられたときや、内部に水などの異物が入った場合は、すぐに電源スイッチを切り、電源プラグをコンセントから抜いてください。そのあと、販売店にご連絡ください。異常状態のまま使用すると、火災・感電の原因となります。</p>
ご使用になるとき	
	<p>この機器の上に水などの入った容器や小さな金属物を置かないでください。こぼれたり、中に入ったりすると、火災・感電の原因となります。</p> <p>電源コードを傷つけたり、加工したり、無理に曲げたり、ねじったり、引っ張ったり、加熱したりしないでください。コードが破損して、火災・感電の原因になります。</p>
 <p>分解禁止</p>	<p>この機器の裏ぶたやカバーは絶対に外さないでください。感電の原因となります。</p> <p>内部の点検・整備・修理が必要と思われるときは、販売店にご依頼ください。</p> <p>この機器を改造しないでください。火災・感電の原因となります。</p>

注意

この欄に記載されている事項を無視して、誤った取扱いをすると、人が傷害を負ったり、物的損害が発生したりする可能性があります。

設置されるとき	
 <p>電源プラグを抜くときは、電源コードを引っ張らないでください。必ずプラグを持ってください。コードを引っ張ると、電源コードが傷ついて、火災・感電の原因となることがあります。</p> <p>濡れた手で電源プラグを抜き差ししないでください。感電の原因となることがあります。</p> <p>この機器の通風孔をふさがないでください。内部の温度上昇を防ぐため、この機器のケースの上および底部には通風孔があけてあります。通風孔がふさがると内部に熱がこもり、火災の原因となることがあります。</p> <p>とくに次のような使い方は避けてください。</p> <ul style="list-style-type: none">・機器をおお向けや横倒し、逆さまにする。・本箱や押し入れなど、専用ラック以外の風通しの悪い狭いところに押し込める。・テーブルクロスを掛けたり、じゅうたんや布団の上に置いて使用する。	 <p>オーディオラックなどに入れるときは、放熱をよくするために、壁や他の機器との間に隙間をとってください。隙間の大きさは、側面では10cm、背面では15cm、天面では30cm以上が必要です。</p> <p>さらにラックの背面を開放するか、もしくはラックの背面に相当の通風孔を開けてください。</p> <p>放熱が不十分だと内部に熱がこもり、火災の原因となることがあります。</p>  <p>本機には感電防止のため、専用のアース端子が設けられています。</p> <p>電源プラグをコンセントに挿入する前に確実に大地アースを施してください。</p> <p>3芯電源コードの場合にはコンセント側のアース端子が大地と接地されていれば上記と同じ効果があります。</p> <p><small>アース線を接続する</small></p>

！ 使用上のご注意

正しくお使いいただくため

電池交換

この機器に電源を入れたとき、“Warning Low Battery”というメッセージが出たら、なるべく早く、お買い上げ販売店へ電池の交換を依頼してください。この機器に内蔵のバックアップ電池が劣化しました。電池が古くなっても、機器は正常に動作しますが、やがて、コンフィグレーションのデータが消えてしまいます。

電池交換の依頼の際には、データをPCまたはメモリーカードに保存することをおすすめします。

目次

第1章	はじめに	1
	はじめに	2
	DME32とは?	2
	DME32の特長	4
	ソフトウェア「DME Manager」の特長	6
	本書について	7
	DME32の設置	7
第2章	操作の前に	9
	基本セットアップ	10
	PCへの接続	11
	電源コードの接続	12
	電源オン/オフ	12
	ソフトウェアDME Managerのインストール	13
	ソフトウェアDME Managerのアップグレードと再インストール時の注意	14
	DME Managerの起動	14
	DME Managerの終了	14
	DME ManagerとWindows 98	15
	コンポーネントと配線にずれがある場合	15
	USBドライバのインストール	15
	インストールの確認	16
第3章	各部の名称と機能	17
	フロントパネル	18
	リアパネル	21
第4章	DME Managerの概要	23
	モード	24
	メイン画面	25
	コンフィグレーション画面	28
	コンポーネント	32
	コンポーネントのコントロール画面	33
	「Run Mode Controller」画面	35
	その他の画面	36
	メニューの概要	36
	コンポーネントリスト	42
	Tool Palett(ツールパレット)	43
	「Alt」メニュー	43
	キーボードのショートカット	44

第5章	コンフィグレーションの構築	45
	コンフィグレーションの構築と編集	46
	Editモードの選択	47
	新規コンフィグレーション画面の開き方	47
	保存済コンフィグレーションの開き方	47
	開いているコンフィグレーション画面の選択	48
	コンポーネントの追加	48
	コンポーネントの編集	50
	コンポーネントのグリッドへの位置揃え	50
	コンフィグレーション画面のズーム	52
	Cableモードの選択	53
	配線の追加	53
	配線の削除	58
	複数台のコンフィグレーションを使用した作業	60
	コンフィグレーションの保存	62
	別名でコンフィグレーションを保存	62
	コンフィグレーション画面の終了	62
	コンフィグレーションのコンパイル	63
	DME32へのコンフィグレーションの送信	64
	DME32からのコンフィグレーションの受信	65
第6章	Runモード	67
	Runモードの選択	68
	Run Mode Controller	69
	コンポーネントパラメーターの変更	71
	シーンの保存	72
	シーンの呼び出し	74
	コンフィグレーションの呼び出し	76
第7章	ソフトウェア“DME Manager”のその他の機能	77
	シーンのオフライン編集	78
	コンポーネントパラメーターのリンク	80
	コンポーネントプロパティのカスタム化	82
	回転ノブとフェーダーのサイズ変更	84
	パスワードによるプロテクト	85
	[USER DEFINE]キーの設定	88
	プリント	89

第8章	コンポーネントガイド 第1部	91
	Auto Mixer(オートミキサー)	92
	Cascade(カスケード)	94
	Crossover(クロスオーバー)	95
	Crossover Processor(クロスオーバープロセッサ)	104
	Delay(ディレイ)	122
	Delayed Mixer(ディレイドミキサー)	124
	Dynamics(ダイナミクス)	127
第9章	コンポーネントガイド 第2部	143
	Effect(エフェクト)	144
	EQ(イコライザー)	164
	Fader(フェーダー)	167
	Filter(フィルター)	168
	Input/Output	172
	Matrix Mixer(マトリクスミキサー)	173
	Meter(メーター)	176
	Misc(その他)	177
	Par(パン)	180
	Router(ルーター)	189
	Switch(スイッチ)	191
	User Control(ユーザーコントロール)	192
	User Module(ユーザーモジュール)	195
第10章	フロントパネルの操作	199
	コンフィグレーションの呼び出し	200
	シーンの保存	201
	シーンの呼び出し	202
	パラメーター編集と[USER DEFINE]キー	203
	DME32へのアクセスの制限	205
	ワードロックソースの選択	211
	I/Oスロットの確認	212
	DME32の初期化	212
	ファームウェアバージョンと電池の確認	212
第11章	GPIインターフェース	213
	GPIインターフェースについて	214
	GPI端子	214
	GPI入力の割り当て	216
	GPI出力の割り当て	219
	EMERGENCY(緊急)モード	222

第12章 PCカード	223
PCカードとDME32	224
PCカードの挿入、取り出し	224
PCカードのフォーマット	225
PCカードへのコンフィギュレーションの保存	226
PCカードからのコンフィギュレーションのロード	227
PCカードからのコンフィギュレーションの削除	228
第13章 ワードクロック	229
ワードクロックとDME32	230
ワードクロックの接続	231
ワードクロックソースの選択	231
ワードクロック接続例	233
BNCワードクロック分配のターミネート	236
第14章 複数台のDME32 システム	237
複数台のDME32システム	238
複数台システムでの注意	238
カスケード接続	239
複数台の接続例	240
第15章 MIDI	243
MIDIとDME32	244
MIDI端子	244
MIDI設定	245
シーンとコンフィギュレーションのプログラムチェンジへの割り当て	246
コンポーネントパラメーターのコントロールチェンジへの割り当て	248
コンポーネントパラメーターとパラメーターチェンジ	250
MIDI設定の保存	251
MIDI設定のロード	252
MIDI設定の削除	252
第16章 I/Oオプション	253
I/OオプションとDME32	254
I/Oカードの仕様	255
I/Oカードの選択	255
I/Oカードの装着	257
AD824/DA824コンバーター	258

第17章 付 録	263
故障かな?と思ったら	264
コンポーネントネームリスト	267
DME32エラーメッセージ	272
DME Managerエラーメッセージ	273
仕 様	275
コントロールI/O	275
コネクタピンアサイン	276
DME32寸法図	278
プログラムチェンジアサイン表	279
コントロールチェンジアサイン表	280
MIDIデータフォーマット	283
用語集	286
索 引	288

著作権について

このソフトウェアあるいは本取扱説明書のどの部分のいかなる方法での複製・配布も、ヤマハ株式会社の文書による承認がない限り、これを禁じます。

商標について

Windowsは米国Microsoft Corporationの米国およびその他の国における登録商標です。

ADATおよびAlesisは、アレシス社の登録商標です。

ADAT Digital Interfaceはアレシス社の商標です。

IntelおよびPentiumはインテルの登録商標です。

MMXはインテルの商標です。

ティアックは、ティアック株式会社の登録商標です。

その他記載の社名および製品名は、各社の商標および登録商標です。

YAMAHAホームページ <http://www.yamaha.co.jp/product/proaudio/>

はじめに

1

本章の目次

はじめに	2
DME32とは?	2
DME32の特長	4
ソフトウェア“DME Manager”の特長	6
本書について	7
DME32の設置	7

はじめに

操作の前に

各部の名称
と機能DME
Manager
の概要コンフィグ
レーション
の構築

Runモード

ソフトウェア
“DME Manager”
のその他の機能コンポーネント
ガイド 第1部コンポーネント
ガイド 第2部フロント
パネルの
操作GPI
インター
フェース

PCカード

ワード
クロック複数台の
DME32
システム

MIDI

I/O
オプション

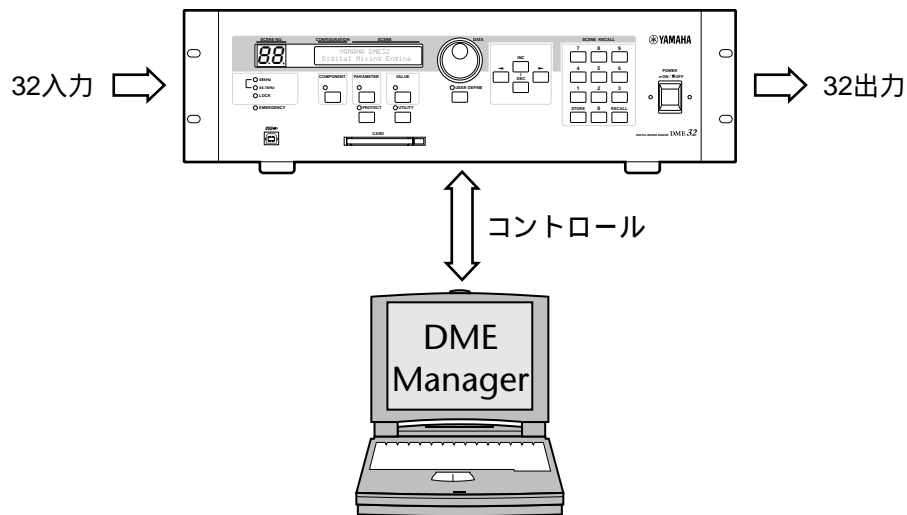
付録

はじめに

このたびはヤマハデジタルミキシングエンジンDME32をお買い求めいただきましてありがとうございます。

DME32本体およびソフトウェアDME Managerは設備音響システム構築時の様々な条件に対応するオーディオシステムをカスタムメイドすることができます。ソフトウェアDME Managerを使い、入力から出力までシステム全体を構築でき、またそのシステムデータをDME32本体に転送すればDME32本体を単独のプロセッサとして使用できます。設備音響、サブミキシング、スピーカーシステムコントローラー、マトリックスノルーティング、マルチエフェクト処理など幅広い用途にお使いいただけます。

DME32 とは？



DME32でのオーディオシステムは本機専用の用語で「コンフィグレーション」と呼びます。付属の専用ソフトウェアDME Managerを使用し、PCのモニター上にオーディオシステムを「ブロック図」の形で構築します。必要なコンポーネントの追加、各コンポーネント間の配線、コンフィグレーションのコンパイル作業を経てオーディオシステム構築後、RS232/RS422あるいは、USB(ユニバーサルシリアルバス)接続、またはPCカードのいずれかでDME32本体へオーディオシステムを転送します。

一旦プログラムすればDME32本体をPCから切り離して単独のプロセッサとして扱えます。あるいは常時PCと接続してDME Managerからリアルタイムでコントロールすることも可能です。この場合、何かのアクシデントなどでPCから本体が切り離されても本体だけで操作は続けられます。

コンフィグレーションとはコンポーネントで構成されたブロックのことです。コンポーネントにはミキサー、コンプレッサー、エフェクト、クロスオーバーなどのオーディオプロセッサや、フェーダー、スイッチ、パン、メーターなどの個々のパーツがあります。システム設計者はユーザーモジュールを使えばコンポーネントをカスタムメイドできます。

DME ManagerにはEdit、Cable、Runの3種類の動作モードがあります。
Editモードではコンフィグレーションの構築、編集、シーンのオフライン編集とプレビュー(確認)を行います。

Cableモードではコンポーネント間の配線をします。

RunモードではDME32システムをリアルタイムでコントロールします。

コンポーネントパラメーターの編集、シーンの保存/呼び出し、コンフィグレーションの呼び出しなどが可能です。RunモードでのDME Managerの操作はDME32本体に反映され、逆にDME32本体での操作もDME Managerに反映されます。

DME32本体にはA、B 2種類のコンフィグレーションが保存できます。またPCカードにもコンフィグレーションを追加/保存できます。

各コンフィグレーションにはそれぞれ最大で99個のシーンメモリーがあり、それぞれのメモリーにコンフィグレーションのコンポーネントパラメーター設定がメモリーされます。コンフィグレーションとシーンはDME32本体のフロントパネル、ソフトウェアDME Manager、MIDI、GPIインターフェースから呼び出します。コンフィグレーションとシーンのタイトルは接続PCのキーボードから入力できます。

DME32本体を単独のプロセッサとして使うときは、コンポーネントパラメーターの編集、シーンの保存/呼び出し、コンフィグレーションの呼び出しなど数々の機能をフロントパネルから操作します。またフロントパネルの[USER DEFINE]キーに特定のパラメーターを割り当てて簡単にアクセスすることもできます。2桁のシーン番号がディスプレイに表示され現在のシーンがひと目で確認でき、48文字のLCDはコンフィグレーション/シーンのタイトル、コンポーネントとパラメーター名、パラメーター値などを表示します。パスワードでプロテクトを設定し、無許可の操作を制限できます。

DME32本体には4つのデジタル/アナログI/Oカード用スロットがあり、32系統の入出力が得られます。別売のmini YGDAK(Yamaha General Digital Audio Interface)カードは様々なアナログ/デジタルI/Oを可能にし、AES/EBU、ADAT、Tascam TDIF-1など一般的なデジタルオーディオフォーマットに対応します。またDME32の複数台カスケード接続で32の倍数で入出力を拡張できます。最高4台のDME32をカスケード接続でき、合計で最高128系統の入出力が得られます。カスケード接続されたコンポーネントを複数台システムでバスなどの信号を分配したり、各DME32機器間でDSPパワーを共有したりします。

32ビットの内蔵信号処理と48kHzの内蔵サンプリングレートで高音質を実現しています。外部サンプリングレートも39.69kHz ~ 50.88kHzをサポートし、各コンフィグレーションごとに設定可能です。

MIDIやGPIの端子を使用してDME32をカスタムメイドのコントローラーや外部機器からのリモート操作が可能です。GPI端子は16系統の割り当て可能な入出力を装備しています。シーン/コンフィグレーションはMIDIプログラムチェンジメッセージやGPI接続でも呼び出せます。またMIDIコントロールチェンジメッセージ、システムエクスクルーシブメッセージ、GPI接続したカスタムメイドのコントローラーでコンポーネントパラメーターのコントロールもできます。

DME32本体の特長は4ページを、ソフトウェア“ DME Manager ”の特長は6ページをご参照ください。

はじめに

操作の前に

各部の名称と機能

DME Managerの概要

コンフィグレーションの構築

Runモード

ソフトウェア“DME Manager”のその他の機能

コンポーネントガイド 第1部

コンポーネントガイド 第2部

フロントパネルの操作

GPIインターフェース

PCカード

ワードクロック

複数台のDME32システム

MIDI

I/Oオプション

付録

DME32の特長

はじめに

操作の前に

各部の名称
と機能DME
Manager
の概要コンフィグ
レーション
の構築

Runモード

ソフトウェア
"DME Manager"
のその他の機能コンポーネント
ガイド 第1部コンポーネント
ガイド 第2部フロント
パネルの
操作GPI
インター
フェース

PCカード

ワード
クロック複数台の
DME32
システム

MIDI

I/O
オプション

付録

音質性能

- ・ 32ビット内部信号処理
- ・ 48kHz内蔵サンプリングレート
- ・ 外部ワードクロック39.69kHz～50.88kHz

メモリー、保存機能

- ・ 2種類のコンフィグレーションメモリー(A、B)
- ・ 各コンフィグレーションごとに最大で99個のシーンメモリー
- ・ コンフィグレーション/シーンのタイトルを接続コンピューターのキーボードから入力可能
- ・ コンフィグレーションをPCカードに保存、転送

幅広く対応するI/O

- ・ 4つのmini YGDAIスロットで32系統の入出力
- ・ 別売のmini YGDAI(Yamaha General Digital Audio Interface)カードによる様々なアナログ/デジタルI/O: AES/EBU、ADAT、Tascam TDIF-1など一般的なデジタルオーディオ接続フォーマットに対応
- ・ ヤマハ8チャンネル24ビットA/DコンバーターAD824、8チャンネル24ビットD/AコンバーターDA824が別売

コントロール端子

- ・ PC接続用RS232/RS422切り替え式シリアル端子
- ・ RS422はケーブル長1kmまで使用可能(RS232では15m)
- ・ フロントパネルに便利なPC接続用USB端子を装備
- ・ AD824ヘッドアンプのゲインコントロール用COMポート装備

複数台のDME32システム

- ・ 最高4台のDME32システム用カスケード端子
- ・ 最高4台までのDME32接続で、32の倍数で合計128系統まで入出力を拡張可能
- ・ 32系統のカスケードバスにより各DME32機器間での信号分配とDSPパワーの共有可能

リモートコントロール

- ・ シーンとコンフィグレーションはMIDIプログラムチェンジメッセージで呼び出し可能
- ・ MIDIコントロールチェンジメッセージ、システムエクスクルーシブメッセージでコンポーネントパラメーターのコントロール可能
- ・ 16系統の割り当て可能な入出力GPI端子
- ・ EMERGENCY(緊急)モードが割り当て可能なGPI入力端子

DME32 本体の単独操作

- ・ プログラム後、DME32をDME Managerから切り離し本体のみで操作が可能
- ・ シーンメモリーの保存/呼び出し専用キーパッド
- ・ コンポーネントパラメーター編集用DATAホイールと[INC][DEC]キー
- ・ [USER DEFINE]キーの割り当てでパラメーターへの迅速なアクセスが可能

その他の機能

- ・ 2桁の大型シーン番号表示
- ・ 48文字のLCDディスプレイ
- ・ パスワードによるプロテクト
- ・ マスター/スレーブ動作対応のワードクロックI/Oと切り替え式ターミネーション
- ・ 3Uのラックスペース

はじめに

操作の前に

各部の名称と機能

DME Managerの概要

コンフィグレーションの構築

Runモード

ソフトウェア "DME Manager" のその他の機能

コンポーネントガイド 第1部

コンポーネントガイド 第2部

フロントパネルの操作

GPI インターフェース

PCカード

ワードクロック

複数台のDME32システム

MIDI

I/O オプション

付録

ソフトウェア“ DME Manager ”の特長

はじめに

操作の前に

各部の名称
と機能DME
Manager
の概要コンフィグ
レーション
の構築

Runモード

ソフトウェア
“DME Manager”
のその他の機能コンポーネント
ガイド 第1部コンポーネント
ガイド 第2部フロント
パネルの
操作GPI
インター
フェース

PCカード

ワード
クロック複数台の
DME32
システム

MIDI

I/O
オプション

付録

コンポーネント

- ・ クロスオーバー、ダイナミクス、フィルター、GEQ、PEQ、エフェクトなどの各種プロセッサを装備
- ・ パーツのコンポーネントとしてフェーダー、メーター、スイッチ、パンなどを装備
- ・ カスタムメイドのユーザーモジュールコンポーネントが作成可能
- ・ 使用頻度の高いコントロール類をカスタムのコントロール画面にコピー可能
- ・ 回転ノブ、スライダーのサイズ調整可能

Editモード

- ・ コンポーネントをコンフィグレーション画面に簡単にドラッグ&ドロップ可能
- ・ カット、コピー、ペーストコマンドを使ってコンポーネントを編集可能
- ・ コンポーネントのタイトル、サイズ、色などコンポーネントの外観を調整可能
- ・ DSPパワーメーターでプロセッサのおよその使用度が視認可能
- ・ 可変グリッドを使ってコンポーネントの位置揃え
- ・ ズームイン(コンポーネントの詳細表示)ズームアウト(コンフィグレーションデータ表示を縮小)

Cableモード

- ・ ワイヤーをドラッグするだけでコンポーネントの入出力ノード間を配線
- ・ コンポーネントのノードを個別にまたは複数まとめて配線

Runモード

- ・ DME Managerを使ったリアルタイムコントロール
- ・ コンポーネントパラメーターの編集、シーンの呼び出し/保存、コンフィグレーションの呼び出し
- ・ DME Manager上での操作がDME32本体に反映され、逆にDME32本体での操作もDME Managerに反映

オフライン操作

- ・ どこでもコンフィグレーションの構築と編集が可能
- ・ オフラインでのシーンの編集、タイトル入力、削除
- ・ オフラインでシーンをプレビュー(表示確認)

コンフィグレーション&シーン

- ・ コンフィグレーション/シーンのタイトルを接続PCキーボードから入力
- ・ PCカードなどWindowsで使用可能な任意のメディアにコンフィグレーションを保存
- ・ 複数のコンフィグレーションを同時に開くことが可能

簡単な操作性

- ・ 回転ノブ、スライダーをドラッグ
- ・ PEQパラメーターはEQ曲線上でポイントをドラッグして設定
- ・ ショートカットのコンテキストメニューでは使用頻度の高いコマンドを表示
- ・ ツールパレット、「Alt」メニューでモードを素早く切り替え

その他の機能

- ・ 複数スピーカーシステムではフェーダーグループ、ステレオ信号コントロール、クロスオーバー周波数コントロール用に最高32のパラメーターリンクグループ作成可能
- ・ カスケード接続のDME32機器間でパラメーターアクセスをリンク可能
- ・ 3レベルのパスワードによるプロテクト(完全アクセス、部分アクセス、アクセス禁止)
- ・ 図、コンポーネンリスト、パラメーターリストなどのコンフィグレーション情報を印刷可能

本書について

本書にはデジタルミキシングエンジンDME32およびソフトウェアDME Managerの操作に必要な情報が記載されています。まず目次をご覧ください。本書の構成や各情報の記載ページなどを確認してください。また索引は特定の内容を探す際にご利用ください。DME32本体関連の用語集は286ページにあります。

本書ではデジタルミキシングエンジンDME32を「DME32」、ソフトウェアDME Managerを「DME Manager」と称しています。「PC」はWindows搭載IBM PC互換コンピュータを指します。

DME32の設置

本機をラックマウントする場合、まず足を外し周囲に十分な通風用スペース(背後に15cmの間隙)を空けてください。ポータブルのラックケースにマウントする場合、使用中に空気の流れを塞がないようケースの背面を開けてください。パワーアンプなど熱を大量に発生する機材のすぐ上には設置しないでください。

はじめに

操作の前に

各部の名称と機能

DME Managerの概要

コンフィグレーションの構築

Runモード

ソフトウェア「DME Manager」のその他の機能

コンポーネントガイド 第1部

コンポーネントガイド 第2部

フロントパネルの操作

GPIインターフェース

PCカード

ワードクロック

複数台のDME32システム

MIDI

I/Oオプション

付録

操作の前に

2

本章の目次

基本セットアップ	10
PCへの接続	11
電源コードの接続	12
電源オン / オフ	12
ソフトウェアDME Managerのインストール	13
ソフトウェアDME Managerのアップグレードと再インストール時の注意	14
DME Managerの起動	14
DME Managerの終了	14
DME ManagerとWindows 98	15
コンポーネントと配線にずれがある場合	15
USBドライバのインストール	15
インストールの確認	16

はじめに

操作の前に

各部の名称
と機能

DME
Manager
の概要

コンフィグ
レーション
の構築

Runモード

ソフトウェア
"DME Manager"
のその他の機能

コンポーネント
ガイド 第1部

コンポーネント
ガイド 第2部

フロント
パネルの
操作

GPI
インター
フェース

PCカード

ワード
クロック

複数台の
DME32
システム

MIDI

I/O
オプション

付録

基本セットアップ

DME32システムを簡単に立ち上げる手順です。

- 1 DME32の「各部の名称と機能」をお読みになり基礎知識を得ます。
17ページ「各部の名称と機能」をご参照ください。
- 2 必要なmini YGDAI I/Oカードを取り付けます。
253ページ「I/Oオプション」をご参照ください。
- 3 オーディオソース、その他の機器を入出力端子に接続します。
- 4 DME32本体をPCに接続します。
11ページ「PCへの接続」をご参照ください。
- 5 電源コードを接続してDME32に電源を入れます。
12ページ「電源コードの接続」および「電源オン/オフ」をご参照ください。
- 6 DME Managerをインストールします。
13ページ「ソフトウェアDME Managerのインストール」をご参照ください。
- 7 DME Managerを起動します。
14ページ「DME Managerの起動」をご参照ください。
- 8 DME Managerの操作を覚えます。
23ページ「DME Managerの概要」をご参照ください。
- 9 コンフィグレーションを作成します。
45ページ「コンフィグレーションの構築」をご参照ください。
- 10 コンフィグレーションをコンパイルします。
63ページ「コンフィグレーションのコンパイル」をご参照ください。
- 11 コンフィグレーションをDME32本体に転送します。
64ページ「DME32へのコンフィグレーションの送信」をご参照ください。
- 12 コンフィグレーションを選んでシステムを動かします。
67ページ「Runモード」をご参照ください。

はじめに

操作の前に

各部の名称
と機能DME
Manager
の概要コンフィグ
レーション
の構築

Runモード

ソフトウェア
"DME Manager"
のその他の機能コンポーネント
ガイド 第1部コンポーネント
ガイド 第2部フロント
パネルの
操作GPI
インター
フェース

PCカード

ワード
クロック複数台の
DME32
システム

MIDI

I/O
オプション

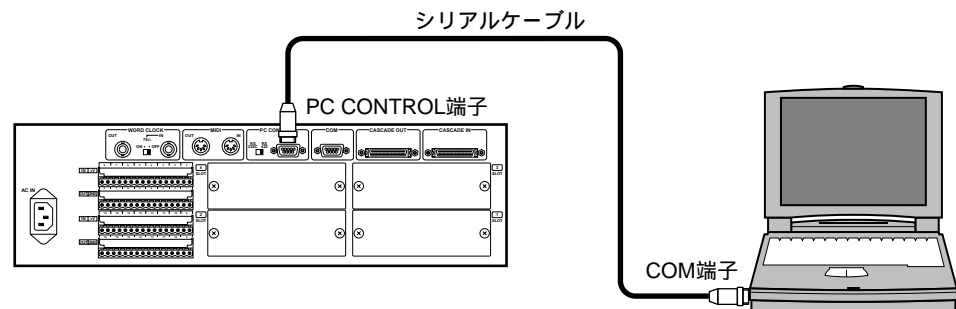
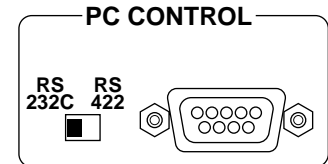
付録

PCへの接続

標準のRS232C/RS422シリアル接続またはUSB(ユニバーサルシリアルバス)接続でDME32をPCに接続します。DME32がシリアル端子でコマンドを受信すると、DME32はそのシリアル端子にのみ応答データを送信します。同様にUSB端子でコマンドを受信するとUSB端子にのみ応答を送信します。

PC CONTROL端子

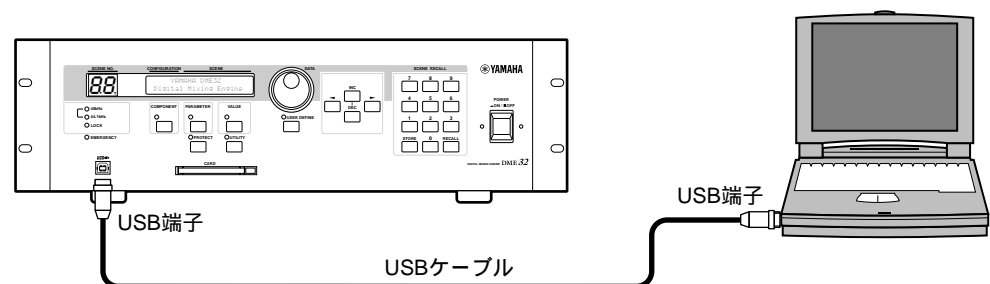
DME32のPC CONTROL端子はRS232C/RS422の切り替えスイッチがあります。2種類のシリアル端子規格は実質的には同一ですが、RS422はバランス式なので長いケーブルにも対応します。RS232Cは最大15mのケーブル長に、そしてRS422は最大1kmのケーブル長に対応します。PCのシリアル端子に合致したものを選びます。



ソフトウェアDME Managerをインストールして、DME Manager上でPCのCOM端子を設定できます。詳細は13ページ「ソフトウェアDME Managerのインストール」をご参照ください。テキストエディターを使用してDMEフォルダ内の「setup.ini」ファイルを開きます。使用するCOM端子の番号と同じにCOMパラメーターを設定します。たとえばCOM端子2を使用するにはCOM2を設定します。

USB端子

フロントパネルのUSB端子を使いPCとDME32を手軽に接続できます。DME32のリアパネルが使いづらいシステムでは便利です。



はじめに

操作の前に

各部の名称と機能

DME Managerの概要

コンフィグレーションの構築

Runモード

ソフトウェア「DME Manager」のその他の機能

コンポーネントガイド 第1部

コンポーネントガイド 第2部

フロントパネルの操作

GPIインターフェース

PCカード

ワードクロック

複数台のDME32システム

MIDI

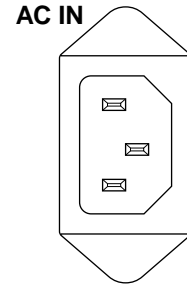
I/Oオプション

付録

電源コードの接続

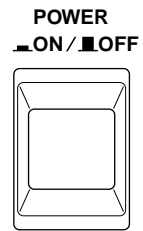
注意：電源を接続する前に必ずすべての機器の電源をオフにしてください。

付属の電源コードのソケット側をDME32リアパネルのAC INソケットに接続し、プラグ側をコンセントに接続します。DME32リアパネルに記載されている電源条件にあったコンセントを必ずご使用ください。



電源オン / オフ

電源を入れるときにスピーカーから大きなノイズが出ないように、音源、ミキサーまたはレコーダー(02R、DME32、D24など)、パワーアンプの順に電源を入れてください。電源を切るときはこの逆の順序で行ってください。



- 1 [POWER]スイッチを押してDME32の電源をオンにします。メッセージが表示されます。

YAMAHA DME32
Digital Mixing Engine

DME32にコンフィグレーションデータがあると、現在のコンフィグレーションとシーンの番号、タイトルがディスプレイに表示され、最初のコンポーネントの最初のパラメーターが選択されます。ただし[USER DEFINE]キーにパラメーターが割り当てられている場合は、そのパラメーターが選択されUSER DEFINEインジケーターが点灯します。

DME32の最初の電源投入時や初期化後最初の電源投入時は、ディスプレイに“ Mtrx16 ”と表示されます。これはDME32本体のコンフィグレーションメモリーAに保存されているタイトルで、DME Managerから別のコンフィグレーションを転送したときには上書きされます。

- 2 [POWER]スイッチをもう一度押すと電源がオフになります。

ソフトウェアDME Managerのインストール

システム環境

- ・ 200MHz以上のIntel Pentium MMXプロセッサ、または同等のプロセッサを搭載したコンピュータ
- ・ RAMメモリ最低32MB(64MB以上を推奨)
- ・ 空き容量最低20MBのハードディスク
- ・ CD-ROMドライブまたはDVD-ROMドライブ(インストール時のみ)
- ・ VGA以上のディスプレイ(640 × 480ドット、最低256色)
- ・ RS232またはRS422シリアル端子またはUSB端子
- ・ Windows 95/98

ソフトウェアDME Managerのインストール手順

DME Managerをインストールする前に、お使いのPCが前述のシステム環境に合っているか確認してください。

- 1 PCに電源を入れ、Windowsを起動します。
DME Managerのインストール時はPCがDME32に接続していなくても構いません。
- 2 DME32 CD-ROMをCD-ROMドライブまたはDVD-ROMドライブに挿入します。
- 3 「スタート」をクリックし、「設定」の「コントロールパネル」をダブルクリックします。
「コントロールパネル」画面が開きます。
- 4 「アプリケーションの追加と削除」をダブルクリックします。
「アプリケーションの追加と削除のプロパティ」画面が開きます。
- 5 「セットアップ」をクリックします。
「フロッピーディスクまたはCD-ROMからのセットアップ」画面が開きます。
- 6 「次へ」をクリックします。
「セットアッププログラムの実行」画面が開きます。
- 7 「参照」をクリックします。
「ファイルの参照」画面が開きます。
- 8 CD-ROMドライブの「Dme Manager」の「Setup」を選択し、「開く」をクリックします。
- 9 「セットアッププログラムの実行」画面の「完了」をクリックします。
インストール開始画面が表示されます。
- 10 画面の指示に従ってインストールを続行します。

はじめに

操作の前に

各部の名称と機能

DME Managerの概要

コンフィグレーションの構築

Runモード

ソフトウェア「DME Manager」のその他の機能

コンポーネントガイド 第1部

コンポーネントガイド 第2部

フロントパネルの操作

GPIインターフェース

PCカード

ワードクロック

複数台のDME32システム

MIDI

I/Oオプション

付録

ソフトウェアDME Managerのアップグレードと再インストール時の注意

DME Managerのアップグレードや再インストールをする前に必ずインストールしてある前のバージョンのDME Managerを以下の手順で削除してください。

- 1 コントロールパネルの「アプリケーションの追加と削除」を使ってDME Managerをアンインストールします。
- 2 “DME”フォルダのすぐ下にあるファイルをすべて削除してください。
通常“DME”フォルダは“C:\Program Files”にあります。
“Lib”、“Add In”、“Midi”、“Module”のフォルダにあるファイルは削除しないでください。

DME Managerの起動

- 1 Windowsの[スタート]をクリックし[プログラム][DME32]と選択します。
DME Managerは起動時にアクティブな(接続され電源がオンの)DME32が接続されているかどうかチェックします。コンフィグレーションデータのあるアクティブなDME32が検出されるとそのコンフィグレーションデータを取り込むかどうかを尋ねるメッセージが表示されます。データを取り込むよう選択すると、DME32本体内のすべてのコンフィグレーションデータはDME Managerに転送され、新しいコンフィグレーション画面に表示されます。またDME ManagerはRunモードに切り替わります(Runモードについては67ページをご参照ください)。データを取り込まない選択をした場合、DME ManagerはEditモードで立ち上がります。

アクティブなDME32が検出されない場合、“DME32 not found!”と表示されます。この場合は[OK]をクリックすれば、DME ManagerをEditモードでオフラインで操作を続けられます。DME Managerの起動後にDME32が見つかると、そのコンフィグレーションデータを取り込むかどうかを尋ねるメッセージが表示されます。データを取り込むよう選択すると、DME32本体内のすべてのコンフィグレーションデータはDME Managerに転送され新しいコンフィグレーション画面に表示されます。またDME ManagerはRunモードに切り替わります。データを取り込まない選択をした場合、DME ManagerはEditモードで立ち上がります。

コンフィグレーションデータはデータ転送画面でDME32から取り込みます。詳細は65ページ「DME32からのコンフィグレーションの受信」をご参照ください。

DME Managerの終了

- 1 「File」メニューから[Exit]を選択します。
コンフィグレーション画面に未保存のデータが何もない場合は、すべてのコンフィグレーション画面が閉じDME Managerが終了します。
コンフィグレーション画面に未保存のデータがあると、その内容を保存するかどうか、というメッセージが表示されます。[はい]をクリックして保存し終了するか、[キャンセル]をクリックして操作を中止します。

✕ メイン画面の右上隅にある×印のボタンをクリックしてもDME Managerを終了できません。

DME ManagerとWindows 98

DME ManagerをWindows 98で使用するとコントロール画面の動きがおかしくなる場合があります。このような場合はWindows 98のコントロールパネルの「画面」を開いて「効果」をクリックし、「ドラッグ中にウィンドウの内容を表示する」のタブをオフにしてください。

コンポーネントと配線にずれがある場合

OSがWindows 95の場合

「コントロールパネル」-「画面」-「ディスプレイの詳細」タブにある「フォントサイズ」を「小さいフォント」に変更してください。

OSがWindows 98の場合

「コントロールパネル」-「画面」-「設定」タブ - 「詳細」ボタン - 「全般」タブにある「フォントサイズ」を「小さいフォント」に変更してください。

USBドライバのインストール

ドライバのインストールにはDME32 CD-ROMが必要です。またインストール中にWindows CD-ROMを挿入するようメッセージが表示されることもありますので、手元に準備しておいてください。

- 1 PCを起動します。
- 2 DME32の電源がオフの状態、PCとDME32をUSBケーブルで接続します。
- 3 DME32の電源を入れます。
しばらくして「新しいハードウェアの追加ウィザード」が表示されます。(表示されない場合はUSBケーブルを外しもう一度接続し直してください。)
- 4 「次へ」をクリックします。
検索方法を選択する画面が表示されます。
- 5 「使用中のデバイスに最適なドライバを検索する(推奨)」の左側にあるラジオボタンにチェックを入れて「次へ」をクリックします。
ドライバのある位置を指定する画面が表示されます。
- 6 DME32 CD-ROMをCD-ROM/DVDドライブに挿入します。
- 7 「検索場所の指定」にチェックを入れ、「参照」ボタンをクリックします。
- 8 DME32 CD-ROMをWindows98、あるいはMeでご使用の場合は「¥USBdrv_¥Win9x」フォルダを、Windows 2000でご使用の場合は「¥USBdrv_¥Win2k」フォルダを指定し「OK」をクリックします。
- 9 「次へ」をクリックします。
WindowsがCD-ROMの中のドライバを検出し、インストールの準備ができます。「YAMAHA USB MIDI Driver」が表示されていることを確認してください。

はじめに

操作の前に

各部の名称と機能

DME Managerの概要

コンフィグレーションの構築

Runモード

ソフトウェア "DME Manager" のその他の機能

コンポーネントガイド 第1部

コンポーネントガイド 第2部

フロントパネルの操作

GPIインターフェース

PCカード

ワードクロック

複数台のDME32システム

MIDI

I/Oオプション

付録

- | | |
|-------|---|
| はじめに | 10 「次へ」をクリックします。
Windowsがインストールを始めます。
インストールが完了するとその旨を知らせるウインドウが表示されます。 |
| 操作の前に | 11 「完了」をクリックします。
これでドライバのインストールが完了しました。 |

各部の名称と機能

DME Managerの概要

コンフィグレーションの構築

Runモード

ソフトウェア "DME Manager" のその他の機能

コンポーネントガイド 第1部

コンポーネントガイド 第2部

フロントパネルの操作

GPIインターフェース

PCカード

ワードクロック

複数台のDME32システム

MIDI

I/Oオプション

付録

インストールの確認

以下の手順で、ドライバが正しくインストールされたか確認します。

- 1 「マイコンピュータ」を右クリックし「プロパティ」を左クリックします。
「システムプロパティ」ウインドウが表示されます。
- 2 「デバイスマネージャ」タブをクリックします。
デバイスのリストが表示されます。
- 3 下記の「YAMAHA USB MIDI Driver」の表示を確認します。
- 4 「キャンセル」をクリックして「プロパティ」ウインドウを閉めます。



USBに関するご注意

以下の状態でDME32の電源オン / オフまたはUSBケーブルの抜き差しをすると、コンピュータがハングアップしたりDME32の機能が停止したりする恐れがあります。

- WindowsがDME32を検出中またはドライバロード中
 - Windows起動途中または終了途中
 - コンピュータがスタンバイ(スリープ)中
 - オーディオ / MIDIアプリケーションが起動している状態
- また以下の操作をすると同様にコンピュータがハングアップしたりDME32の機能が停止したりする恐れがあります。
- 電源のオン / オフやケーブルの抜き差しを頻繁にする
 - オーディオ / MIDIデータ転送中のスタンバイ(スリープ)モードへの移行、レジューム
 - DME32の電源がオンの状態でのUSBケーブルの抜き差し
 - 大量のデータを転送中にDME32の電源オン / オフ、コンピュータの起動、またはドライバのインストール
 - Windowsを終了できない場合はDME32からUSBケーブルを外してみてください。
 - Windowsを起動できない場合は、コンピュータの電源をオフにしUSBケーブルを外してからコンピュータの電源をオンにしてUSBケーブルを再接続してください。

各部の名称と機能

3

本章の目次

フロントパネル	18
リアパネル	21

はじめに

操作の前に

各部の名称
と機能DME
Manager
の概要コンフィグ
レーション
の構築

Runモード

ソフトウェア
"DME Manager"
のその他の機能コンポーネント
ガイド 第1部コンポーネント
ガイド 第2部フロント
パネルの
操作GPI
インター
フェース

PCカード

ワード
クロック複数台の
DME32
システム

MIDI

I/O
オプション

付録

フロントパネル

はじめに

操作の前に

各部の名称と機能

DME Managerの概要

コンフィグレーションの構築

Runモード

ソフトウェア "DME Manager" のその他の機能

コンポーネントガイド 第1部

コンポーネントガイド 第2部

フロントパネルの操作

GPIインターフェース

PCカード

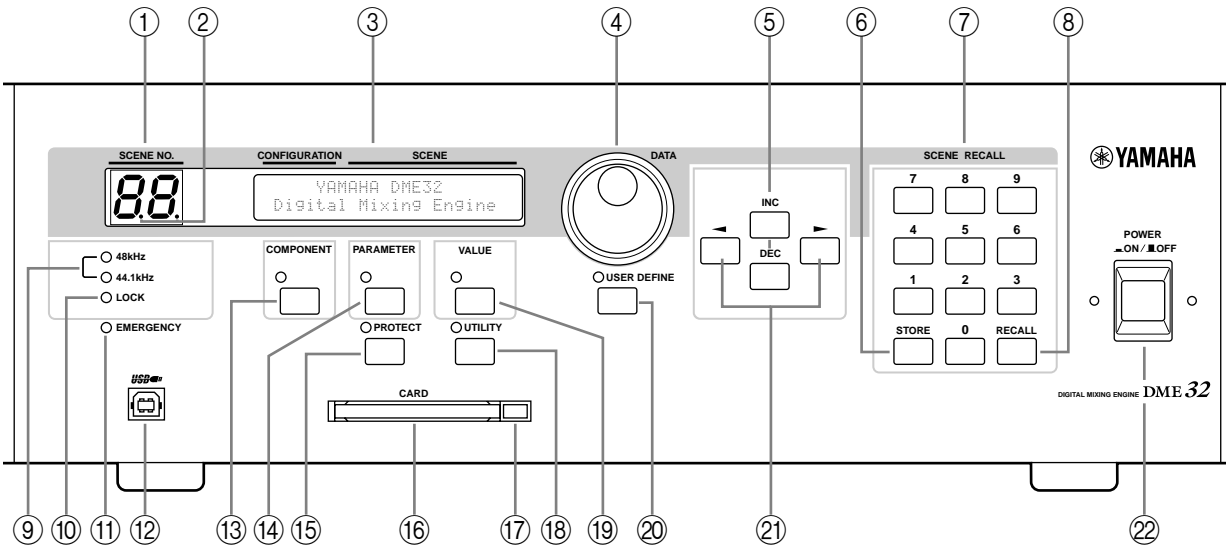
ワードクロック

複数台のDME32システム

MIDI

I/Oオプション

付録



① SCENE NO.インジケータ

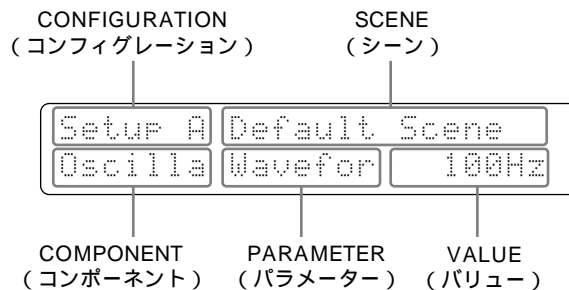
現在のシーンメモリー番号を表示します。別のシーンメモリー選択時はその番号が点滅し、シーンメモリーの呼び出し / 保存時は番号が点灯します。

② シーン編集ドット

現在の設定が最後に呼び出したシーンメモリーの設定と同一かどうかを表示します。シーン呼び出し時は2つのドットとも消灯していますが、パラメーターを編集すると両方のドットとも点灯し、シーンを呼び出してからパラメーターが編集されたことを表します。

③ ディスプレイ

コンフィグレーション / シーン名、コンポーネント / パラメーター名、パラメーター値、機能、メッセージなどを表示する2行で48文字のLCDディスプレイです。ディスプレイは5つの内容: CONFIGURATION (コンフィグレーション)、SCENE (シーン)、COMPONENT (コンポーネント)、PARAMETER (パラメーター)、VALUE (バリュー) を表示します。



④ DATAホイール

コンフィグレーション、コンポーネント、パラメーター、設定値を選択したり、他の設定を行うときに使用します。右に回すと値が増加し、左に回すと値が減少します。

- ⑤ INC/DECキー
DATAホイールと併用しコンフィグレーション、コンポーネント、パラメーター、設定値を選択したり、他の設定を行うときに使用します。[INC]キーを押すと値が増加し、[DEC]キーを押すと値が減少します。
- ⑥ STOREキー
シーンの保存に使用します。詳細は201ページ「シーンの保存」をご参照ください。
- ⑦ SCENE RECALLテンキー
シーンメモリー番号(1~99)の入力に使用します。
- ⑧ RECALLキー
シーンを呼び出すときに使用します。詳細は202ページ「シーンの呼び出し」をご参照ください。
- ⑨ 48kHz/44.1kHzインジケータ
選択されているワードクロックの周波数(48kHzまたは44.1kHz)を示します。詳細は231ページ「ワードクロックソースの選択」をご参照ください。
- ⑩ LOCKインジケータ
DME32が選択しているワードクロックソースにロックしているかどうかを示します。ロックしていると点灯します。詳細は231ページ「ワードクロックソースの選択」をご参照ください。
- ⑪ EMERGENCYインジケータ
EMERGENCY(緊急)モード用に割り当てているGPI入力端子が作動すると点灯します。EMERGENCY(緊急)モードは解除するまでDME32の出力をすべてミュートします。詳細は222ページ「EMERGENCY(緊急)モード」をご参照ください。
- ⑫ USB端子
Windows搭載PCにDME32をUSBケーブルで接続する端子です。リアパネルのPC CONTROL端子が使いにくい場合などに便利な端子です。詳細は11ページ「PCへの接続」をご参照ください。
- ⑬ COMPONENTキー / インジケータ
ディスプレイ内のCOMPONENT部を選択します。このキーを押すとカーソルがCOMPONENT部に移動し、インジケータが点灯します。ユーティリティ機能でも使われます。

また、DME32本体のディスプレイに表示されるコンポーネント名を見るときにも使います。通常コンポーネント名は始めの7文字が表示されますが、このキーを押すとコンポーネント名が全文字で表示されます。もう一度押すと通常の表示に戻ります。
- ⑭ PARAMETERキー / インジケータ
ディスプレイ内のPARAMETER部を選択します。このキーを押すとカーソルがPARAMETER部に移動し、インジケータが点灯します。ユーティリティ機能やプロテクト機能でも使われます。
- ⑮ PROTECTキー / インジケータ
DME32へのアクセスを制限するプロテクト機能を選択します。選ばれるとインジケータが点灯します。詳細は205ページ「DME32へのアクセスの制限」をご参照ください。

はじめに

操作の前に

各部の名称と機能

DME Managerの概要

コンフィグレーションの構築

Runモード

ソフトウェア "DME Manager" のその他の機能

コンポーネントガイド 第1部

コンポーネントガイド 第2部

フロントパネルの操作

GPIインターフェース

PCカード

ワードクロック

複数台のDME32システム

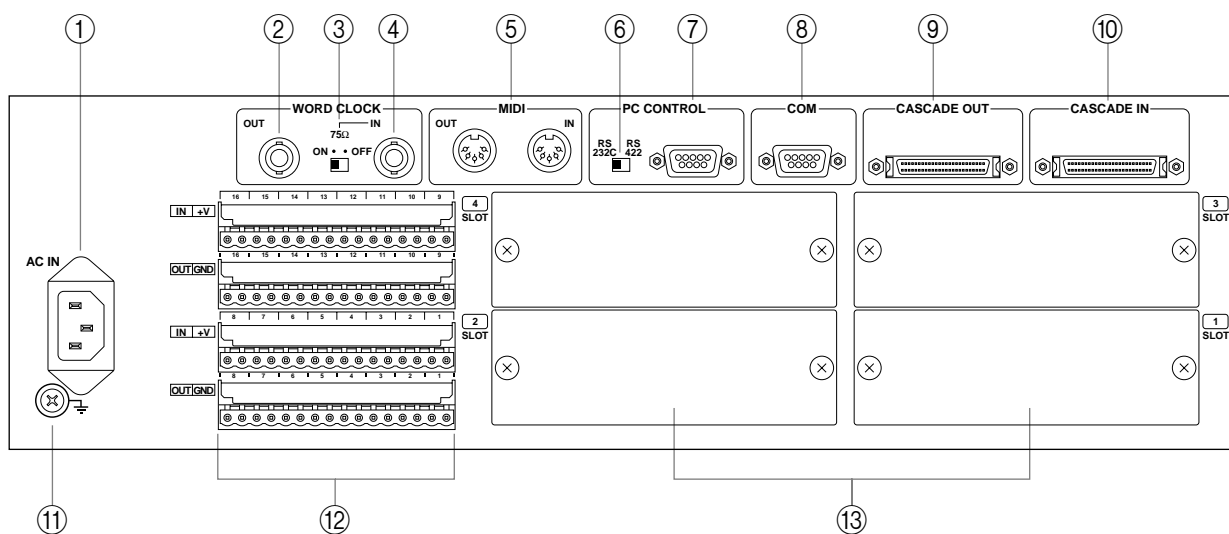
MIDI

I/Oオプション

付録

はじめに	⑩ CARDスロット 別売のPCメモリーカードを挿入してコンフィグレーションやシーンを保存します。詳細は223ページ「PCカード」をご参照ください。
操作の前に	⑪ CARDイジェクトボタン PCカードを取り出すときに押します。詳細は224ページ「PCカードの挿入、取り出し」をご参照ください。
各部の名称と機能	⑫ UTILITYキー / インジケータ ユーティリティ機能にアクセスします。このキーを押すとインジケータが点灯します。
DME Managerの概要	⑬ VALUEキー / インジケータ ディスプレイ内のVALUE部を選択します。このキーを押すとカーソルがVALUE部に移動しインジケータが点灯します。
コンフィグレーションの構築	⑭ USER DEFINEキー / インジケータ 特定のパラメーターに直接アクセスできるようプログラムするキーです。アクセスするとインジケータが点灯します。詳細は203ページ「パラメーター編集と[USER DEFINE]キー」をご参照ください。
Runモード	⑮ カーソルキー(◀ / ▶) ディスプレイ内でカーソルを移動します。[◀]キーはカーソルを左に、[▶]キーはカーソルを右に移動します。
ソフトウェア「DME Manager」のその他の機能	⑯ POWERスイッチ 電源スイッチです。詳細は12ページ「電源オン / オフ」をご参照ください。
コンポーネントガイド 第1部	⑰ POWERスイッチ POWERスイッチにカバーをかけてスイッチを保護できるようにカバー取り付け用のネジ穴が2カ所あります。ヤマハからはこのためのカバーは発売されていませんが、お客様が自作したカバーを取付けられます。ネジサイズはM3で間隔は34mmです。
コンポーネントガイド 第2部	
フロントパネルの操作	
GPIインターフェース	
PCカード	
ワードクロック	
複数台のDME32システム	
MIDI	
I/Oオプション	
付録	

リアパネル



- ① AC INソケット
 付属の電源コードでDME32をACコンセントに接続します。詳細は12ページ「電源コードの接続」をご参照ください。
- ② WORD CLOCK OUT端子
 内部ワードクロック信号、または外部ワードクロックソース選択時にWORD CLOCK IN端子で受信したワードクロック信号を出力するBNC端子です。詳細は231ページ「ワードクロックの接続」をご参照ください。
- ③ WORD CLOCK 75 OHM ON/OFFスイッチ
 WORD CLOCK INで入力したワードクロック信号をターミネートします。詳細は231ページ「ワードクロックの接続」をご参照ください。
- ④ WORD CLOCK IN端子
 外部ワードクロック信号を入力するBNC端子です。詳細は231ページ「ワードクロックの接続」をご参照ください。
- ⑤ MIDI IN/OUT端子
 標準のMIDI IN、MIDI OUT端子でDME32を他のMIDI機器と接続し、MIDIプログラムチェンジ、コントロールチェンジ、パラメーターチェンジを使用してリモート操作を行います。詳細は244ページ「MIDIとDME32」をご参照ください。
- ⑥ PC CONTROL RS232C/RS422スイッチ
 PC CONTROL端子のフォーマットを選択します。詳細は11ページ「PCへの接続」をご参照ください。
- ⑦ PC CONTROL端子
 Windows搭載PCのシリアルポートにDME32を接続する9ピンD-sub端子です。詳細は11ページ「PCへの接続」をご参照ください。

はじめに

操作の前に

各部の名称と機能

DME Managerの概要

コンフィギュレーションの構築

Runモード

ソフトウェア「DME Manager」のその他の機能

コンポーネントガイド 第1部

コンポーネントガイド 第2部

フロントパネルの操作

GPIインターフェース

PCカード

ワードクロック

複数台のDME32システム

MIDI

I/Oオプション

付録

はじめに
操作の前に
各部の名称と機能
DME Managerの概要
コンフィグレーションの構築
Runモード
ソフトウェア「DME Manager」その他の機能
コンポーネントガイド 第1部
コンポーネントガイド 第2部
フロントパネルの操作
GPIインターフェース
PCカード
ワードクロック
複数台のDME32システム
MIDI
I/Oオプション
付録

- ⑧ COM端子
ヤマハADコンバーターAD824をDME32に接続する9ピンD-sub端子です。詳細は258ページ「AD824/DA824コンバーター」をご参照ください。
- ⑨ CASCADE OUT端子
複数台のDME32をカスケード接続する50ピン・ハーフピッチ端子です。詳細は237ページ「複数台のDME32システム」をご参照ください。
- ⑩ CASCADE IN端子
複数台のDME32をカスケード接続する50ピン・ハーフピッチ端子です。詳細は237ページ「複数台のDME32システム」をご参照ください。
- ⑪ アース端子
感電防止のため、電源プラグをコンセントに挿入する前に確実に大地アースを施してください。
本機には3芯電源コードを付属しています。この場合にはコンセント側のアース端子が大地と接地されていれば上記と同じ効果があります。ハムや雑音防止のためにも有効です。
- ⑫ GPI端子
DME32のGPI(General Purpose Interface 汎用インターフェース)端子は4つのユーロブロックコネクタをもち、カスタムメイドのコントローラーや他の機器からDME32の機能をリモート操作することができます。詳細は213ページ「GPIインターフェース」をご参照ください。
- ⑬ SLOT(スロット)1 - 4
別売のヤマハmini YGDAIカードを装着して各種アナログ / デジタルI/Oを可能にする4つのスロットです。詳細は253ページ「I/Oオプション」をご参照ください。

DME Managerの概要

4

本章の目次

モード	24
メイン画面	25
コンフィグレーション画面	28
コンポーネント	32
コンポーネントのコントロール画面	33
「Run Mode Controller」画面	35
その他の画面	36
メニューの概要	36
コンポーネントリスト	42
Tool Palette(ツールパレット).....	43
「Alt」メニュー	43
キーボードのショートカット	44

はじめに

操作の前に

各部の名称
と機能DME
Manager
の概要コンフィグ
レーション
の構築

Runモード

ソフトウェア
"DME Manager"
のその他の機能コンポーネント
ガイド 第1部コンポーネント
ガイド 第2部フロント
パネルの
操作GPI
インター
フェース

PCカード

ワード
クロック複数台の
DME32
システム

MIDI

I/O
オプション

付録

モード

DME Managerには「Edit」、「Cable」、「Run」の3つの操作モードがあります。モードは「Mode」メニュー(37ページ参照)、ショートカットメニュー(41ページ参照)、ツールバー(26ページ参照)、Tool Palette(43ページ参照)または「Alt」メニュー(43ページ参照)から選択します。現在のモードはステータスバーに表示されます。詳細は27ページ「ステータスバー」をご参照ください。

Editモード

Editモードではコンフィグレーションの構築、編集を行います。オフラインでシーンを編集するときもEditモードを使用します。

詳細は45ページ「コンフィグレーションの構築」をご参照ください。

Cableモード

Cableモードではコンポーネント間の配線を行います。

詳細は53ページ「配線の追加」をご参照ください。

Runモード

RunモードではDME32のシステムをリアルタイムでコントロールします。つまりコンポーネントパラメーターの編集、シーンの保存/呼び出し、コンフィグレーションの呼び出しなどを行います。DME Managerでの操作がDME32本体上に反映され、逆にDME32本体上での操作もDME Managerに反映されます。このモードではコンポーネントと配線の変更はできません。

詳細は67ページ「Runモード」をご参照ください。

Editモード、Cableモードのどちらでもコンフィグレーションはコンパイルでき、コンフィグレーションのデータはDME32本体とソフトウェアDME Manager間で転送できます。

はじめに

操作の前に

各部の名称と機能

DME Managerの概要

コンフィグレーションの構築

Runモード

ソフトウェア「DME Manager」のその他の機能

コンポーネントガイド 第1部

コンポーネントガイド 第2部

フロントパネルの操作

GPIインターフェース

PCカード

ワードクロック

複数台のDME32システム

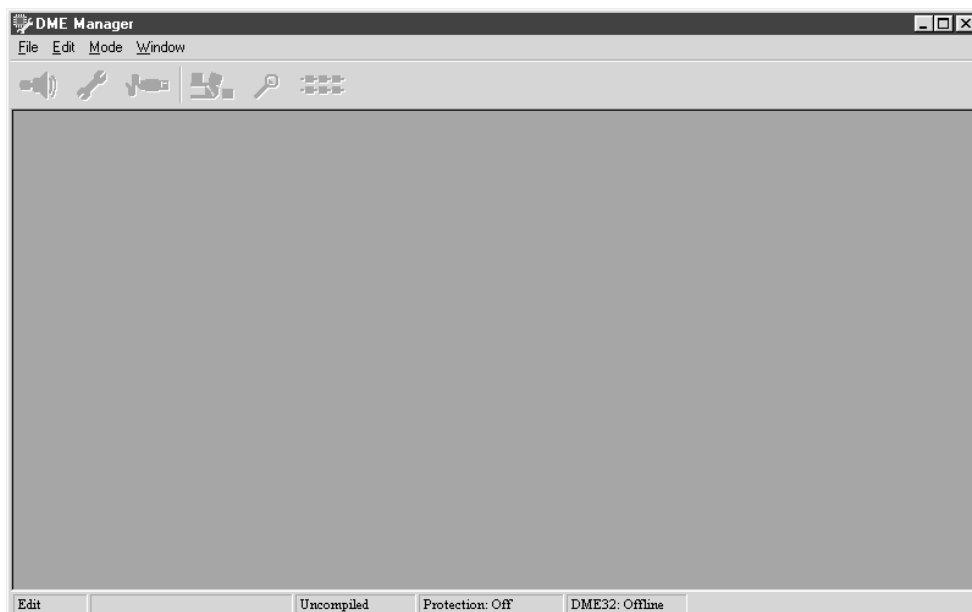
MIDI

I/Oオプション

付録

メイン画面

メイン画面はDME Managerを起動すると表示されます。通常DME Managerはコンフィグレーション画面が開いた状態で起動します。コンフィグレーション画面をすべて閉じた場合は下のような画面が表示されます。



メイン画面は右上隅にあるWindows標準のボタンをクリックして最小化、最大化、リストアができます。×印のボタンをクリックするとDME Managerが終了します。メイン画面は右下隅へドラッグすればサイズ変更できます。左上隅にあるソフトウェアのアイコンをクリックして開くコントロールメニューのコマンドを使ってもコントロールできます。

タイトルバー

メイン画面タイトルバーは現在のタイトル、シーン番号 / タイトルを含むコンフィグレーション画面情報を表示します。

コンフィグレーション画面が開いていないときのタイトルバー表示です。



未セーブのコンフィグレーション画面が選択されているときのタイトルバー表示です。



DME32に保存されているコンフィグレーション画面が選択されているとき、コンフィグレーションタイトルの頭に“A”あるいは“B”が表示されます。



現在動作中のコンフィグレーション画面が選択されているとき、コンフィグレーションタイトルの頭に“Running”が表示されます。



コンフィグレーション画面がフルサイズでないとき、上の例のような表示はメイン画面でなくコンフィグレーション画面のタイトルバーに表示されます。

はじめに

操作の前に

各部の名称と機能

DME Managerの概要

コンフィグレーションの構築

Runモード

ソフトウェア "DME Manager" のその他の機能

コンポーネントガイド 第1部

コンポーネントガイド 第2部

フロントパネルの操作

GPI インターフェース

PCカード

ワードクロック

複数台のDME32システム

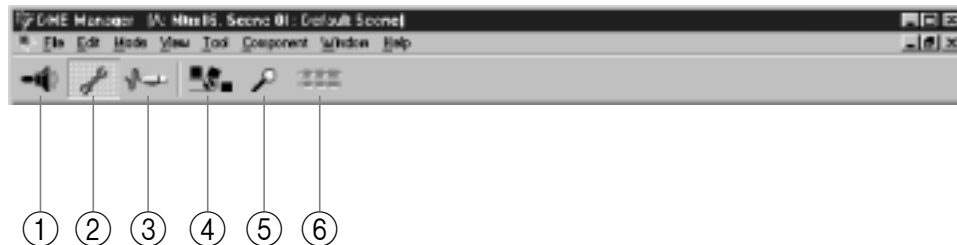
MIDI

I/O オプション

付録

ツールバー

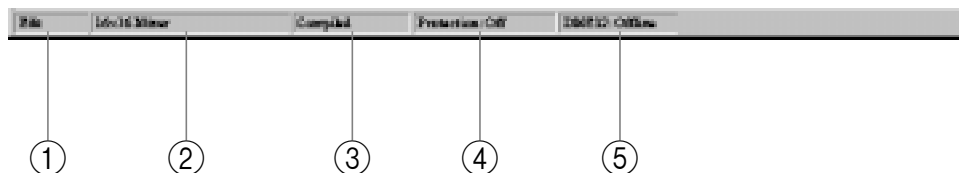
ツールバーからRun、Edit、Cableの各モードやコンパイル、ズーム、位置揃え機能に簡単にアクセスできます。



- ① Runモード
Runモードを選択します。詳細は67ページ「Runモード」をご参照ください。
- ② Editモード
Editモードを選択します。詳細は47ページ「Editモードの選択」をご参照ください。
- ③ Cableモード
Cableモードを選択します。詳細は53ページ「Cableモードの選択」をご参照ください。
- ④ コンパイル
現在のコンフィグレーションをコンパイルします。詳細は63ページ「コンフィグレーションのコンパイル」をご参照ください。
- ⑤ ズーム
ズーム設定を25%、50%、75%、100%、150%の中から選択します。詳細は52ページ「コンフィグレーション画面のズーム」をご参照ください。
- ⑥ 位置揃え
すべてのコンポーネントの位置をグリッドに揃えます。詳細は50ページ「コンポーネントのグリッドへの位置揃え」をご参照ください。

ステータスバー

ステータスバーは現在のモード、現在のコンポーネント、コンパイル状況、プロテクト状態を表示します。



- ① 現在のモード
現在のモード(Edit、Cable、Run)を表示します。詳細は24ページ「モード」をご参照ください。
- ② 現在のコンポーネント
現在のコンポーネントのタイトルを表示します。
- ③ コンパイル状況
現在のコンフィグレーションのコンパイル状況(Uncompiled、Compiled、Compile Failure)を表示します。詳細は63ページ「コンフィグレーションのコンパイル」をご参照ください。
- ④ プロテクト状態
現在のコンフィグレーションのプロテクト状態(Off、Component、Operation)を表示します。詳細は85ページ「パスワードによるプロテクト」をご参照ください。
- ⑤ DME32本体の状態
接続されているDME32本体のコンフィグレーションがAまたはBのどちらであるかを表示します。“ Config A ”あるいは“ Config B ”と表示します。DME32と接続されていないときは“ Offline ”と表示します。

はじめに

操作の前に

各部の名称と機能

DME Managerの概要

コンフィグレーションの構築

Runモード

ソフトウェア「DME Manager」のその他の機能

コンポーネントガイド 第1部

コンポーネントガイド 第2部

フロントパネルの操作

GPIインターフェース

PCカード

ワードクロック

複数台のDME32システム

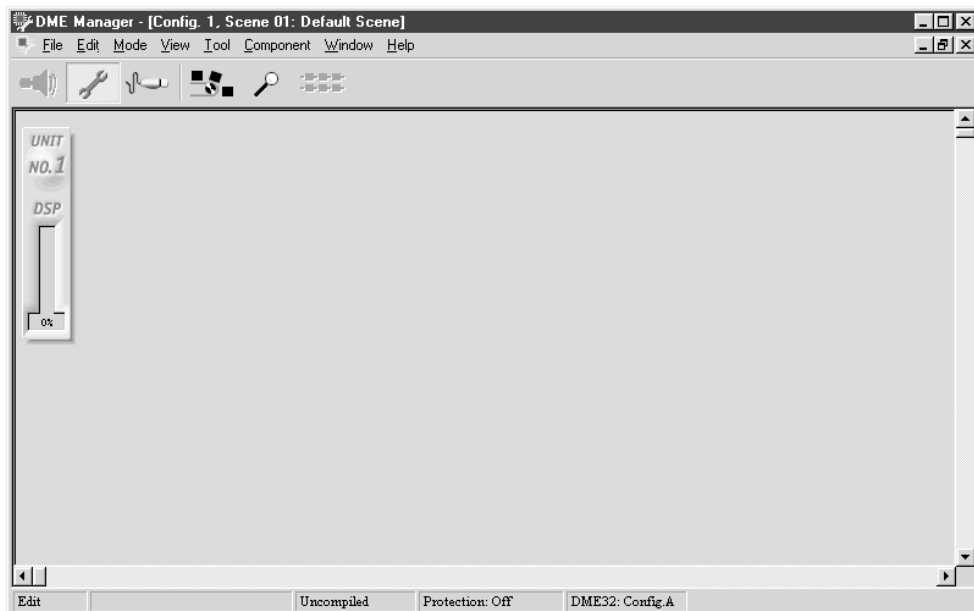
MIDI

I/Oオプション

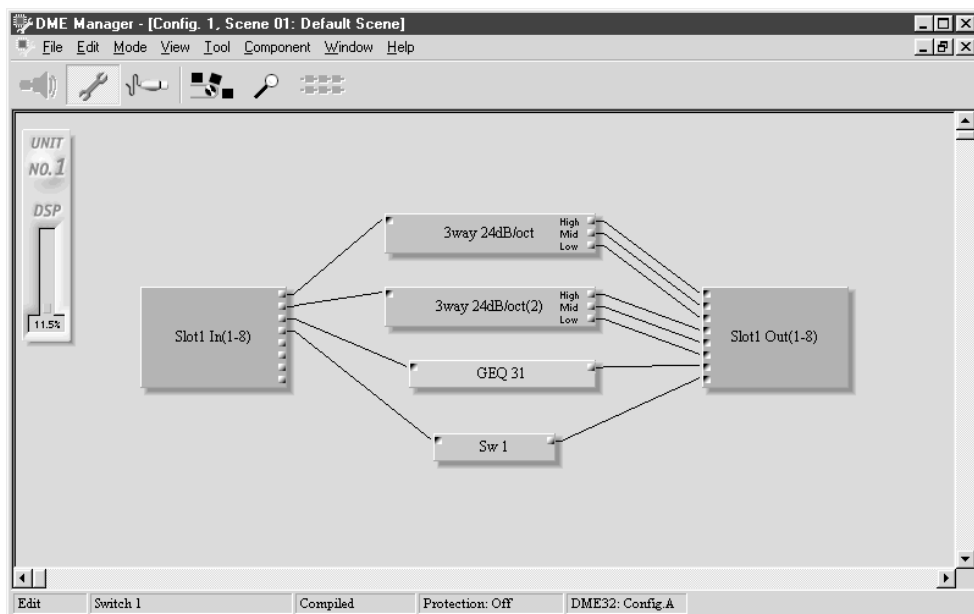
付録

コンフィグレーション画面

コンフィグレーション画面でコンフィグレーションを作成、配線、コントロールします。詳細は46ページ「コンフィグレーションの構築と編集」をご参照ください。

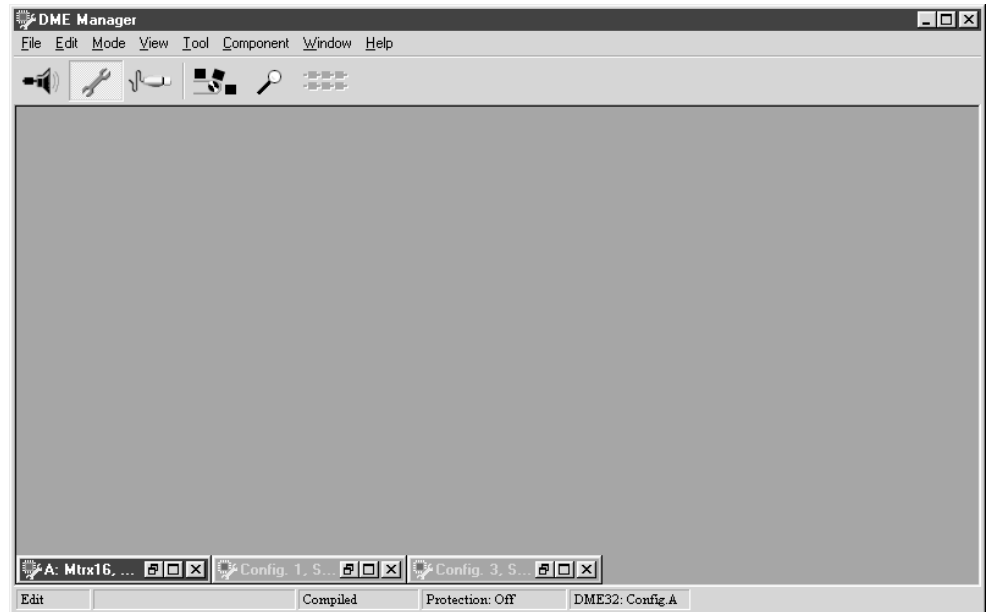


次のコンフィグレーション画面はコンフィグレーションの一例です。

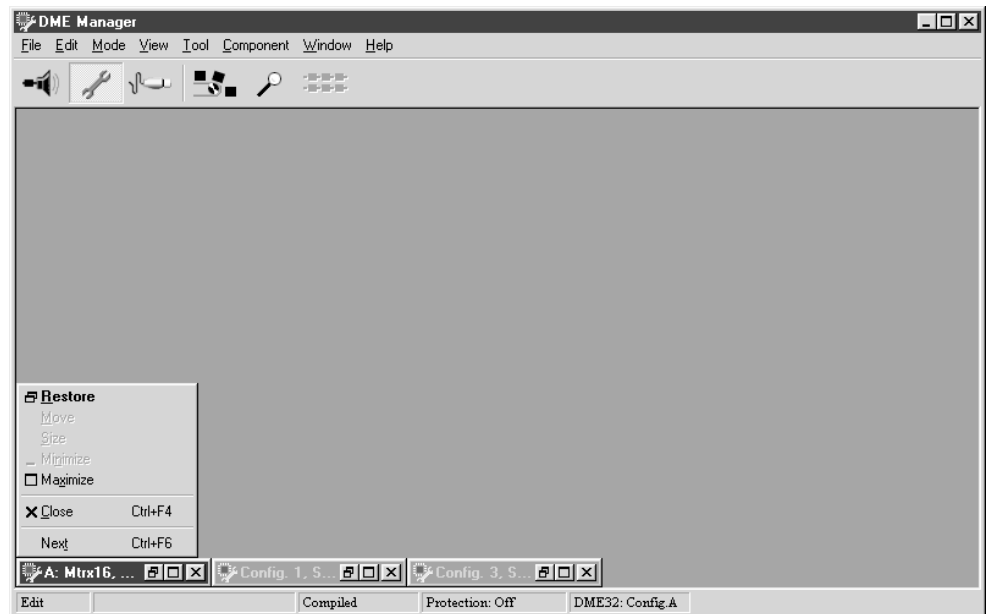


コンフィグレーション画面は右上隅にあるWindows標準のボタンをクリックして最小化、最大化、そして元のサイズに戻すことができます。×印のボタンをクリックするとコンフィグレーション画面が閉じます。コンフィグレーション画面は下右隅をドラッグすることでサイズ変更できます。また、←、→、↑、↓ を使ってスクロールできます。左上隅にあるソフトウェアのアイコンをクリックして開くコントロールメニューのコマンドを使ってもコントロールできます。

最小化されたコンフィグレーション画面がメイン画面下に以下のように表示されます。



リストアボタン、最大化ボタンは最小化されたコンフィグレーション画面を元のサイズに戻します。あるいはコンフィグレーション画面のタイトルバーのどこでもクリックすればアクセスできるコントロールメニューのコメントを使ってもリストアできます。



DSP パワーメーター

DSPパワーメーターはコンフィグレーションが使用するDSP処理パワーのおおよその量を表示します。画面の各セクションごとに1つ、各DME32につき1つのメーターがあります。0%が最低で、コンポーネントを追加するごとにメーターが上がります。100%に達するとDSP処理パワーを最大限に使用するのでこれ以上コンポーネントを追加することはできません。



はじめに

操作の前に

各部の名称と機能

DME Managerの概要

コンフィグレーションの構築

Runモード

ソフトウェア "DME Manager" のその他の機能

コンポーネントガイド 第1部

コンポーネントガイド 第2部

フロントパネルの操作

GPI インターフェース

PCカード

ワードクロック

複数台のDME32システム

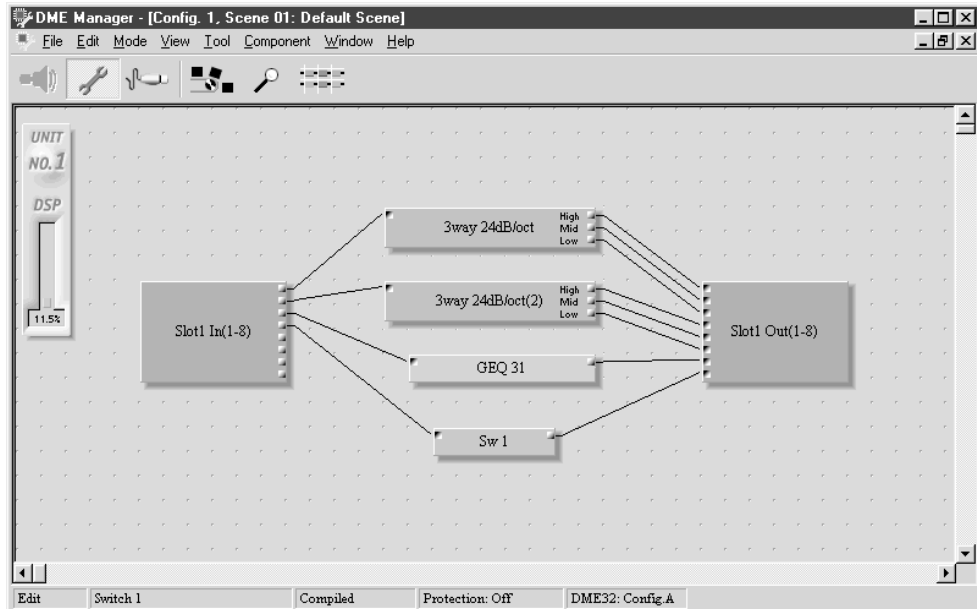
MIDI

I/O オプション

付録

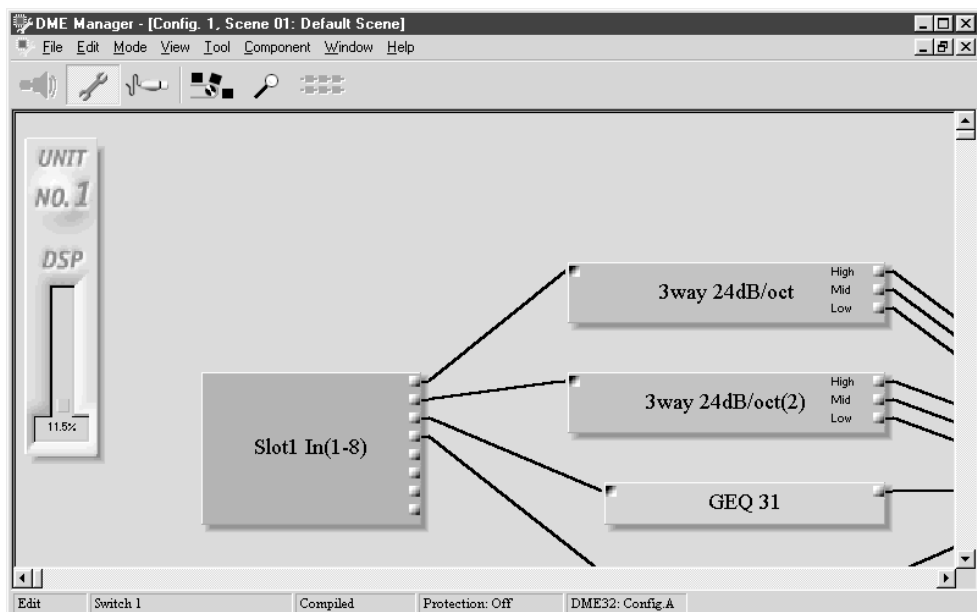
グリッド

コンポーネントは以下のように設定を調節できるなグリッド(縦横の罫線)に位置を揃えることができます。詳細は50ページ「コンポーネントのグリッドへの位置揃え」をご参照ください。



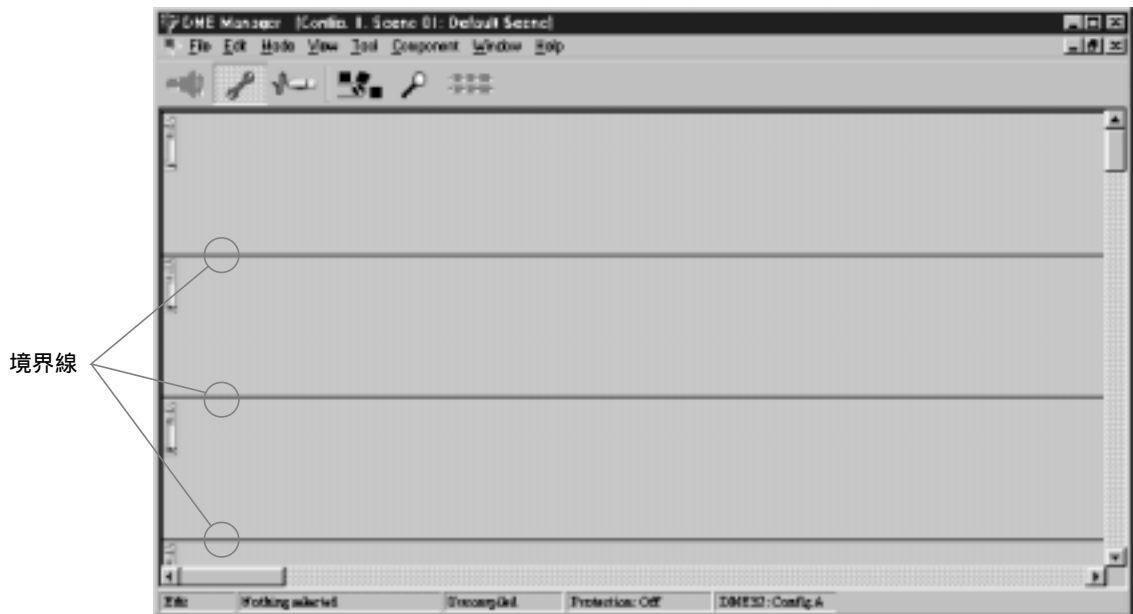
ズーム

ズームコマンドを使ってコンフィグレーション画面をズームすることができます。ズームインしてコンポーネントを詳しく見ることもズームアウトしてコンフィグレーションの他の部分を見ることもできます。以下の例は150%のズームです。詳細は52ページ「コンフィグレーション画面のズーム」をご参照ください。



画面内の各セクション

コンフィグレーション画面は各DME32ごとに4つのセクションに分かれます。このセクションのサイズは以下のように境界線をドラッグすることで変更できます。詳細は60ページ「複数台のコンフィグレーションを使用した作業」をご参照ください。



はじめに

操作の前に

各部の名称と機能

DME Managerの概要

コンフィグレーションの構築

Runモード

ソフトウェア "DME Manager" のその他の機能

コンポーネントガイド 第1部

コンポーネントガイド 第2部

フロントパネルの操作

GPIインターフェース

PCカード

ワードクロック

複数台のDME32システム

MIDI

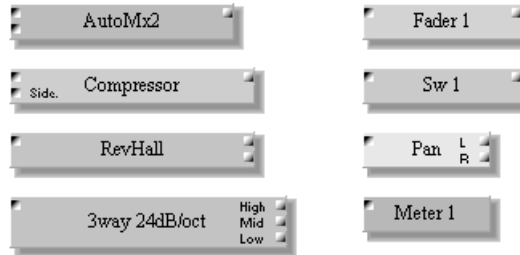
I/Oオプション

付録

コンポーネント

コンポーネントはDME32オーディオシステムを構築するためのブロックです。ミキサー、コンプレッサー、エフェクト、クロスオーバーなど完全なオーディオプロセッサから構成されるコンポーネントもあれば、フェーダー、スイッチ、パンコントロール、メーターなどパーツとして使用するコンポーネントもあります。

次のコンポーネントが選択できます。



コンフィグレーションには重要な2種類のコンポーネント、入力コンポーネントと出力コンポーネントがあります。これはDME32の物理的な入出力を表します。

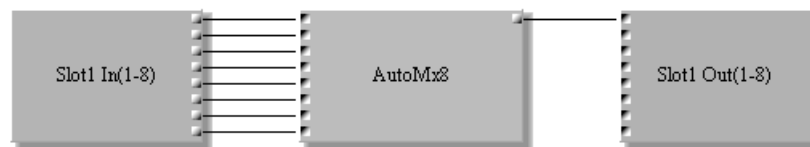


コンポーネントは「Component」メニューから選択するか、コンポーネントリストからドラッグします。コンポーネントの位置はドラッグして決めます。詳細は48ページ「コンポーネントの追加」をご参照ください。

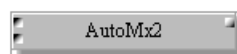
コンポーネントは様々な編集コマンドを使ってカット、コピー、ペースト、複製、位置揃え、削除ができます。詳細は48ページ「コンポーネントの追加」をご参照ください。ほとんどのコンポーネントには以下のような入出力ノードがあります。



これらのノードを使って次のように各コンポーネントを配線します。詳細は53ページ「配線の追加」をご参照ください。

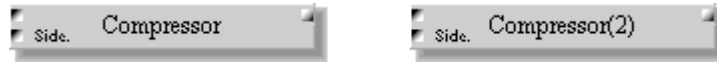


コンポーネントはマウスをクリックして選択します。選択すると以下のようにハイライト表示されます。



複数のコンポーネントを選択するには、対象コンポーネントの横の空白部分をクリックしたまま選択コンポーネントがすべて入るようにドラッグします。

どのコンポーネントにも名前が付いています。同じコンポーネントを複数追加すると、新しく追加したコンポーネント名の末尾に番号が付きます。たとえば2つ目のコンプレッサーを追加すると「Compressor(2)」、3つ目のコンプレッサーは「Compressor(3)」などとなります。

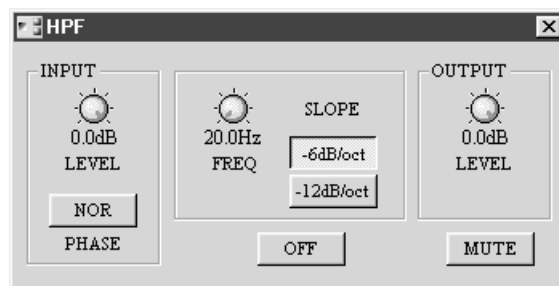


コンポーネントの外観、サイズ、色、タイトルなどは自由に変更できます。詳細は82ページ「コンポーネントプロパティのカスタム化」をご参照ください。

コンポーネントをダブルクリックするとそのコントロール画面が開きます。

コンポーネントのコントロール画面

コンポーネントパラメーターはコントロール画面で調整します。通常この画面には回転ノブ、スライダー、ボタン、ポップアップメニューがあります。コンポーネントをダブルクリックしてコントロール画面を開きます。以下は典型的なコントロール画面です。



×印のボタンをクリックするとコントロール画面が閉じます。画面は左上隅にあるソフトウェアのアイコンをクリックして開くコントロールメニューのコマンドを使ってもコントロールできます。

コントロール画面のないコンポーネントもあります。たとえば出力コンポーネントは調整可能なパラメーターがないのでコントロール画面がありません。

典型的なコントロール画面で使用するインターフェースはほとんどが一般的なWindows用ソフトウェアと同じなので説明は省略します。これ以降はDME Manager特有の操作について説明します。

カーソル

コントロール画面の項目はマウスを使って操作します。回転ノブやスライダーはこのままドラッグして調整します。またボタンやポップアップメニューはクリックします。

Cableモードを選択するとカーソルがケーブルツールの形になります。



はじめに

操作の前に

各部の名称と機能

DME Managerの概要

コンフィグレーションの構築

Runモード

ソフトウェア「DME Manager」のその他の機能

コンポーネントガイド 第1部

コンポーネントガイド 第2部

フロントパネルの操作

GPIインターフェース

PCカード

ワードクロック

複数台のDME32システム

MIDI

I/Oオプション

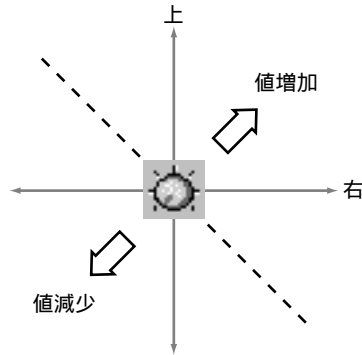
付録

回転ノブ

ゲインや周波数などの連続可変パラメーターは回転ノブで調整します。通常パラメーター値はノブの下に表示されています。



回転ノブの調整は左または右のマウスボタンでドラッグします。下または左へドラッグすると値が減少し、右または上へドラッグすると値が増加します。

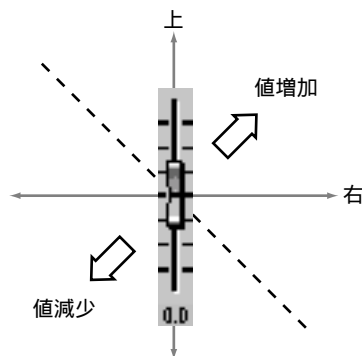


リバースの初期反射ディレイなど解像度が1,000ステップ以上の精密な回転ノブでは右マウスボタンを使ってドラッグすると100ステップ単位で調整できます。

スライダー

チャンネルレベル、グラフィックイコライザーのゲインなどの連続可変パラメーターはスライダーで調整します。パラメーターの値は通常スライダーの下に表示されています。

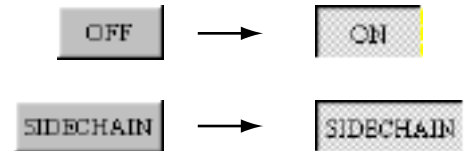
スライダーの調整は左または右のマウスボタンでドラッグします。下または左へドラッグすると値が減少し、右または上へドラッグすると値が増加します。



ボタン

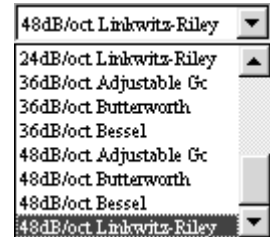
通常のソフトウェアと同様、DME Managerにも[Save][OK][Cancel][Enter]などの操作実行、確定用のボタンがあります。これに加えて機能やパラメーターをオン/オフするボタンもあります。

機能やパラメーターのオン/オフが切り替わると、右図の「OFF」⇨「ON」ボタンのように表示が変わるボタンもあります。あるいは、オンになると右図の「SIDECHAIN」ボタンのように名称は変わらなくてもボタンが押された状態の表示になるものもあります。



ポップアップメニュー

右図の例のようにポップアップメニューはWindowsソフトウェアで一般的に見られるものなので、説明は省略します。

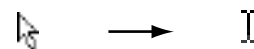


テキスト入力欄

テキスト入力欄にはコンフィグレーションやシーンのタイトル、あるいは「USER DEFINE」キーのタイトルなど、テキスト(半角アルファベット、数字のみ)を入力します。



マウスカーソルをテキスト入力欄に移動すると、カーソルが図のように「I」の形になるので、キーボードから入力したり、別の場所からコピー/ペーストします。



「Run Mode Controller」画面

「Run Mode Controller」画面はRunモードを選択すると表示されます。これはDME32のコンフィグレーションの呼び出しやシーンの保存/呼び出しに使用します。詳細は69ページ「Run Mode Controller」をご参照ください。



はじめに

操作の前に

各部の名称と機能

DME Managerの概要

コンフィグレーションの構築

Runモード

ソフトウェア「DME Manager」のその他の機能

コンポーネントガイド 第1部

コンポーネントガイド 第2部

フロントパネルの操作

GPIインターフェース

PCカード

ワードクロック

複数台のDME32システム

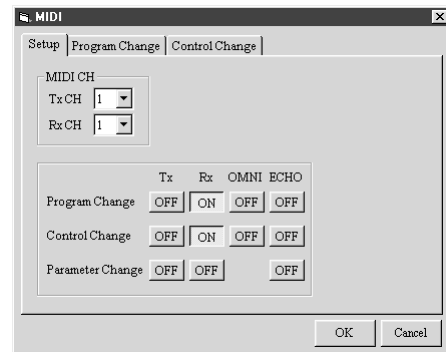
MIDI

I/Oオプション

付録

その他の画面

DME Managerにはコントロール画面だけでなく、右図の「MIDI」画面など様々な画面があります。この画面ではパラメータは3画面に分かれ、それぞれの画面は「Setup」、「Program Change」、「Control Change」の各タブをクリックしてアクセスします。



画面を閉じるには右上隅の×印ボタンをクリックするか、[Cancel]をクリックします。これらの画面は左上隅にあるソフトウェアのアイコンをクリックして開くコントロールメニューのコマンドを使ってもコントロールできます。

メニューの概要

「File」メニュー

「File」メニューにはコンフィグレーション画面に関するコマンド、印刷コマンド、コンフィグレーション関連のコマンド、オフライン編集のコマンド、コンパイルコマンド、ソフトウェアを終了するコマンドがあります。



コマンド	機能	参照ページ
New	新しいコンフィグレーション画面を作成します。	47
Open	すでに保存されているコンフィグレーションを開きます。	47
Save	現在のコンフィグレーションを保存します。	62
Save As	現在のコンフィグレーションを別名で保存します。	62
Close	現在のコンフィグレーションを閉じます。	62
Print	現在のコンフィグレーションを印刷します。	89
Printer Setup	プリンターをセットアップします。	89
Data Transfer	DME32シーンを送信、受信します。	64, 65
Offline Edit	シーン作成画面を開きます。	78
Compile	現在のコンフィグレーションをコンパイルします。	63
Exit	DME Managerを終了します。	15

「Edit」メニュー

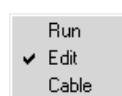
「Edit」メニューにはコンポーネントや配線を編集するさまざまなコマンドがあります。



コマンド	機能	参照ページ
Undo	最後に行ったコンポーネントや配線の編集内容をアンドウします(元に戻します)。	50, 54
Cut	選択コンポーネントをカットしクリップボードに入れます。	50
Copy	選択コンポーネントをコピーしクリップボードに入れます。	50
Paste	クリップボードのコンポーネントをペーストします。	50
Duplicate	選択コンポーネントを複製します。	50
Align	すべてのコンポーネントをグリッドに位置揃えします。	50
Delete	選択コンポーネントまたは配線を削除します。	50, 58
Properties	選択コンポーネントの属性画面を開きます。	82
Module	モジュール画面を開きます。	195

「Mode」メニュー

「Mode」メニューではRunモード、Editモード、Cableモードを選択します。



コマンド	機能	参照ページ
Run	Runモードを選択します。	68
Edit	Editモードを選択します。	47
Cable	Cableモードを選択します。	53

はじめに

操作の前に

各部の名称と機能

DME Managerの概要

コンフィグレーションの構築

Runモード

ソフトウェア "DME Manager" のその他の機能

コンポーネントガイド 第1部

コンポーネントガイド 第2部

フロントパネルの操作

GPI インターフェース

PCカード

ワードクロック

複数台のDME32システム

MIDI

I/O オプション

付録

はじめに

操作の前に

各部の名称と機能

DME Managerの概要

コンフィグレーションの構築

Runモード

ソフトウェア "DME Manager"のその他の機能

コンポーネントガイド 第1部

コンポーネントガイド 第2部

フロントパネルの操作

GPIインターフェース

PCカード

ワードクロック

複数台のDME32システム

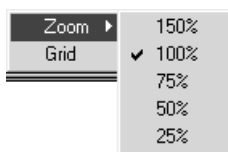
MIDI

I/Oオプション

付録

「View」メニュー

「View」メニューにはズームコマンドとグリッドコマンドがあります。



コマンド	機能	参照ページ
Zoom	コンフィグレーション画面を次の倍率にズームします。 150%, 100%, 75%, 50%, 25%	52
Grid	グリッド画面を開きます。	51

「Tool」メニュー

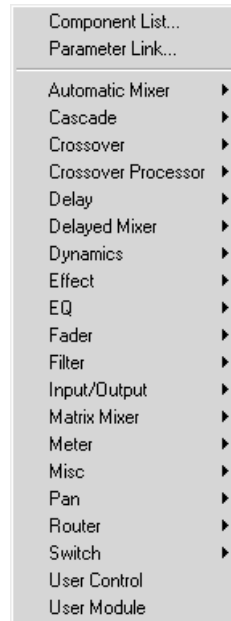
「Tool」メニューには「User Define」ボタン、MIDI、プロテクト、ツールパレットへのアクセスなどシステム関連のコマンドがあります。



コマンド	機能	参照ページ
User Define Button	「User Define」画面を開きます。	88
GPI	「GPI」画面を開きます。	213
MIDI	「MIDI」画面を開きます。	243
Word Clock	「Word Clock」画面を開きます。	229
Tool Palette	「Tool Palette」画面を開きます。	43
Protection	「Protection」画面を開きます。	86

「Component」メニュー

「Component」メニューからコンポーネントリスト画面、パラメーターリンク画面にアクセスします。また使用可能なコンポーネントのリストが表示されます。



コマンド	機能	参照ページ
Component List	コンポーネントリストを開きます。	42
Parameter Link	「Parameter Link」画面を開きます。	80

上記コマンドの下には使用可能なコンポーネントがすべてリスト表示されています。このメニューからコンポーネントを選択してコンフィグレーションに追加することもできます。コンポーネントについての詳細は91ページ「コンポーネントガイド 第1部」および143ページ「コンポーネントガイド 第2部」をご参照ください。

はじめに

操作の前に

各部の名称と機能

DME Managerの概要

コンフィグレーションの構築

Runモード

ソフトウェア「DME Manager」のその他の機能

コンポーネントガイド 第1部

コンポーネントガイド 第2部

フロントパネルの操作

GPIインターフェース

PCカード

ワードクロック

複数台のDME32システム

MIDI

I/Oオプション

付録

はじめに

操作の前に

各部の名称と機能

DME Managerの概要

コンフィグレーションの構築

Runモード

ソフトウェア "DME Manager" のその他の機能

コンポーネントガイド 第1部

コンポーネントガイド 第2部

フロントパネルの操作

GPI インターフェース

PCカード

ワードクロック

複数台のDME32システム

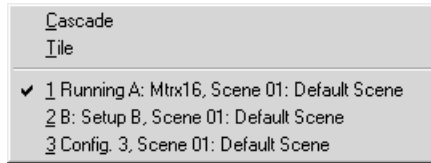
MIDI

I/O オプション

付録

「Window」メニュー

「Window」メニューにはコンフィグレーション画面を管理するコマンドがあります。

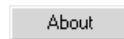


コマンド	機能	参照ページ
Cascade	開いている各コンフィグレーション画面を重ねて表示します。	48
Tile	開いている各コンフィグレーション画面を順に並べて表示します。	48

「Window」メニューの上記コマンドの下には、開いているコンフィグレーション画面のタイトルが表示されています。このリストから画面を選択できます。現在のコンフィグレーション画面のタイトルには上図のようにチェックが付いています。DME32のコンフィグレーションに該当するコンフィグレーション画面は、AあるいはBの文字が付いています。また現在動作しているコンフィグレーションには“Running”と記され、タイトルと現在のシーン、タイトルが表示されます。詳細は48ページ「開いているコンフィグレーション画面の選択」をご参照ください。

「Help」メニュー

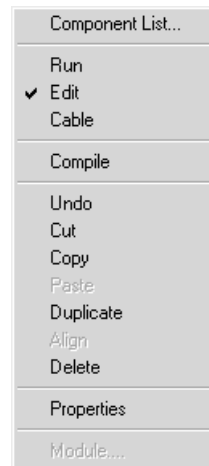
「Help」メニューには「About」コマンドがあります。



このコマンドはDME Managerについての情報を表示します。

ショートカットメニュー

ショートカットメニューは複数のメニューの中から一般的によく使用するコマンドを1つのメニューにまとめたもので、右クリックするとメニューが開きます。これはコンテキストセンシティブ、つまり右クリックした時点でカーソルの位置にある項目の種類(例:コンポーネント、配線など)によって、使用できるコマンドが変わるメニューです。



コマンド	機能	参照ページ
Component List	コンポーネントリストを開きます。	42
Run	Runモードを選択します。	68
Edit	Editモードを選択します。	47
Cable	Cableモードを選択します。	53
Compile	現在のコンフィグレーションをコンパイルします。	63
Undo	最後に行ったコンポーネントや配線の編集内容をアンドウします(元に戻します)。	50, 54
Cut	選択コンポーネントをカットしクリップボードに入れます。	50
Copy	選択コンポーネントをコピーしクリップボードに入れます。	50
Paste	クリップボードのコンポーネントをペーストします。	50
Duplicate	選択コンポーネントを複製します。	50
Align	すべてのコンポーネントをグリッドに位置揃えします。	50
Delete	選択コンポーネントまたは配線を削除します。	50, 58
Properties	選択コンポーネントの属性画面を開きます。	82
Module	モジュール画面を開きます。	195

はじめに

操作の前に

各部の名称と機能

DME Managerの概要

コンフィグレーションの構築

Runモード

ソフトウェア "DME Manager" のその他の機能

コンポーネントガイド 第1部

コンポーネントガイド 第2部

フロントパネルの操作

GPI インターフェース

PCカード

ワードクロック

複数台の DME32 システム

MIDI

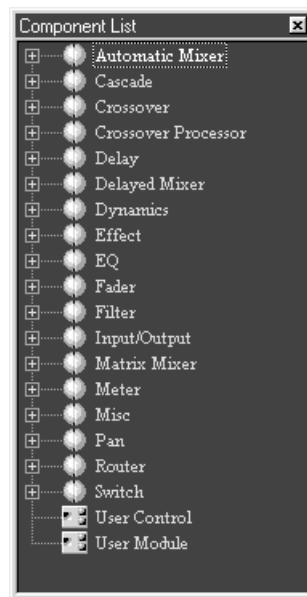
I/O オプション

付録

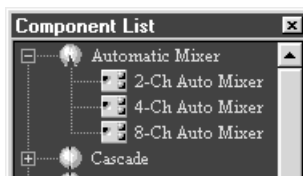
コンポーネントリスト

コンポーネントリストは使用可能なコンポーネントをすべてツリー表示したものです。このリストから各コンポーネントをドラッグしてコンフィグレーションに追加できます。コンポーネントはグループごとに整理されています。

- 1 リストを開くには「Component」メニューから「Component List」を選択します。「Component List(コンポーネントリスト)」画面が開きます。



- 2 コンポーネントをコンフィグレーションに追加するには、任意のコンポーネントを選択し、これをコンフィグレーション画面にドラッグします。
- 3 グループ内のコンポーネントをすべて表示させるには、グループ名の横にあるプラス(+)の記号をクリックします。
グループ内の各コンポーネントが表示され、プラス(+)の記号がマイナス(-)の記号に変わります。



- 4 各コンポーネントの表示を隠すにはマイナス(-)の記号をクリックします。グループ内のコンポーネント表示が隠れ、マイナス(-)の記号がプラス(+)の記号に戻ります。
- 5 「Component List」を閉じるには、右上隅の×印ボタンをクリックします。「Component List」が閉じます。

Tool Palette(ツールパレット)

「Tool Palette」からRunモード、Editモード、Cableモード、コンパイル機能に簡単にアクセスできます。「Tool Palette」は画面上どこでも自由に移動できます。

- 1 「Tool」メニューから[Tool Palette]を選択します。
「Tool Palette」画面が表示されます。



- 2 必要に応じて任意の場所に「Tool Palette」をドラッグします。
- 3 任意のモードまたはコンパイル機能の項目を適宜クリックします。

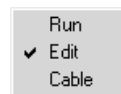
コマンド	機能	参照ページ
Run	Runモードを選択します。	68
Edit	Editモードを選択します。	47
Cable	Cableモードを選択します。	53
Compile	現在のコンフィグレーションをコンパイルします。	63

- 4 「Tool Palette」を閉じるには右上隅の×印ボタンをクリックします。
「Tool Palette」が閉じます。

「Alt」メニュー

「Alt」メニューからRunモード、Editモード、Cableモードを簡単に選択できます。

- 1 [Alt]キーを押します。
以下の「Alt」メニューが表示されます。



- 2 任意のモードを選択しクリックします。

コマンド	機能	参照ページ
Run	Runモードを選択します。	68
Edit	Editモードを選択します。	47
Cable	Cableモードを選択します。	53

はじめに

操作の前に

各部の名称と機能

DME Managerの概要

コンフィグレーションの構築

Runモード

ソフトウェア「DME Manager」のその他の機能

コンポーネントガイド 第1部

コンポーネントガイド 第2部

フロントパネルの操作

GPIインターフェース

PCカード

ワードクロック

複数台のDME32システム

MIDI

I/Oオプション

付録

キーボードのショートカット

はじめに

操作の前に

各部の名称
と機能DME
Manager
の概要コンフィグ
レーション
の構築

Runモード

ソフトウェア
"DME Manager"
のその他の機能コンポーネント
ガイド 第1部コンポーネント
ガイド 第2部フロント
パネルの
操作GPI
インター
フェース

PCカード

ワード
クロック複数台の
DME32
システム

MIDI

I/O
オプション

付録

「File」メニュー

New Ctrl+N

Open Ctrl+O

Save Ctrl+S

Print Ctrl+P

「Edit」メニュー

Undo Ctrl+Z

Cut Ctrl+X

Copy Ctrl+C

Paste Ctrl+V

Duplicate Ctrl+D

コンフィグレーションの構築

5

本章の目次

コンフィグレーションの構築と編集	46
Editモードの選択	47
新規コンフィグレーション画面の開き方	47
保存済コンフィグレーションの開き方	47
開いているコンフィグレーション画面の選択	48
コンポーネントの追加	48
コンポーネントの編集	50
コンポーネントのグリッドへの位置揃え	50
コンフィグレーション画面のズーム	52
Cableモードの選択	53
配線の追加	53
配線の削除	58
複数台のコンフィグレーションを使用した作業	60
コンフィグレーションの保存	62
別名でコンフィグレーションを保存	62
コンフィグレーション画面の終了	62
コンフィグレーションのコンパイル	63
DME32へのコンフィグレーションの送信	64
DME32からのコンフィグレーションの受信	65

はじめに

操作の前に

各部の名称
と機能

DME
Manager
の概要

コンフィグ
レーション
の構築

Runモード

ソフトウェア
"DME Manager"
のその他の機能

コンポーネント
ガイド 第1部

コンポーネント
ガイド 第2部

フロント
パネルの
操作

GPI
インター
フェース

PCカード

ワード
クロック

複数台の
DME32
システム

MIDI

I/O
オプション

付録

コンフィグレーションの構築と編集

以下はコンフィグレーションの構築と編集手順の概要です。

- 1 Editモードを選択します。
詳細は47ページ「Editモードの選択」をご参照ください。
- 2 新規または保存済コンフィグレーションを開きます。
詳細は47ページ「新規コンフィグレーション画面の開き方」または47ページ「保存済コンフィグレーションの開き方」をご参照ください。DME Managerが起動すると新しいコンフィグレーション画面が開きます。
- 3 必要に応じてコンポーネントを追加します。
詳細は48ページ「コンポーネントの追加」をご参照ください。
位置揃え機能とズーム機能もご利用ください。詳細は50ページ「コンポーネントのグリッドへの位置揃え」および52ページ「コンフィグレーション画面のズーム」をご参照ください。
- 4 必要に応じてコンポーネントを編集します。
詳細は50ページ「コンポーネントの編集」をご参照ください。
- 5 コンポーネントを配線します。
詳細は53ページ「配線の追加」および58ページ「配線の削除」をご参照ください。
- 6 コンフィグレーションをコンパイルします。
詳細は63ページ「コンフィグレーションのコンパイル」をご参照ください。
- 7 コンフィグレーションを保存します。
詳細は62ページ「コンフィグレーションの保存」をご参照ください。
- 8 コンフィグレーションをDME32本体に転送します。
詳細は64ページ「DME32へのコンフィグレーションの送信」をご参照ください。
- 9 システムを動かし必要に応じてシーンを作成します。
詳細は67ページ「Runモード」をご参照ください。

はじめに

操作の前に

各部の名称と機能

DME Managerの概要

コンフィグレーションの構築

Runモード

ソフトウェア「DME Manager」のその他の機能

コンポーネントガイド 第1部

コンポーネントガイド 第2部

フロントパネルの操作

GPIインターフェース

PCカード

ワードクロック

複数台のDME32システム

MIDI

I/Oオプション

付録

Editモードの選択

Editモードではコンフィグレーションを構築、編集します。またオフラインでもシーンの編集ができます。詳細は78ページ「シーンのオフライン編集」をご参照ください。

- 1 「Mode」メニューから[Edit]を選択しEditモードにします。
またはショートカットメニュー、ツールバー、「Alt」メニューからも選択できます。
ステータスバーに“ Edit ”と表示されます。
Editモードではアクティブな(つまり接続され電源の入っている)DME32は“ EDIT CONTROL ”とディスプレイに表示します。
- 2 別のモード(CableまたはRun)を選択するとEditモードは終了します。
ステータスバーには選択した別のモード名が表示されます。

新規コンフィグレーション画面の開き方

- 1 「File」メニューから[New]を選択します。
新しいコンフィグレーション画面が開きます。
新しいコンフィグレーション画面には自動的に「 Configuration1 」、「 Configuration2 」などと順にタイトルが付けられます。コンフィグレーションを保存するとそのタイトルが指定した名前に変わります。

保存済コンフィグレーションの開き方

既に保存してあるコンフィグレーションを開く手順です。PCカードが使えるPCならPCカードに保存してあるコンフィグレーションも開くことができます。

- 1 「File」メニューから[Open]を選択します。
Windowsの「 Open 」画面が開きます。
ファイル拡張子“ dme ”の付いたファイルのみが表示されます。
- 2 開きたいコンフィグレーションを選択します。
- 3 [Open]をクリックしてコンフィグレーションを開きます。
コンフィグレーションが開きます。
中止するとき[Cancel]をクリックします。

はじめに

操作の前に

各部の名称と機能

DME Managerの概要

コンフィグレーションの構築

Runモード

ソフトウェア "DME Manager" のその他の機能

コンポーネントガイド 第1部

コンポーネントガイド 第2部

フロントパネルの操作

GPI インターフェース

PCカード

ワードクロック

複数台のDME32システム

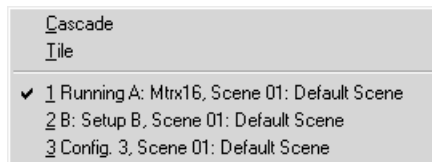
MIDI

I/O オプション

付録

開いているコンフィグレーション画面の選択

- 1 「Window」メニューからコンフィグレーション画面を選択します。



選択した画面が現在の画面となります。

「Window」メニューでは現在のコンフィグレーション画面のタイトルにチェックマークが付いています。DME32のコンフィグレーションに概当するコンフィグレーション画面は、AあるいはBの文字が付いています。また現在動作しているコンフィグレーションには“Running”が付いています。

開いているコンフィグレーション画面をすべて整頓するには、「Window」メニューの「Tile」、「Cascade」コマンドを使用します。

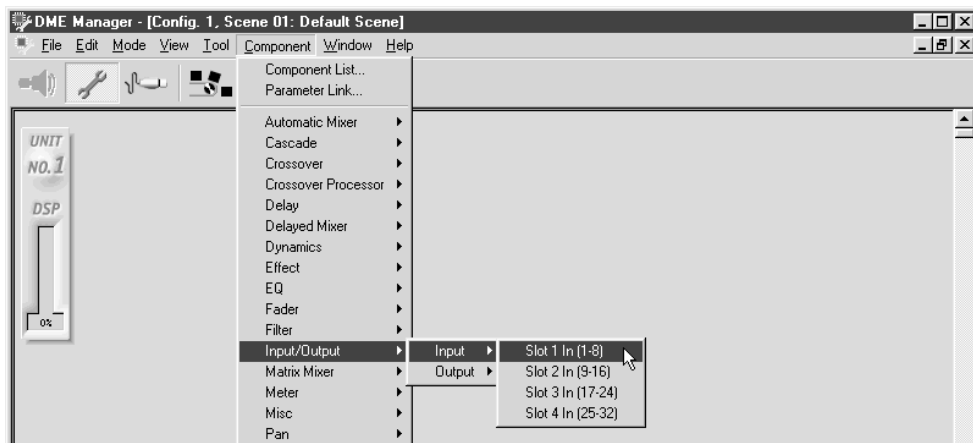
コンフィグレーション画面の右上隅にある各ボタンで画面を最小化、最大化、元のサイズへ戻す、をします。×印のボタンをクリックすると画面が閉じます。画面のサイズは右下隅をドラッグして変更します。また縦横のスクロールバーでスクロールします。詳細は28ページ「コンフィグレーション画面」をご参照ください。

コンポーネントの追加

コンフィグレーションにコンポーネントを追加する手順です。

新しいコンフィグレーションを構築するときは、最初に入出力コンポーネントを追加してください。

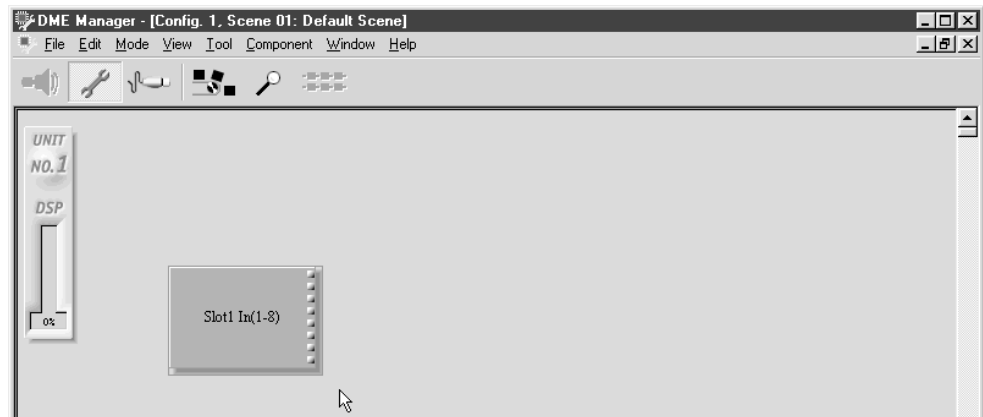
- 1 Editモードを選択します。
詳細は47ページ「Editモードの選択」をご参照ください。
- 2 以下の「Component」メニューからコンポーネントを選択します。



コンポーネントが次のように点線で表示されます。



- 3 画面内のコンポーネントの位置を調整しクリックします。
以下のようにコンポーネントがコンフィグレーションに追加されます。



- 4 必要に応じて他のコンポーネントを追加しコンフィグレーションを完成させます。

「Component」メニューからの追加以外に、コンポーネントリストから直接コンポーネントをドラッグして追加できます。詳細は42ページ「コンポーネントリスト」をご参照ください。

コンポーネントがコンフィグレーションに追加されるとDSPパワーメーターが上がります。未使用のコンポーネントがあるとDSP処理パワーを無駄に消費することになりますので削除してください。DSPパワーを節約するもう1つの手段として、用途に応じた最も簡単なコンポーネントを使う方法があります。たとえば信号レベルの調整にはフェーダーコンポーネントで十分なのでミキサーコンポーネントは使用しません。

コンフィグレーション内のコンポーネントはドラッグして位置調整します。配線されたコンポーネントを移動するとワイヤーも移動し再配線する必要はありません。移動は個別でも複数まとめてでも可能です。複数コンポーネントの選択は、シフトキーを押したままマウスで選択するか、選択したいコンポーネントの横の空いた領域でクリックしたまま複数のコンポーネントを囲むようにドラッグします。

はじめに

操作の前に

各部の名称と機能

DME Managerの概要

コンフィグレーションの構築

Runモード

ソフトウェア「DME Manager」のその他の機能

コンポーネントガイド 第1部

コンポーネントガイド 第2部

フロントパネルの操作

GPIインターフェース

PCカード

ワードクロック

複数台のDME32システム

MIDI

I/Oオプション

付録

はじめに	「Align」コマンドを使用してコンポーネントをグリッドに位置揃えします。詳細は50ページ「コンポーネントのグリッドへの位置揃え」をご参照ください。また「Zoom」コマンドを使用しズームインして詳細を確認したりズームアウトして表示領域を広げたりします。詳細は52ページ「コンフィグレーション画面のズーム」をご参照ください。
操作の前に	
各部の名称と機能	「Undo」コマンドを使用すれば最後に追加したコンポーネントを取り消すことができます。このコマンドは「Edit」メニューとショートカットメニューにあります。
DME Managerの概要	同じコンポーネントを最大160個まで任意の1つのコンフィグレーションに追加できます。(たとえば160個の「Fader 4」のコンポーネント)コンポーネントを削除すると削除した数は分からなくなります。たとえば160個追加してあとで10個削除して、実際には150個でも更に10個追加することはできません。
コンフィグレーションの構築	
Runモード	
ソフトウェア「DME Manager」のその他の機能	
コンポーネントガイド 第1部	以下はコンポーネント編集に使える編集機能です。編集するコンポーネントはクリックして選択します。複数のコンポーネントを同時選択するには、シフトキーを押したままマウスで選択するか、選択したいコンポーネントの横の空いた領域でクリックしたまま複数のコンポーネントを囲むようにドラッグします。
コンポーネントガイド 第2部	「Undo」コマンドを使用すれば最後に行ったコンポーネントの編集内容を取り消すことができます。このコマンドは「Edit」メニューとショートカットメニューにあります。
フロントパネルの操作	<ul style="list-style-type: none"> コンポーネントをコンフィグレーションからカットしてクリップボードに入れるには、「Edit」メニューとショートカットメニューにある「Cut」コマンドを使用します。 コンポーネントをクリップボードにコピーするには、「Edit」メニューとショートカットメニューにある「Copy」コマンドを使用します。 コンポーネントをコンフィグレーションにペーストするには、「Edit」メニューとショートカットメニューにある「Paste」コマンドを使用します。
GPIインターフェース	<ul style="list-style-type: none"> コンポーネントを複製するには、「Edit」メニューとショートカットメニューにある「Duplicate」コマンドを使用します。
PCカード	<ul style="list-style-type: none"> コンポーネントを削除するには、「Edit」メニューとショートカットメニューにある「Delete」コマンドを使用します。
ワードクロック	<ul style="list-style-type: none"> コンポーネントの外観、サイズ、色、タイトルなどを変えることができます。詳細は82ページ「コンポーネントプロパティのカスタム化」をご参照ください。
複数台のDME32システム	
MIDI	
I/Oオプション	
付録	

コンポーネントの編集

以下はコンポーネント編集に使える編集機能です。編集するコンポーネントはクリックして選択します。複数のコンポーネントを同時選択するには、シフトキーを押したままマウスで選択するか、選択したいコンポーネントの横の空いた領域でクリックしたまま複数のコンポーネントを囲むようにドラッグします。

「Undo」コマンドを使用すれば最後に行ったコンポーネントの編集内容を取り消すことができます。このコマンドは「Edit」メニューとショートカットメニューにあります。

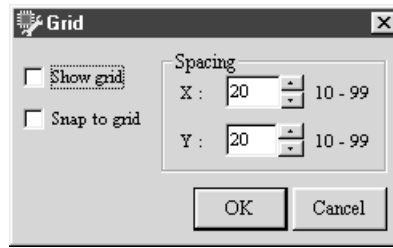
- コンポーネントをコンフィグレーションからカットしてクリップボードに入れるには、「Edit」メニューとショートカットメニューにある「Cut」コマンドを使用します。
- コンポーネントをクリップボードにコピーするには、「Edit」メニューとショートカットメニューにある「Copy」コマンドを使用します。
- コンポーネントをコンフィグレーションにペーストするには、「Edit」メニューとショートカットメニューにある「Paste」コマンドを使用します。
- コンポーネントを複製するには、「Edit」メニューとショートカットメニューにある「Duplicate」コマンドを使用します。
- コンポーネントを削除するには、「Edit」メニューとショートカットメニューにある「Delete」コマンドを使用します。
- コンポーネントの外観、サイズ、色、タイトルなどを変えることができます。詳細は82ページ「コンポーネントプロパティのカスタム化」をご参照ください。

コンポーネントのグリッドへの位置揃え

縦横の点線を引いた方眼紙のようなグリッドでコンポーネントの位置揃えができます。[Snap to grid(グリッドに揃える)]をオンにするとコンポーネントを追加移動したときに自動でグリッドに位置揃えします。コンフィグレーション内にあるコンポーネントは「Align」コマンドでグリッドに揃えます。

この機能が使えるのは、「Zoom」の倍率が100%の時だけです。

- 1 「View」メニューから[Grid]を選択します。
次の「Grid」画面が表示されます。



Gridパラメーター

セクション	パラメータ	設定範囲	機能
Show grid		チェック / なし	グリッド表示をオン / オフします。オンのときは開いているコンフィグレーション画面にグリッドが表示されます。
Snap to grid		チェック / なし	「Snap to grid」をオン / オフします。show gridがオンで、このパラメーターがオンのときはコンポーネント追加 / 移動時にグリッドに位置揃えします。
Spacing†1	X	10 ~ 99	各横線間の距離を設定します。
	Y	10 ~ 99	各縦線間の距離を設定します。

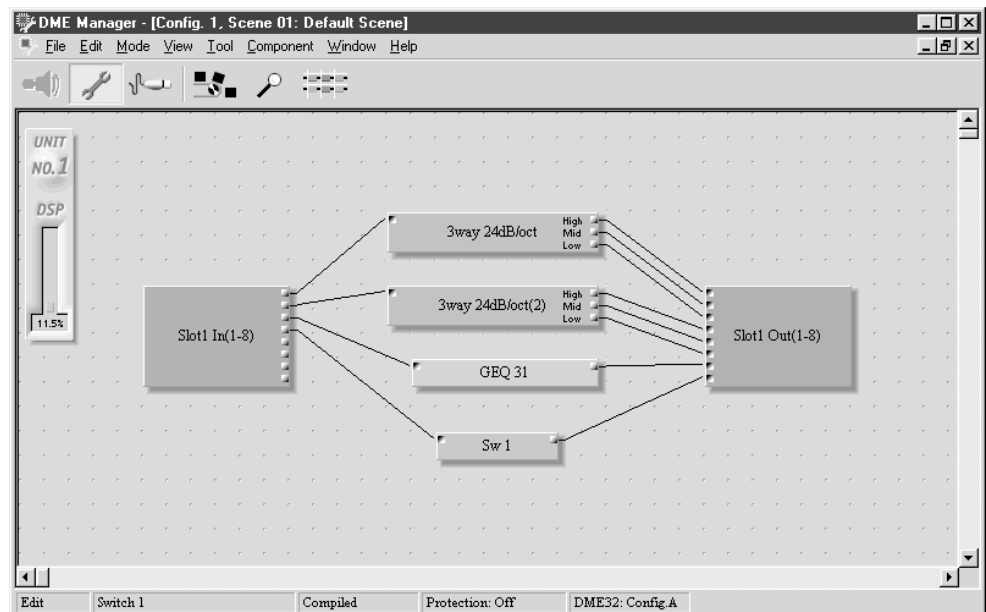
†1. フィールドの横にある矢印ボタンを使用するかキーボードから直接数値を入力して設定します。

- 2 必要な設定をしたら[OK]をクリックして設定を保存するか、[Cancel]をクリックして変更せずに「Grid」画面を終了します。

「Grid」画面が閉じます。

グリッドをオンにすると、位置揃えていないコンポーネントも「Align」コマンドを使って揃えることができます。このコマンドは「Edit」メニュー、ショートカットメニュー、ツールバーにあります。

次のコンフィグレーション画面はX、Yパラメーターが等しい典型的なグリッドを表示しています。



はじめに

操作の前に

各部の名称と機能

DME Managerの概要

コンフィグレーションの構築

Runモード

ソフトウェア「DME Manager」のその他の機能

コンポーネントガイド 第1部

コンポーネントガイド 第2部

フロントパネルの操作

GPIインターフェース

PCカード

ワードクロック

複数台のDME32システム

MIDI

I/Oオプション

付録

コンフィグレーション画面のズーム

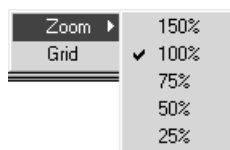
「Zoom」コマンドを使用してコンフィグレーション画面をズームイン/アウトさせます。拡大、縮小の倍率は150%、100%(初期設定)、75%、50%、25%から選択します。

- 1 「View」メニューから倍率を選択します。

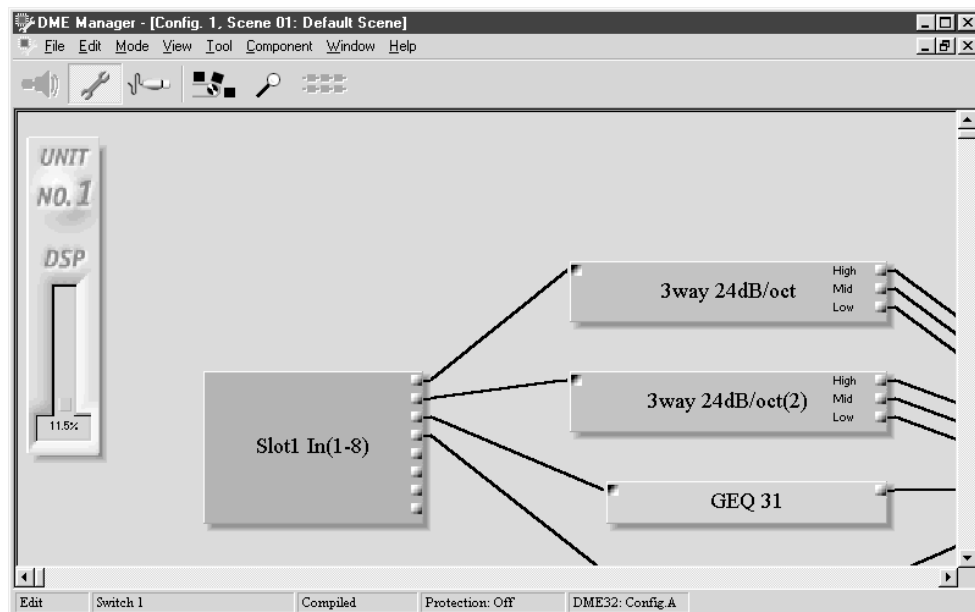
開いているコンフィグレーション画面がすべてズームイン/アウトします。

ツールバーの「Zoom」ボタンをクリックしてもズームイン/アウトができます。このボタンを繰り返しクリックするたびに倍率が変わります。

「Zoom」メニューの倍率でチェックの付いているものが現在の倍率です。



以下はズーム率150%のコンフィグレーション画面です。

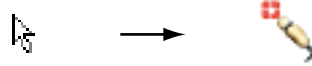


Cableモードの選択

Cableモードでコンポーネントの配線を行います。

- 1 「Mode」メニューから[Cable]を選択しCableモードにします。
またはショートカットメニュー、ツールバー、ツールパレット、「Alt」メニューからも選択できます。

ステータスバーに“ Cable ”と表示され、カーソルがケーブルツールアイコンに変わります。



Cableモードではアクティブな(つまり接続され電源の入っている)DME32は“ EDIT CONTROL ”とディスプレイに表示します。

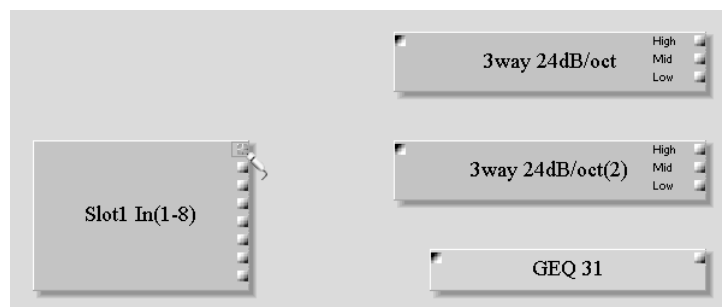
- 2 別のモード(EditまたはRun)を選択するとCableモードは終了します。
ステータスバーには選択した別のモード名が表示されます。

配線の追加

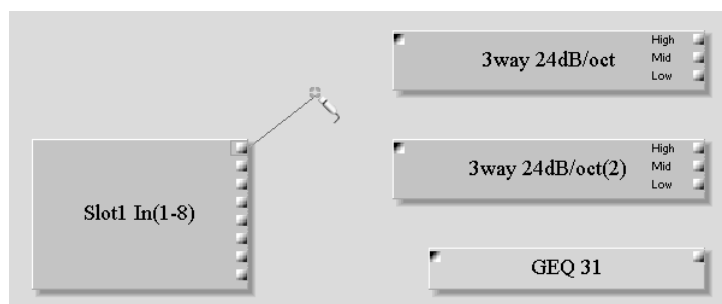
配線を個別にまたは複数まとめて追加できます。

個別に配線を追加

- 1 Cableモードを選択します。
前述の「Cableモードの選択」をご参照ください。
- 2 ケーブルツールを1つ目のノードに置きます。
次のようにノードが枠で囲まれます。



- 3 次のノードにワイヤーをドラッグします。



はじめに

操作の前に

各部の名称
と機能DME
Manager
の概要コンフィグ
レーション
の構築

Runモード

ソフトウェア
"DME Manager"
のその他の機能コンポーネント
ガイド 第1部コンポーネント
ガイド 第2部フロント
パネルの
操作GPI
インター
フェース

PCカード

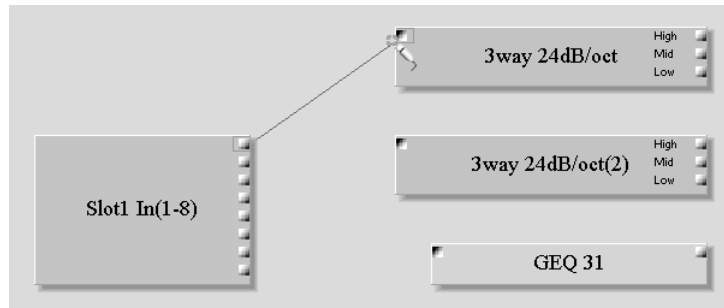
ワード
クロック複数台の
DME32
システム

MIDI

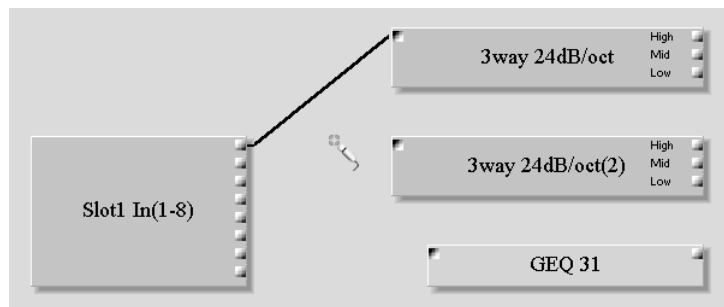
I/O
オプション

付録

2つ目のノードが枠で囲まれます。



- 4 2つ目のノードにワイヤーをドロップします。
次の図のように2つのノードが配線されます。



最後に追加したワイヤーは「Edit」メニューとショートカットメニューにある「Undo」コマンドでキャンセルできます。

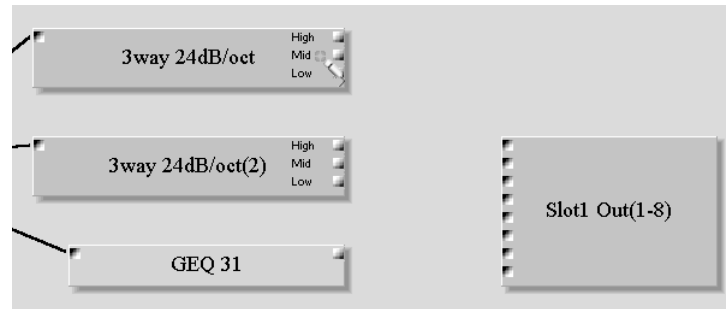
- はじめに
- 操作の前に
- 各部の名称と機能
- DME Manager の概要
- コンフィグレーションの構築
- Runモード
- ソフトウェア "DME Manager" のその他の機能
- コンポーネントガイド 第1部
- コンポーネントガイド 第2部
- フロントパネルの操作
- GPI インターフェース
- PCカード
- ワードクロック
- 複数台の DME32 システム
- MIDI
- I/O オプション
- 付録

複数まとめて配線を追加

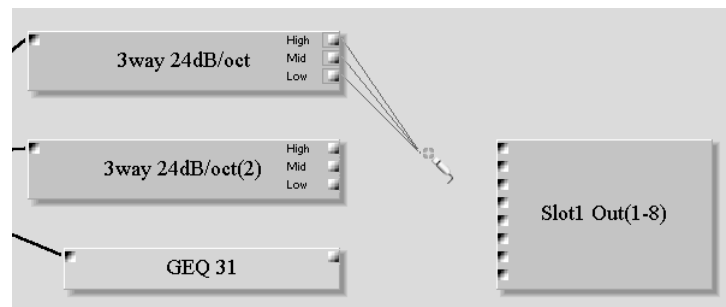
複数まとめて配線するには、ノードの近くをクリックして全ノードを自動で配線する方法と、隣り合ったノードを配線してからノードを囲んでドラッグする方法があります。

コンポーネントの全ノードを配線

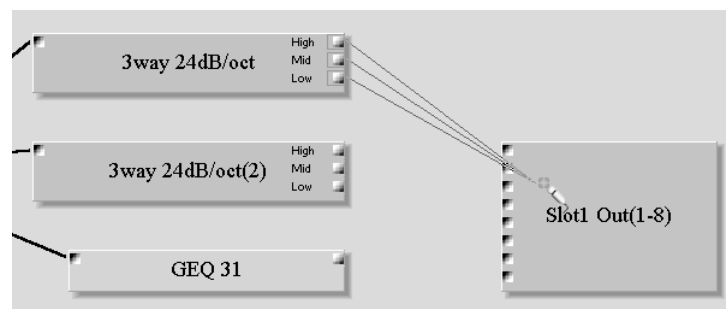
- 1 ノードの後ろにケーブルツールを置きます。



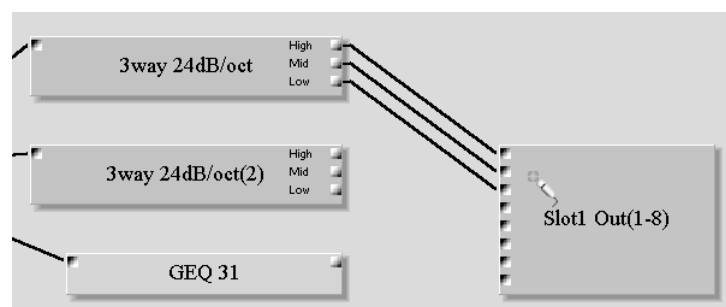
- 2 以下のようにクリックしてドラッグします。



- 3 もう1つのコンポーネントのノードの後ろにワイヤーをドロップします。



ノード間に配線されます。



はじめに

操作の前に

各部の名称と機能

DME Managerの概要

コンフィギュレーションの構築

Runモード

ソフトウェア "DME Manager" のその他の機能

コンポーネントガイド 第1部

コンポーネントガイド 第2部

フロントパネルの操作

GPI インターフェース

PCカード

ワードクロック

複数台の DME32 システム

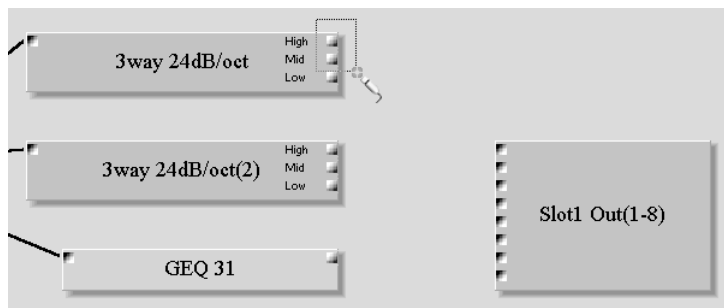
MIDI

I/O オプション

付録

コンポーネントの隣のノードを選んで配線

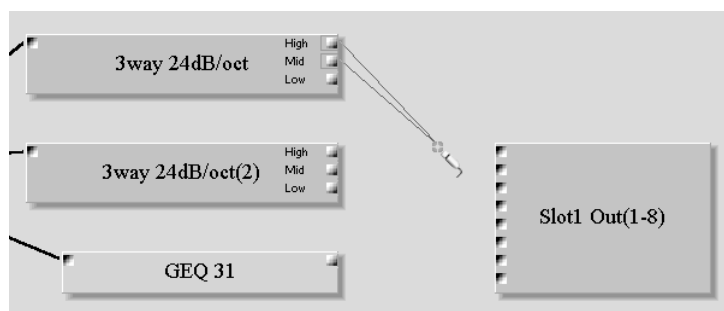
- 1 配線したい複数のノードのうち1つのすぐ横にある空白領域でクリックし、配線したいノードをすべて囲むようにドラッグします。



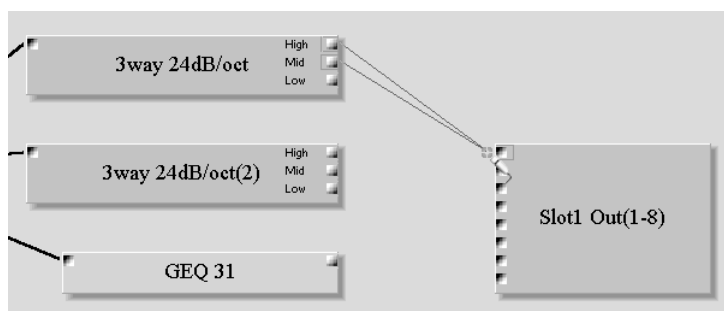
- 2 マウスボタンを離します。
選択ノードが枠で囲まれます。



- 3 下図のように選択したノードのうち任意のノードを別のコンポーネントの一番上のノードまでドラッグします。



一番上のノードが枠で囲まれます。



はじめに

操作の前に

各部の名称と機能

DME Managerの概要

コンフィグレーションの構築

Runモード

ソフトウェア "DME Manager"のその他の機能

コンポーネントガイド 第1部

コンポーネントガイド 第2部

フロントパネルの操作

GPI インターフェース

PCカード

ワードクロック

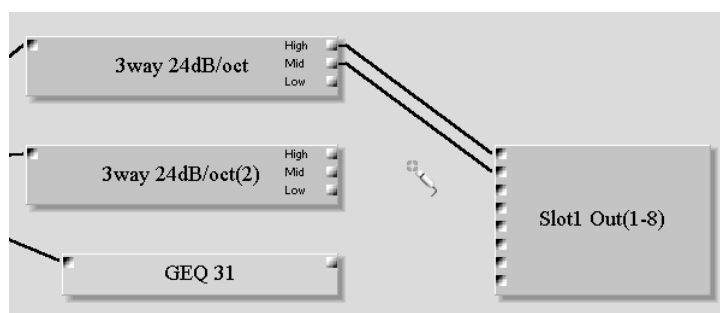
複数台のDME32システム

MIDI

I/O オプション

付録

- 4 一番上のノードにワイヤーをドロップします。
下図のようにノード間がワイヤーで配線されます。



はじめに

操作の前に

各部の名称
と機能DME
Manager
の概要コンフィグ
レーション
の構築

Runモード

ソフトウェア
"DME Manager"
のその他の機能コンポーネント
ガイド 第1部コンポーネント
ガイド 第2部フロント
パネルの
操作GPI
インター
フェース

PCカード

ワード
クロック複数台の
DME32
システム

MIDI

I/O
オプション

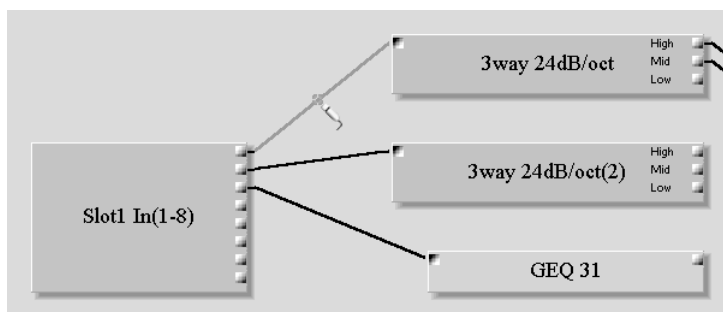
付録

配線の削除

配線を個別にまたは複数まとめて削除できます。

個別に配線を削除

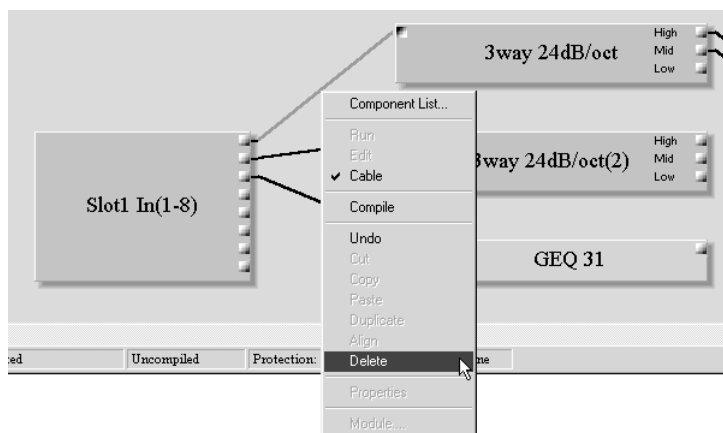
- 1 ケーブルツールを削除したいワイヤーの上に置きます。



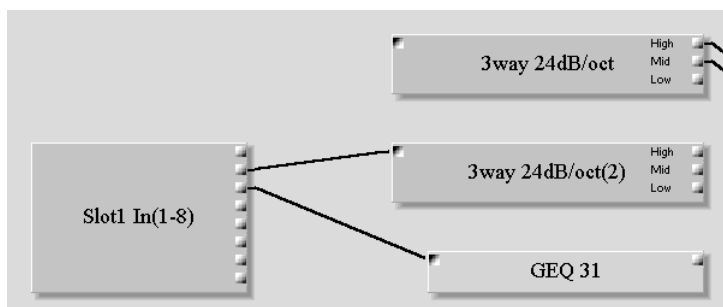
ワイヤーがハイライト表示されます。

- 2 「Edit」メニューまたはショートカットメニューから「Delete」コマンドを選択します。

次のようにショートカットメニューが表示されます。



ワイヤーが削除されます。



はじめに

操作の前に

各部の名称と機能

DME Managerの概要

コンフィグレーションの構築

Runモード

ソフトウェア「DME Manager」のその他の機能

コンポーネントガイド 第1部

コンポーネントガイド 第2部

フロントパネルの操作

GPIインターフェース

PCカード

ワードクロック

複数台のDME32システム

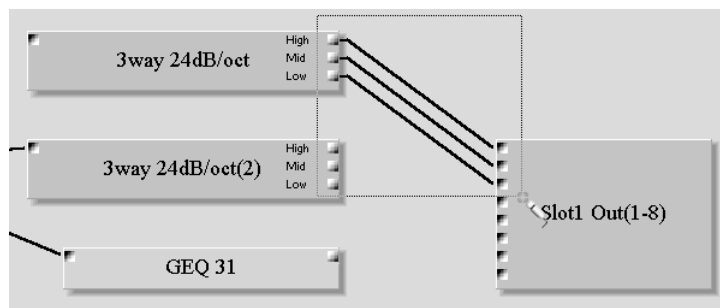
MIDI

I/Oオプション

付録

複数まとめて配線を削除

- 1 配線を削除したい複数のノードのうちの一つのノードのすぐ横にある空白領域でクリックし、対象ノードをすべて囲むようにドラッグします。

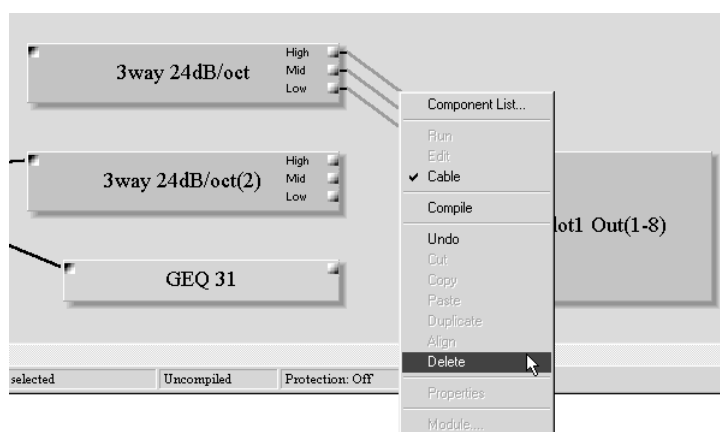


ワイヤーがハイライト表示されます。

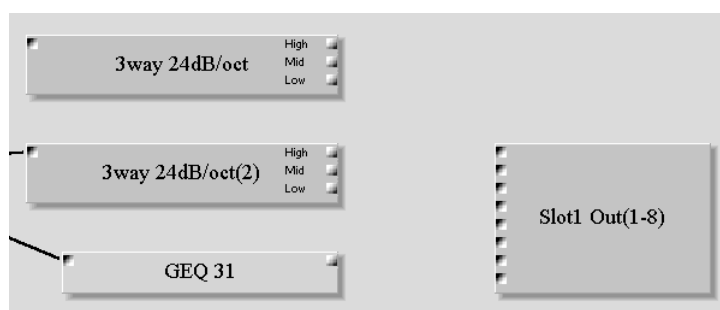
シフトキーを押しながらマウスで複数ワイヤーを選択することもできます。

- 2 「Edit」メニューまたはショートカットメニューから「Delete」コマンドを選択します。

次のショートカットメニューが表示されます。



次のようにワイヤーが削除されます。



はじめに

操作の前に

各部の名称と機能

DME Managerの概要

コンフィグレーションの構築

Runモード

ソフトウェア「DME Manager」のその他の機能

コンポーネントガイド 第1部

コンポーネントガイド 第2部

フロントパネルの操作

GPIインターフェース

PCカード

ワードクロック

複数台のDME32システム

MIDI

I/Oオプション

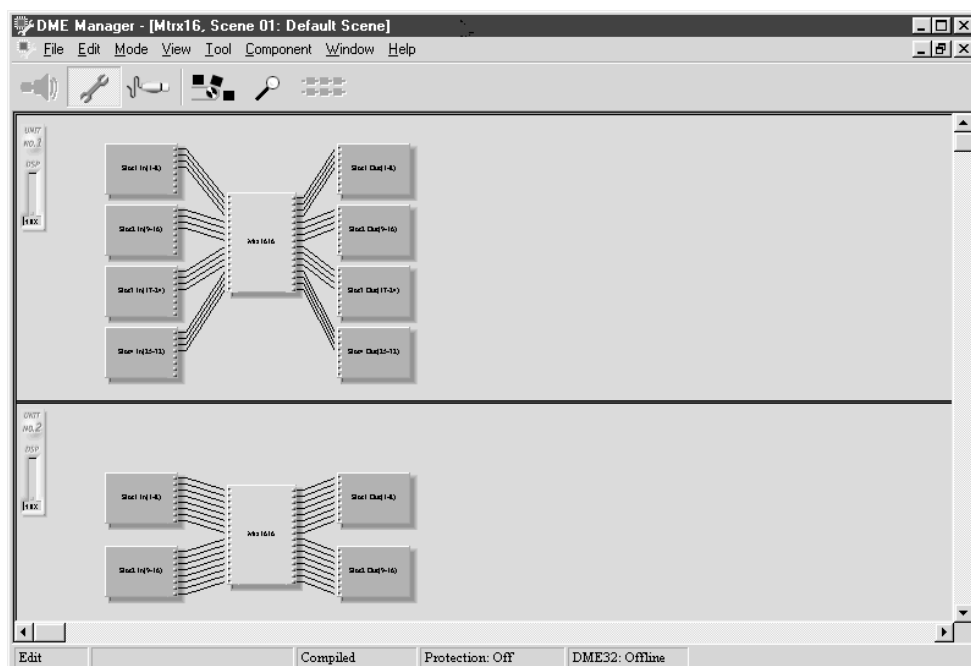
付録

複数台のコンフィグレーションを使用した作業

複数台のDME32システムを構築、編集するときは、スクロールバーでコンフィグレーション画面の各セクションにアクセスします。各セクションは必要に応じてサイズを変更できます。詳細は61ページ「コンフィグレーション画面のセクションのサイズ変更」をご参照ください。

各DME32のコンポーネントはコンフィグレーション画面のそれぞれ該当するセクションに入ります。境界線上にコンポーネントを置くこともセクション間をドラックすることもできません。

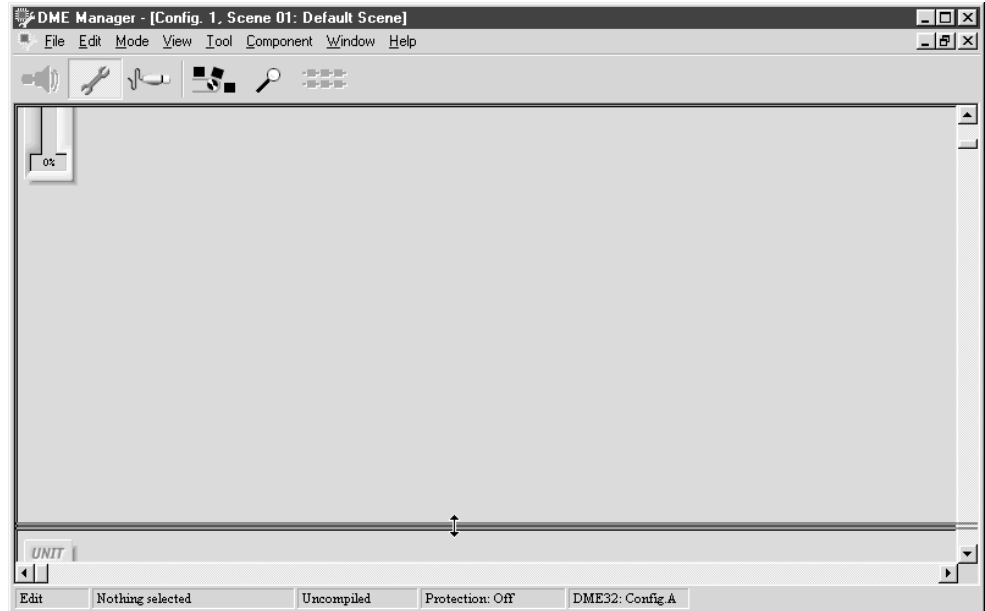
以下は2台のDME32を使用したコンフィグレーションの例です。



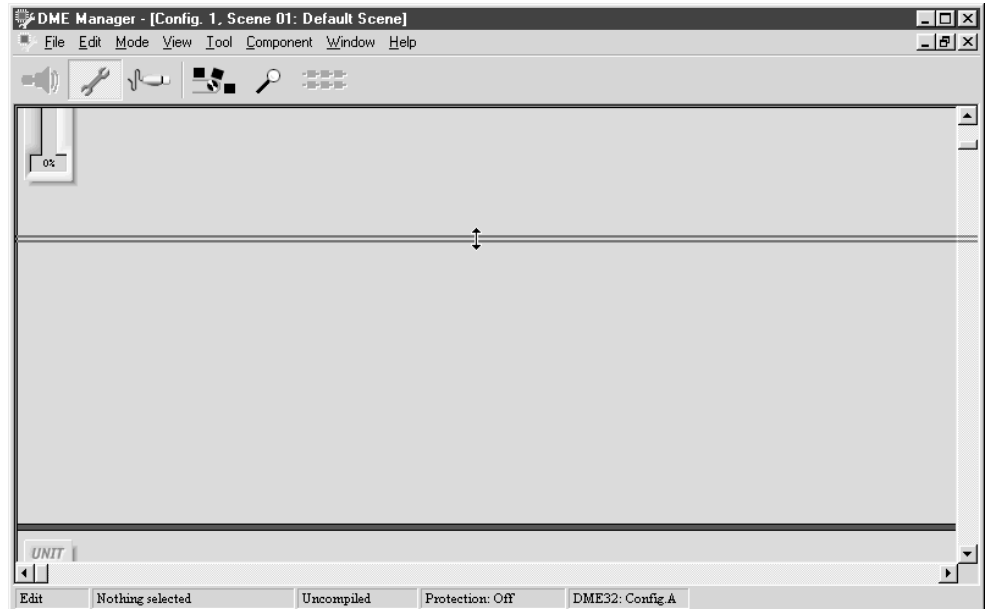
Cascade(カスケード)コンポーネントを使って複数のDME32間で信号を分配できます。詳細は94ページ「Cascade(カスケード)」をご参照ください。

コンフィグレーション画面のセクションのサイズ変更

- 1 カーソルを境界線上に移動します。
カーソルが次のようにサイズ変更用矢印に変わります。



- 2 境界線を任意の位置にドラッグします。



はじめに

操作の前に

各部の名称
と機能DME
Manager
の概要コンフィグ
レーション
の構築

Runモード

ソフトウェア
"DME Manager"
のその他の機能コンポーネント
ガイド 第1部コンポーネント
ガイド 第2部フロント
パネルの
操作GPI
インター
フェース

PCカード

ワード
クロック複数台の
DME32
システム

MIDI

I/O
オプション

付録

コンフィグレーションの保存

コンフィグレーションはWindowsで使用できるメディアであれば保存可能です。PCカードが使えるPCならコンフィグレーションはPCカードに保存でき、DME32本体へカードスロットを介してロードできます。

コンフィグレーションを保存する前にコンパイルを必ず行ってください。詳細は63ページ「コンフィグレーションのコンパイル」をご参照ください。

- 1 「File」メニューから[Save]を選択します。
すでに保存されているコンフィグレーションであれば、最新データに上書きされません。

初めて保存するコンフィグレーションではWindowsの「Save As」画面が表示されるので、ファイル名を入力しフォルダを選択して[Save]をクリックします。


コンフィグレーションはファイル拡張子「dme」が付いて保存され、コピー、削除、バックアップなど通常のWindowsファイルと同じに扱えます。

別名でコンフィグレーションを保存

コンフィグレーションを保存する前にコンパイルを必ず行ってください。詳細は63ページ「コンフィグレーションのコンパイル」をご参照ください。

- 1 「File」メニューから[Save As]を選択します。
Windowsの「Save As」画面が表示されます。
- 2 保存したいコンフィグレーションの名前を入力します。
- 3 保存先のフォルダを選択します。
- 4 [保存]をクリックしてコンフィグレーションを保存します。
中止する場合は[キャンセル]をクリックします。

コンフィグレーション画面の終了

- 1 「File」メニューから[Close]を選択します。
コンフィグレーション画面に未保存の内容がなければ画面が閉じます。
コンフィグレーション画面に未保存の内容があると、それを保存したいかどうかを尋ねるメッセージが表示されます。[はい]をクリックして内容を保存し画面を終了するか、「いいえ」をクリックして内容を保存しないで画面を終了するか、[キャンセル]をクリックして操作を中止します。
 画面右上隅にある×印のボタンをクリックしても画面が閉じます。

コンフィグレーションのコンパイル

コンフィグレーションを保存したり、DME32本体に転送する前に、まずコンパイルする必要があります。コンパイルとはコンフィグレーションをDME32が解釈できる情報に変換することです。

コンフィグレーションのコンパイルはEditモード、Cableモードのどちらでも行えます。

以下の手順で現在のコンフィグレーションをコンパイルします。

- 1 ツールバーの[Compile]ボタンをクリックします。
 または「File」メニューから[Compile]を選択するか、ツールパレット上で[Compile]ボタンをクリックするか、ショートカットメニューから[Compile]を選択します。
 コンパイルの進行状況を示すグラフが表示されます。



コンパイルが無事終わると“ Compile Complete (コンパイル完了)と表示されステータスバーのコンパイル状態表示が“ Uncompiled (未コンパイル)から“ Compiled (コンパイル済)に変わります。

- 2 [OK]をクリックして「Compile」グラフ画面を閉じます。

これでコンフィグレーションをDME32に転送できます。

コンパイルに失敗するとその理由が表示され、ステータスバーのコンパイル状態表示が“ Compile Failure (コンパイル失敗)に変わります。問題を解決してもう一度コンパイルし直してください。

コンフィグレーションのコンパイルにはある程度のDSP処理パワーが必要です。DSPパワーメーターが100%になっていないのにコンパイルが失敗することがあります。これは、DSPパワーメーターはおおよその目安表示でコンポーネントのタイプや順番、配線に影響されるからです。

コンフィグレーションの変更時、あるいは以下の設定のいずれかを変更したときに、コンフィグレーションをコンパイルしてDME32に転送する必要があります。

- User Define
- GPI
- Word clock
- Parameter link

はじめに

操作の前に

各部の名称と機能

DME Managerの概要

コンフィグレーションの構築

Runモード

ソフトウェア "DME Manager" のその他の機能

コンポーネントガイド 第1部

コンポーネントガイド 第2部

フロントパネルの操作

GPI インターフェース

PCカード

ワードクロック

複数台のDME32システム

MIDI

I/O オプション

付録

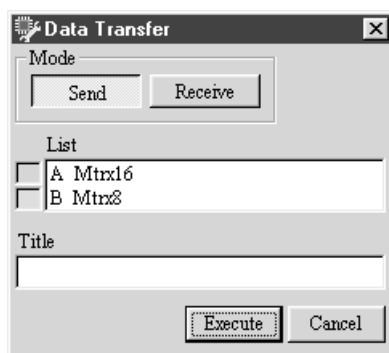
DME32 へのコンフィグレーションの送信

現在のコンフィグレーションをDME32に送信する手順です。送信前にまずコンフィグレーションをコンパイルしてください。詳細は63ページ「コンフィグレーションのコンパイル」をご参照ください。

コンフィグレーションをDME32に送信すると、それに関連したシーンもすべて送信されます。

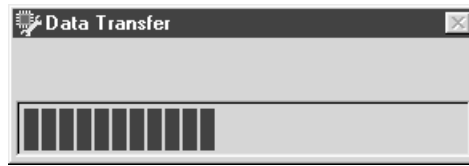
注意: コンフィグレーションのDME32への送信時、システム設定によっては急に音が出ることがあります。送信前にDAコンバーターやパワーアンプなどの入力ボリュームを下げておいてください。

- 1 「File」メニューから[Data Transfer]を選択します。
「Data Transfer」画面が表示されます。



- 2 Mode欄で[Send]をクリックします。
- 3 「List」から、送信先のコンフィグレーションメモリーを選択します。
リストにはDME32に保存されているコンフィグレーションのタイトルが表示されます。タイトルの隣に緑のインジケーターがあります。メモリーにデータがない場合は“NO DATA”と表示されます。
- 4 「Title(タイトル)」欄にコンフィグレーションの名前を入力します。
24文字まで入力できます。ただしDME32本体ディスプレイには最初の7文字のみが表示されます。
- 5 [Execute]をクリックします。
データの入っているコンフィグレーションメモリーを選択すると、データを上書きしてよいかというメッセージが表示されます。上書きしてよければ[OK]をクリックし送信します。上書きしたくない場合は[キャンセル]をクリックして操作を中止します。

現在のコンフィグレーションがDME32本体に送信され、グラフでデータ送信状況が表示されます。



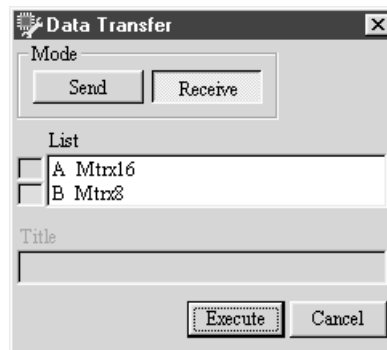
送信が無事終わると送信状況を示すグラフは閉じます。“Memory Full”の表示が出た場合は送信できません。

DME32からのコンフィグレーションの受信

DME32からコンフィグレーションを受信する手順です。2種類のコンフィグレーションを別々に、またはまとめて受信できます

コンフィグレーションをDME32から受信すると、それに関連したシーンもすべて受信します。

- 1 「File」メニューから[Data Transfer]を選択します。
「Data Transfer」画面が表示されます。



- 2 Mode欄で[Receive]をクリックします。
- 3 「List」から、受信したいコンフィグレーションを選択します。
リストにはDME32に保存されているコンフィグレーションのタイトルが表示されます。タイトルの隣に緑のインジケータがあります。メモリーにデータがない場合は“NO DATA”と表示されます。
2つのコンフィグレーションを同時に選択するにはシフトキーを押したままマウスで選択します。

はじめに

操作の前に

各部の名称と機能

DME Managerの概要

コンフィグレーションの構築

Runモード

ソフトウェア "DME Manager" のその他の機能

コンポーネントガイド 第1部

コンポーネントガイド 第2部

フロントパネルの操作

GPI インターフェース

PCカード

ワードクロック

複数台のDME32システム

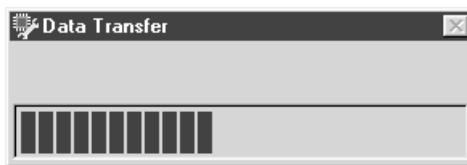
MIDI

I/O オプション

付録

4 [Execute]をクリックします。

選択したコンフィグレーションが受信され、グラフでデータ転送状況が表示されます。



受信したコンフィグレーションが新しいコンフィグレーション画面に、またそのコンフィグレーションと現在のシーンの番号とタイトルがタイトルバーに表示されます。

5 [Cancel]をクリックして「Data Transfer」画面を閉じます。

「Data Transfer」画面が閉じます。

はじめに

操作の前に

各部の名称
と機能DME
Manager
の概要コンフィグ
レーション
の構築

Runモード

ソフトウェア
"DME Manager"
のその他の機能コンポーネント
ガイド 第1部コンポーネント
ガイド 第2部フロント
パネルの
操作GPI
インター
フェース

PCカード

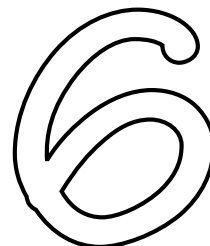
ワード
クロック複数台の
DME32
システム

MIDI

I/O
オプション

付録

Runモード



本章の目次

Runモードの選択	68
Run Mode Controller	69
コンポーネントパラメーターの変更	71
シーンの保存	72
シーンの呼び出し	74
コンフィグレーションの呼び出し	76

はじめに

操作の前に

各部の名称
と機能DME
Manager
の概要コンフィグ
レーション
の構築

Runモード

ソフトウェア
"DME Manager"
のその他の機能コンポーネント
ガイド 第1部コンポーネント
ガイド 第2部フロント
パネルの
操作GPI
インター
フェース

PCカード

ワード
クロック複数台の
DME32
システム

MIDI

I/O
オプション

付録

Runモードの選択

はじめに

操作の前に

各部の名称
と機能DME
Manager
の概要コンフィグ
レーション
の構築

Runモード

ソフトウェア
"DME Manager"
のその他の機能コンポーネント
ガイド 第1部コンポーネント
ガイド 第2部フロント
パネルの
操作GPI
インター
フェース

PCカード

ワード
クロック複数台の
DME32
システム

MIDI

I/O
オプション

付録

RunモードはDME32のシステムをリアルタイムでコントロールします。コンポーネントパラメーターの編集、シーンの保存/呼び出し、コンフィグレーションの呼び出しがリアルタイムでできます。DME Manager上の操作がDME32本体に反映され、逆にDME32上で行った操作がDME Managerにも反映されます。コンポーネントと配線はこのモードでは変更できません。

Runモードは表示されている「Configuration」画面が現在のコンフィグレーションと一致しているときのみ選択できます。このためコンフィグレーションをDME32に送信するか、DME32からコンフィグレーションを受信して一致させることが必要です。コンフィグレーションデータはすべて、DME Manager起動時にDME32から取り込まれます。詳細は14ページ「DME Managerの起動」をご参照ください。マニュアルでデータを取り込むこともできます。詳細は65ページ「DME32からのコンフィグレーションの受信」をご参照ください。

複数の「Configuration」画面が開いているときにRunモードを選択すると、現在選択されている「Configuration」画面のコンフィグレーションとシーンがDME32上で選択されます。Runモードを選択後、他の画面を選択できますがコントロールはできません。もう1つのDME32コンフィグレーションをコントロールするには、DME32のフロントパネル、または「Run Mode Controller」画面からコンフィグレーションを呼び出すか、一時的にEditモードに切り替えてもう1つの「Configuration」画面を選択し、Runモードに戻します。

- Runモードの選択は「Mode」メニューから[Run]を選択します。
またはショートカットメニュー、ツールバー、ツールパレット、「Alt」メニューからも選択できます。
ステータスバーに“ Run ”と表示され、次の「Run Mode Controller」画面が表示されます。フロントパネル操作と同じ操作でこの画面でコンフィグレーションの呼び出し、シーンの保存/呼び出しができます。



DME32はRunモードに切り替わりコンフィグレーションタイトル/シーンタイトル/選択コンポーネントパラメーター値を表示します。上の画面は最初のコンポーネントのデフォルトのパラメーターです。ただし「USER DEFINE」キーにパラメーターが割り当てられている場合は、そのパラメーターが選択され、USER DEFINEインジケータが点灯します。これはDME Managerを切り離してDME32本体を起動したときと同じです。

- 別モード (EditまたはCableモード) を選択するとRunモードは終了します。「Run Mode Controller」画面は消えます。
ステータスバーに新しく選択したモードが表示されます。
DME32本体ディスプレイに“ EDIT CONTROL ”と表示されます。

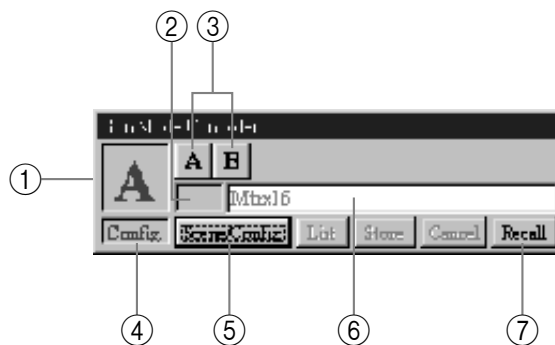
Run Mode Controller

Runモードを選択すると自動的に「Run Mode Controller」画面が表示されます。この画面でDME32のコンフィグレーションの呼び出し、シーンの保存 / 呼び出し、を行います。操作はDME32本体のフロントパネルと同じです。この「Run Mode Controller」画面はRunモード選択時のみです。メニューなどからアクセスはできません。

「Run Mode Controller」内の各項目の順番はコンフィグレーションをコントロールするか、シーンをコントロールするかによって異なります。選択は「Scene/Config」ボタンをクリックします。

コンフィグレーションコントロール

コンフィグレーションを選択すると、次の「Run Mode Controller」画面が表示されます。



- ① コンフィグレーション番号
現在のコンフィグレーション番号です。別のコンフィグレーションを選択すると、そのコンフィグレーションが呼び出されるまで番号が点滅します。
- ② Editインジケータ
コンフィグレーションコントロールではこのインジケータはありません。
- ③ セレクターボタン
コンフィグレーション選択ボタンです。
- ④ Scene/Configインジケータ
コンフィグレーションコントロール、シーンコントロールのいずれを選択しているのかを表示します。
- ⑤ 「Scene/Config」ボタン
コンフィグレーションコントロールとシーンコントロールを切り替えるボタンです。
- ⑥ コンフィグレーションタイトル
現在のコンフィグレーションタイトルを表示します。別のコンフィグレーションを選択すると、そのタイトルを表示します。
- ⑦ 「Recall」ボタン
選択コンフィグレーションを呼び出します。選択コンフィグレーションのメモリーにデータがないと、このボタンはありません。

はじめに

操作の前に

各部の名称と機能

DME Managerの概要

コンフィグレーションの構築

Runモード

ソフトウェア「DME Manager」のその他の機能

コンポーネントガイド 第1部

コンポーネントガイド 第2部

フロントパネルの操作

GPIインターフェース

PCカード

ワードクロック

複数台のDME32システム

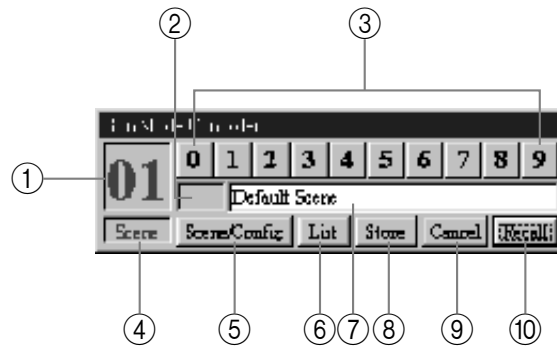
MIDI

I/Oオプション

付録

シーンコントロール

シーンを選択すると、次の「Run Mode Controller」画面が表示されます。

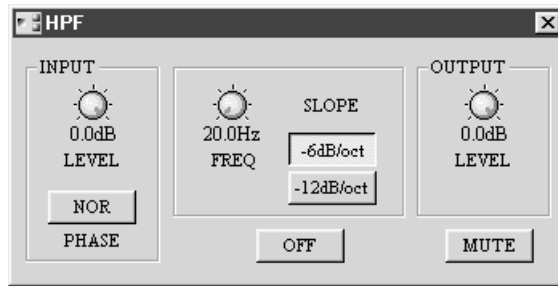


- ① シーン番号
現在のシーン番号です。別のシーンを選択すると、そのシーンが呼び出されるか、保存あるいはキャンセルされるまで番号が点滅します。
- ② EDITインジケータ
現在のシーン(たとえば現在のコンポーネントパラメータ設定)が最終呼び出しシーンと一致しているかどうかを表示します。シーンを呼び出すとこのインジケータはなくなります。パラメータが変更されている場合は「EDIT」と表示され、シーンを最後に呼び出してから変更したことを示します。シーンを保存するとEDITインジケータは消えます。これはDME32のディスプレイのシーン編集ドットインジケータと同じです。詳細は18ページ「フロントパネル」をご参照ください。
- ③ セレクターボタン
シーン選択ボタンでフロントパネルのテンキーと同じです。
- ④ Scene/Configインジケータ
コンフィグレーションコントロール、シーンコントロールのいずれを選択しているのかを表します。
- ⑤ [Scene/Config]ボタン
コンフィグレーションコントロールとシーンコントロールを切り替えるボタンです。
- ⑥ [List]ボタン
「Scene List」画面を開くボタンです。
- ⑦ シーンタイトル
現在のシーンタイトルを表示します。タイトルは[Store]ボタンをクリックする前にここで入力して付けてます。
- ⑧ [Store]ボタン
選択シーンを保存します。
- ⑨ [Cancel]ボタン
セレクターボタンで行った選択をキャンセルします。
- ⑩ [Recall]ボタン
選択シーンを呼び出します。選択シーンメモリーにデータがないと、このボタンはありません。

コンポーネントパラメーターの変更

RunモードではDME32本体のフロントパネル(199ページ参照)でもDME Manager上でもコンポーネントパラメーターを変更できます。どちらの場合も変更内容はDME32本体あるいはDME Managerに反映されます。以下はDME Managerからコンポーネントパラメーターを変更する手順です。

- 1 Runモードを選択します。
詳細は68ページ「Runモードの選択」をご参照ください。
「Run Mode Controller」画面が表示されます。
- 2 変更したいパラメーターのコンポーネントをダブルクリックします。
コンポーネントのコントロール画面が開きます。
コントロール画面の一例です。



- 3 パラメーターを変更します。
回転ノブ、スライダ、ボタンなどのコントロール画面内のコントロール類については33ページ「コンポーネントのコントロール画面」をご参照ください。
コントロール画面でのパラメーター変更はDME32に反映されます。
一度に1つのパラメーターが表示されます。DME32上で現在選択しているパラメーターがDME Manager上で変更しているパラメーターと同じであれば、画面で値の変更が確認できます。またDME32のフロントパネルからパラメーター値を変更すると、コントロール画面でも値が変更されます。
DME32のフロントパネルからのパラメーター選択、変更については203ページ「パラメーター編集と[USER DEFINE]キー」をご参照ください。
パラメーターを変更すると「Run Mode Controller」画面にEDITインジケータが表示され、DME32本体のディスプレイにはシーン編集ドットインジケータが点灯します。詳細は70ページ「シーンコントロール」をご参照ください。
- 4 変更終了後コントロール画面を閉じます。
変更内容をシーンメモリーに保存する手順は72ページ「シーンの保存」をご参照ください。

はじめに

操作の前に

各部の名称と機能

DME Managerの概要

コンフィグレーションの構築

Runモード

ソフトウェア「DME Manager」のその他の機能

コンポーネントガイド 第1部

コンポーネントガイド 第2部

フロントパネルの操作

GPIインターフェース

PCカード

ワードクロック

複数台のDME32システム

MIDI

I/Oオプション

付録

シーンの保存

Runモードではフロントパネル(201ページ参照)でもDME Manager上でもシーンを保存できます。どちらの場合も保存はDME32自体あるいはDME Managerに反映されません。以下はDME Manager上でシーンを保存する手順です。

注意: シーン保存時、保存不要な設定がそのシーンに入っていないことを確認してください。誤って設定を変更してしまったり他人が勝手に変更していることがあります。不確かな場合は最終シーンを呼び出し、必要な調整を行ってから保存してください。現在のシーンは後で必要な場合に備えて未使用のメモリーに保存するといいでしょう。

シーンは「Run Mode Controller」画面または「Scene List」画面で保存します。「List (リスト)」ではシーンの選択ができます。以下がそれぞれの手順です。

全ての新しいコンフィグレーションはシーンメモリー01のDefault Sceneで作成されます。このシーンはコンポーネントパラメーターの初期値を持っていますが、他のシーンと同じで変更、タイトル付け、保存、呼び出しができます。削除はできません。

複数台のDME32システムでは選択シーンはカスケード接続によりすべてのユニットに保存されます。

「Run Mode Controller」画面でのシーンの保存

- 1 Runモードを選択します。
詳細は68ページ「Runモードの選択」をご参照ください。
「Run Mode Controller」画面が表示されます。詳細は69ページ「Run Mode Controller」をご参照ください。
- 2 [Scene/Config] ボタンをクリックしてシーンコントロールを選択します。



- 3 セレクターボタンでシーンメモリーを選択します。
「Run Mode Controller」画面に選択したシーン番号が点滅しタイトルが表示されます。シーンメモリーにデータがないと「NO DATA!」と表示されます。
- 4 シーンタイトルを入力します。
タイトル欄に24文字まで入力できますが、ディスプレイに表示されるのは最初の16文字(半角アルファベット、数字のみ)です。
- 5 選択内容をキャンセルするには [Cancel] をクリックします。
「Run Mode Controller」画面に現在のシーン番号とタイトル(最終呼び出しシーン)が表示されます。

6 [Store]をクリックし選択シーンを保存します。

選択シーンがDME32に保存され、番号とタイトルがDME32本体ディスプレイ上に表示されます。「Run Mode Controller」画面で点滅していた保存シーンの番号が点灯に切り替わり、保存シーンが現在のシーンとなります。シーン番号とタイトルが「Configuration」画面のタイトルバーに表示されます。

DME32本体のメモリーが不足しているときは保存できないことがあります。

「Scene List」画面でのシーンの保存

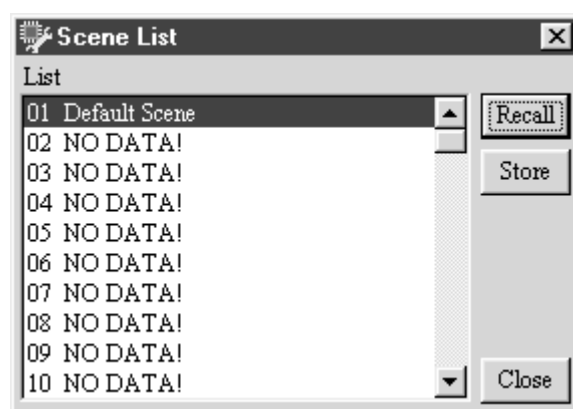
1 Runモードを選択します。

詳細は68ページ「Runモードの選択」をご参照ください。

「Run Mode Controller」画面が表示されます。

2 [List]をクリックします。

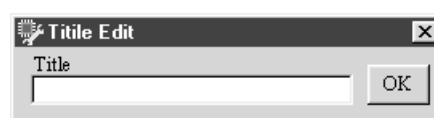
「Scene List」画面が表示されます。



3 [List]からシーンメモリーを選択します。

4 [Store]をクリックします。

「Title Edit(タイトル編集)」画面が表示されます。



5 シーンタイトルを入力します。

タイトル欄に24文字まで入力できますが、DME32本体のディスプレイに表示されるのは最初の16文字(半角アルファベット、数字のみ)です。

6 [OK]をクリックします。

「Title Edit」画面が閉じ選択シーンがDME32に保存されます。シーン番号とタイトルはディスプレイ、「Run Mode Controller」画面、「Scene List」画面に表示されます。保存シーンが現在のシーンとなり、シーン番号とタイトルが「Configuration」画面のタイトルバーに表示されます。

はじめに

操作の前に

各部の名称と機能

DME Managerの概要

コンフィグレーションの構築

Runモード

ソフトウェア「DME Manager」のその他の機能

コンポーネントガイド 第1部

コンポーネントガイド 第2部

フロントパネルの操作

GPIインターフェース

PCカード

ワードクロック

複数台のDME32システム

MIDI

I/Oオプション

付録

シーンの呼び出し

RunモードではDME32本体(202ページ参照)でもDME Manager上でもシーンを呼び出せます。どちらの場合も呼び出しはDME32本体あるいはDME Managerに反映されません。以下はDME Manager上でシーンを呼び出す手順です。

注意: シーン呼び出し時、パラメーター変更によって音量が急激に変化することがありますので、突然大きな音を出したりスピーカーを損傷したりしないよう十分ご注意ください。

シーンは「Run Mode Controller」画面または「Scene List」画面で呼び出します。「List (リスト)」ではシーン選択ができません。以下がそれぞれの手順です。

複数台のDME32システムでは選択シーンはカスケード接続によりすべてのユニットで呼び出されます。

「Run Mode Controller」画面でのシーンの呼び出し

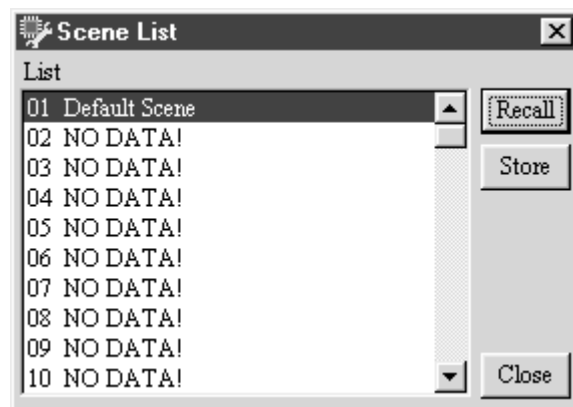
- 1 Runモードを選択します。
詳細は68ページ「Runモードの選択」をご参照ください。
「Run Mode Controller」画面が表示されます。詳細は69ページ「Run Mode Controller」をご参照ください。
- 2 [Scene/Config] ボタンをクリックしてシーンコントロールを選択します。



- 3 セレクターボタンでシーンメモリーを選択します。
「Run Mode Controller」画面に選択したシーン番号が点滅しタイトルが表示されます。メモリーにデータのあるシーンのみを呼び出せます。空のシーンメモリーを選択すると [Recall] ボタンは使えません。
- 4 選択内容をキャンセルするには [Cancel] をクリックします。
「Run Mode Controller」画面に現在のシーン番号とタイトル (たとえば最終呼び出しシーン) が表示されます。
- 5 [Recall] をクリックし選択シーンを呼び出します。
選択シーンがDME32に呼び出されコンポーネントパラメーターが設定されます。シーン番号とタイトルがディスプレイに表示されます。「Run Mode Controller」画面で呼び出したシーン番号が点滅から点灯に変わります。
呼び出したシーンが現在のシーンとなりシーン番号とタイトルが「Configuration」画面のタイトルバーに表示されます。DME Managerにシーンデータがない場合は、DME32本体から自動的にデータが取り込まれます。

「Scene List」画面でのシーンの呼び出し

- 1 Runモードを選択します。
詳細は68ページ「Runモードの選択」をご参照ください。
「Run Mode Controller」画面が表示されます。
- 2 [List]をクリックします。
「Scene List」画面が表示されます。
- 3 「Scene」画面が表示されていない場合は「Scene」タブをクリックします。



- 4 「List」からシーンメモリーを選択します。
- 5 [Recall]をクリックします。
選択シーンがDME32に呼び出されコンポーネントパラメーターが設定されます。シーン番号とタイトルがディスプレイと「Run Mode Controller」画面に表示されます。
呼び出したシーンが現在のシーンとなりシーンの番号とタイトルが「Configuration」画面のタイトルバーに表示されます。DME Managerにシーンデータがない場合は、DME32本体から自動的にデータが取り込まれます。

はじめに

操作の前に

各部の名称と機能

DME Managerの概要

コンフィグレーションの構築

Runモード

ソフトウェア「DME Manager」のその他の機能

コンポーネントガイド 第1部

コンポーネントガイド 第2部

フロントパネルの操作

GPIインターフェース

PCカード

ワードクロック

複数台のDME32システム

MIDI

I/Oオプション

付録

コンフィグレーションの呼び出し

RunモードではDME32本体のフロントパネル(200ページ参照)でもDME Manager上でもコンフィグレーションを呼び出せます。どちらの場合も呼び出しはDME32本体あるいはDME Managerに反映されます。以下はDME Manager上でコンフィグレーションを呼び出す手順です。

注意: コンフィグレーション呼び出し時、パラメーター変更によって音量が急激に変化することがありますので、突然大きな音を出したりスピーカーを損傷したりしないよう十分ご注意ください。

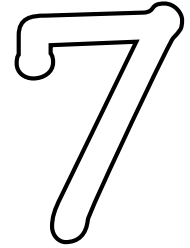
複数台のDME32システムでは選択コンフィグレーションはカスケード接続によりすべてのユニットで呼び出されます。

- 1 Runモードを選択します。
詳細は68ページ「Runモードの選択」をご参照ください。
「Run Mode Controller」画面が表示されます。詳細は69ページ「Run Mode Controller」をご参照ください。
- 2 [Scene/Config] ボタンをクリックしてコンフィグレーションを選択します。



- 3 セレクターボタンでコンフィグレーションメモリーを選択します。
「Run Mode Controller」画面に選択したコンフィグレーション番号が点滅しタイトルが表示されます。メモリーにデータのあるコンフィグレーションのみを呼び出せます。空のコンフィグレーションメモリーを選択すると[Recall] ボタンは使えません。
- 4 [Recall] をクリックし選択コンフィグレーションを呼び出します。
選択コンフィグレーションがDME32に呼び出され、そのコンフィグレーションのシーン1が呼び出されます。またコンポーネントパラメーターが設定されます。コンフィグレーションとシーンタイトルがディスプレイに表示されます。「Run Mode Controller」画面で呼び出したコンフィグレーション番号が点滅から点灯に変わります。
該当する「Configuration」画面が開いていればそれが現在の画面となり、呼び出したコンフィグレーション番号とタイトルがタイトルバーに表示されます。該当「Configuration」画面が開いていないと、「Receive data from DME32? (DME32からデータを受信?)」と表示されます。[OK] をクリックしてDME32本体からコンフィグレーションデータを取り込みます。

ソフトウェア「DME Manager」の その他の機能



本章の目次

シーンのオフライン編集	78
コンポーネントパラメーターのリンク	80
コンポーネントプロパティのカスタム化	82
回転ノブとフェーダーのサイズ変更	84
パスワードによるプロテクト	85
[USER DEFINE]キーの設定	88
プリント	89

はじめに

操作の前に

各部の名称
と機能DME
Manager
の概要コンフィグ
レーション
の構築

Runモード

ソフトウェア
"DME Manager"
のその他の機能コンポーネント
ガイド 第1部コンポーネント
ガイド 第2部フロント
パネルの
操作GPI
インター
フェース

PCカード

ワード
クロック複数台の
DME32
システム

MIDI

I/O
オプション

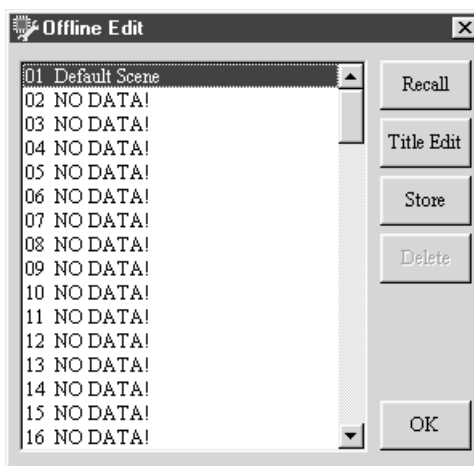
付録

シーンのオフライン編集

DME32本体とPCを切り離れたオフライン状態でシーンを編集や確認ができます。

新しいコンフィグレーションはDefault Scene(デフォルトシーン)としてシーンメモリー01に作成されます。このシーンにはコンポーネントパラメーターの初期設定値が入っていますが、他のシーンと同様に値の編集やタイトルの変更、設定の保存、呼び出しができます。ただし削除はできません。

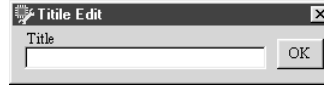
- 1 「File」メニューから[Offline Edit]を選択します。
Runモードでは「Offline Edit」コマンドは使用できません。
「Offline Edit」画面が開きます。



現在のコンフィグレーションにあるすべてのシーンが表示されます。

- 2 編集したいシーンをリストから選択します。
- 3 [Recall]をクリックします。
選択シーンが呼び出され、コンポーネントパラメーターもそれに応じて設定されます。呼び出したシーンが現在のシーンとなりコンフィグレーション画面のタイトルバーにそのシーン番号とタイトルが表示されます。
シーンは接続するDME32本体上には呼び出せません。
- 4 必要に応じてコンポーネントパラメーターを編集します。
- 5 [Store]をクリックして編集内容を現在のシーンメモリーに保存します。
編集内容を別のシーンメモリーに保存するには、リストから任意のメモリーを選択し [Store]をクリックします。
シーンが保存されます。
シーンは接続するDME32本体には保存されません。

- 6 シーンのタイトルを変更するにはリストから任意のシーンを選択し[Title Edit]をクリックします。
またはリスト内の任意のシーンをダブルクリックします。
「Title Edit」画面が開きます。



データのあるシーンのみタイトルが付けられます。

- 7 タイトルを入力し[OK]をクリックします。
24文字までのタイトルが付けられますがディスプレイに表示されるのは、最初の16文字(半角アルファベット、数字のみ)です。
「Title Edit」画面が閉じ新しいタイトルがシーンリストに表示されます。
- 8 シーンを削除するにはリストから任意のシーンを選択し[Delete]をクリックします。
シーンが削除されシーンメモリのタイトルが「NO DATA!」に変わります。
データの入っているシーンだけが削除できます。
- 9 編集が終わったら[OK]をクリックします。
「Offline Edit」画面が閉じます。
- 10 シーン編集の保存は通常のコfiguration保存操作と同様です。
シーンの編集内容を有効にするためにはコfigurationをDME32に送信してください。詳細は46ページ「コfigurationの構築と編集」をご参照ください。

はじめに

操作の前に

各部の名称と機能

DME Managerの概要

コfigurationレーションの構築

Runモード

ソフトウェア「DME Manager」のその他の機能

コfigurationガイド 第1部

コfigurationガイド 第2部

フロントパネルの操作

GPIインターフェース

PCカード

ワードクロック

複数台のDME32システム

MIDI

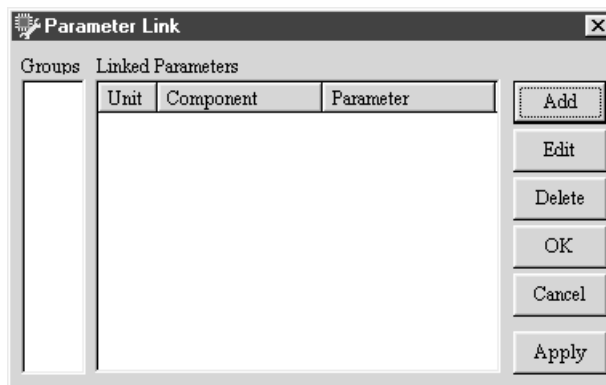
I/Oオプション

付録

コンポーネントパラメーターのリンク

コンポーネントパラメーターをグループにリンクできます。グループ内のパラメーターを調整すると同じグループの他のパラメーターも同様に調整されます。パラメーターのリンクによって各信号をまとめてコントロールしたり、複数のスピーカーシステムでのクロスオーバー周波数やフェーダーグループ、ステレオ信号などを同時コントロールできます。複数台のDME32システムでは各DME32間でコンポーネントパラメーターをリンクさせることも可能です。異なるパラメーターリンクをそれぞれのシーンに保存できます。

- 1 「Component」メニューから[Parameter Link]を選択します。
「Parameter Link」画面が開きます。

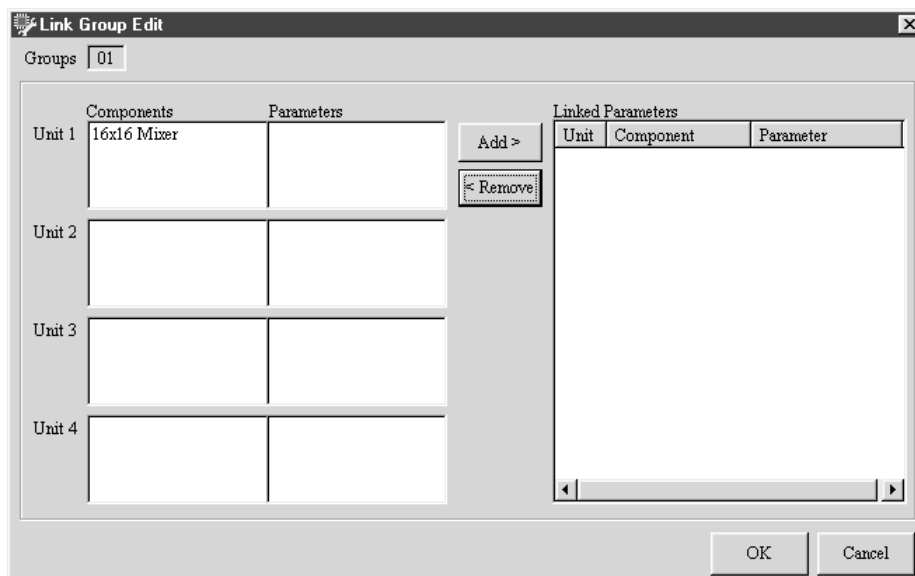


「Groups」の欄には既存のグループが表示されます。また「Linked Parameters」の欄にはそのグループに属するユニットとコンポーネントをはじめ、すべてのパラメーターが表示されます。

- 2 新しいグループを作成するには[Add]をクリックします。
最高32グループまで作成できます。

既存のグループを編集するには「Groups」欄からグループを選択し[Edit]をクリックします。グループの削除は「Groups」欄からグループを選択し[Delete]をクリックします。

「Link Group Edit」画面が開きます。



選択グループの番号が画面左上隅に表示されます。「Components」の欄にはコンフィグレーション画面の各セクションにあるすべてのコンポーネント(各DME32のコンポーネント)が、また「Parameters」の欄にはそのコンポーネントで使用できるパラメーターが表示されます。

- 3 「Components」欄からコンポーネントを選択します。
選択コンポーネントのパラメーターが「Parameters」欄に表示されます。
Router(ルーター)コンポーネントはリンクできません。
- 4 パラメーターを選択します。
- 5 [Add]をクリックして選択パラメーターをグループに追加します。
「Linked Parameters」欄にパラメーターが表示されます。
各グループに16個のパラメーターをリンク設定できます。
- 6 リンクパラメーターを削除するには「Linked parameters」欄から選択し [Remove]をクリックします。
- 7 必要に応じて設定を変更し [OK]をクリックして保存します。
変更しない場合は [Cancel]をクリックし操作を終了します。
「Link Group Edit」画面が閉じます(「Parameter Link」画面は開いたままになっています。)
- 8 グループの編集が終わり [Apply]をクリックすれば設定を保存し「Parameter Link」画面を開けたままになります。また [OK]をクリックすれば設定を保存し「Parameter Link」画面を閉じます。
変更せず保存する場合は [Cancel]をクリックします。
「Parameter Link」画面が閉じます。
オフライン作業では [OK] ボタンの代わりに [Apply] ボタンを使うと「Parameter Link」画面を開閉しないで各シーンのパラメーターリンク設定の編集やチェックができるので便利です。
パラメーターリンクを有効にするためにはコンフィグレーションをDME32に送信してください。詳細は46ページ「コンフィグレーションの構築と編集」をご参照ください。

はじめに

操作の前に

各部の名称と機能

DME Managerの概要

コンフィグレーションの構築

Runモード

ソフトウェア「DME Manager」のその他の機能

コンポーネントガイド 第1部

コンポーネントガイド 第2部

フロントパネルの操作

GPIインターフェース

PCカード

ワードクロック

複数台のDME32システム

MIDI

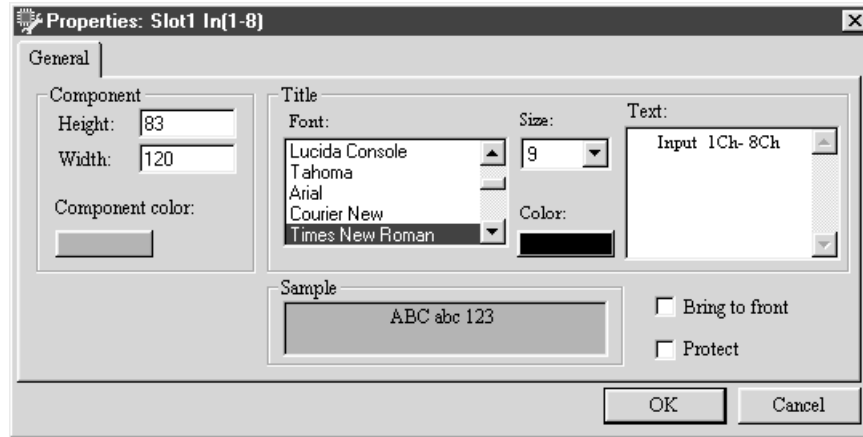
I/Oオプション

付録

コンポーネントプロパティのカスタム化

「Properties」画面でコンポーネントの外観をカスタム化します。

- 1 プロパティをカスタム化したいコンポーネントを選択します。
 - 2 「Edit」メニューから[Properties]を選択します。
ショートカットメニューからも選択できます。
- 「Properties」画面が表示されます。



「Properties」画面のタイトルバーに選択コンポーネントのタイトルが表示されます。

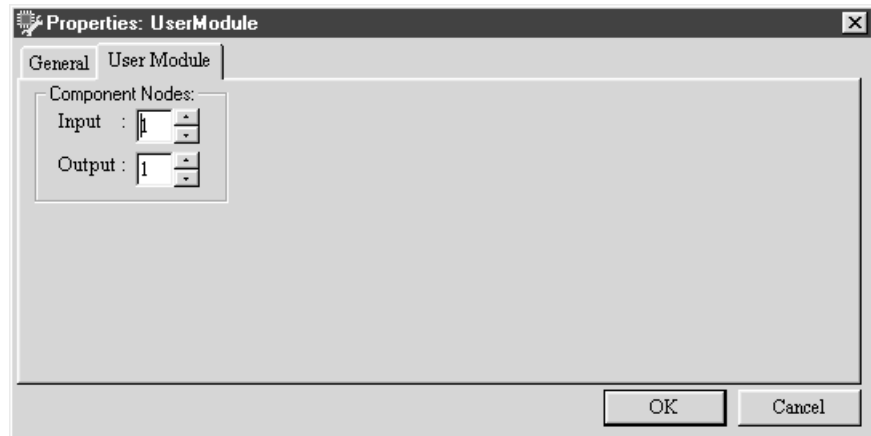
Propertiesパラメーター

セクション	パラメーター	機能
Component	Height	コンポーネントの高さを設定します。
	Width	コンポーネントの幅を設定します。
Component color		コンポーネントの色を設定します。
Title	Font	コンポーネントのタイトルの文字を選択します。
	Size	コンポーネントのタイトルの文字サイズを選択します。
	Color	コンポーネントのタイトルの色を選択します。
	Text	コンポーネントのタイトルを設定します。
Sample		選択文字の種類、サイズ、色、コンポーネントの色を使ったコンポーネントとタイトルを表示します。
Protect		コンポーネントのプロテクトがオンのときパラメーターを編集できません。 (85ページ参照)
Bring to front		コンポーネントを手前に表示します。

- 3 必要な設定を行って [OK] をクリックし設定を保存します。
 変更せずに操作を終了する場合は [Cancel] をクリックします。

「Properties」画面が閉じプロパティの設定に従ったコンポーネントが表示されます。

「Properties」コマンドを選ぶ前に選択したコンポーネントがユーザーモジュールであれば以下のように「General」タブに加え「User Module」タブが表示されます。



User Moduleパラメーター

セクション	パラメーター	設定範囲	機能
Component Nodes	Input	0 ~ 16	インプットノードの数を設定します。
	Output	0 ~ 16	アウトプットノードの数を設定します。

はじめに

操作の前に

各部の名称と機能

DME Managerの概要

コンフィグレーションの構築

Runモード

ソフトウェア "DME Manager" のその他の機能

コンポーネントガイド 第1部

コンポーネントガイド 第2部

フロントパネルの操作

GPI インターフェース

PCカード

ワードクロック

複数台の DME32 システム

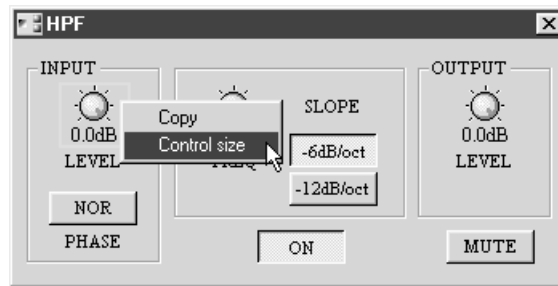
MIDI

I/O オプション

付録

回転ノブとフェーダーのサイズ変更

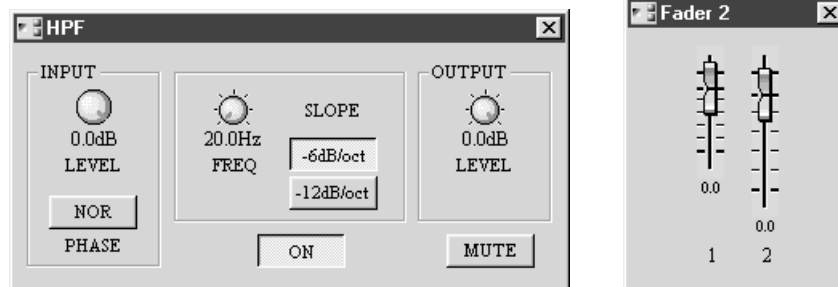
- 1 通常の操作でコントロール画面を開きます。
コントロール画面が開きます。
- 2 回転ノブまたはフェーダーを選択します。
選択したコントロールがハイライト表示されます。
- 3 シフトキーを押したまま該当コントロールを右クリックします。
次のポップアップメニューが開きます。



- 4 「Control Size」を選択します。
「Control Size」画面が開きます。



- 5 サイズを選択し「OK」をクリックして保存します。
変更せずに操作を終了する場合は「Cancel」をクリックします。
「Properties」画面が閉じ該当コントロールが選択したサイズで表示されます。
以下はサイズの異なる各回転ノブとフェーダーの例です。



パスワードによるプロテクト

プロテクト機能はDME ManagerでDME32をコントロールする際、主にRunモードで使用します。この機能によってコンポーネントパラメーターの編集を制限したり操作を禁止したりします。プロテクト機能にはOFF(完全アクセス)、Component(制限付きアクセス)、Operation(アクセス禁止)の3種類があります。

注意: このプロテクト機能はDME32本体フロントパネルのプロテクト機能とは関係ありません。

パスワードをOffモード、Componentモードの各プロテクトモードに割り当て他人が勝手にモードを変更できないようにします。Operationモード自体にはパスワードはありませんが、OperationモードをOffモードまたはComponentモードに切り替えるにはそれぞれモードのパスワードが必要です。パスワードは16文字(半角アルファベット、数字のみ)まで使用できます。

現在のプロテクト設定はステータスバーに表示されます。詳細は27ページ「ステータスバー」をご参照ください。

以下は各プロテクトモードの詳細です。

Off このモードでは全機能への完全なアクセスができ、すべての機能を通常通り使うことができます。Offモードのパスワードを設定すると、ComponentモードまたはOperationモードからOffモードに切り替えるときにパスワードを入力する必要があります。

Component このモードではコンポーネントへのアクセスが多少制限されます。プロテクトをオンにしたコンポーネント(82ページ参照)は編集できません。プロテクトオフのコンポーネントは編集、保存、呼び出しができます。Componentモードのパスワードを設定するとOffモードまたはOperationモードからComponentモードに切り替えるときにパスワードを入力する必要があります。

Operation このモードではアクセスがまったくできないのでコンポーネントパラメーターの編集、シーンの保存と呼び出し、コンフィグレーションの呼び出しができません。ComponentモードまたはOffモードのパスワードを設定するとOperationモードからComponentモードまたはOffモードに切り替えるときに正しいパスワードを入力する必要があります。

はじめに

操作の前に

各部の名称と機能

DME Managerの概要

コンフィグレーションの構築

Runモード

ソフトウェア "DME Manager" のその他の機能

コンポーネントガイド 第1部

コンポーネントガイド 第2部

フロントパネルの操作

GPI インターフェース

PCカード

ワードクロック

複数台のDME32システム

MIDI

I/O オプション

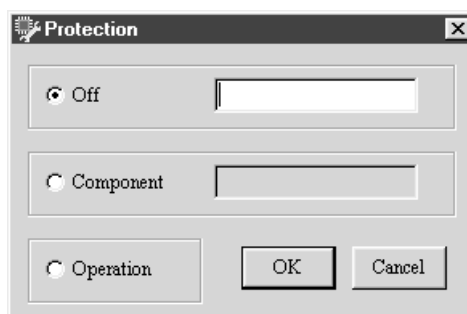
付録

下表はOperationモードとComponentモードのプロテクトの内容です。

	Operationモード	Componentモード
はじめに		
操作の前に	×	×
各部の名称と機能	×	×
DME Managerの概要	×	×
コンフィグレーションの構築	×	×
Runモード	×	×
ソフトウェア「DME Manager」のその他の機能	×	×

パスワードの設定

- 1 「Tool」メニューから[Protection]を選択します。
「Protection」画面が開きます。



パスワードがすでに設定されていると、その文字の代わりに“***”が表示されます。

- 2 「Off」モードのパスワードを入力します。
- 3 [OK] をクリックしてパスワードを保存するか、[Cancel] をクリックしてキャンセルします。
[OK] をクリックするとパスワードを入力する画面が表示されます。
- 4 「Off」モードのパスワードをもう一度入力して確定し [OK] をクリックします。
正しいパスワードを入力するとパスワードが確定し「Protection」画面が閉じます。誤ったパスワードを入力するとエラーメッセージが表示されます。もう一度正しいパスワードを入力するか、操作を中止してください。

- 5 「Tool」メニューから[Protection]をもう一度選択します。
「Protection」画面が開きます。
- 6 「Component」を選択し[OK]をクリックします。
「Protection」画面が閉じます。
- 7 「Tool」メニューから[Protection]をもう一度選択します。
「Protection」画面が開きます。
- 8 今度は「Component」モードのパスワードを入力します。
- 9 [OK]をクリックしてパスワードを保存するか、[Cancel]をクリックして操作を中止します。
[OK]をクリックするとパスワードを入力する画面が表示されます。
- 10 「Component」モードのパスワードをもう一度入力して確定し[OK]をクリックします。
正しいパスワードを入力するとComponentパスワードが確定し「Protection」画面が閉じます。誤ったパスワードを入力するとエラーメッセージが表示されます。もう一度正しいパスワードを入力するか、操作を中止してください。
これでパスワードが設定されました。

パスワードの変更

OffモードやComponentモードのパスワードを変更するには、まずOffモードまたはComponentモードを選択します。「Protection」画面で新しいパスワードを入力し[OK]をクリックします。古いパスワードと新しいパスワードを入力する画面が表示されるので、これを正しく入力すれば新しいパスワードが設定され「Protection」画面が閉じます。

パスワードの削除

OffモードやComponentモードのパスワードを削除するには、まずOffモードまたはComponentモードを選択します。「Protection」画面でパスワードをハイライト表示させ[Delete]キーを押して削除し、[OK]をクリックします。古いパスワードを入力する画面が表示されるので、これを正しく入力すればパスワードが削除され「Protection」画面が閉じます。

パスワードを忘れた場合

パスワードを忘れてしまった場合は“ OVERRIDE ”と入力します。プロテクト機能は解除されず。

はじめに

操作の前に

各部の名称
と機能DME
Manager
の概要コンフィグ
レーション
の構築

Runモード

ソフトウェア
"DME Manager"
のその他の機能コンポーネント
ガイド 第1部コンポーネント
ガイド 第2部フロント
パネルの
操作GPI
インター
フェース

PCカード

ワード
クロック複数台の
DME32
システム

MIDI

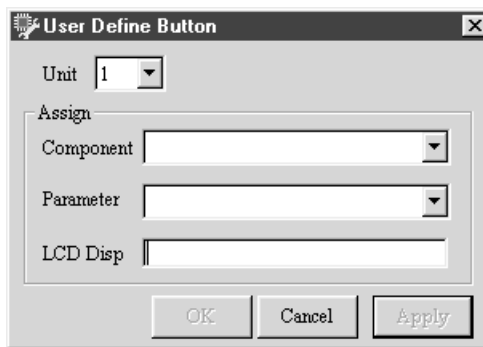
I/O
オプション

付録

[USER DEFINE] 枠ーの設定

フロントパネルの[USER DEFINE] 枠ーを使って特定のパラメーターに直接アクセスできます。異なるUSER DEFINE設定が各シーンに保存できます。

- 1 「Tool」メニューから[User Define] ボタンを選択します。
「User Define Button」画面が開きます。



User Define Buttonパラメーター

セクション	パラメーター	設定範囲	機能
UNIT		1 ~ 4	設定する[USER DEFINE] 枠ーのあるDME32を選択します。
Assign	Component	†1	割り当てるパラメーターのコンポーネントを選択します。
	Parameter	†2	割り当てるパラメーターを選択します。
	LCD Disp	15文字まで	[USER DEFINE] 枠ーを押したときにDME32に表示されるテキスト。

†1. 現在のコンフィグレーション内のコンポーネントを選択可能。

†2. 選択コンポーネントによって異なります。

- 2 必要な設定を行って[Apply] をクリックし「Offline Edit」画面でシーンに保存すれば、設定は保存され「User Define Button」画面は開いたままになります。
[OK] をクリックし「Offline Edit」画面でシーンに保存すれば、設定は保存され「User Define Button」画面は閉じます。

変更せずに操作を終了する場合は[Cancel] をクリックします。

オフライン作業では[OK] ボタンの代わりに[Apply] ボタンを使うと「User Define Button」画面を開閉しないで各シーンのパラメーターリンク設定の編集やチェックができるので便利です。

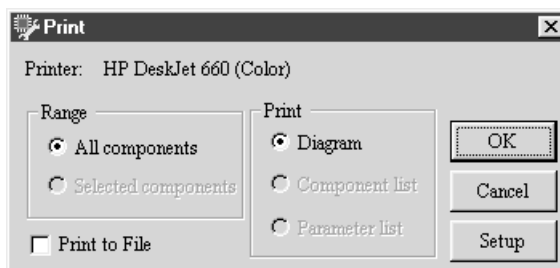
User Define Button設定を有効にするためにはコンフィグレーションをコンパイルしてDME32に転送してください。詳細は46ページ「コンフィグレーションの構築と編集」をご参照ください。

[USER DEFINE] 枠ーの使い方については203ページ「パラメーター編集と[USER DEFINE] 枠ー」をご参照ください。

プリント

プリント機能を使って、図やコンポーネントリスト、パラメータリストなど現在のコンフィグレーションについての情報をプリントできます。現在のコンフィグレーション内にあるすべてのコンポーネント情報をプリントすることも、選択したコンポーネントのみの情報をプリントすることもできます。

- 1 コンフィグレーション全体の情報をプリントするには、「Print」コマンドを選択する前にコンポーネントが何も選択されていないことを確認してください。
- 2 1つまたは複数のコンポーネントの情報をプリントするには「Print」コマンドを選択する前に任意のコンポーネントを選択してください。
Ctrl+Aでコンポーネントすべてを選択できます。
- 3 「File」メニューから[Print]を選択します。
「Print」画面が開きます。



プリンターの選択と設定は[Setup]をクリックします。標準のWindows「Printer Setup」画面が開きます。この画面は「File」メニューから[Printer Setup]を選んで開くことができます。プリンターを設定したら[OK]をクリックして設定を保存するか、[Cancel]をクリックして設定を変更せずに終了します。「Printer Setup」画面が閉じます。選択プリンターの名前が上図のように「Print」画面に表示されます。

- 4 必要に応じてPrintパラメーターを設定します。

セクション	パラメーター	機能
Range	All components	この選択肢は「Print」コマンドを選択したときに選んだ内容に従って設定され、ここでは変更できません。何も選択しないと「Range」は「All components」に設定され、現在のコンフィグレーション内のすべてのコンポーネントについての情報をプリントします。1つまたは複数のコンポーネントを選択すると「Selected components」に設定され、該当コンポーネントの情報だけをプリントします。
	Selected components	
Print	Diagram	コンフィグレーションの図(コンポーネントすべてまたは選択コンポーネントのみ)をプリントします。
	Component list	コンポーネントのリスト(選択コンポーネントのみ)をプリントします。
	Parameter list	パラメーターのリストとその設定(選択コンポーネントのみ)をプリントします。

- 5 プリンターの代わりにプリントファイルを作成したい場合は[Print to File]チェックボックスを選択します。

はじめに

操作の前に

各部の名称と機能

DME Managerの概要

コンフィグレーションの構築

Runモード

ソフトウェア「DME Manager」のその他の機能

コンポーネントガイド 第1部

コンポーネントガイド 第2部

フロントパネルの操作

GPIインターフェース

PCカード

ワードクロック

複数台のDME32システム

MIDI

I/Oオプション

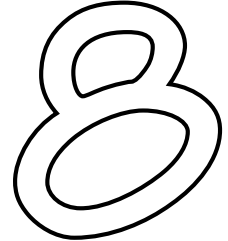
付録

6 [OK]をクリックしてプリントするか、[Cancel]をクリックしてプリントを中止します。

プリントが開始します。[Print to File]を選択すると「Save As」画面が開きます。プリントファイルを保存したいファイル名とフォルダを指定し[はい]をクリックするか、[キャンセル]をクリックしてプリントを中止します。

はじめに
操作の前に
各部の名称と機能
DME Managerの概要
コンフィグレーションの構築
Runモード
ソフトウェア“DME Manager”のその他の機能
コンポーネントガイド 第1部
コンポーネントガイド 第2部
フロントパネルの操作
GPIインターフェース
PCカード
ワードクロック
複数台のDME32システム
MIDI
I/Oオプション
付録

コンポーネントガイド 第1部



本章の目次

Auto Mixer(オートミキサー).....	92
Cascade(カスケード).....	94
Crossover(クロスオーバー).....	95
Crossover Processor(クロスオーバープロセッサ).....	104
Delay(デイレイ).....	122
Delayed Mixer(デイレイドミキサー).....	124
Dynamics(ダイナミクス).....	127

はじめに

操作の前に

各部の名称
と機能

DME
Manager
の概要

コンフィグ
レーション
の構築

Runモード

ソフトウェア
"DME Manager"
のその他の機能

コンポーネント
ガイド 第1部

コンポーネント
ガイド 第2部

フロント
パネルの
操作

GPI
インター
フェース

PCカード

ワード
クロック

複数台の
DME32
システム

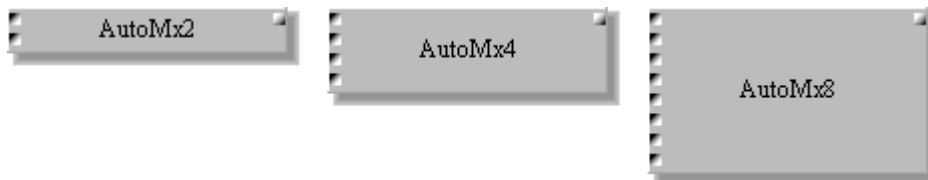
MIDI

I/O
オプション

付録

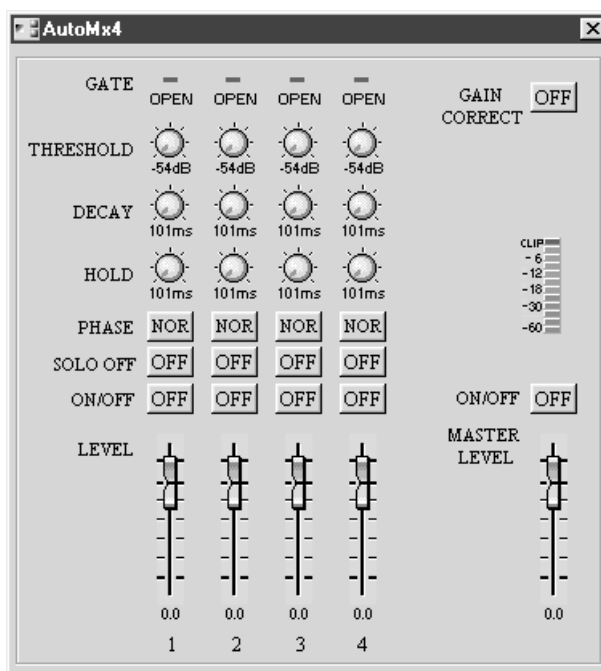
Auto Mixer(オートミキサー)

オートミキサーグループには3つのコンポーネントがあります。どれも出力は1つ、入力はそれぞれ2、4、8系統です。各入力チャンネルにはノイズゲートがあり指定スレッシュホールドを越えた入力信号のみが通過します。[GAIN CORRECT] (ゲイン補正) ボタンで開いているチャンネル数によって出力レベルを自動調整し、フィードバックを抑えます。



各オートミキサーコンポーネントは入力数が異なるだけで他はまったく同じですので、ここでは「4Ch Auto Mixer」画面だけをご紹介します。

各オートミキサーコントロール画面は、入力チャンネル、マスター出力セクションで構成されています。



チャンネルがソロされていると [SOLO OFF] は [SOLO ON] になります。

入力信号が指定スレッシュホールドを上回るとGATE OPENインジケータが点灯し、ゲートが開いていることを示します。メーターは出力信号レベルを表示します。

セクション	パラメーター	設定範囲	機能
GAIN CORRECT		ON/OFF	下記参照。 3
入力 チャンネル	THRESHOLD	- 54 dB ~ 0 dB	各ゲートのスレッシュホールドレベルを調整します。
	DECAY	†1	各ゲートを閉める速度を調整します。
	HOLD	†2	各ゲートのホールドタイムを調整します。
	PHASE	NOR/REV	入力チャンネル信号を反転します。
	SOLO	ON/OFF	入力チャンネルをソロにします。
	ON/OFF	ON/OFF	入力チャンネルをミュートします。
	LEVEL	mute ~ 10.0 dB	各チャンネルの入力レベルを調整します。
マスター	ON/OFF	ON/OFF	出力をミュートします。
	LEVEL	mute ~ 10.0 dB	出力レベルを調整します。

†1. 110ms ~ 46.0sec(fs = 44.1kHz) 101ms ~ 42.3sec(fs = 48kHz)

†2. 110ms ~ 2.13sec(fs = 44.1kHz) 101ms ~ 1.96sec(fs = 48kHz)

- 3 会議などで多数のマイクを使用するような場合、たくさんのチャンネルを同時に開くとフィードバックを起こす可能性があります。開いているチャンネル数に応じてGAIN CORRECTパラメーターが自動で出力レベルを抑えフィードバックを避けます。

はじめに

操作の前に

各部の名称
と機能DME
Manager
の概要コンフィグ
レーション
の構築

Runモード

ソフトウェア
"DME Manager"
のその他の機能コンポーネント
ガイド 第1部コンポーネント
ガイド 第2部フロント
パネルの
操作GPI
インター
フェース

PCカード

ワード
クロック複数台の
DME32
システム

MIDI

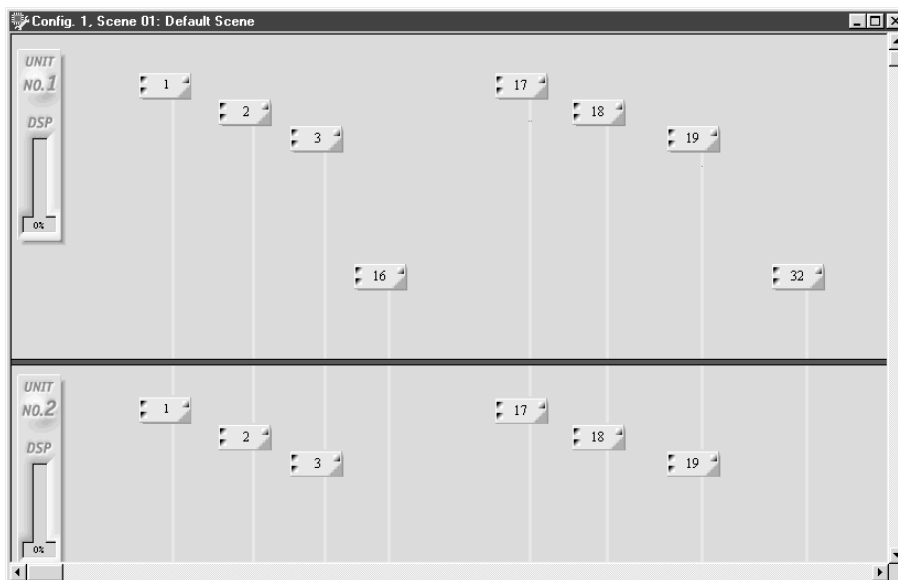
I/O
オプション

付録

Cascade(カスケード)

カスケードコンポーネントを使用して、複数台のDME32を使ったシステム内で信号を共有したり分配したりします。ミキサーの“バス”感覚で操作できます。カスケードグループには32種類のコンポーネントがあり、32のカスケードチャンネルが作れます。

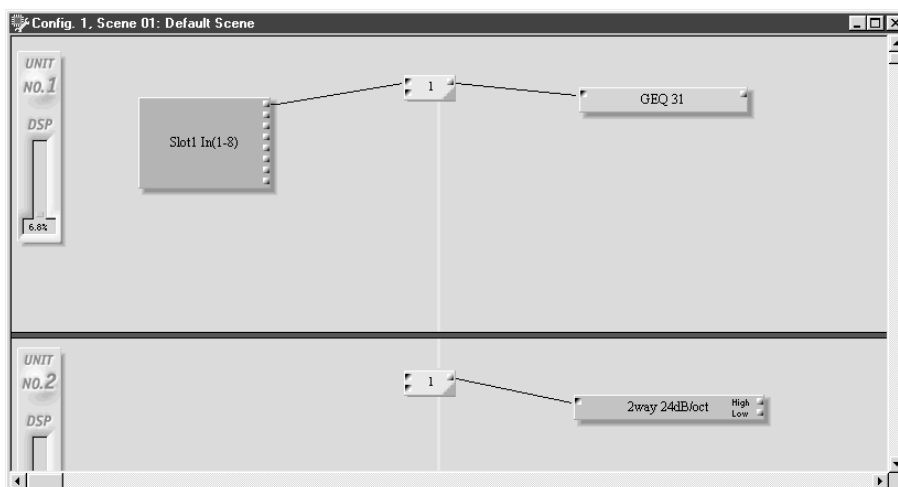
各カスケードコンポーネントはコンフィグレーション画面の4つのセクションを通る“バス”で接続され、各セクション内に2つの入力、1つの出力があります。



カスケードコンポーネントのコントロール画面はありません。

各DME32からの信号をカスケードコンポーネントの入力に接続し、カスケードチャンネルで分配して別のDME32に信号を入力します。

次の例ではカスケードチャンネル#1を使用してDME32 #1の入力信号#1を、DME32 #1内の31BAND GEQとDME32 #2の2Way 24dB/octに分配します。



Crossover(クロスオーバー)

クロスオーバーグループには、12種類のクロスオーバーがあります;スロープ(傾き)がそれぞれ12dB/oct、24dB/oct、36dB/oct、48dB/octの2 Way、3 Way、4 Wayクロスオーバーです。

クロスオーバーのフィルターにはButterworth、Bessel、Linkwitz-Rileyがあります。

Bessel:

位相特性を重視した特性で、減衰特性はButterworthより緩やかですが、方形波を通過させた場合に波形の乱れがありません。

Butterworth:

最も一般的な特性で、特に断わらないかぎり、フィルターというとButterworth特性を示します。通過域は平坦で、カットオフ周波数におけるゲインは - 3dBです。

Linkwitz-Riley:

フィルターの次数は2の累乗で、LPFとHPFの出力を電圧合成したとき、全帯域でゲインが0dBになるような特性です。Butterworthと同じように、通過域は平坦ですが、カットオフ周波数におけるゲインは - 6dBです。

Adjusting Gc:

Adjusting Gc付きのフィルターはGc(カットオフ周波数におけるゲイン)を調整できるフィルターです。Gc = - 3dBにするとButterworth filterになります。SLOP&TYPE に12dB/oct Adjusting Gc、24dB/oct Adjusting Gc、48dB/oct Adjusting Gcを選んで、Gc = - 6dB にするとLinkwitz-Riley filterになります。また、Gcを - 3dBより大きくするとカットオフ周波数付近がブーストされます。

はじめに

操作の前に

各部の名称と機能

DME Managerの概要

コンフィグレーションの構築

Runモード

ソフトウェア "DME Manager" のその他の機能

コンポーネントガイド 第1部

コンポーネントガイド 第2部

フロントパネルの操作

GPI インターフェース

PCカード

ワードクロック

複数台のDME32システム

MIDI

I/O オプション

付録

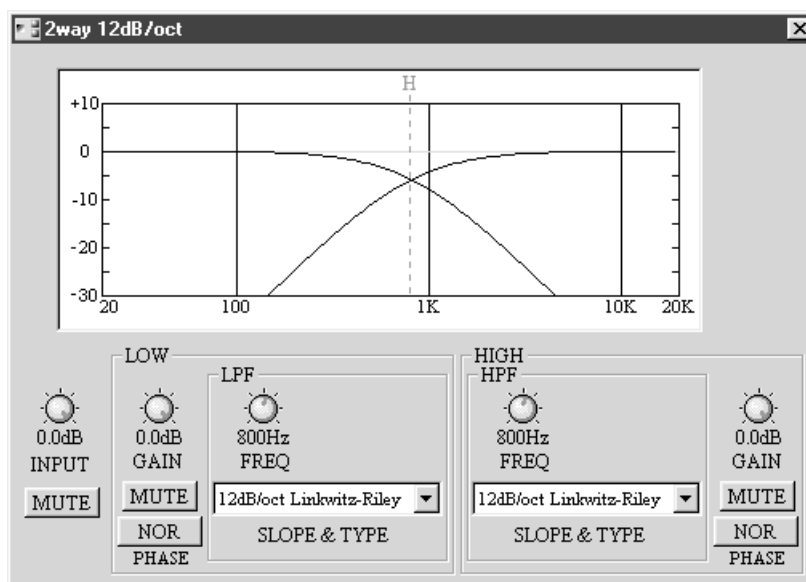
2-Way Crossover(2ウェイクロスオーバー)

2-Way Crossoverは入力信号を高、低、2つの周波数チャンネルに分けます。スロープは12dB/oct、24dB/oct、36dB/oct、48dB/octの4種類が使用できます。



各2-Way Crossoverコンポーネントは1つの入力と2つの出力(High、Low)があります。いずれの2-Way Crossoverもフィルターのスロープ以外は同じなので、ここでは「2 Way 12dB/oct」コントロール画面のみをご紹介します。

「2 Way 12dB/oct」コントロール画面には、クロスオーバーのグラフとINPUT、LOW、HIGHの各セクションがあります。



画面上部のクロスオーバーのグラフでは、クロスオーバー設定がグラフで表されません。縦の波線は各チャンネルのクロスオーバー周波数を示します。“L”は低、“H”は高です。

Adjustable GcタイプのSLOPE & TYPEフィルターを選んでいるときは、Gcコントロールが表示されます。(上の画面ではありません。)

セクション	パラメーター	設定範囲	機能	
INPUT	LEVEL	mute ~ 0.0dB	入力信号レベルを設定します。	
	MUTE	ON/OFF	入力をミュートします。	
LOW	GAIN	mute ~ 0.0dB	LOW出力信号レベルを設定します。	
	MUTE	ON/OFF	LOW出力をミュートします。	
	PHASE	NOR/REV	LOW出力信号を反転させます。	
	LPF	FREQ	20.0Hz ~ 20.0kHz	LOW LPFカットオフ周波数を設定します。
		Gc ^{†1}	- 6dB ~ + 6dB	カットオフ周波数でのLOW LPFのゲインを設定します。
SLOPE & TYPE		†2	LOW LPFのスロープとタイプを設定します。	
HIGH	GAIN	mute ~ 0.0dB	HIGH出力信号レベルを設定します。	
	MUTE	ON/OFF	HIGH出力をミュートします。	
	PHASE	NOR/REV	HIGH出力信号を反転させます。	
	HPF	FREQ	20.0Hz ~ 20.0kHz	HIGH HPFカットオフ周波数を設定します。
		Gc ^{†1}	- 6dB ~ + 6dB	カットオフ周波数でのHIGH HPFのゲインを設定します。
SLOPE & TYPE		†2	HIGH HPFのスロープとタイプを設定します。	

†1. Gc SLOPE/TYPEフィルターが選ばれているときはGcコントロールが表示されます。Butterworth、Bessel、Linkwitz-Rileyの各タイプではGc設定は無視され、Gcの値はButterworthおよびBesselは - 3dB、Linkwitz-Rileyは - 6dBに固定されます。

†2. 下記はSLOPE/TYPEパラメーター値です。

SLOPE & TYPE	Slope			
	12dB/oct	24dB/oct	36dB/oct	48dB/oct
THRU				
6dB/oct				
12dB/oct Adjustable Gc				
12dB/oct Butterworth				
12dB/oct Bessel				
12dB/oct Linkwitz-Riley				
18dB/oct Adjustable Gc				
18dB/oct Butterworth				
18dB/oct Bessel				
24dB/oct Adjustable Gc				
24dB/oct Butterworth				
24dB/oct Bessel				
24dB/oct Linkwitz-Riley				
36dB/oct Adjustable Gc				
36dB/oct Butterworth				
36dB/oct Bessel				
48dB/oct Adjustable Gc				
48dB/oct Butterworth				
48dB/oct Bessel				
48dB/oct Linkwitz-Riley				

はじめに

操作の前に

各部の名称と機能

DME Managerの概要

コンフィグレーションの構築

Runモード

ソフトウェア "DME Manager" のその他の機能

コンポーネントガイド 第1部

コンポーネントガイド 第2部

フロントパネルの操作

GPIインターフェース

PCカード

ワードクロック

複数台のDME32システム

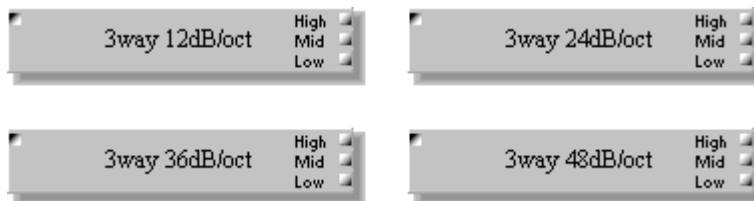
MIDI

I/Oオプション

付録

3-Way Crossover(3ウェイクロスオーバー)

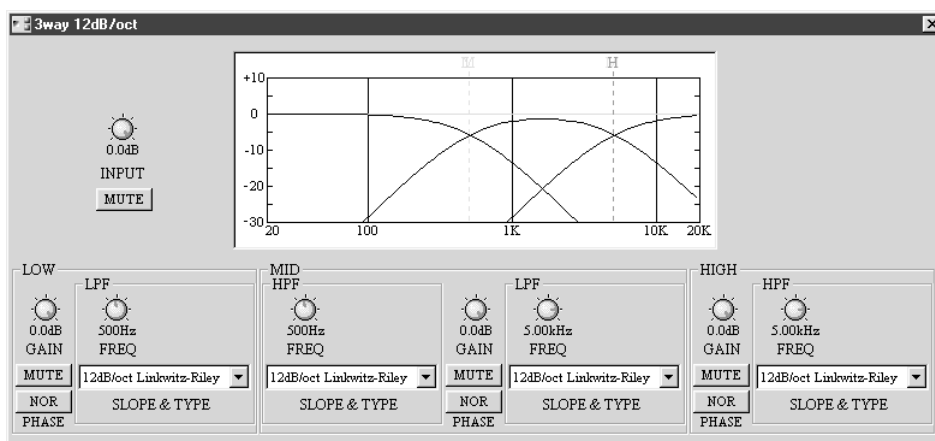
3-Way Crossoverは入力信号を高、中、低、3つの周波数チャンネルに分けます。スロープは12dB/oct、24dB/oct、36dB/oct、48dB/octの4種類が使用できます。



各3-Way Crossoverコンポーネントは1つの入力と3つ(High、Mid、Low)の出力があります。

いずれの3-Way Crossoverもフィルターのスロープ以外は同じなので、ここでは「3 Way 12dB/oct」コントロール画面のみをご紹介します。

「3 Way 12dB/oct」コントロール画面には、クロスオーバーのグラフとINPUT、LOW、MID、HIGHの各セクションがあります。



画面上部のクロスオーバーのグラフでは、クロスオーバー設定がグラフで表されます。縦の波線は各チャンネルのクロスオーバー周波数を示します。“L”は低、“M”は中、“H”は高です。

Adjustable GcタイプのSLOPE & TYPEフィルターを選んでいるときは、Gcコントロールが表示されます。(上の画面にはありません。)

セクション	パラメーター	設定範囲	機能	
INPUT	LEVEL	mute ~ 0.0dB	入力信号レベルを設定します。	
	MUTE	ON/OFF	入力をミュートします。	
LOW	GAIN	mute ~ 0.0dB	LOW出力信号レベルを設定します。	
	MUTE	ON/OFF	LOW出力をミュートします。	
	PHASE	NOR/REV	LOW出力信号を反転させます。	
	LPF	FREQ	20.0Hz ~ 20.0kHz	LOW LPFカットオフ周波数を設定します。
Gc ^{†1}		- 6dB ~ + 6dB	カットオフ周波数でのLOW LPFのゲインを設定します。	
	SLOPE & TYPE	†2	LOW LPFのフィルターとタイプを設定します。	
MID	HPF	FREQ	20.0Hz ~ 20.0kHz	MID HPFカットオフ周波数を設定します。
		Gc ^{†1}	- 6dB ~ + 6dB	カットオフ周波数でのMID HPFのゲインを設定します。
		SLOPE & TYPE	†2	MID HPFのフィルターとタイプを設定します。
	GAIN	mute ~ 0.0dB	MID出力信号レベルを設定します。	
	MUTE	ON/OFF	MID出力をミュートします。	
	PHASE	NOR/REV	MID出力信号を反転させます。	
	LPF	FREQ	20.0Hz ~ 20.0kHz	MID LPFカットオフ周波数を設定します。
		Gc ^{†1}	- 6dB ~ + 6dB	カットオフ周波数でのMID LPFのゲインを設定します。
		SLOPE & TYPE	†2	MID LPFのフィルターとタイプを設定します。
HIGH	GAIN	mute ~ 0.0dB	HIGH出力信号レベルを設定します。	
	MUTE	ON/OFF	HIGH出力をミュートします。	
	PHASE	NOR/REV	HIGH出力信号を反転させます。	
	HPF	FREQ	20.0Hz ~ 20.0kHz	HIGH HPFカットオフ周波数を設定します。
		Gc ^{†1}	- 6dB ~ 6dB	カットオフ周波数でのHIGH HPFのゲインを設定します。
		SLOPE & TYPE	†2	HIGH HPFのフィルターとタイプを設定します。

†1. Gc SLOPE/TYPEフィルターが選ばれているときはGcコントロールが表示されます。Butterworth、Bessel、Linkwitz-Rileyの各タイプではGc設定は無視され、Gcの値はButterworthおよびBesselは - 3dB、Linkwitz-Rileyは - 6dBに固定されます。

†2. SLOPE/TYPEパラメーター値は次頁の表をご覧ください。

はじめに

操作の前に

各部の名称と機能

DME Managerの概要

コンフィグレーションの構築

Runモード

ソフトウェア "DME Manager" のその他の機能

コンポーネントガイド 第1部

コンポーネントガイド 第2部

フロントパネルの操作

GPI インターフェース

PCカード

ワードクロック

複数台のDME32システム

MIDI

I/O オプション

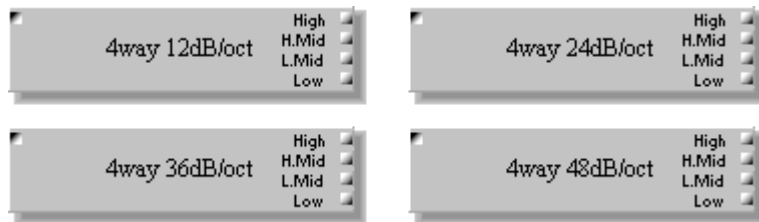
付録

SLOPE & TYPEパラメーター

	SLOPE & TYPE	Slope			
		12dB/oct	24dB/oct	36dB/oct	48dB/oct
はじめに	THRU				
操作の前に	6dB/oct				
	12dB/oct Adjustable Gc				
各部の名称と機能	12dB/oct Butterworth				
	12dB/oct Bessel				
	12dB/oct Linkwitz-Riley				
DME Managerの概要	18dB/oct Adjustable Gc				
	18dB/oct Butterworth				
	18dB/oct Bessel				
コンフィギュレーションの構築	24dB/oct Adjustable Gc				
	24dB/oct Butterworth				
	24dB/oct Bessel				
Runモード	24dB/oct Linkwitz-Riley				
	36dB/oct Adjustable Gc				
	36dB/oct Butterworth				
ソフトウェア "DME Manager" のその他の機能	36dB/oct Bessel				
	48dB/oct Adjustable Gc				
	48dB/oct Butterworth				
コンポーネントガイド 第1部	48dB/oct Bessel				
	48dB/oct Linkwitz-Riley				
コンポーネントガイド 第2部					
フロントパネルの操作					
GPIインターフェース					
PCカード					
ワードクロック					
複数台のDME32システム					
MIDI					
I/Oオプション					
付録					

4-Way Crossover(4ウェイクロスオーバー)

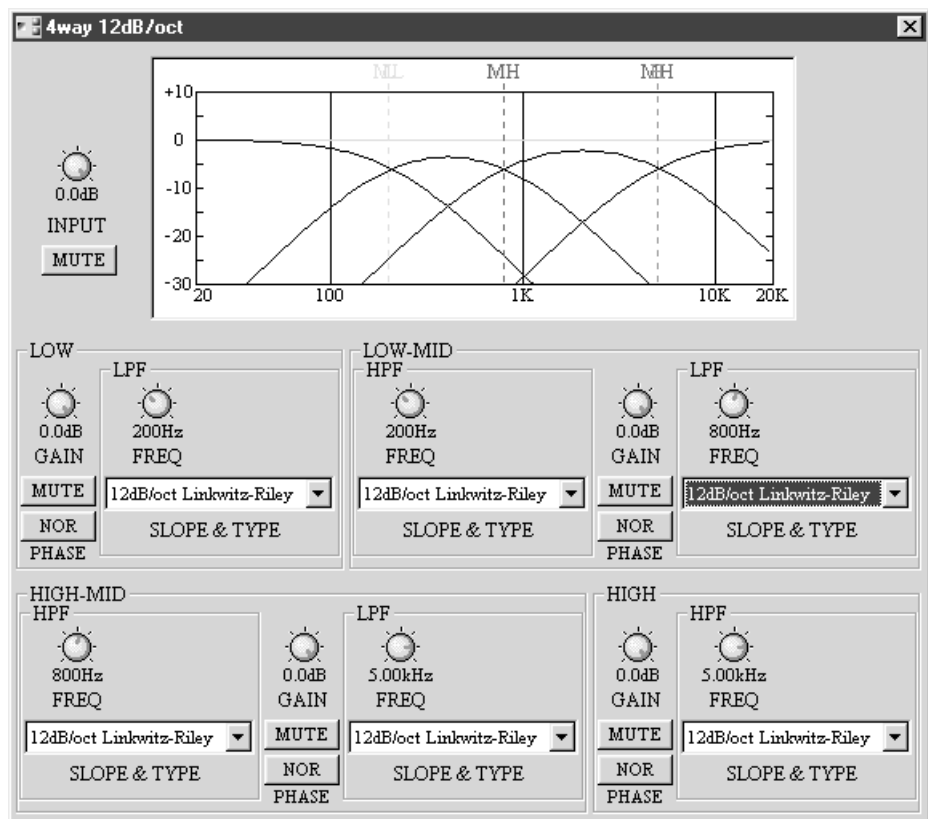
4-Way Crossoverは入力信号を高、高中、低中、低と4つの周波数チャンネルに分けます。スロープは12dB/oct、24dB/oct、36dB/oct、48dB/octの4種類が使用できます。



各4-Way Crossoverコンポーネントは1つの入力と4つ(High、Hig-Mid、Low-Mid、Low)の出力があります。

いずれの4-Way Crossoverもフィルターのスロープ以外は同じなので、ここでは「4 Way 12dB/oct」コントロール画面のみをご紹介します。

「4 Way 12dB/oct」コントロール画面には、クロスオーバーのグラフとINPUT、LOW、LOW-MID、HIGH-MID、HIGHの各セクションがあります。



画面上部のクロスオーバーのグラフでは、クロスオーバー設定がグラフで表されます。縦の波線は各チャンネルのクロスオーバー周波数を示します。「L」は低、「ML」は中低、「MH」は中高、「H」は高です。

Adjustable GcタイプのSLOPE & TYPEフィルターを選んでいるときは、Gcコントロールが表示されます。(上の画面にはありません。)

はじめに

操作の前に

各部の名称と機能

DME Managerの概要

コンフィグレーションの構築

Runモード

ソフトウェア「DME Manager」のその他の機能

コンポーネントガイド 第1部

コンポーネントガイド 第2部

フロントパネルの操作

GPIインターフェース

PCカード

ワードクロック

複数台のDME32システム

MIDI

I/Oオプション

付録

はじめに
操作の前に
各部の名称と機能
DME Managerの概要
コンフィグレーションの構築
Runモード
ソフトウェア "DME Manager"のその他の機能
コンポーネントガイド 第1部
コンポーネントガイド 第2部
フロントパネルの操作
GPIインターフェース
PCカード
ワードクロック
複数台のDME32システム
MIDI
I/Oオプション
付録

セクション	パラメーター	設定範囲	機能	
INPUT	LEVEL	mute ~ 0.0dB	入力信号レベルを設定します。	
	MUTE	ON/OFF	入力をミュートします。	
LOW	GAIN	mute ~ 0.0dB	LOW出力信号レベルを設定します。	
	MUTE	ON/OFF	LOW出力をミュートします。	
	PHASE	NOR/REV	LOW出力信号を反転させます。	
	LPF	FREQ	20.0Hz ~ 20.0kHz	LOW LPFカットオフ周波数を設定します。
Gc ^{†1}		- 6dB ~ + 6dB	カットオフ周波数でのLOW LPFのゲインを設定します。	
SLOPE & TYPE		†2	LOW LPFのフィルターとタイプを設定します。	
LOW-MID	HPF	FREQ	20.0Hz ~ 20.0kHz	LOW-MID HPFカットオフ周波数を設定します。
		Gc ^{†1}	- 6dB ~ + 6dB	カットオフ周波数でのLOW-MID HPFのゲインを設定します。
		SLOPE & TYPE	†2	LOW-MID HPFのフィルターとタイプを設定します。
	GAIN	mute ~ 0.0dB	LOW-MID出力信号レベルを設定します。	
	MUTE	ON/OFF	LOW-MID出力をミュートします。	
	PHASE	NOR/REV	LOW-MID出力信号を反転させます。	
	LPF	FREQ	20.0Hz ~ 20.0kHz	LOW-MID LPFカットオフ周波数を設定します。
		Gc ^{†1}	- 6dB ~ + 6dB	カットオフ周波数でのLOW-MID LPFのゲインを設定します。
		SLOPE & TYPE	†2	LOW-MID LPFのフィルターとタイプを設定します。
HIGH-MID	HPF	FREQ	20.0Hz ~ 20.0kHz	HIGH-MID HPFカットオフ周波数を設定します。
		Gc ^{†1}	- 6dB ~ + 6dB	カットオフ周波数でのHIGH-MID HPFのゲインを設定します。
		SLOPE & TYPE	†2	HIGH-MID HPFのフィルターとタイプを設定します。
	GAIN	mute ~ 0.0dB	HIGH-MID出力信号レベルを設定します。	
	MUTE	ON/OFF	HIGH-MID出力をミュートします。	
	PHASE	NOR/REV	HIGH-MID出力信号を反転させます。	
	LPF	FREQ	20.0Hz ~ 20.0kHz	HIGH-MID LPFカットオフ周波数を設定します。
		Gc ^{†1}	- 6dB ~ + 6dB	カットオフ周波数でのHIGH-MID LPFのゲインを設定します。
		SLOPE & TYPE	†2	HIGH-MID LPFのフィルターとタイプを設定します。
HIGH	GAIN	mute ~ 0.0dB	HIGH出力信号レベルを設定します。	
	MUTE	ON/OFF	HIGH出力をミュートします。	
	PHASE	NOR/REV	HIGH出力信号を反転させます。	
	HPF	FREQ	20.0Hz ~ 20.0kHz	HIGH HPFカットオフ周波数を設定します。
		Gc ^{†1}	- 6dB ~ + 6dB	カットオフ周波数でのHIGH HPFのゲインを設定します。
		SLOPE & TYPE	†2	HIGH HPFのフィルターとタイプを設定します。

†1. Gc SLOPE/TYPEフィルターが選ばれているときはGcコントロールが表示されます。Butterworth、Bessel、Linkwitz-Rileyの各タイプではGc設定は無視され、Gcの値はButterworthおよびBesselは - 3dB、Linkwitz-Rileyは - 6dBに固定されます。

†2. SLOPE/TYPEパラメーター値は次頁の表をご覧ください。

SLOPE & TYPEパラメーター

SLOPE & TYPE	Slope			
	12dB/oct	24dB/oct	36dB/oct	48dB/oct
THRU				
6dB/oct				
12dB/oct Adjustable Gc				
12dB/oct Butterworth				
12dB/oct Bessel				
12dB/oct Linkwitz-Riley				
18dB/oct Adjustable Gc				
18dB/oct Butterworth				
18dB/oct Bessel				
24dB/oct Adjustable Gc				
24dB/oct Butterworth				
24dB/oct Bessel				
24dB/oct Linkwitz-Riley				
36dB/oct Adjustable Gc				
36dB/oct Butterworth				
36dB/oct Bessel				
48dB/oct Adjustable Gc				
48dB/oct Butterworth				
48dB/oct Bessel				
48dB/oct Linkwitz-Riley				

はじめに

操作の前に

各部の名称
と機能DME
Manager
の概要コンフィグ
レーション
の構築

Runモード

ソフトウェア
"DME Manager"
のその他の機能コンポーネント
ガイド 第1部コンポーネント
ガイド 第2部フロント
パネルの
操作GPI
インター
フェース

PCカード

ワード
クロック複数台の
DME32
システム

MIDI

I/O
オプション


付録

Crossover Processor(クロスオーバープロセッサー)

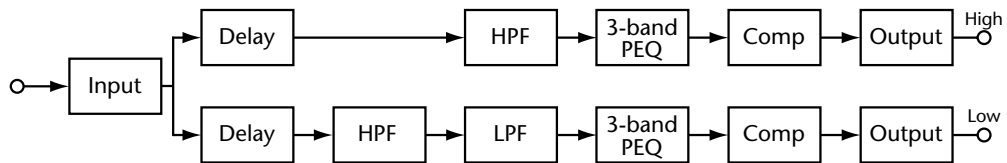
クロスオーバープロセッサーのグループには2 Way、3 Way、4 Wayの3種類のコンポーネントがあります。各プロセッサーはディレイ、クロスオーバー、3バンドパラメトリックイコライザー、コンプレッサーから構成されています。クロスオーバーのスロープ(傾き)には12dB/oct、24dB/oct、36dB/oct、48dB/octがあり、フィルターにはButterworth、Bessel、Linkwitz-Rileyを使用しています。標準のクロスオーバーコンポーネントとしての特長だけでなく、各モジュールの低域チャンネルはハイパスフィルターを備え、不要な低域信号を除去します。

2-Way Processor(2ウェイプロセッサー)

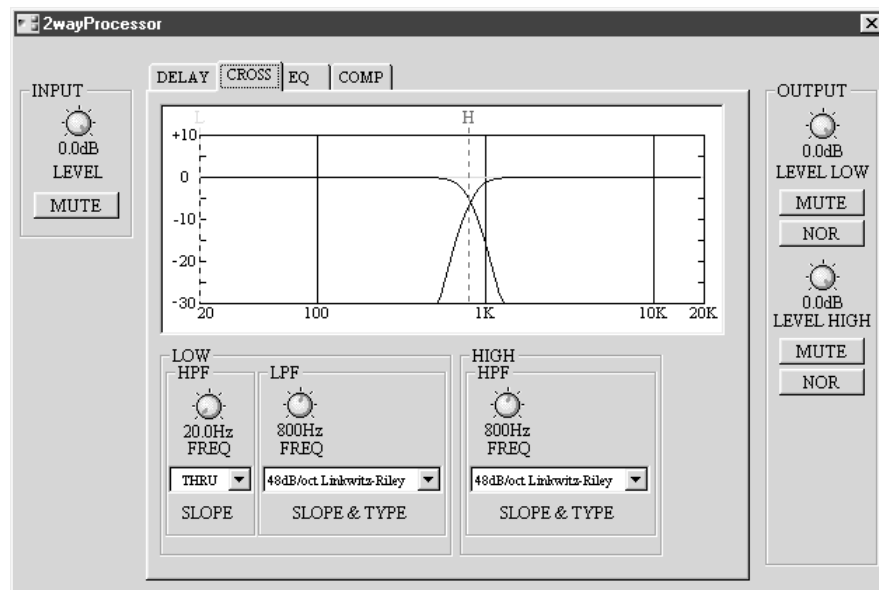
2-Way Processorは入力信号を高低2つの周波数チャンネルに分けます。またチャンネルごとにディレイ、3バンドPEQ、コンプレッサーがあります。

 各2-Way Processorは1つの入力と2つ(High、Low)の出力があります。

以下のブロック図は2-Way Processorの概要です。



「2 Way Processor」コントロール画面は、INPUT、OUTPUT、コントロールの各セクションで構成され、画面上部のタブをクリックすることでDELAY、CROSS、EQ、COMPの各セクションを選択します。

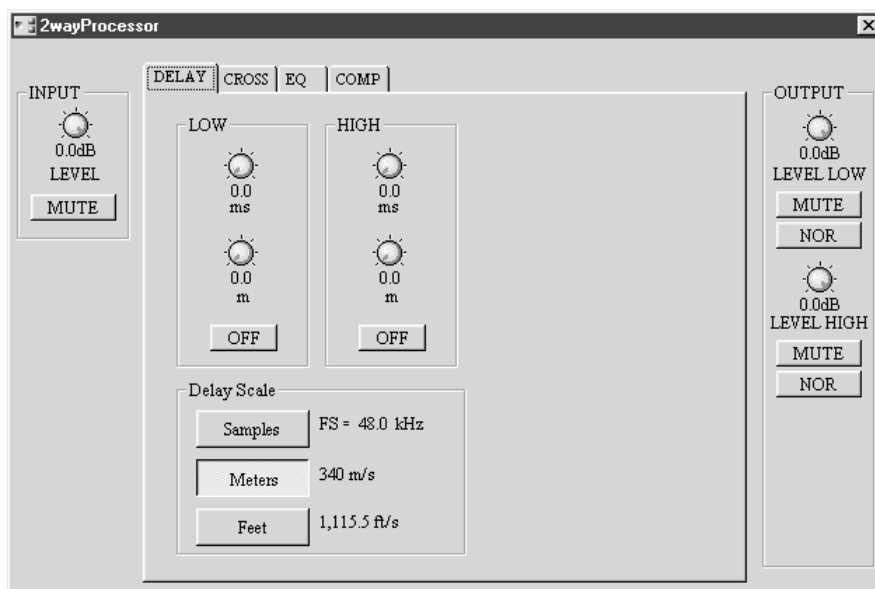


コントロール画面のINPUTとOUTPUTセクションはDELAY、CROSS、EQ、COMPのいずれを選択しても常に表示されており、次のパラメーターがあります。

セクション	パラメーター	設定範囲	機能
INPUT	LEVEL	mute ~ 0.0dB	入力信号レベルを設定します。
	MUTE	ON/OFF	入力をミュートします。
OUTPUT LOW	LEVEL	mute ~ 0.0dB	Low出力信号レベルを設定します。
	MUTE	ON/OFF	Low出力をミュートします。
	PHASE	NOR/REV	Low出力信号を反転させます。
OUTPUT HIGH	LEVEL	mute ~ 0.0dB	High出力信号レベルを設定します。
	MUTE	ON/OFF	High出力をミュートします。
	PHASE	NOR/REV	High出力信号を反転させます。

DELAY(ディレイ)

「DELAY」画面にはLOWチャンネル、HIGHチャンネルでそれぞれ独立して設定できるDELAYパラメーターが表示されます。ディレイタイムはミリ秒、サンプル、メートル、フィートのいずれかで設定します。



両チャンネルのDELAYパラメーター

セクション	パラメーター	設定範囲	機能
LOW、HIGH	ms	0.0 ~ 500.0ms	ディレイタイムをミリ秒単位で設定します (次のパラメーターと連結)。
	m ^{†1}	次表をご覧ください。	ディレイタイムを[DELAY SCALE]セクションのボタン類で指定した単位で設定します ([ms]パラメーターと連結)。
	ON/OFF	ON/OFF	ディレイをオン/オフします。
DELAY SCALE		次表をご覧ください。	[Sample]コントロール類のディレイの単位を選択します。

†1. このコントロールノブの表示はディレイスケールの設定によって異なります。

はじめに

操作の前に

各部の名称と機能

DME Managerの概要

コンフィグレーションの構築

Runモード

ソフトウェア "DME Manager" のその他の機能

コンポーネントガイド 第1部

コンポーネントガイド 第2部

フロントパネルの操作

GPIインターフェース

PCカード

ワードクロック

複数台のDME32システム

MIDI

I/Oオプション

付録

はじめに

操作の前に

各部の名称と機能

DME Manager の概要

コンフィグレーションの構築

Runモード

ソフトウェア "DME Manager" のその他の機能

コンポーネントガイド 第1部

コンポーネントガイド 第2部

フロントパネルの操作

GPI インターフェース

PCカード

ワードクロック

複数台の DME32 システム

MIDI

I/O オプション

付録

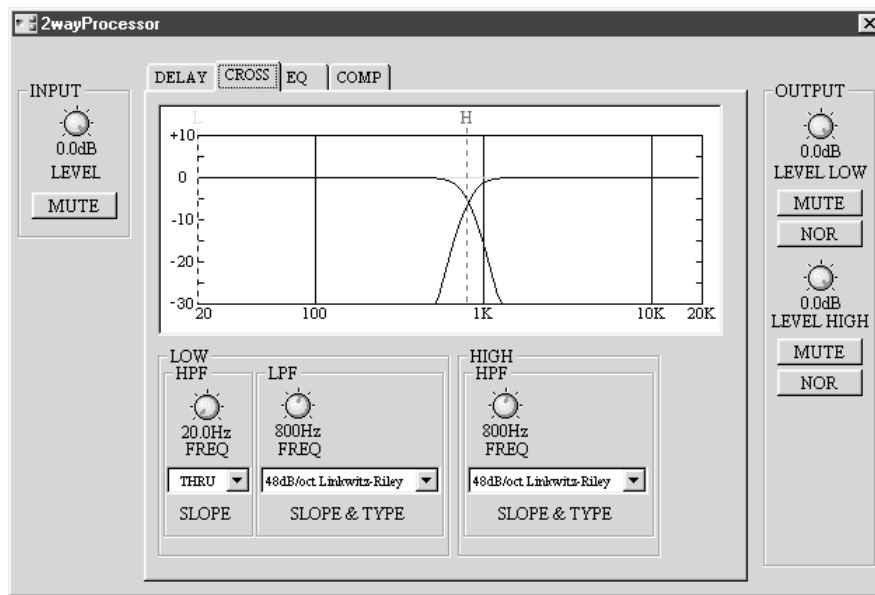
DELAY SCALEセクションでは、FSは選択されているワードクロック周波数を示しません。340 m/sと1115.5 feet/s(気温 = 14 °C、57.2 °F)はそれぞれメートル単位、フィート単位の音速を表します。

次の表はSample、Meters、Feet設定のパラメーター設定範囲を示したものです。

Delay Scale	FS = 48kHz	FS = 44.1kHz
Sample	0 ~ 24000サンプル	0 ~ 22050 サンプル
Meters	0.0 ~ 170.0メートル	
Feet	0.0 ~ 557.8フィート	

CROSS(クロス)

「CROSS」画面には2-Way Crossoverのコントロール類とクロスオーバーグラフが表示されます。



Adjustable GcタイプのSLOPE & TYPEフィルターを選んでいるときはGcコントロールが表示されます。

画面上部のクロスオーバーのグラフではクロスオーバー設定を表示します。縦の波線は各チャンネルのクロスオーバー周波数を示します。“L”は低、“H”は高です。

CROSSパラメーターは次の表で説明しています。

セクション	パラメーター	設定範囲	機能
LOW	HPF	FREQ	20.0Hz ~ 20.0kHz
		SLOPE	†1
	LPF	FREQ	20.0Hz ~ 20.0kHz
		Gc †2	- 6dB ~ + 6dB
		SLOPE & TYPE	†3
HIGH	HPF	FREQ	20.0Hz ~ 20.0kHz
		Gc †2	- 6dB ~ + 6dB
		SLOPE & TYPE	†3

†1. THRU(フィルターオフ)、6dB/oct、12dB/oct、18dB/oct、24dB/oct(Butterworth)

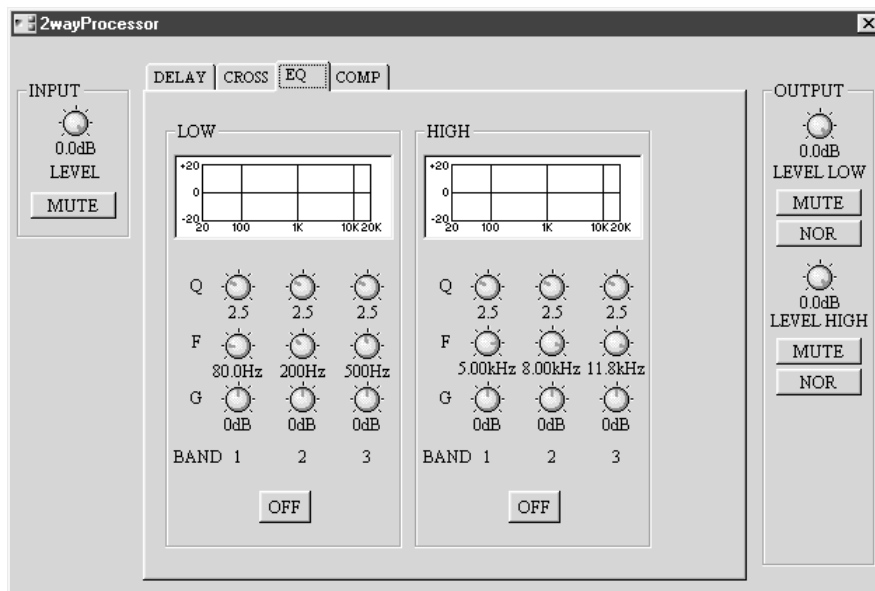
†2. Gc SLOPE/TYPEフィルターが選ばれているときはGcコントロールが表示されます。Butterworth、Bessel、Linkwitz-Rileyの各タイプではGc設定は無視され、Gcの値はButterworthおよびBesselは - 3dB、Linkwitz-Rileyは - 6dBに固定されます。

†3. 下記はSLOPE/TYPEパラメーター値です。

THRU(フィルターオフ)	18dB/oct Adjustable Gc	36dB/oct Adjustable Gc
6dB/oct	18dB/oct Butterworth	36dB/oct Butterworth
	18dB/oct Bessel	36dB/oct Bessel
12dB/oct Adjustable Gc		
12dB/oct Butterworth	24dB/oct Adjustable Gc	48dB/oct Adjustable Gc
12dB/oct Bessel	24dB/oct Butterworth	48dB/oct Butterworth
12dB/oct Linkwitz-Riley	24dB/oct Bessel	48dB/oct Bessel
	24dB/oct Linkwitz-Riley	48dB/oct Linkwitz-Riley

EQ

「EQ」画面にはLOWチャンネル、HIGHチャンネルでそれぞれ独立して設定できる3バンドパラメトリックEQが表示されます。



コントロール類の上にあるEQグラフには各チャンネルのEQ設定がグラフ表示されます。

はじめに

操作の前に

各部の名称と機能

DME Managerの概要

コンフィグレーションの構築

Runモード

ソフトウェア "DME Manager" のその他の機能

コンポーネントガイド 第1部

コンポーネントガイド 第2部

フロントパネルの操作

GPI インターフェース

PCカード

ワードクロック

複数台のDME32システム

MIDI

I/O オプション

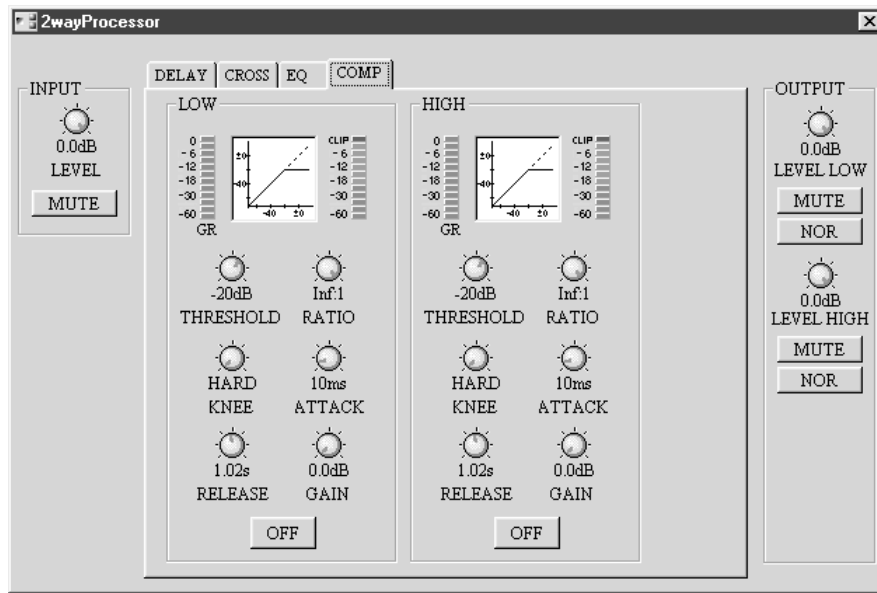
付録

両チャンネルのEQパラメーター

セクション	パラメーター	設定範囲	機能
LOW、HIGH	Q	10.0 ~ 0.1	各バンドの選択度を設定します。
	F	20.0Hz ~ 20.0kHz	各バンドの周波数を設定します。
	G	- 18dB ~ + 18dB	各バンドのゲインを設定します。
	ON/OFF	ON/OFF	各EQチャンネルをオン/オフします。

COMP(コンプレッサー)

「COMP」画面にはLOWチャンネル、HIGHチャンネルでそれぞれにゲインリダクション(GR)メーター、コンプレッサー曲線、出力レベルメーターが表示されます。



ゲインリダクション(GR)メーターはコンプレッサーによるゲインの減衰量を表示します。コンプレッサー曲線はコンプレッサーの効果を表示します。出力メーターは出力信号レベルを表示します。

両チャンネルのCOMPパラメーター

パラメーター	設定範囲	機能
THRESHOLD	- 54dB ~ 0dB	スレッシュホールド値を設定します。
RATIO	1:1 ~ - Inf.:1	圧縮比を設定します。
KNEE	HARD, 1, 2, 3, 4, 5	コンプレッサーのかかり方を設定します。
ATTACK	0ms ~ 120ms	アタックタイムを設定します。
RELEASE	†1	リリースタイムを設定します。
GAIN	0.0dB ~ + 18.0dB	出力ゲインを設定します。
ON/OFF	ON/OFF	コンプレッサーをオン/オフします。

†1. 5ms ~ 42.3sec(fs = 48kHz), 6ms ~ 46.0sec(fs = 44.1kHz)

COMPパラメーターについての一般的な内容は本書130ページをご参照ください。

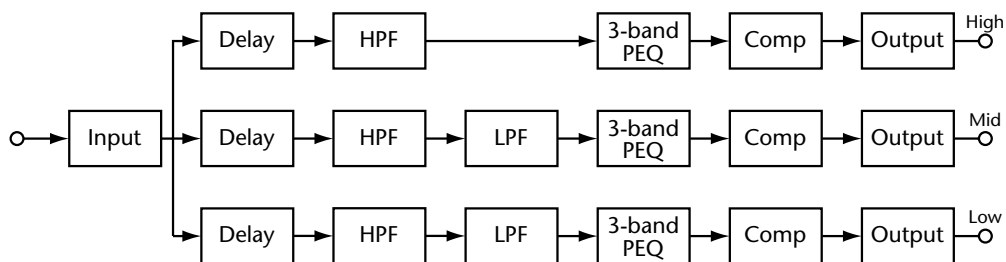
3-Way Processor(3ウェイプロセッサ)

3-Way Processorは入力信号を高、中、低、3つの周波数チャンネルに分けます。またチャンネルごとにディレイ、3バンドパラメトリックEQ、コンプレッサーがあります。

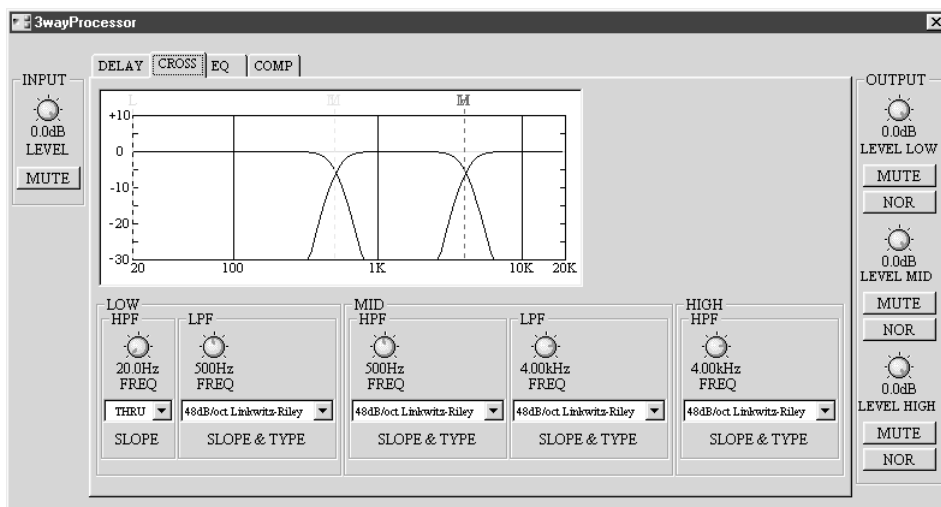


各3-Way Processorは1つの入力と3つ(High、Mid、Low)の出力があります。

以下のブロック図は3-Way Processorの概要です。



「3 Way Processor」コントロール画面は、INPUT、OUTPUT、コントロール類の各セクションで構成され、画面上部のタブをクリックすることでDELAY、CROSS、EQ、COMPの各セクションを選択します。



はじめに

操作の前に

各部の名称と機能

DME Managerの概要

コンフィグレーションの構築

Runモード

ソフトウェア「DME Manager」のその他の機能

コンポーネントガイド 第1部

コンポーネントガイド 第2部

フロントパネルの操作

GPI インターフェース

PCカード

ワードクロック

複数台のDME32システム

MIDI

I/O オプション

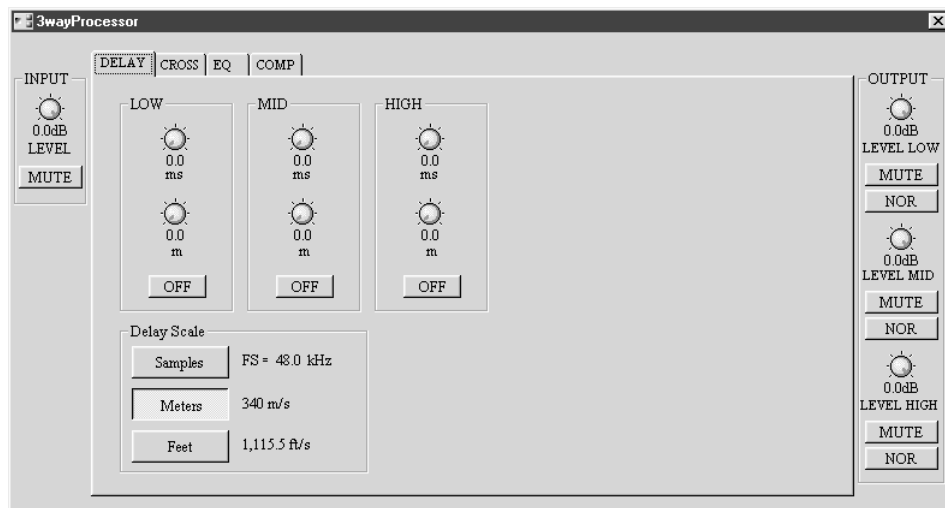
付録

コントロール画面のINPUTとOUTPUTセクションはDELAY、CROSS、EQ、COMPのいずれを選択しても常に表示されており、次のパラメーターがあります。

セクション	パラメーター	設定範囲	機能
INPUT	LEVEL	mute ~ 0.0dB	入力信号レベルを設定します。
	MUTE	ON/OFF	入力をミュートします。
OUTPUT LOW	LEVEL	mute ~ 0.0dB	Low出力信号レベルを設定します。
	MUTE	ON/OFF	Low出力をミュートします。
	PHASE	NOR/REV	Low出力信号を反転させます。
OUTPUT MID	LEVEL	mute ~ 0.0dB	Mid出力信号レベルを設定します。
	MUTE	ON/OFF	Mid出力をミュートします。
	PHASE	NOR/REV	Mid出力信号を反転させます。
OUTPUT HIGH	LEVEL	mute ~ 0.0dB	High出力信号レベルを設定します。
	MUTE	ON/OFF	High出力をミュートします。
	PHASE	NOR/REV	High出力信号を反転させます。

DELAY(ディレイ)

「DELAY」画面にはLOWチャンネル、MIDチャンネル、HIGHチャンネルでそれぞれ独立して設定できるDELAYパラメーターが表示されます。ディレイタイムはミリ秒、サンプル、メートル、フィートのいずれかで設定します。



各チャンネルのDELAYパラメーター

セクション	パラメーター	設定範囲	機能
LOW、MID、HIGH	ms	0.0 ~ 500.0ms	ディレイタイムをミリ秒単位で設定します (次のパラメーターと連結)。
	m ^{†1}	次表をご覧ください。	ディレイタイムを[DELAY SCALE]セクションのボタン類で指定した単位で設定します ([ms]パラメーターと連結)。
	ON/OFF	ON/OFF	ディレイをオン/オフします。
DELAY SCALE		次表をご覧ください。	[Sample]コントロール類のディレイの単位を選択します。

†1. このコントロールノブの表示はディレイスケールの設定によって異なります。

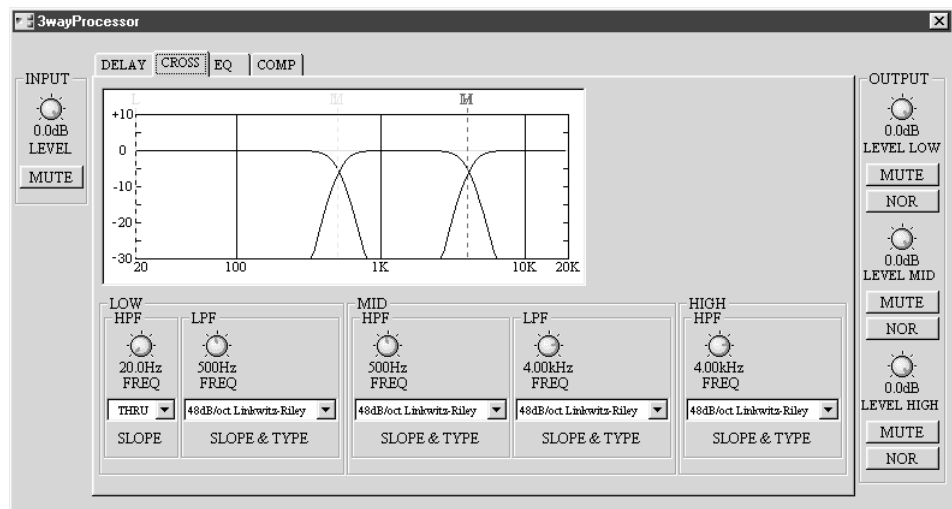
DELAY SCALEセクションでは、FSは選択されているワードクロック周波数を示します。340 m/sと1115.5 feet/s(気温 = 14 °C、57.2 °F)はそれぞれメートル単位、フィート単位の音速を表します。

次の表はSample、Meters、Feet設定のパラメーター設定範囲です。

Delay Scale	fs = 48 kHz	fs = 44.1 kHz
Sample	0 ~ 24000サンプル	0 ~ 22050 サンプル
Meters	0.0 ~ 170.0メートル	
Feet	0.0 ~ 557.8フィート	

CROSS(クロス)

「CROSS」画面には3-Way Crossoverのコントロール類とクロスオーバーグラフが表示されます。



Adjustable GcタイプのSLOPE & TYPEフィルターを選んでいるときは、Gcコントロールが表示されます。(上の画面にはありません。)

画面上部のクロスオーバーのグラフでは、クロスオーバー設定がグラフで表されず。縦の波線は各チャンネルのクロスオーバー周波数を示します。“L”は低、“M”は中、“H”は高です。

はじめに

操作の前に

各部の名称と機能

DME Managerの概要

コンフィグレーションの構築

Runモード

ソフトウェア "DME Manager" のその他の機能

コンポーネントガイド 第1部

コンポーネントガイド 第2部

フロントパネルの操作

GPI インターフェース

PCカード

ワードクロック

複数台のDME32システム

MIDI

I/O オプション

付録

CROSSパラメーター

セクション	パラメーター	設定範囲	機能
LOW	HPF	FREQ	20.0Hz ~ 20.0kHz
		SLOPE	†1
	LPF	FREQ	20.0Hz ~ 20.0kHz
		Gc †2	- 6dB ~ + 6dB
SLOPE & TYPE		†3	
MID	HPF	FREQ	20.0Hz ~ 20.0kHz
		Gc †2	- 6dB ~ + 6dB
		SLOPE & TYPE	†3
	LPF	FREQ	20.0Hz ~ 20.0kHz
		Gc †2	- 6dB ~ + 6dB
		SLOPE & TYPE	†3
HIGH	HPF	FREQ	20.0Hz ~ 20.0kHz
		Gc †2	- 6dB ~ + 6dB
		SLOPE & TYPE	†3

†1. THRU(フィルターオフ) 6dB/oct, 12dB/oct, 18dB/oct, 24dB/oct(Butterworth)

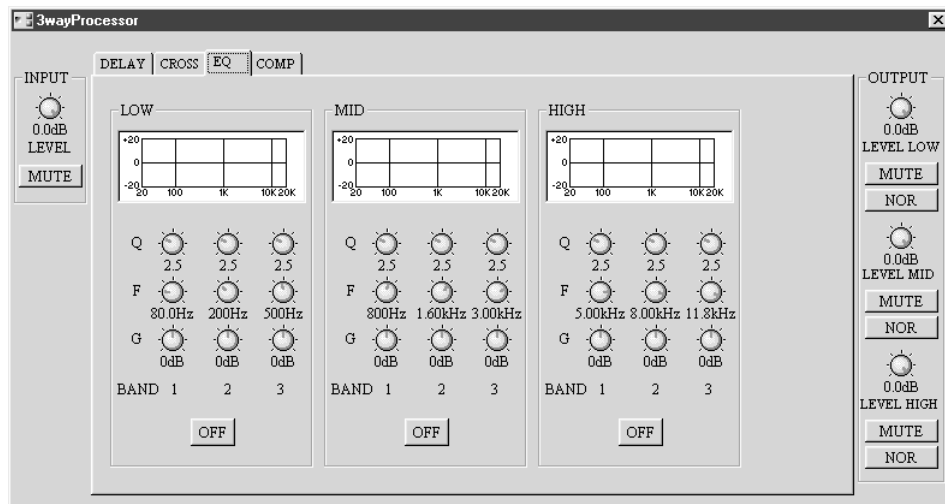
†2. Gc SLOPE/TYPEフィルターが選ばれているときはGcコントロールが表示されます。Butterworth、Bessel、Linkwitz-Rileyの各タイプではGc設定は無視され、Gcの値はButterworthおよびBesselは - 3dB、Linkwitz-Rileyは - 6dBに固定されます。

†3. 下記はSLOPE/TYPEパラメーター値です。

THRU(フィルターオフ)	18dB/oct Adjustable Gc	36dB/oct Adjustable Gc
6dB/oct	18dB/oct Butterworth	36dB/oct Butterworth
	18dB/oct Bessel	36dB/oct Bessel
12dB/oct Adjustable Gc		
12dB/oct Butterworth	24dB/oct Adjustable Gc	48dB/oct Adjustable Gc
12dB/oct Bessel	24dB/oct Butterworth	48dB/oct Butterworth
12dB/oct Linkwitz-Riley	24dB/oct Bessel	48dB/oct Bessel
	24dB/oct Linkwitz-Riley	48dB/oct Linkwitz-Riley

EQ

「EQ」画面にはLOWチャンネル、MIDチャンネル、HIGHチャンネルでそれぞれに3バンドパラメトリックEQが表示されます。

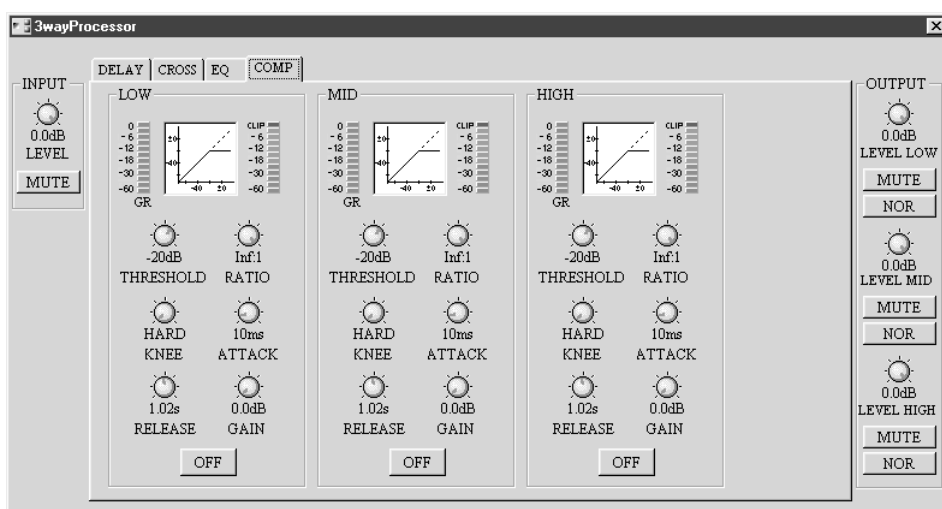


コントロール類の上にあるEQグラフには各チャンネルのEQ設定がグラフ表示されます。

セクション	パラメーター	設定範囲	機能
LOW、MID、HIGH	Q	10.0 ~ 0.1	各バンドの選択度を設定します。
	F	20.0Hz ~ 20.0kHz	各バンドの周波数を設定します。
	G	- 18dB ~ + 18dB	各バンドのゲインを設定します。
	ON/OFF	ON/OFF	各EQチャンネルをオン / オフします。

COMP(コンプレッサー)

「COMP」画面にはLOWチャンネル、MIDチャンネル、HIGHチャンネルでそれぞれにゲインリダクション(GR)メーター、コンプレッサー曲線、出力レベルメーターが表示されます。



ゲインリダクション(GR)メーターはコンプレッサーによるゲインの減衰量を表示します。コンプレッサー曲線はコンプレッサーの効果を表示します。出力メーターは出力信号レベルを表示します。

各チャンネルのCOMPパラメーター

パラメーター	設定範囲	機能
THRESHOLD	- 54dB ~ 0dB	スレッシュホールド値を設定します。
RATIO	1:1 ~ - Inf.:1	圧縮比を設定します。
KNEE	HARD, 1, 2, 3, 4, 5	コンプレッサーのかかり方を設定します。
ATTACK	0ms ~ 120ms	アタックタイムを設定します。
RELEASE	†1	リリースタイムを設定します。
GAIN	0.0dB ~ + 18.0dB	出力ゲインを設定します。
ON/OFF	ON/OFF	コンプレッサーをオン / オフします。

†1. 5ms ~ 42.3sec(fs = 48kHz), 6ms ~ 46.0sec(fs = 44.1kHz)

COMPパラメーターについての一般的な内容は130ページをご参照ください。

はじめに

操作の前に

各部の名称と機能

DME Managerの概要

コンフィグレーションの構築

Runモード

ソフトウェア "DME Manager" のその他の機能

コンポーネントガイド 第1部

コンポーネントガイド 第2部

フロントパネルの操作

GPI インターフェース

PCカード

ワードクロック

複数台のDME32システム

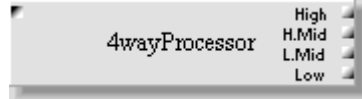
MIDI

I/O オプション

付録

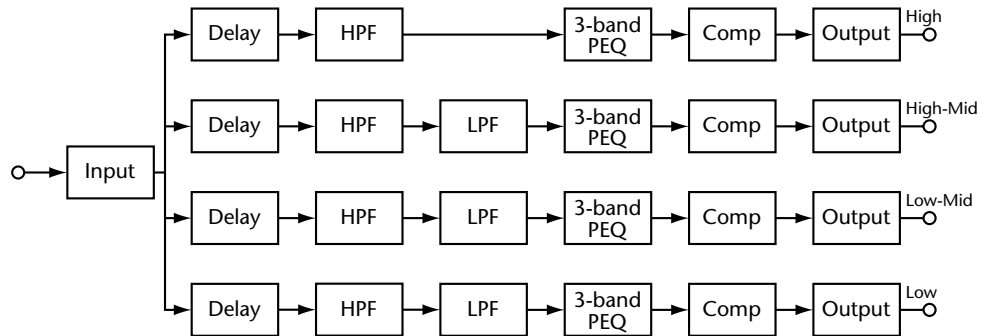
4-Way Processor(4ウェイプロセッサ)

4-Way Processorは入力信号を高、中高、中低、低、4つの周波数チャンネルに分けます。またチャンネルごとにディレイ、3バンドパラメトリックEQ、コンプレッサーがあります。

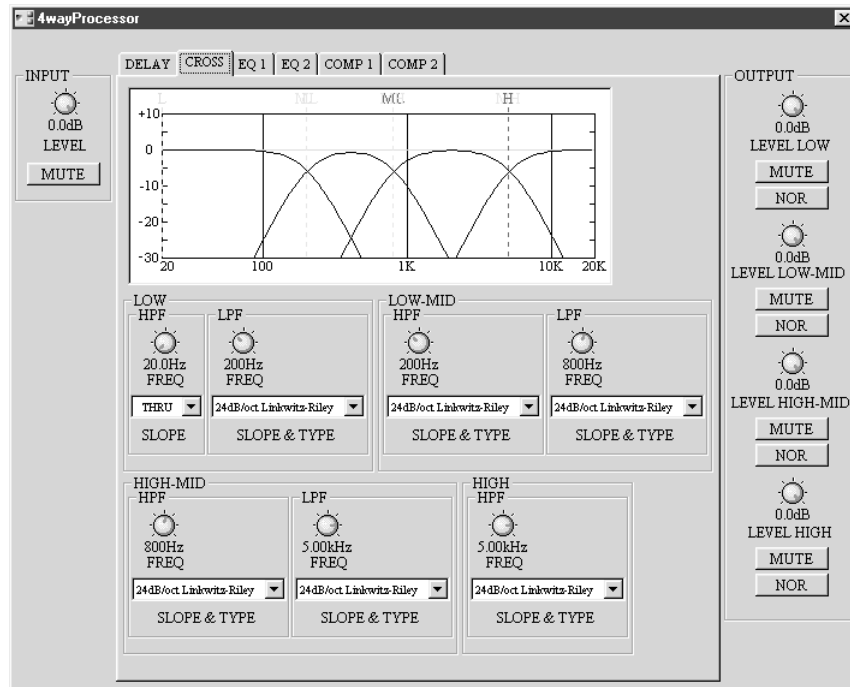


各4-Way Processorは1つの入力と4つ(High、High-Mid、Low-Mid、Low)の出力があります。

以下のブロック図は4-Way Processorの概要です。



「4 Way Processor」コントロール画面は、INPUT、OUTPUT、コントロール類の各セクションで構成され、画面上部のタブをクリックすることでDELAY、CROSS、EQ 1、EQ 2、COMP 1、COMP 2の各セクションを選択します。

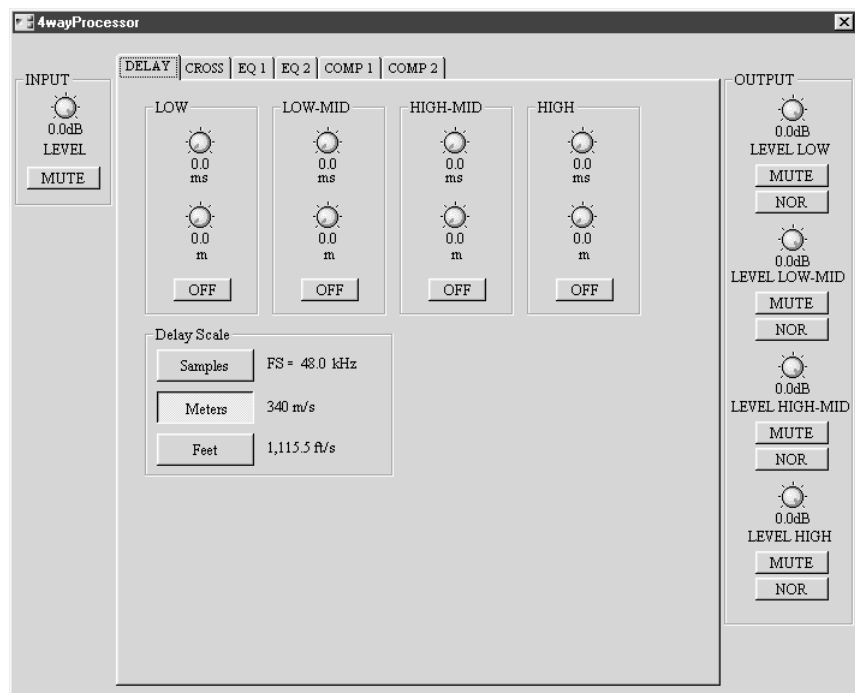


コントロール画面のINPUTとOUTPUTセクションはDELAY、CROSS、EQ、COMPのいずれを選択しても常に表示されており、次のパラメーターがあります。

セクション	パラメーター	設定範囲	機能
INPUT	LEVEL	mute ~ 0.0dB	入力信号レベルを設定します。
	MUTE	ON/OFF	入力をミュートします。
OUTPUT LOW	LEVEL	mute ~ 0.0dB	Low出力信号レベルを設定します。
	MUTE	ON/OFF	Low出力をミュートします。
	PHASE	NOR/REV	Low出力信号を反転させます。
OUTPUT LOW-MID	LEVEL	mute ~ 0.0dB	Low-Mid出力信号レベルを設定します。
	MUTE	ON/OFF	Low-Mid出力をミュートします。
	PHASE	NOR/REV	Low-Mid出力信号を反転させます。
OUTPUT HIGH-MID	LEVEL	mute ~ 0.0dB	High-Mid出力信号レベルを設定します。
	MUTE	ON/OFF	High-Mid出力をミュートします。
	PHASE	NOR/REV	High-Mid出力信号を反転させます。
OUTPUT HIGH	LEVEL	mute ~ 0.0dB	High出力信号レベルを設定します。
	MUTE	ON/OFF	High出力をミュートします。
	PHASE	NOR/REV	High出力信号を反転させます。

DELAY(デイレイ)

「DELAY」画面にはLOW/LOW-MID/HIGH-MID/HIGHチャンネルでそれぞれ独立して設定できるDELAYパラメーターが表示されます。ディレイタイムはミリ秒、サンプル、メートル、フィートのいずれかで設定します。



はじめに

操作の前に

各部の名称と機能

DME Managerの概要

コンフィグレーションの構築

Runモード

ソフトウェア "DME Manager" のその他の機能

コンポーネントガイド 第1部

コンポーネントガイド 第2部

フロントパネルの操作

GPI インターフェース

PCカード

ワードクロック

複数台のDME32システム

MIDI

I/O オプション

付録

LOW/LOW-MID/HIGH-MID/HIGHチャンネルのディレイコントロールはどれも同じなので、ここでは1つの表にまとめて説明します。

セクション	パラメーター	設定範囲	機能
LOW、 LOW-MID、 HIGH-MID、 HIGH	ms	0.0 ~ 500.0ms	ディレイタイムをミリ秒単位で設定します (次のパラメーターと連結)。
	Sample ^{†1}	次表をご覧ください。	ディレイタイムを [DELAY SCALE] セクションのボタン類で指定した単位で設定します ([ms] パラメーターと連結)。
	ON/OFF	ON/OFF	ディレイをオン/オフします。
DELAY SCALE		次表をご覧ください。	[Sample] コントロール類のディレイの単位を選択します。

†1. このコントロールノブの表示はディレイスケールの設定によって異なります。

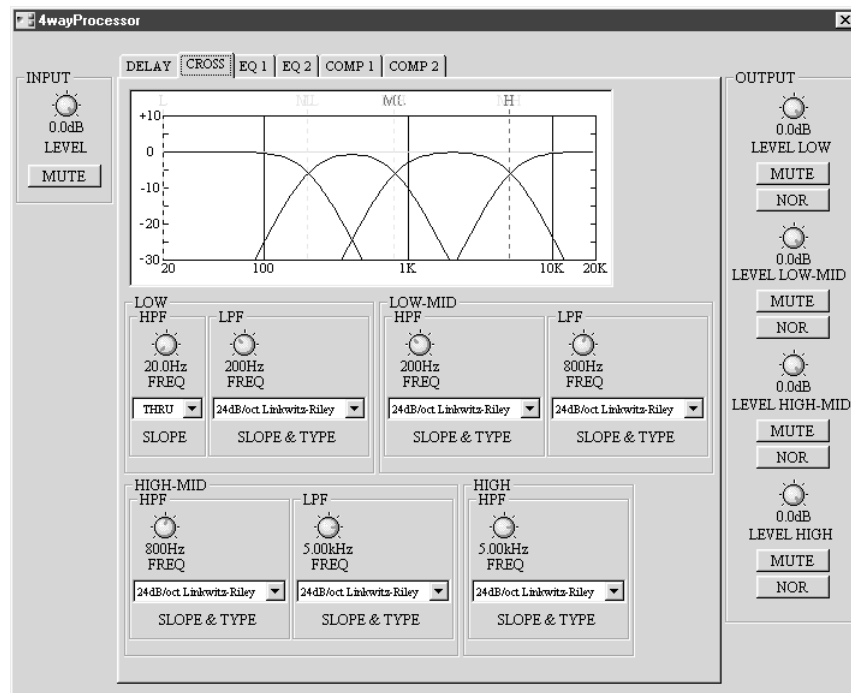
DELAY SCALEセクションでは、FSは選択されているワードクロック周波数を示します。340 m/sと1115.5 feet/s (気温 = 14 °C、57.2 °F) はそれぞれメートル単位、フィート単位の音速を表します。

次の表はSample、Meters、Feet設定のパラメーター設定範囲です。

Delay Scale	FS = 48kHz	FS = 44.1kHz
Sample	0 ~ 24000サンプル	0 ~ 22050 サンプル
Meters	0.0 ~ 170.0メートル	
Feet	0.0 ~ 557.8フィート	

CROSS(クロス)

「CROSS」画面には4-Way Crossover Processorのコントロール類とクロスオーバーグラフが表示されます。



Adjustable GcタイプのSLOPE & TYPEフィルターを選んでいるときは、Gcコントロールが表示されます。(上の画面ではありません。)

画面上部のクロスオーバーのグラフでは、クロスオーバー設定がグラフで表されず。縦の波線は各チャンネルのクロスオーバー周波数を示します。“L”は低、“ML”は中低、“MH”は中高、“H”は高です。

CROSSパラメーター

セクション	パラメーター	設定範囲	機能	
LOW	HPF	FREQ	20.0Hz ~ 20.0kHz	Low HPFカットオフ周波数を設定します。
		SLOPE	†1	Low HPFのスロープを設定します。
	LPF	FREQ	20.0Hz ~ 20.0kHz	LOW LPFカットオフ周波数を設定します。
		Gc ^{†2}	- 6dB ~ + 6dB	カットオフ周波数でのLow LPFのゲインを設定します。
	SLOPE & TYPE	†3	Low LPFのスロープとタイプを設定します。	
LOW-MID	HPF	FREQ	20.0Hz ~ 20.0kHz	Low-Mid HPFカットオフ周波数を設定します。
		Gc ^{†2}	- 6dB ~ + 6dB	カットオフ周波数でのLOW-MID HPFのゲインを設定します。
		SLOPE & TYPE	†3	Low-Mid HPFのスロープとタイプを設定します。
	LPF	FREQ	20.0Hz ~ 20.0kHz	Low-Mid LPFカットオフ周波数を設定します。
		Gc ^{†2}	- 6dB ~ + 6dB	カットオフ周波数でのLow-Mid LPFのゲインを設定します。
		SLOPE & TYPE	†3	Low-Mid LPFのスロープとタイプを設定します。
HIGH-MID	HPF	FREQ	20.0Hz ~ 20.0kHz	High-Mid HPFカットオフ周波数を設定します。
		Gc ^{†2}	- 6dB ~ + 6dB	カットオフ周波数でのHIGH-MID HPFのゲインを設定します。
		SLOPE & TYPE	†3	High-Mid HPFのスロープとタイプを設定します。
	LPF	FREQ	20.0Hz ~ 20.0kHz	High-Mid LPFカットオフ周波数を設定します。
		Gc ^{†2}	- 6dB ~ + 6dB	カットオフ周波数でのHigh-Mid LPFのゲインを設定します。
		SLOPE & TYPE	†3	High-Mid LPFのスロープとタイプを設定します。
HIGH	HPF	FREQ	20.0Hz ~ 20.0kHz	High HPFカットオフ周波数を設定します。
		Gc ^{†2}	- 6dB ~ + 6dB	カットオフ周波数でのHigh HPFのゲインを設定します。
		SLOPE & TYPE	†3	High HPFのスロープとタイプを設定します。

†1. THRU(フィルターオフ) 6dB/oct, 12dB/oct, 18dB/oct, 24dB/oct(Butterworth)

†2. Gc SLOPE/TYPEフィルターが選ばれているときはGcコントロールが表示されます。Butterworth、Bessel、Linkwitz-Rileyの各タイプではGc設定は無視され、Gcの値はButterworthおよびBesselは - 3dB、Linkwitz-Rileyは - 6dBに固定されます。

†3. 下記はSLOPE/TYPEパラメーター値です。
 THRU(フィルターオフ) 18dB/oct Adjustable Gc
 6dB/oct 18dB/oct Butterworth
 18dB/oct Bessel
 12dB/oct Adjustable Gc
 12dB/oct Butterworth 24dB/oct Adjustable Gc
 12dB/oct Bessel 24dB/oct Butterworth
 12dB/oct Linkwitz-Riley 24dB/oct Bessel
 24dB/oct Linkwitz-Riley

はじめに

操作の前に

各部の名称と機能

DME Managerの概要

コンフィグレーションの構築

Runモード

ソフトウェア "DME Manager" のその他の機能

コンポーネントガイド 第1部

コンポーネントガイド 第2部

フロントパネルの操作

GPI インターフェース

PCカード

ワードクロック

複数台のDME32システム

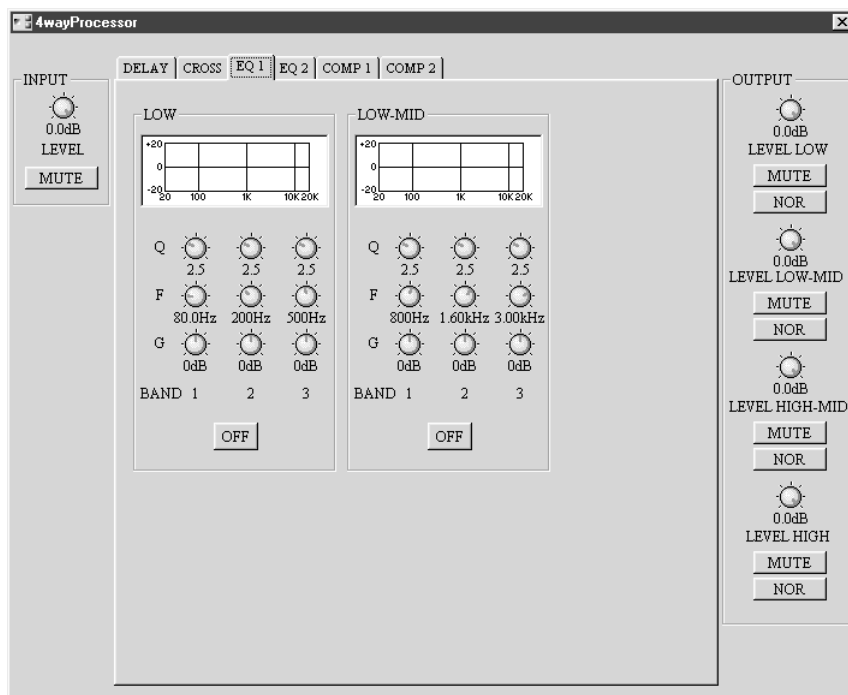
MIDI

I/O オプション

付録

EQ 1

「EQ 1」画面にはLOWチャンネル、LOW-MIDチャンネルでそれぞれに3バンドパラメトリックEQが表示されます。



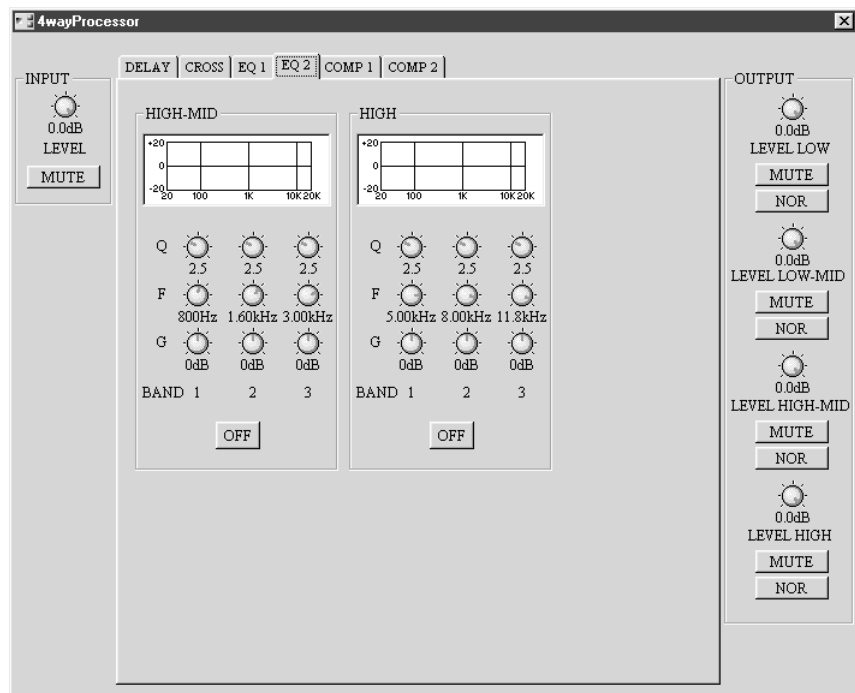
コントロール類の上にあるEQグラフには各チャンネルのEQ設定がグラフ表示されます。

各チャンネルのEQパラメーター

セクション	パラメーター	設定範囲	機能
LOW、LOW-MID	Q	10.0 ~ 0.1	各バンドの選択度を設定します。
	F	20.0Hz ~ 20.0kHz	各バンドの周波数を設定します。
	G	- 18dB ~ + 18dB	各バンドのゲインを設定します。
	ON/OFF	ON/OFF	各EQチャンネルをオン/オフします。

EQ 2

「EQ 2」画面にはHIGH-MIDチャンネル、HIGHチャンネルでそれぞれに3バンドパラメトリックEQが表示されます。



コントロール類の上にあるEQグラフには各チャンネルのEQ設定がグラフ表示されます。

各チャンネルのEQパラメーター

セクション	パラメーター	設定範囲	機能
HIGH-MID、HIGH	Q	10.0 ~ 0.1	各バンドの選択度を設定します。
	F	20.0Hz ~ 20.0kHz	各バンドの周波数を設定します。
	G	- 18dB ~ + 18dB	各バンドのゲインを設定します。
	ON/OFF	ON/OFF	各EQチャンネルをオン/オフします。

はじめに

操作の前に

各部の名称と機能

DME Managerの概要

コンフィグレーションの構築

Runモード

ソフトウェア "DME Manager" のその他の機能

コンポーネントガイド 第1部

コンポーネントガイド 第2部

フロントパネルの操作

GPI インターフェース

PCカード

ワードクロック

複数台のDME32システム

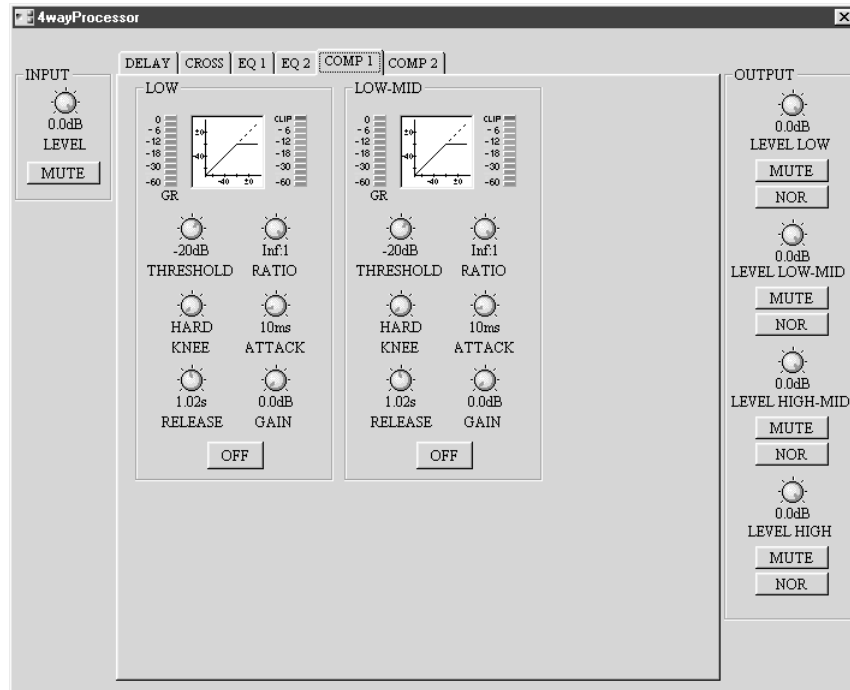
MIDI

I/O オプション

付録

COMP 1(コンプレッサー)

「COMP 1」画面にはLOWチャンネル、LOW-MIDチャンネルでそれぞれにゲインリダクション(GR)メーター、コンプレッサー曲線、出力レベルメーターが表示されます。



ゲインリダクション(GR)メーターはコンプレッサーによるゲインの減衰量を表示します。コンプレッサー曲線はコンプレッサーの効果を表示します。出力メーターは出力信号レベルを表示します。

各チャンネルのCOMPパラメーター

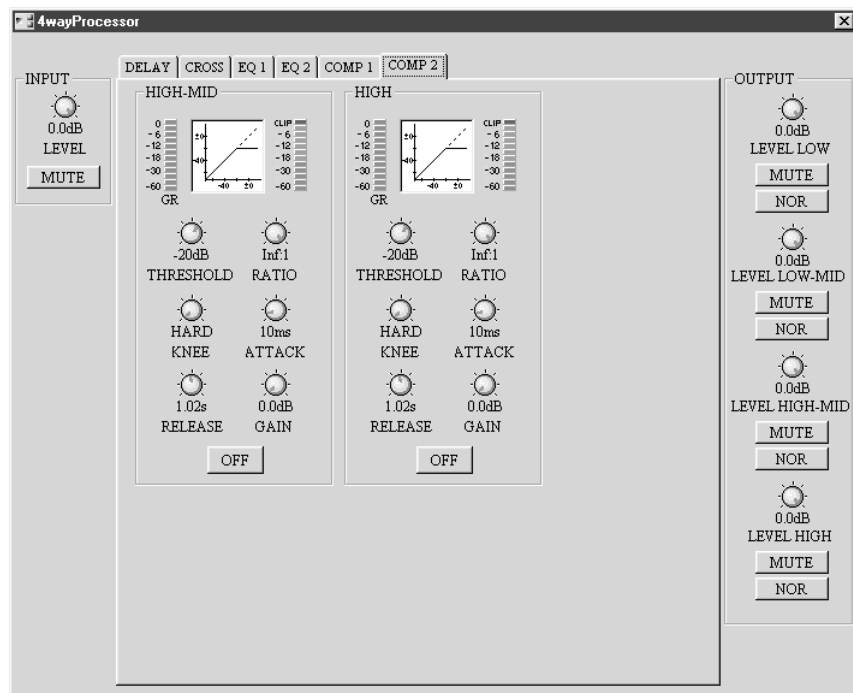
パラメーター	設定範囲	機能
THRESHOLD	- 54dB ~ 0dB	スレッシュヨルド値を設定します。
RATIO	1:1 ~ - Inf.:1	圧縮比を設定します。
KNEE	HARD, 1, 2, 3, 4, 5	コンプレッサーのかかり方を設定します。
ATTACK	0ms ~ 120ms	アタックタイムを設定します。
RELEASE	†1	リリースタイムを設定します。
GAIN	0.0dB ~ +18.0dB	出力ゲインを設定します。
ON/OFF	ON/OFF	コンプレッサーをオン/オフします。

†1. 5ms ~ 42.3sec(fs = 48kHz), 6ms ~ 46.0sec(fs = 44.1kHz)

COMPパラメーターについての一般的な内容は130ページをご参照ください。

COMP 2(コンプレッサー)

「COMP 2」画面にはHIGH-MIDチャンネル、HIGHチャンネルでそれぞれにゲインリダクション(GR)メーター、コンプレッサー曲線、出力レベルメーターが表示されます。



ゲインリダクション(GR)メーターはコンプレッサーによるゲインの減衰量を表示します。コンプレッサー曲線はコンプレッサーの効果を表示します。出力メーターは出力信号レベルを表示します。

各チャンネルのCOMPパラメーター

パラメーター	設定範囲	機能
THRESHOLD	- 54dB ~ 0dB	スレッシュヨルド値を設定します。
RATIO	1:1 ~ - Inf.:1	圧縮比を設定します。
KNEE	HARD, 1, 2, 3, 4, 5	コンプレッサーのかかり方を設定します。
ATTACK	0ms ~ 120ms	アタックタイムを設定します。
RELEASE	†1	リリースタイムを設定します。
GAIN	0.0dB ~ + 18.0dB	出力ゲインを設定します。
ON/OFF	ON/OFF	コンプレッサーをオン / オフします。

†1. 5ms ~ 42.3se(fs = 48kHz), 6ms ~ 46.0se(fs = 44.1kHz)

COMPパラメーターについての一般的な内容は130ページをご参照ください。

はじめに

操作の前に

各部の名称と機能

DME Managerの概要

コンフィグレーションの構築

Runモード

ソフトウェア "DME Manager" のその他の機能

コンポーネントガイド 第1部

コンポーネントガイド 第2部

フロントパネルの操作

GPI インターフェース

PCカード

ワードクロック

複数台のDME32システム

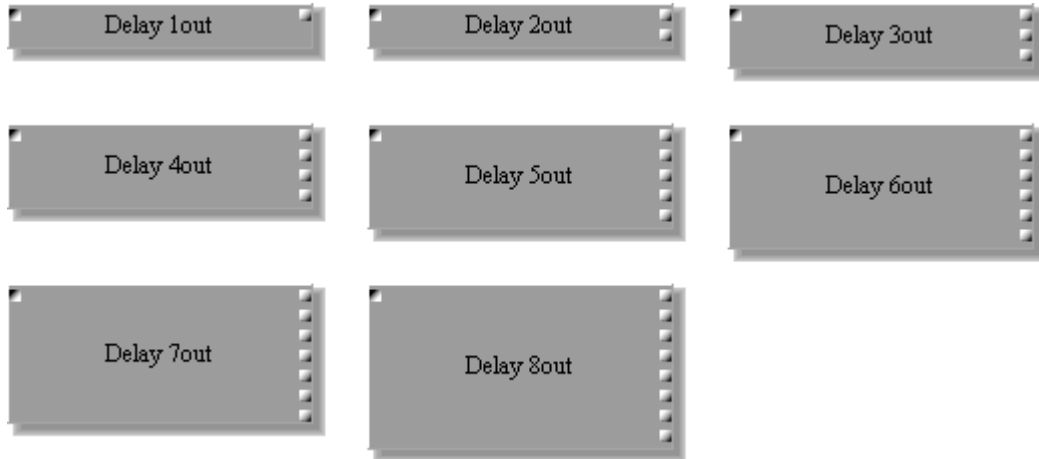
MIDI

I/O オプション

付録

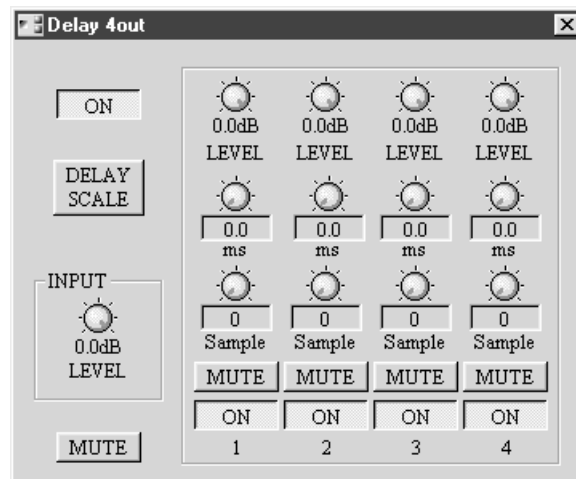
Delay(デイレイ)

デイレイグループには8種類のコンポーネントがあります。各コンポーネントは出力ごとに独立したデイレイ/レベルコントロールを備えたマルチタップデイレイです。デイレイタイムはミリ秒単位のほか、サンプル、メートル、フィート、タイムコードフレーム、ビート(拍数)などでも指定することができます。



いずれのDelayコンポーネントも出力数が異なるだけでその他の部分はまったく同じなので、ここでは「Delay 4 Out」コントロール画面だけをご紹介します。

どの[DELAY]コントロール画面も、DELAY SCALE(デイレイスケール)ボタン、INPUT、デイレイコントロール類の各セクションから構成されています。



[DELAY SCALE]ボタンを押すと「Delay Scale (デイレイスケール)」画面が表示されます。ここではデイレイタイムの単位を選択します。詳細は123ページ「デイレイスケールの設定」を参照してください。

デイレイタイムの設定は画面内のデイレイタイムコントロールをドラッグするだけでなく、コンピュータのキーボードからも設定できます。マウスでコントロールノブの下に表示されている値を選択し、キーボードから数値を直接入力し[Enter]キーを押します。これで新しい値が設定され、その上のコントロールノブが値に対応した位置まで回転します。

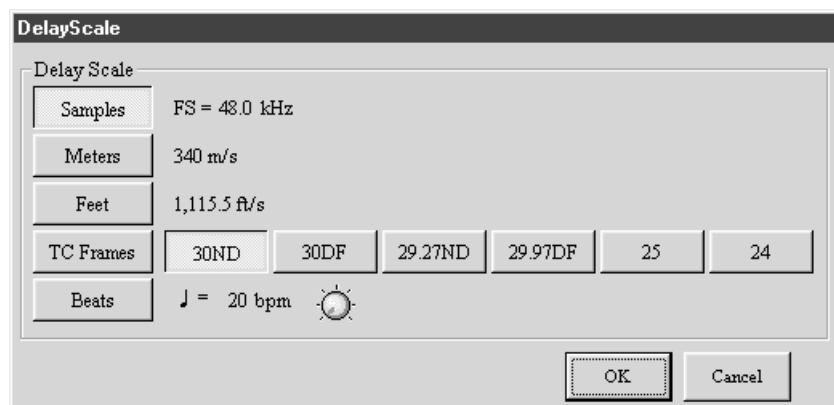
セクション	パラメーター	設定範囲	機能
ON/OFF		ON/OFF	ディレイをオン/オフします。
INPUT	LEVEL	mute ~ 0.0dB	入力信号レベルを設定します。
MUTE		ON/OFF	入力をミュートします。
ディレイ	LEVEL	mute ~ 0.0dB	各出力の信号レベルを設定します。
	ms	0.0 ~ 1,200.0ms	ディレイタイムをミリ秒単位で設定します ([Sample]コントロールノブと連結)。
	Sample ^{†1}	次項「ディレイスケール」の設定をご覧ください。	ディレイタイムを「Delay Scale」画面で指定した単位で設定します([ms]コントロールノブと連結)。
	MUTE	ON/OFF	各出力をミュートします。
	ON/OFF	ON/OFF	各ディレイをオン/オフします。

†1. このコントロールノブの表示はディレイスケールの設定によって異なります。

ディレイスケールの設定

ディレイタイムはミリ秒単位のほか、サンプル、メートル、フィート、タイムコードフレーム、ビート(拍数)などでも指定することができます。

- 1 「Delay」コントロール画面で[DELAY SCALE]ボタンをクリックします。以下の「Delay Scale」画面が表示されます。



“FS”は選択されているワードクロック周波数を示します。340m/sと1115.5 feet/s(気温 = 14 °C、57.2 °F)はそれぞれメートル単位、フィート単位の音速を表します。

- 2 任意の単位を選択します。

単位		FS = 48kHz	FS = 44.1kHz
Sample		0.0 ~ 57600サンプル	0.0 ~ 52920サンプル
Meters		0.0 ~ 408.0メートル	
Feet		0.0 ~ 1338.6フィート	
TC Frames	30ND, 30DF, 29.27ND, 29.97DF	0.0 ~ 35.96フレーム	
	25	0.0 ~ 30.0フレーム	
	24	0.0 ~ 28.8フレーム	
Beats (20 ~ 300bpm)	20bpm	0.000 ~ 4.000	
	300bpm	0.000 ~ 60.00	

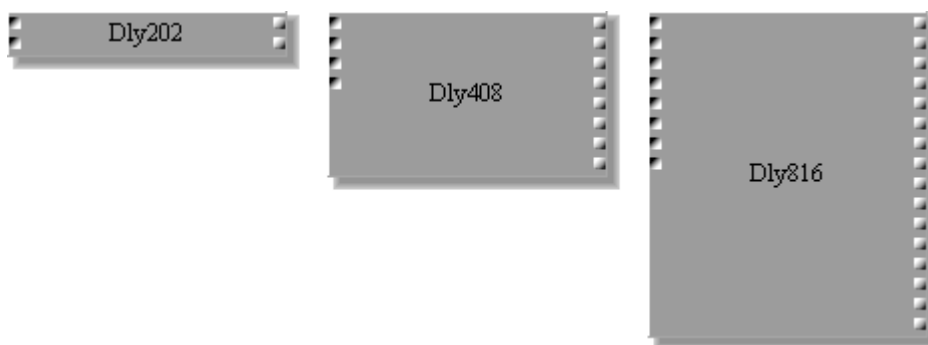
[TC Frames]選択時は適切なフレームレートを30ND、30DF、29.27ND、29.97DF、25、24の中から指定してください。Beats選択時は適切なテンポを20 ~ 300の範囲で指定してください。

- 3 [OK]をクリックして設定を確定し「Delay Scale」画面を閉じるか、[Cancel]をクリックして設定内容を変更せずに画面を終了します。

Delayed Mixer(ディレイドミキサー)

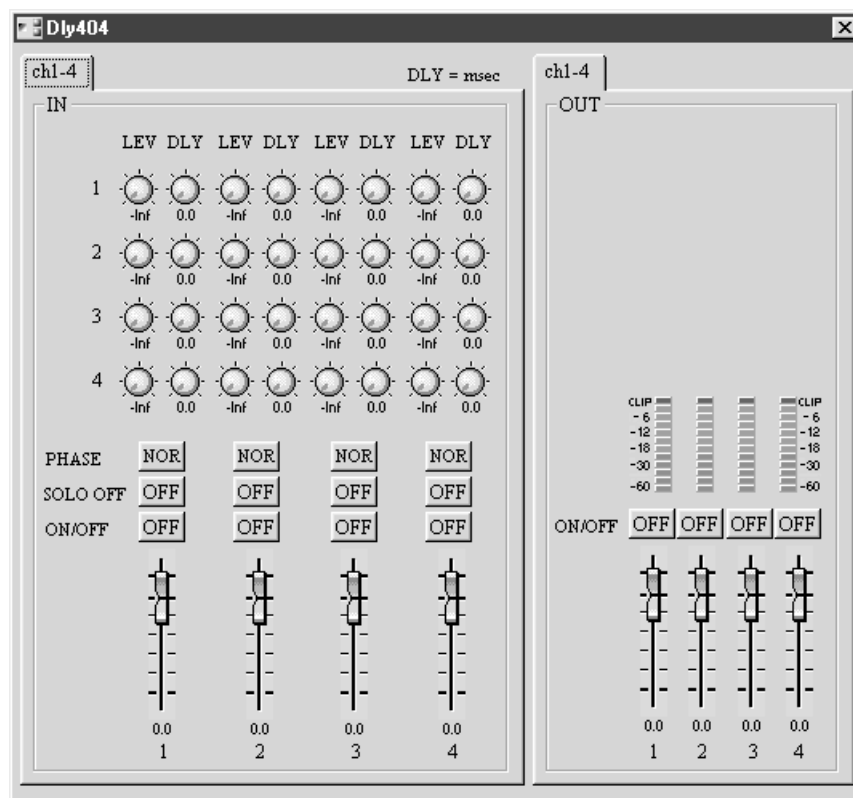
15種類のDelayed Mixerは入力数別に3つのグループ(2x, 4x, 8x)に分類されています。Delayed Mixerとは各センドバスのディレイタイム調整付きのマトリクスミキサーです。

以下の図はグループ分けされたディレイミキサーです。



いずれのDelayed Mixerコンポーネントも入出力数以外は同じですので、ここでは「Delayed Mixer4x4」コントロール画面のみをご紹介します。

各Delayed Mixerのコントロール画面には、IN、各種入力チャンネルコントロール類、OUTの各セクションと、出力チャンネル用のフェーダー、メーターがあります。

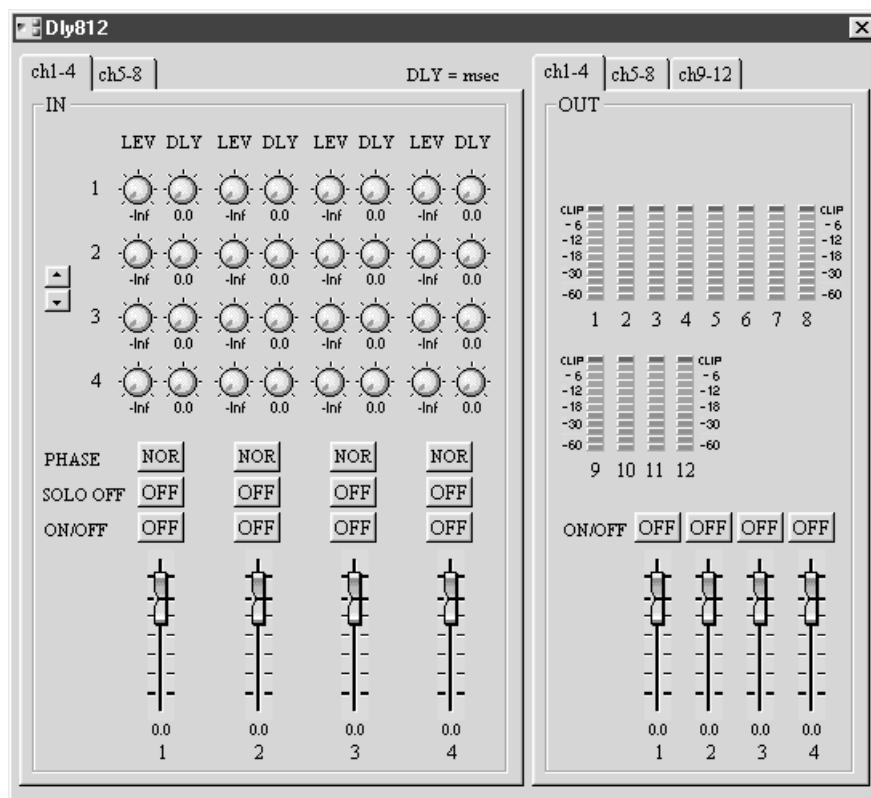


チャンネルがソロされていると[SOLO OFF]は[SOLO ON]になります。インプットチャンネルの[SOLO]ボタンをまとめて確認できないようなコントロール画面ではこの表示ボタンが便利です。

OUTメーターは各出力信号のレベルを表示します。

セクション	パラメーター	設定範囲	機能
IN	LEV(バスレベル)	mute ~ 10.0dB	出力チャンネルに入る各入力チャンネル信号のレベルを設定します。
	DLY(ディレイ)	0.0 ~ 500.0ms	出力チャンネルに入る各入力チャンネル信号のディレイタイムを設定します。
	PHASE	NOR/REV	各入力チャンネル信号を反転します。
	SOLO	ON/OFF	各入力チャンネルをソロ状態にします。
	ON/OFF	ON/OFF	各入力チャンネルをミュートします。
	フェーダー	mute ~ 10.0dB	各入力チャンネルレベルを設定します。
OUT	ON/OFF	ON/OFF	各出力チャンネルをミュートします。
	フェーダー	mute ~ 10.0dB	各出力チャンネルレベルを設定します。

5つ以上の入力を持つDelayed Mixerは入力チャンネルを4つのチャンネルにまとめられます。出力チャンネルも同様です。画面上部のタブをクリックして任意のブロックを選択します。下記は8x12 Delayed Mixerの表示例です。



5つ以上の出力を持つコンポーネント(入力チャンネルごとに5つ以上のバスレベルコントロールを持つコンポーネント)では、INセクションの左側にある上下の矢印をクリックすることでバスレベルを設定するコントロールノブをスクロール表示できます。

はじめに

操作の前に

各部の名称と機能

DME Managerの概要

コンフィグレーションの構築

Runモード

ソフトウェア "DME Manager" のその他の機能

コンポーネントガイド 第1部

コンポーネントガイド 第2部

フロントパネルの操作

GPI インターフェース

PCカード

ワードクロック

複数台の DME32 システム

MIDI

I/O オプション

付録

以下のDelayed Mixerが使用できます。

グループ	ディレイドミキサー	入力	出力
2x	2x2	2	2
	2x4		4
	2x8		8
	2x12		12
	2x16		16
4x	4x2	4	2
	4x4		4
	4x8		8
	4x12		12
	4x16		16
8x	8x2	8	2
	8x4		4
	8x8		8
	8x12		12
	8x16		16

はじめに
操作の前に
各部の名称と機能
DME Managerの概要
コンフィグレーションの構築
Runモード
ソフトウェア "DME Manager" のその他の機能
コンポーネントガイド 第1部
コンポーネントガイド 第2部
フロントパネルの操作
GPI インターフェース
PCカード
ワードクロック
複数台のDME32システム
MIDI
I/O オプション
付録

Dynamics(ダイナミクス)

ダイナミクスグループには、コンパンダー、コンプレッサー、ディエッサー、ダッカー、エクスパンダー、ゲート、ステレオコンパンダー、ステレオコンプレッサー、ステレオダッカー、ステレオディエッサー、ステレオエクスパンダー、ステレオゲートの12種類のコンポーネントがあります。

Compander、Stereo Compander(コンパンダー、ステレオコンパンダー)

Companderはコンプレッサーとエクスパンダーを組み合わせた効果です。コンプレッサーはスレッシュホールドを越える信号を圧縮しエクスパンダーはスレッシュホールドよりも低いレベルの信号を減衰させます。モノチャンネルとステレオチャンネルの2つのCompanderコンポーネントがあります。それらは「SIDECHAIN」ボタンで外部トリガーすることもコンポーネント自身でトリガーすることもできます。

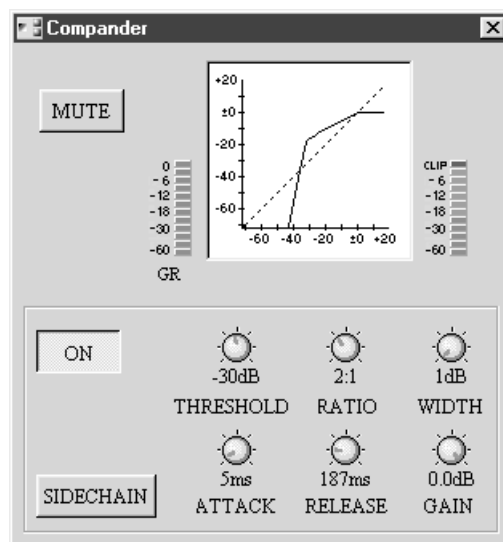


Companderコンポーネントには入出力が各1つずつとSIDECHAIN入力があります。



Stereo Companderコンポーネントには入出力が各2つずつとSIDECHAIN入力があります。

「Compander」コントロール画面は、ゲインリダクション(GR)メーター、コンパンダー曲線、出力レベルメーター、コンパンダーコントロール類から構成されています。



はじめに

操作の前に

各部の名称と機能

DME Managerの概要

コンフィギュレーションの構築

Runモード

ソフトウェア "DME Manager" のその他の機能

コンポーネントガイド 第1部

コンポーネントガイド 第2部

フロントパネルの操作

GPI インターフェース

PCカード

ワードクロック

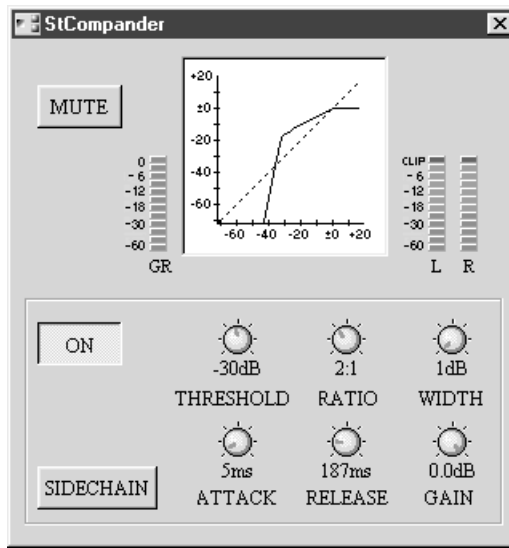
複数台の DME32 システム

MIDI

I/O オプション

付録

「Stereo Compander」コントロール画面は、ゲインリダクション(GR)メーター、コンパンダー曲線、出力レベルメーター、コンパンダーコントロール類から構成されています。



ゲインリダクション(GR)メーターはコンパンダーによるゲインの減衰量を表示します。コンパンダー曲線はコンパンダーの効果を表示します。このグラフの縦軸は出力信号レベル、横軸は入力信号レベルを表し、グラフの傾きが45°の場合は入力信号レベルが出力信号レベルと同等、つまりコンパンダー効果がないことを表します。出力メーターは出力信号レベルを表示します。

パラメーター	設定範囲	機能
MUTE	ON/OFF	出力をミュートします。
ON/OFF	ON/OFF	コンパンダーをオン / オフします。
SIDECHAIN	ON/OFF	トリガーソースとしてサイドチェーン入力を選択します。
THRESHOLD	- 54dB ~ 0dB	スレッシュヨルド値を設定します。
RATIO	1:1 ~ 20:1	圧縮比を設定します。
WIDTH	1dB ~ 90dB	エクスパンダーの幅を設定します。
ATTACK	0ms ~ 120ms	アタックタイムを設定します。
RELEASE	†1	リリースタイムを設定します。
GAIN	- 18dB ~ 0.0dB	出力ゲインを設定します。

†1. 5ms ~ 42.3sec(fs = 48kHz), 6ms ~ 46.0sec(fs = 44.1kHz)

SIDECHAIN(サイドチェーン) SIDECHAINがオフのときは、コンパンダーは入力信号でトリガーされます。ステレオコンパンダーでは両チャンネルの入力がミックスされてトリガー信号となります。高い方のレベルの信号がトリガーになります。SIDECHAINがオンのときは、サイドチェーン入力の信号がトリガーになります。

THRESHOLD(スレッシュヨルド) 圧縮 / 伸長を行うトリガー信号のレベルを設定します。THRESHOLD + WIDTHの設定よりも低いトリガー信号は、エクスパンダーにより減衰されます。スレッシュヨルドを越えたトリガー信号はRAIOパラメーターで指定した比率に応じてコンプレッサーで圧縮されます。

RATIO(レシオ) 圧縮率を指定します。これはトリガー信号のレベル変化に対する出力信号のレベル変化の比率を表したものです。たとえばレシオが2:1の場合、スレッシュホールドを越えたトリガー信号レベルが10dB変化すると、出力レベルは5dB変化します。また、5:1のレシオでは、トリガーレベルが10dB変化すると、出力レベルは2dB変化します。10:1以上のレシオではコンプレッサーというよりリミッター機能になります。

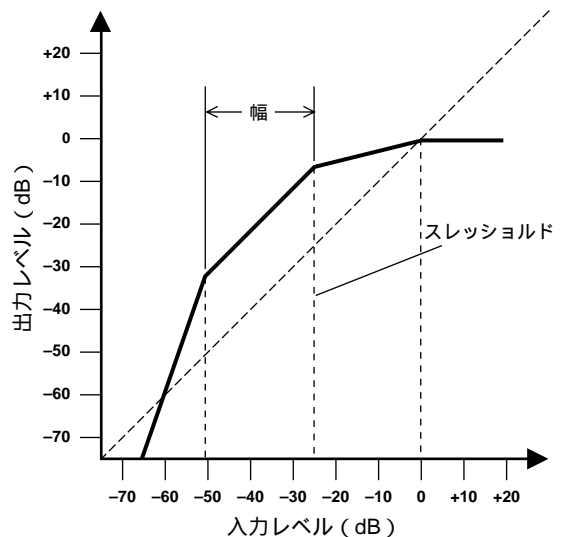
エクパンダーの伸長率は5:1に固定されており、スレッシュホールドより低いトリガー信号レベルが2dB変化すると、出力レベルは10dB変化します。

WIDTH(幅) スレオッシュホールドレベルよりどれだけ下のレベルから伸長を開始するかを設定します。この幅を90dBに設定すると、エクパンダーは実質的にオフになります。

ATTACK(アタック) コンパンダーが作動してからどのくらいの時間で信号を圧縮/伸長するかを設定します。アタックタイムが速い場合は、信号がほぼ瞬時に圧縮/伸長されます。アタックタイムが遅い場合は、サウンドの初期アタック部分は圧縮/伸長されません。アタックタイムの設定は1~5ミリ秒程度から始めてみるといいでしょう。

RELEASE(リリース) トリガー信号のレベルがスレッシュホールドより下がってからどのくらいの時間でコンプレッサーとエクパンダーが通常のゲインに戻るかを設定します。リリースタイムが短すぎるとゲインが急激に戻るため、音が飛び出すように聞こえます(ゲインの変動が耳につきます)。ところがリリースが長すぎると、ゲインが戻らないうちに次のレベルの高い信号が入力されてしまい、圧縮が適切に行われないおそれがあります。リリースタイムの設定は、0.1~0.5秒程度から始めるといいでしょう。

GAIN(ゲイン) コンパンダーの出力信号レベルを設定します。圧縮/伸長によって生じる全体的なレベルの変化を補正するために使用します。



はじめに

操作の前に

各部の名称と機能

DME Managerの概要

コンフィグレーションの構築

Runモード

ソフトウェア "DME Manager" のその他の機能

コンポーネントガイド 第1部

コンポーネントガイド 第2部

フロントパネルの操作

GPI インターフェース

PCカード

ワードクロック

複数台のDME32システム

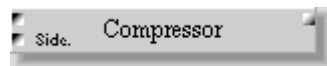
MIDI

I/O オプション

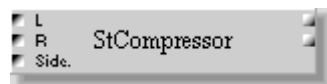
付録

Compressor、Stereo Compressor(コンプレッサー、ステレオコンプレッサー)

Compressorの基本的な役割は信号のダイナミックレンジを狭めることによって、ボーカルやピアノなどダイナミックレンジの広い信号のミックスや録音をやすくします。モノチャンネルとステレオチャンネルの2つのCompressorコンポーネントがあります。それらはSIDECHAIN ボタンで外部トリガーすることもコンポーネント自身でトリガーすることもできます。

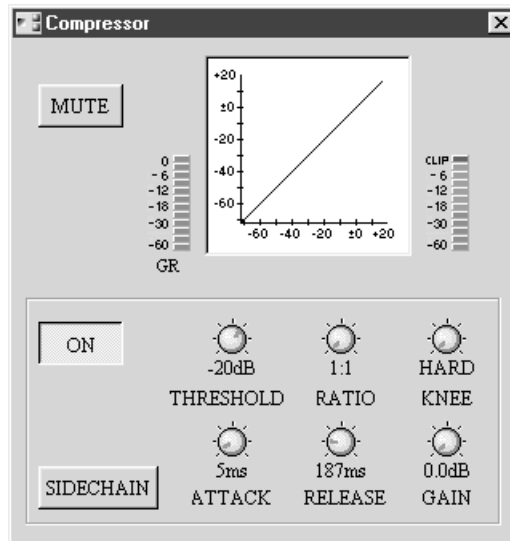


Compressorコンポーネントには入出力が各1つずつとSIDECHAIN入力があります。

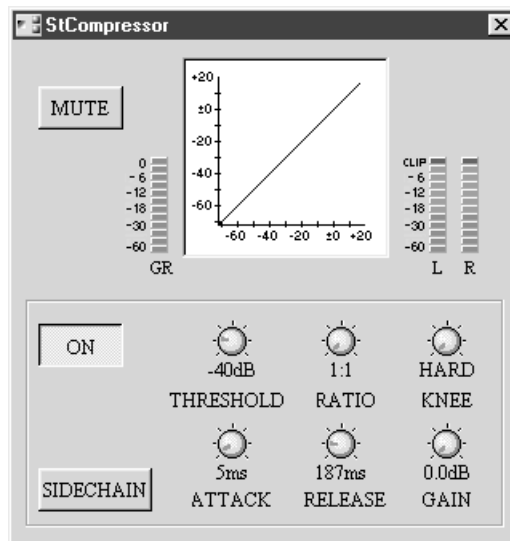


Stereo Compressorコンポーネントには入出力が各2つずつとSIDECHAIN入力があります。

「Compressor」コントロール画面は、ゲインリダクション(GR)メーター、コンプレッサー曲線、出力レベルメーター、コンプレッサーコントロール類から構成されています。



「Stereo Compressor」コントロール画面は、ゲインリダクション(GR)メーター、コンプレッサー曲線、出力レベルメーター、コンプレッサーコントロール類から構成されています。



ゲインリダクション(GR)メーターはコンプレッサーによるゲインの減衰量を表示します。コンプレッサー曲線はコンプレッサーの効果を表示します。このグラフの縦軸は出力信号レベル、横軸は入力信号レベルを表し、グラフの傾きが45°の場合は入力信号レベルが出力信号レベルと同等、つまりコンプレッサー効果がないことを表します。出力メーターは出力信号レベルを表示します。

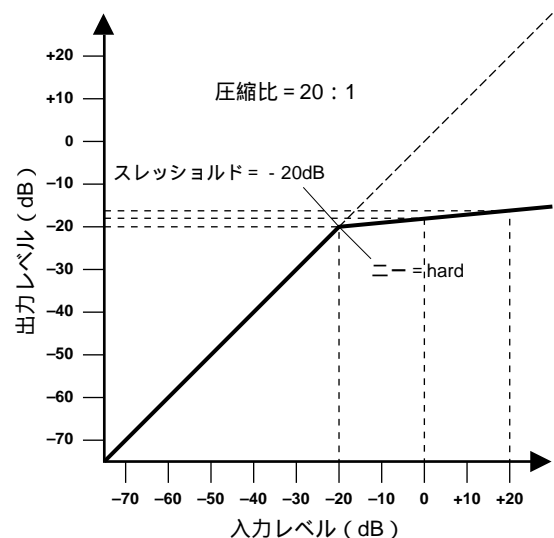
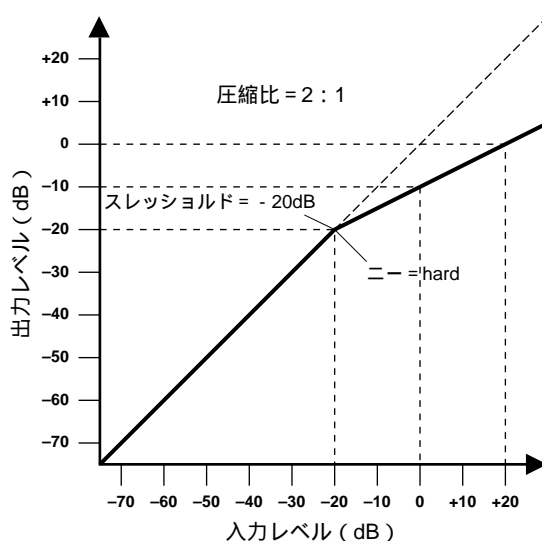
パラメーター	設定範囲	機能
MUTE	ON/OFF	出力をミュートします。
ON/OFF	ON/OFF	コンプレッサーをオン/オフします。
SIDECHAIN	ON/OFF	トリガースourceとしてサイドチェーン入力を選択します。
THRESHOLD	- 54dB ~ 0dB	スレッシュヨルド値を設定します。
RATIO	1:1 ~ - Inf.:1	圧縮比を設定します。
KNEE	HARD, 1, 2, 3, 4, 5	コンプレッサーのかかり方を設定します。
ATTACK	0ms ~ 120ms	アタックタイムを設定します。
RELEASE	†1	リリースタイムを設定します。
GAIN	0.0dB ~ + 18.0dB	出力ゲインを設定します。

†1. 5ms ~ 42.3sec(fs = 48kHz), 6ms ~ 46.0sec(fs = 44.1kHz)

SIDECHAIN(サイドチェーン) SIDECHAINがオフのときは、コンプレッサーは入力信号でトリガーされます。ステレオコンプレッサーでは両チャンネルの入力がミックスされてトリガー信号となります。高い方のレベルの信号がトリガーになります。SIDECHAINがオンのときは、サイドチェーン入力の信号がトリガーになります。

THRESHOLD(スレッシュヨルド) コンプレッサーが作用するトリガー信号レベルを設定します。トリガーレベルがスレッシュヨルドまで到達しない信号は、圧縮されません。レベルがスレッシュヨルドを越えたトリガー信号は、RATIOパラメーターで指定した比率に応じてコンプレッサーで圧縮されます。

RATIO(レシオ) 圧縮率を指定します。これはトリガー信号のレベル変化に対する出力信号のレベル変化の比率を表したものです。たとえばレシオが2:1の場合、スレッシュヨルドを越えたトリガー信号レベルが10dB変化すると、出力レベルは5dB変化します。また、5:1のレシオでは、トリガーレベルが10dB変化すると、出力レベルは2dB変化します。10:1以上のレシオではコンプレッサーというよりリミッター機能になります。



はじめに

操作の前に

各部の名称と機能

DME Managerの概要

コンフィグレーションの構築

Runモード

ソフトウェア "DME Manager" のその他の機能

コンポーネントガイド 第1部

コンポーネントガイド 第2部

フロントパネルの操作

GPI インターフェース

PCカード

ワードクロック

複数台のDME32システム

MIDI

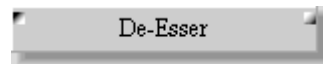
I/O オプション

付録

はじめに	KNEE(ニー) 信号がスレッシュホールドを越えてからどのように圧縮されるかを設定します。HARDに設定すると、トリガー信号のレベルがスレッシュホールドを越えたらすぐに指定されたレシオにしたがって圧縮されます。また、1~5(5=最もソフト)の設定では、スレッシュホールドを越えてから少しずつ圧縮がかかっていくので、より自然なサウンドになります。これを「ソフトニー圧縮」と呼びます。
操作の前に	ATTACK(アタック) コンプレッサーが作動してからどのくらいの時間で信号が圧縮されるかを設定します。アタックタイムが速い場合は、信号がほぼ瞬時に圧縮されます。アタックタイムが遅い場合は、サウンドの初期アタック部分は圧縮されません。アタックタイムの設定は1~5ミリ秒程度から始めてみるといいでしょう。
各部の名称と機能	RELEASE(リリース) トリガー信号のレベルがスレッシュホールドより下がってからどのくらいの時間でコンプレッサーが通常のゲインに戻るかを設定します。リリースタイムが短すぎるとゲインが急激に戻るため、音が飛び出すように聞こえます(ゲインの変動が耳につきます)。ところがリリースが長すぎると、ゲインが戻らないうちに次のレベルの高い信号が入力されてしまい、圧縮が適切に行われぬおそれがあります。リリースタイムの設定は、0.1~0.5秒程度から始めるといいでしょう。
DME Managerの概要	GAIN(ゲイン) コンプレッサーの出力信号レベルを設定します。圧縮によって生じる全体的なレベルの変化を補正するために使用します。
コンフィグレーションの構築	
Runモード	
ソフトウェア "DME Manager" のその他の機能	
コンポーネントガイド 第1部	
コンポーネントガイド 第2部	
フロントパネルの操作	
GPIインターフェース	
PCカード	
ワードクロック	
複数台のDME32システム	
MIDI	
I/Oオプション	
付録	

De-Esser、Stereo De-Esser(ディエッサー、ステレオディエッサー)

De-Esserの基本的な役割は指定周波数以上の信号を圧縮することで、主にスピーチに含まれるサ行などの歯擦音によるノイズを抑えます。モノチャンネルとステレオチャンネルの2つのDe-Esserコンポーネントがあります。

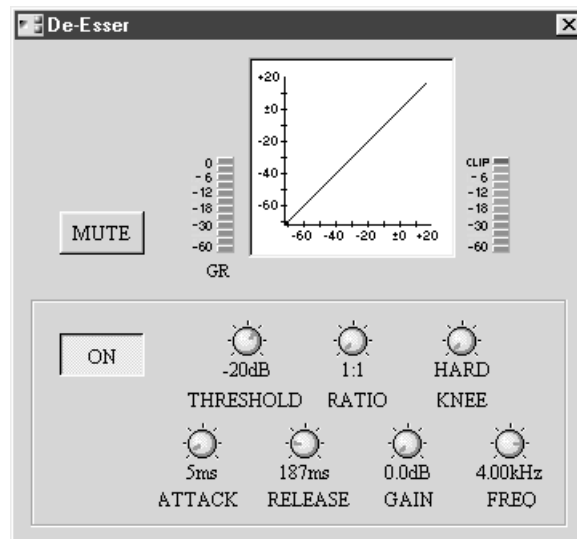


De-Esserコンポーネントには入出力が各1つずつあります。

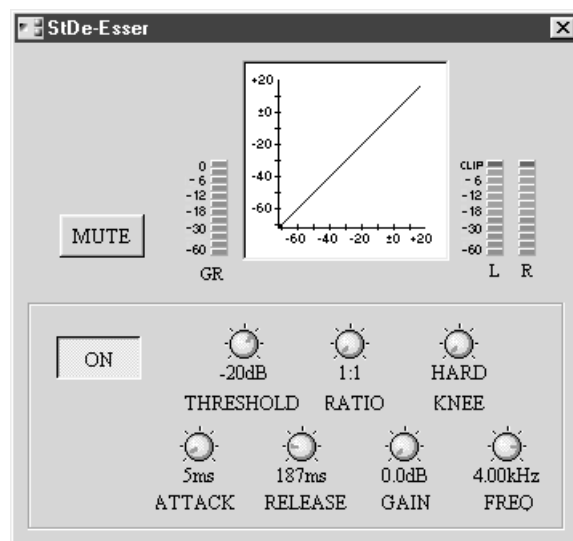


Stereo De-Esserコンポーネントには入出力が各2つずつあります。

「De-Esser」コントロール画面は、ゲインリダクション(GR)メーター、ディエッサー曲線、出力レベルメーター、ディエッサーコントロール類から構成されています。



「Stereo De-Esser」コントロール画面は、ゲインリダクション(GR)メーター、ディエッサー曲線、出力レベルメーター、ディエッサーコントロール類から構成されています。



はじめに

操作の前に

各部の名称と機能

DME Managerの概要

コンフィグレーションの構築

Runモード

ソフトウェア "DME Manager" のその他の機能

コンポーネントガイド 第1部

コンポーネントガイド 第2部

フロントパネルの操作

GPI インターフェース

PCカード

ワードクロック

複数台のDME32システム

MIDI

I/O オプション

付録

はじめに

操作の前に

各部の名称と機能

DME Manager の概要

コンフィグレーションの構築

Runモード

ソフトウェア "DME Manager" のその他の機能

コンポーネントガイド 第1部

コンポーネントガイド 第2部

フロントパネルの操作

GPI インターフェース

PCカード

ワードクロック

複数台の DME32 システム

MIDI

I/O オプション

付録

ゲインリダクション(GR)メーターはディエッサーによるゲインの減衰量を表示しません。ディエッサー曲線はディエッサーの効果を表示します。このグラフの縦軸は出力信号レベル、横軸は入力信号レベルを表し、グラフの傾きが45°の場合は入力信号レベルが出力信号レベルと同等、つまりディエッサー効果がないことを表します。出力メーターは出力信号レベルを表示します。

パラメーター	設定範囲	機能
MUTE	ON/OFF	出力をミュートします。
ON/OFF	ON/OFF	ディエッサーをオン / オフします。
THRESHOLD	- 54dB ~ 0dB	スレッシュホールド値を設定します。
RATIO	1:1 ~ - Inf.:1	圧縮比を設定します。
KNEE	HARD, 1, 2, 3, 4, 5	ディエッサーのかかり方を設定します。
ATTACK	0ms ~ 120ms	アタックタイムを設定します。
RELEASE	†1	リリースタイムを設定します。
GAIN	0.0dB ~ + 18.0dB	出力ゲインを設定します。
FREQ	80.0Hz ~ 10.0kHz	圧縮をかける信号の最低周波数を設定します。

†1. 5ms ~ 42.3sec(fs = 48kHz), 6ms ~ 46.0sec(fs = 44.1kHz)

THRESHOLD(スレッシュホールド) ディエッサーが作用する入力信号レベルを設定します。ステレオディエッサーでは両チャンネルの入力がミックスされてトリガー信号となります。高い方のレベルの信号がトリガーになります。トリガー信号レベルがスレッシュホールドまで到達せず指定周波数以下の信号は、ディエッサーの影響を受けません。レベルがスレッシュホールドを越え指定周波数以上の信号は、RATIOパラメーターで指定した比率に応じて圧縮されます。

RATIO(レシオ) 圧縮率を指定します。これは指定された周波数以上での入力信号のレベル変化に対する出力信号のレベル変化の比率を表したものです。たとえばレシオが2:1の場合、スレッシュホールドを越えた入力信号レベルが10dB変化すると、出力レベルは5dB変化します。また、5:1のレシオでは、入力レベルが10dB変化すると、出力レベルは2dB変化します。10:1以上のレシオではコンプレッサーというよりリミッター機能になります。

KNEE(ニー) 信号がスレッシュホールドを越えてからどのように圧縮されるかを設定します。HARDに設定すると、入力信号のレベルがスレッシュホールドを越えたらすぐに指定されたレシオにしたがって指定周波数以上の信号が圧縮されます。また、1~5(5 = 最もソフト) の設定では、スレッシュホールドを越えてから少しずつ圧縮がかかっていくので、より自然なサウンドになります。

ATTACK(アタック) ディエッサーがトリガーされてからどのくらいの時間で信号が圧縮されるかを設定します。アタックタイムが速い場合は、信号がほぼ瞬時に圧縮されます。アタックタイムが遅い場合は、サウンドの初期アタック部分は圧縮されません。

RELEASE(リリース) トリガー信号のレベルがスレッシュホールドより下がってからどのくらいの時間でディエッサーが通常のゲインに戻るかを設定します。リリースタイムが短すぎるとゲインが急激に戻るため、音が飛び出すように聞こえます(ゲインの変動が耳につきます)。ところがリリースが長すぎると、ゲインが戻らないうちに次のレベルの高い指定周波数以上の信号が入力されてしまい、圧縮が適切に行われないうちにおそれがあります。

GAIN(ゲイン) ディエッサーの出力信号レベルを設定します。圧縮によって生じる指定周波数以上の信号のレベルの変化を補正するために使用します。

FREQ(フリケンシー) ディエッサーが動作しているときに圧縮をかける信号の最低周波数を設定します。

Ducker、Stereo Ducker(ダッカー、ステレオダッカー)

Duckerは別の音源をトリガーとして、信号レベルをダイナミックに調整します。Duckerコンポーネント自身でトリガーすることも[SIDECHAIN]ボタンで外部トリガーすることもできます。モノチャンネルとステレオチャンネルの2つのDuckerコンポーネントがあります。

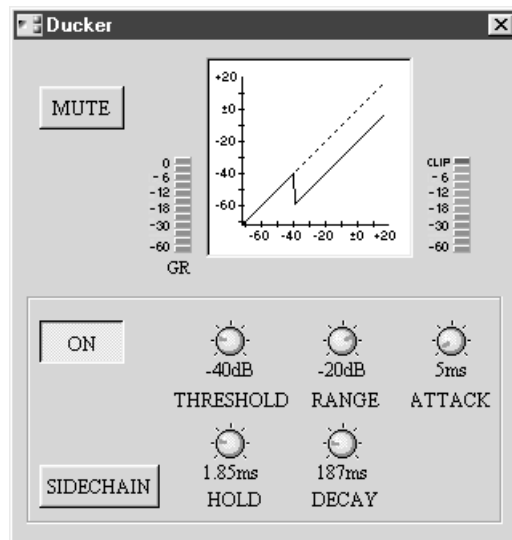


Duckerコンポーネントには入出力が各1つずつとSIDECHAIN入力があります。

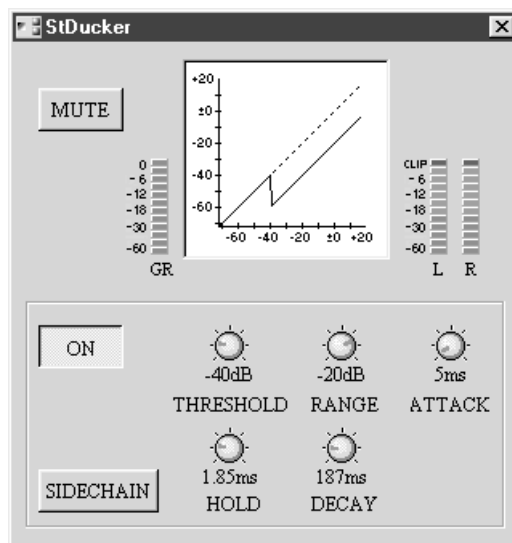


Stereo Duckerコンポーネントには入出力が各2つずつとSIDECHAIN入力があります。

「Ducker」コントロール画面は、ゲインリダクション(GR)メーター、ダッカー曲線、出力レベルメーター、ダッカーコントロール類から構成されています。



「Stereo Ducker」コントロール画面は、ゲインリダクション(GR)メーター、ダッカー曲線、出力レベルメーター、ダッカーコントロール類から構成されています。



はじめに

操作の前に

各部の名称と機能

DME Managerの概要

コンフィグレーションの構築

Runモード

ソフトウェア "DME Manager" のその他の機能

コンポーネントガイド 第1部

コンポーネントガイド 第2部

フロントパネルの操作

GPI インターフェース

PCカード

ワードクロック

複数台の DME32 システム

MIDI

I/O オプション

付録

はじめに

操作の前に

各部の名称と機能

DME Manager の概要

コンフィグレーションの構築

Runモード

ソフトウェア "DME Manager" のその他の機能

コンポーネントガイド 第1部

コンポーネントガイド 第2部

フロントパネルの操作

GPI インターフェース

PCカード

ワードクロック

複数台の DME32 システム

MIDI

I/O オプション

付録

ゲインリダクション(GR)メーターはダッカーによるゲインの減衰量を表示します。ダッカー曲線はダッカーの効果を表示します。このグラフの縦軸は出力信号レベル、横軸は入力信号レベルを表し、グラフの傾きが45 °の場合は入力信号レベルが出力信号レベルと同等、つまりダッカー効果がないことを表します。出力メーターは出力信号レベルを表示します。

パラメーター	設定範囲	機能
MUTE	ON/OFF	出力をミュートします。
ON/OFF	ON/OFF	ダッカーをオン / オフします。
SIDECHAIN	ON/OFF	トリガーソースとしてサイドチェーン入力を選択します。
THRESHOLD	- 54dB ~ 0dB	スレッシュヨルド値を設定します。
RANGE	- 70dB ~ 0dB	レンジを設定します。
ATTACK	0ms ~ 120ms	アタックタイムを設定します。
HOLD	†1	ホールドタイムを設定します。
DECAY	†2	ディケイタイムを設定します。

†1. 0.02ms ~ 1.96sec(fs = 48kHz) , 0.02ms ~ 2.13sec(fs = 44.1kHz)
 †2. 5ms ~ 42.3sec(fs = 48kHz) , 6ms ~ 46.0sec(fs = 44.1kHz)

SIDECHAIN(サイドチェーン) SIDECHAINがオフのときは、ダッカーは入力信号でトリガーされます。ステレオダッカーでは両チャンネルの入力がミックスされてトリガー信号となります。高い方のレベルの信号がトリガーになります。SIDECHAINがオンのときは、サイドチェーン入力の信号がトリガーになります。

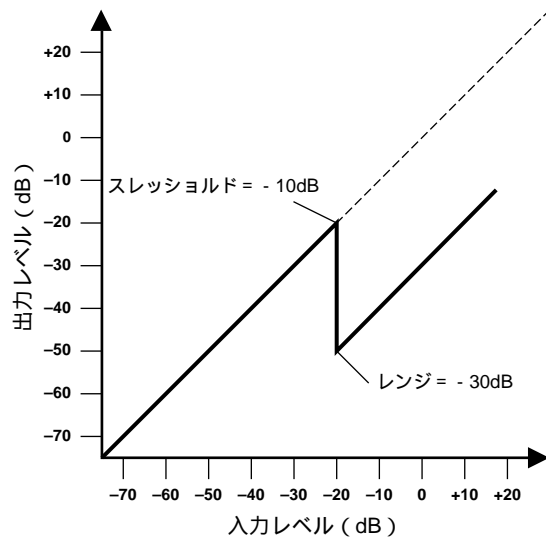
THRESHOLD(スレッシュヨルド) ダッキングを作動させるトリガー信号のレベルを設定します。スレッシュヨルドより低い場合は、ダッキングが作動しません。信号がスレッシュヨルドを越えるとダッキングが作動し、RANGEパラメーターの設定に応じて信号が減衰します。

RANGE(レンジ) 信号をダッキングしたときのレベルを設定します。- 70dBに設定すると、実際には信号がカットされます。また、- 30dBの設定では信号が30dB減衰し、0dBの設定ではダッキング効果が起こらなくなります。

ATTACK(アタック) ダッカーが、作動してからどのくらいの時間で信号をダッキングさせるかを設定します。アタックタイムが速い場合は、信号がほぼ瞬時にダッキングされます。また、アタックタイムが遅い場合は、ダッキング効果により信号がフェードインします。アタックタイムが速すぎるとレベル変化が唐突に聞こえますので、ご注意ください。

HOLD(ホールド) トリガー信号がスレッシュヨルドより下がってからどのくらいの時間ダッキングの動作を続けるかを設定します。

DECAY(ディケイ) トリガー信号のレベルがスレッシュヨルドより下がってからどのくらいの時間で、ダッカーが信号を通常のゲインに戻すかを設定します。



Expander、Stereo Expander(エクスパンダー、ステレオエクスパンダー)

Expanderは信号のダイナミックレンジを広げることでノイズなどの低レベル信号を軽減させ、その結果S/N比を向上させます。モノチャンネルとステレオチャンネルの2つのExpanderコンポーネントがあります。

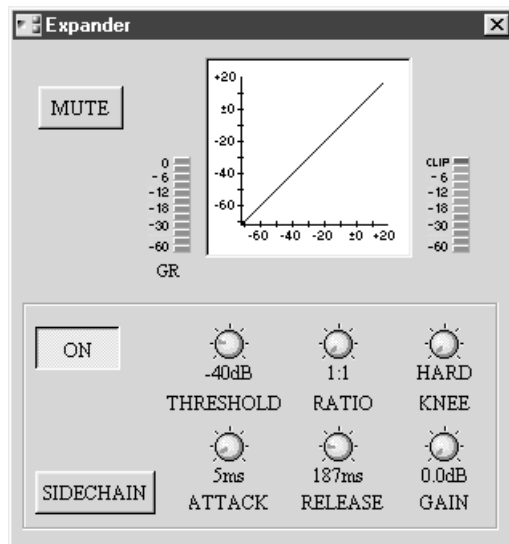


Expanderコンポーネントには入出力が各1つずつとSIDECHAIN入力があります。

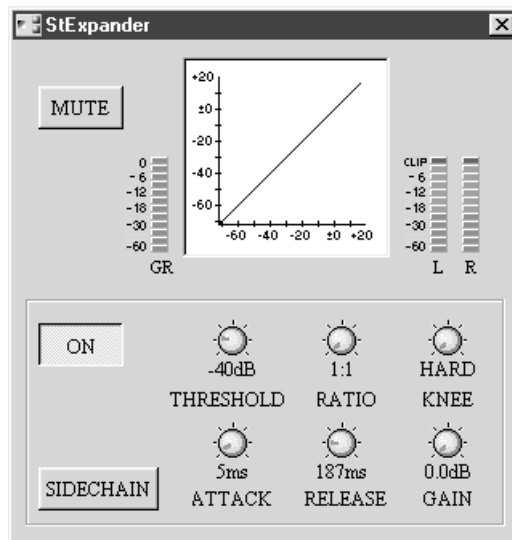


Stereo Expanderコンポーネントには入出力が各2つずつとSIDECHAIN入力があります。

「Expander」コントロール画面は、ゲインリダクション(GR)メーター、エクスパンダー曲線、出力レベルメーター、エクスパンダーコントロール類から構成されています。



「Stereo Expander」コントロール画面は、ゲインリダクション(GR)メーター、エクスパンダー曲線、出力レベルメーター、エクスパンダーコントロール類から構成されています。



はじめに

操作の前に

各部の名称と機能

DME Managerの概要

コンフィグレーションの構築

Runモード

ソフトウェア "DME Manager" のその他の機能

コンポーネントガイド 第1部

コンポーネントガイド 第2部

フロントパネルの操作

GPI インターフェース

PCカード

ワードクロック

複数台の DME32 システム

MIDI

I/O オプション

付録

はじめに

操作の前に

各部の名称と機能

DME Manager の概要

コンフィグレーションの構築

Runモード

ソフトウェア "DME Manager" のその他の機能

コンポーネントガイド 第1部

コンポーネントガイド 第2部

フロントパネルの操作

GPI インターフェース

PCカード

ワードクロック

複数台の DME32 システム

MIDI

I/O オプション

付録

ゲインリダクション(GR)メーターはエクスペンダーによるゲインの減衰量を表示します。エクスペンダー曲線はエクスペンダーの効果を表示します。このグラフの縦軸は出力信号レベル、横軸は入力信号レベルを表し、グラフの傾きが45°の場合は入力信号レベルが出力信号レベルと同等、つまりエクスペンダー効果がないことを表します。出力メーターは出力信号レベルを表示します。

パラメーター	設定範囲	機能
MUTE	ON/OFF	出力をミュートします。
ON/OFF	ON/OFF	エクスペンダーをオン / オフします。
SIDECHAIN	ON/OFF	トリガーソースとしてサイドチェーン入力を選択します。
THRESHOLD	- 54dB ~ 0dB	スレッシュヨルド値を設定します。
RATIO	1:1 ~ - Inf.:1	伸長率を設定します。
KNEE	HARD, 1, 2, 3, 4, 5	エクスペンダーのかかり方を設定します。
ATTACK	0ms ~ 120ms	アタックタイムを設定します。
RELEASE	†1	リリースタイムを設定します。
GAIN	0.0dB ~ + 18.0dB	出力ゲインを設定します。

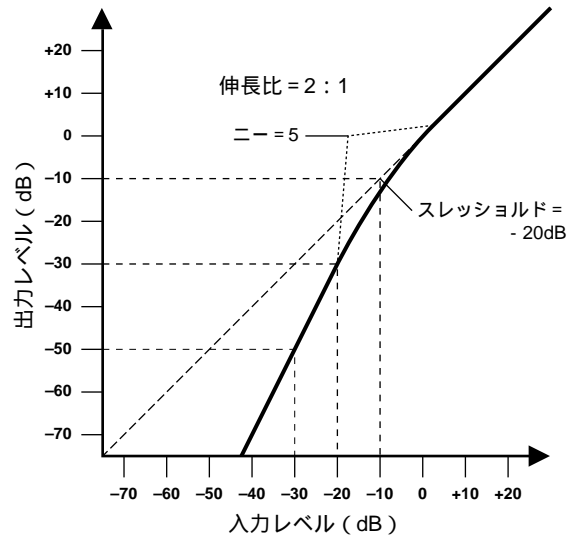
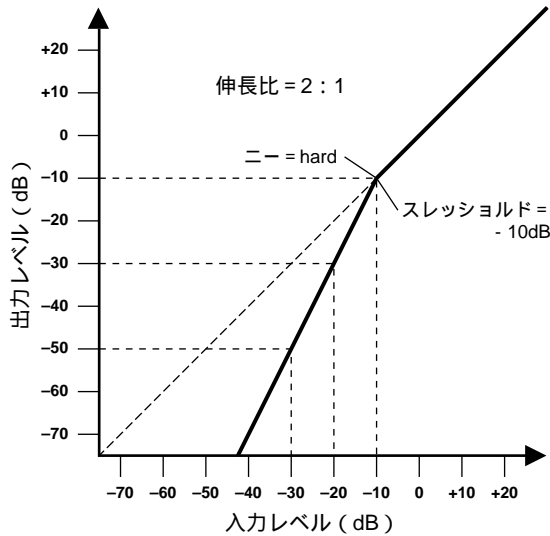
†1. 5ms ~ 42.3sec(fs = 48kHz) , 6ms ~ 46.0sec(fs = 44.1kHz)

SIDECHAIN(サイドチェーン) SIDECHAINがオフのときは、エクスペンダーは入力信号でトリガーされます。ステレオエクスペンダーでは両チャンネルの入力がミックスされてトリガー信号となります。高い方のレベルの信号がトリガーになります。SIDECHAINがオンのときは、サイドチェーン入力の信号がトリガーになります。

THRESHOLD(スレッシュヨルド) エクスペンダーを作動するトリガー信号のレベルを設定します。スレッシュヨルドを越えた信号にはエクスペンダーはかかりません。トリガー信号レベルがスレッシュヨルドより低い信号は、RATIOパラメーターで指定されたレシオに応じて減衰します。

RATIO(レシオ) エクスペンダーの比率を指定します。これはトリガー信号のレベル変化に対する出力信号のレベル変化の比率を表したものです。比率が2:1の場合、トリガー信号レベルがスレッシュヨルドより低い領域で5dB変化すると、出力レベルは10dBの変化となります。また、5:1の比率ではトリガーレベルが2dB変化すると、出力レベルが10dB変化します。Inf(無限):1の比率ではゲートと同じ効果になります。

KNEE(ニー) 信号がスレッシュヨルドより下がってからどのように伸長されるかを設定します。HARDに設定すると、トリガー信号のレベルがスレッシュヨルドより下がったらずちに指定されたレシオで伸長されます。また、1~5(ハード~ソフト)の設定では、スレッシュヨルドより下がる前から少しずつ伸長されていくので、より自然なサウンドになります。



ATTACK(アタック) エクスパンダーが作動してからどのくらいの時間で信号を伸長するかを設定します。アタックタイムが早い場合は、信号がほぼ瞬時に伸長されます。アタックタイムが遅い場合は、サウンドのアタック部分は伸長されません。アタックタイムを設定するには1~5ミリ秒程度から始めるといいでしょう。

RELEASE(リリース) トリガー信号のレベルがスレッシュヨルドを越えてからどのくらいの時間でエクスパンダーが通常のゲインに戻るかを設定します。リリースタイムが短すぎるとゲインが急激に戻るため、音が飛び出すように聞こえます(ゲインの変動が耳につきます)。ところがリリースが長すぎると、ゲインが戻らないうちに次のレベルの低い信号が入力されてしまい、伸長が適切に行われぬおそれがあります。リリースタイムの設定は、0.1~0.5秒程度から始めるといいでしょう。

GAIN(ゲイン) エクスパンダーの出力信号レベルを設定します。伸長によって生じる全体的なレベルの変化を補正するために使用します。

はじめに

操作の前に

各部の名称と機能

DME Managerの概要

コンフィグレーションの構築

Runモード

ソフトウェア "DME Manager" のその他の機能

コンポーネントガイド 第1部

コンポーネントガイド 第2部

フロントパネルの操作

GPIインターフェース

PCカード

ワードクロック

複数台のDME32システム

MIDI

I/Oオプション

付録

Gate、Stereo Gate(ゲート、ステレオゲート)

Gate、またはノイズゲートと呼ばれるこのタイプは、本来スレッシュホールドレベルより低い信号をミュートさせるオーディオスイッチのようなものです。モノチャンネルとステレオチャンネルの2つのGateコンポーネントがあります。

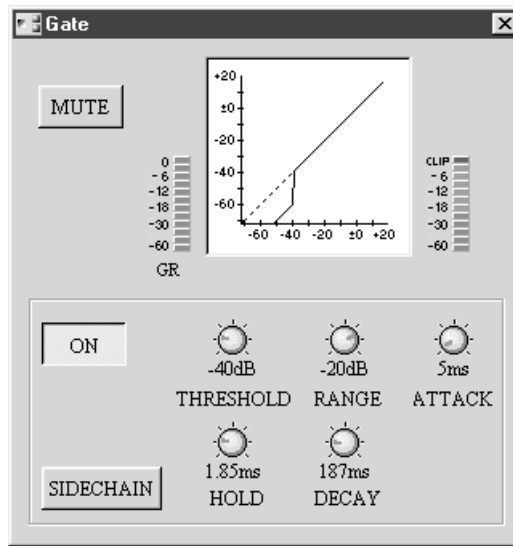


Gateコンポーネントには入出力が各1つずつとSIDECHAIN入力があります。

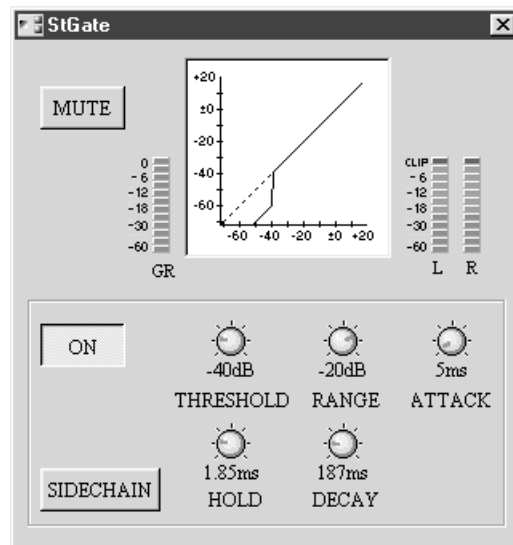


Stereo Gateコンポーネントには入出力が各2つずつとSIDECHAIN入力があります。

「Gate」コントロール画面は、ゲインリダクション(GR)メーター、ゲート曲線、出力レベルメーター、ゲートコントロール類から構成されています。



「Stereo Gate」コントロール画面は、ゲインリダクション(GR)メーター、ゲート曲線、出力レベルメーター、ゲートコントロール類から構成されています。



ゲインリダクション(GR)メーターはゲートによるゲインの減衰量を表示します。ゲート曲線はゲートの効果を表示します。このグラフの縦軸は出力信号レベル、横軸は入力信号レベルを表し、グラフの傾きが45°の場合は入力信号レベルが出力信号レベルと同等、つまりゲート効果がないことを表します。出力メーターは出力信号レベルを表示します。

パラメーター	設定範囲	機能
MUTE	ON/OFF	出力をミュートします。
ON/OFF	ON/OFF	ゲートをオン/オフします。
SIDECHAIN	ON/OFF	トリガーソースとしてサイドチェーン入力を選択します。
THRESHOLD	- 54dB ~ 0dB	スレッシュヨルド値を設定します。
RANGE	- 70dB ~ 0dB	レンジを設定します。
ATTACK	0ms ~ 120ms	アタックタイムを設定します。
HOLD	†1	ホールドタイムを設定します。
DECAY	†2	ディケイタイムを設定します。

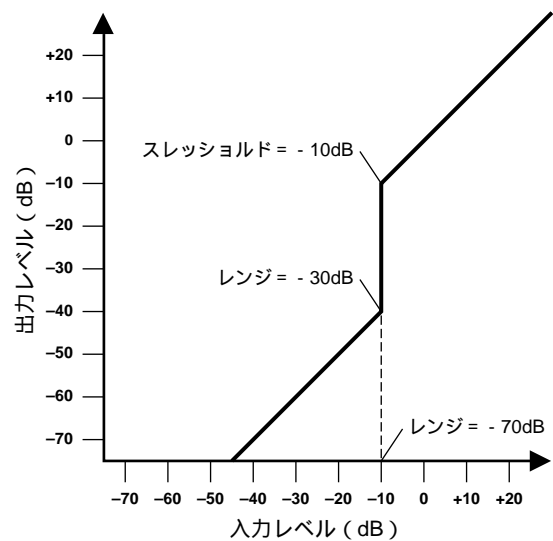
†1. 0.02ms ~ 1.96sec(fs = 48kHz), 0.02ms ~ 2.13sec(fs = 44.1kHz)

†2. 5ms ~ 42.3sec(fs = 48kHz), 6ms ~ 46.0sec(fs = 44.1kHz)

SIDECHAIN(サイドチェーン) SIDECHAINがオフのときは、ゲートは入力信号でトリガーされます。ステレオゲートでは両チャンネルの入力がミックスされてトリガー信号となります。高い方のレベルの信号がトリガーになります。SIDECHAINがオンのときは、サイドチェーン入力の信号がトリガーになります。

THRESHOLD(スレッシュヨルド) ゲートが閉じて信号がカットされるトリガー信号レベルを設定します。スレッシュヨルドを越えた信号は影響を受けずにそのまま通過し、スレッシュヨルドよりレベルの低いトリガー信号ではゲートが閉じます。

RANGE(レンジ) ゲートを閉じるときのレベルを設定します。少し開いた門をブロックで開けたまま固定するようなもので、常に一定量の信号が通過するように設定できます。- 70dBの設定では、トリガー信号がスレッシュヨルドより低い場合はゲートが完全に閉じます。- 30dBの設定ではゲートがそのレベルまで閉じ、0dBの設定ではゲートが無効となります。ゲートをかけすぎると信号が突然消えるために響きが不自然になることがあります。このパラメーターを使えば、ゲートで信号を完全にカットしてしまうのではなく、信号レベルを減衰させる用途に利用できます。



ATTACK(アタック) トリガー信号がスレッシュヨルドを越えてからどのくらいの時間でゲートが開くかを設定します。アタックタイムを遅くすれば、パーカッシブサウンドの最初の立ち上がり部分を除去する用途に使えます。あまり遅くしすぎると、サウンドが逆方向に再生されているように聞こえることがあります。

HOLD(ホールド) トリガー信号がスレッシュヨルドより下がってからどのくらいの時間ゲートを開けておくかを設定します。

DECAY(ディケイ) 上記のホールドタイムが終わってからどのくらいの時間でゲートを閉じるかを設定します。ディケイタイムが長いほど自然なゲートの効果が得られ、楽器の自然な減衰音を再現できます。

はじめに

操作の前に

各部の名称と機能

DME Managerの概要

コンフィグレーションの構築

Runモード

ソフトウェア "DME Manager" のその他の機能

コンポーネントガイド 第1部

コンポーネントガイド 第2部

フロントパネルの操作

GPI インターフェース

PCカード

ワードクロック

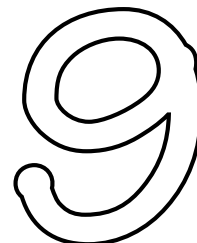
複数台のDME32システム

MIDI

I/O オプション

付録

コンポーネントガイド 第2部



本章の目次

Effect(エフェクト).....	144
EQ(イコライザー).....	164
Fader(フェーダー).....	167
Filter(フィルター).....	168
Input/Output	172
Matrix Mixer(マトリクスミキサー).....	173
Meter(メーター).....	176
Misc(その他).....	177
Par(パン).....	180
Router(ルーター).....	189
Switch(スイッチ).....	191
User Control(ユーザーコントロール).....	192
User Module(ユーザーモジュール).....	195

はじめに

操作の前に

各部の名称
と機能

DME
Manager
の概要

コンフィグ
レーション
の構築

Runモード

ソフトウェア
"DME Manager"
のその他の機能

コンポーネント
ガイド 第1部

コンポーネント
ガイド 第2部

フロント
パネルの
操作

GPI
インター
フェース

PCカード

ワード
クロック

複数台の
DME32
システム

MIDI

I/O
オプション

付録

Effect(エフェクト)

エフェクトグループには23種類のコンポーネントを用意しています。

Reverb(リバース)系のエフェクト

Reverb Hall、Reverb Room、Reverb Stage、Reverb Plate、Early Ref、Gate Reverb、Reverse Gateがあります。

Delay(デレイ)系のエフェクト

Mono Delay、Stereo Delay、Mod Delay、Delay LCR、Echoがあります。

Modulation(モジュレーション)系のエフェクト

Chorus、Flange、Symphonic、Phaser、Auto Pan、Tremolo、HQ Pitch、Dual Pitch、Mod Filter、Dyna Filter、Dyna Flangeがあります。

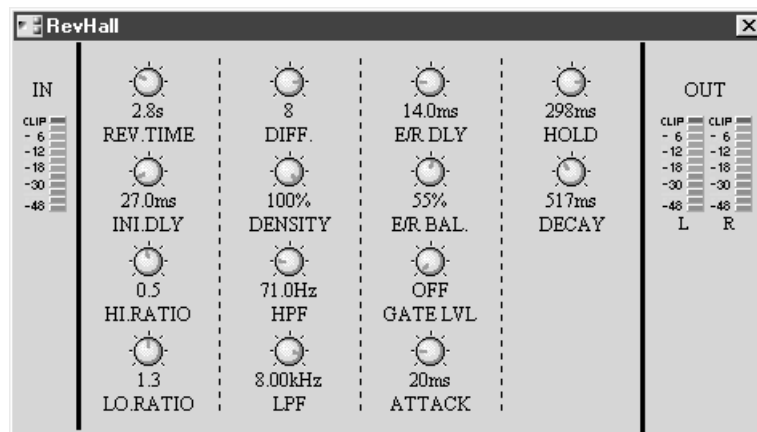
Reverb Hall、Reverb Room、Reverb Stage、Reverb Plate

Reverb Hallコンポーネントはコンサートホールなどの広い空間をシミュレートし、Reverb Roomはそれより小さな空間(部屋)での響きをシミュレートします。また、Reverb Stageはボーカルに理想的なライブステージでの音響をシミュレートし、Reverb Plateでは鉄板エコーの硬めの残響感が得られます。



いずれのコンポーネントも入力が1つとステレオ出力があります。各コンポーネントはリバースアルゴリズムが異なるだけで他はまったく同じなので、ここでは「Reverb Hall」コントロール画面だけをご紹介します。

どのコントロール画面も、リバースコントロール類、入力レベルメーター、ステレオ出力レベルメーターで構成されています。



INメーターは入力信号レベルを、OUTメーターはステレオ出力信号のレベルを表示します。

パラメーター	設定範囲	機能
REV TIME	0.3 ~ 99.0sec	リバーブの残響の長さ
INI.DLY	0.0 ~ 500.0ms	リバーブの初期反射音が出るまでの遅延時間
HI.RATIO	0.1 ~ 1.0	リバーブの高域成分の残響時間をREV TIMEに対する比率で表したもの
LO.RATIO	0.1 ~ 2.4	リバーブの低域成分の残響時間をREV TIMEに対する比率で表したもの
DIFF.	0 ~ 10	リバーブ音の左右のひろがり
DENSITY	0 ~ 100%	リバーブの密度
HPF	THRU, 21.2Hz ~ 8.00kHz	ハイパスフィルターのカットオフ周波数(THRU = フィルターをオフ)
LPF	50.0Hz ~ 16.0kHz, THRU	ローパスフィルターのカットオフ周波数(THRU = フィルターをオフ)
E/R DLY	0.0 ~ 100.0ms	初期反射音(ER)からリバーブまでの遅延時間
E/R BAL.	0 ~ 100%	初期反射音とリバーブの音量バランス(0% = リバーブのみ、100% = 初期反射音のみ)
GATE LVL	OFF, - 60 ~ 0dB	ゲートのスレッシュホールドレベル(OFF = ゲートをオフ)
ATTACK	0 ~ 120ms	ゲートが開くのにかかる時間
HOLD	†1	ゲートが閉じ始めるまでの時間
DECAY	†2	ゲートが閉じる速さ

†1. 0.02ms ~ 2.13sec(fs = 44.1kHz), 0.02ms ~ 1.96sec(fs = 48kHz)

†2. 6ms ~ 46.0sec(fs = 44.1kHz), 5ms ~ 42.3sec(fs = 48kHz)

はじめに

操作の前に

各部の名称と機能

DME Managerの概要

コンフィグレーションの構築

Runモード

ソフトウェア "DME Manager" のその他の機能

コンポーネントガイド 第1部

コンポーネントガイド 第2部

フロントパネルの操作

GPI インターフェース

PCカード

ワードクロック

複数台の DME32 システム


MIDI

I/O オプション

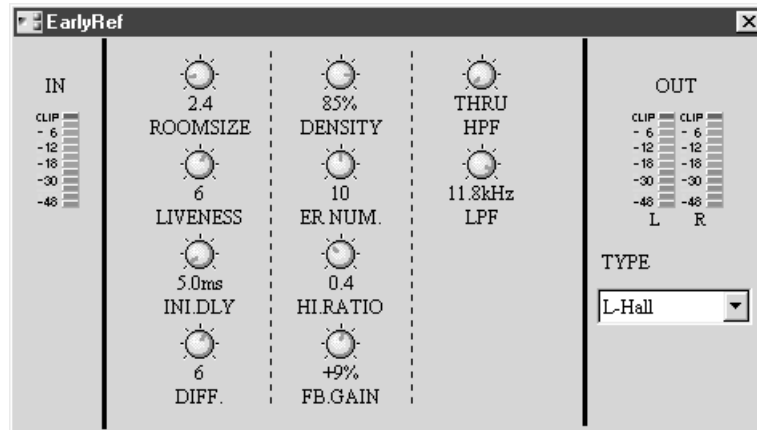
付録

Early Ref.

Early Ref.コンポーネントは残響の初期反射音(ER)のみを取り出したエフェクトです。リバーブよりも派手な効果が得られます。

 Early Ref.コンポーネントには入力が1つとステレオ出力があります。

「Early Ref.」コントロール画面は、初期反射音コントロール類、入力レベルメーター、ステレオ出力レベルメーター、初期反射音パターンのタイプセクター(TYPE)で構成されています。



INメーターは入力信号レベルを、OUTメーターはステレオ出力信号のレベルを表示します。

パラメーター	設定範囲	機能
ROOMSIZE	0.1 ~ 20.0	部屋の大きさ、つまり反射音の間隔
LIVENESS	0 ~ 10	反射音の減衰のしかた(0 = 反射音なし、10 = 反射音最多)
INI.DLY	0.0 ~ 500.0ms	反射音が出るまでの遅延時間
DIFF.	0 ~ 10	反射音の左右のひろがり
DENSITY	0 ~ 100%	反射音の密度
ER NUM.	1 ~ 19	反射音の本数
HI.RATIO	0.1 ~ 1.0	フィードバックの高域成分の量
FB. GAIN	- 99 ~ + 99%	フィードバックの量
HPF	THRU, 21.2Hz ~ 8.00kHz	ハイパスフィルターのカットオフ周波数(THRU = フィルターをオフ)
LPF	50.0Hz ~ 16.0kHz, THRU	ローパスフィルターのカットオフ周波数(THRU = フィルターをオフ)
TYPE	†1	初期反射音(ER)のパターンのタイプ

†1. S-Hall(small hall), L-Hall(large hall), Random, Reverse, Plate, Spring

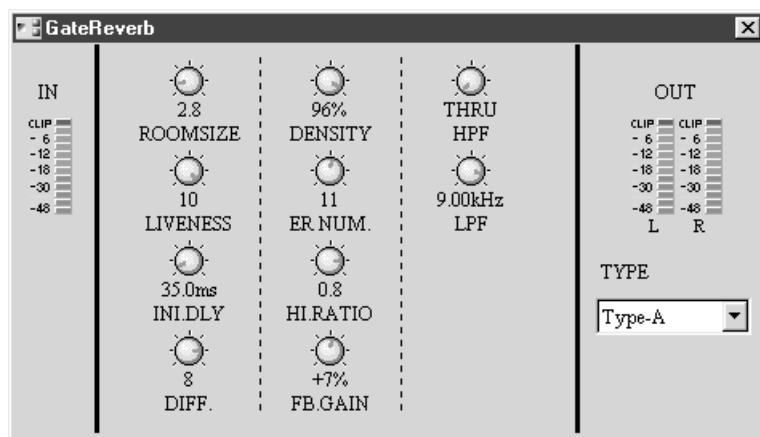
Gate Reverb & Reverse Gate

Gate Reverbコンポーネントはゲート付きアーリーリフレクションで、Reverse Gateコンポーネントはリバースゲート付きアーリーリフレクションです。



両コンポーネントとも入力が入るとステレオ出力があります。各コンポーネントはリバーブアルゴリズムが異なるだけで他はまったく同じなので、ここでは「Gate Reverb」コントロール画面だけをご紹介します。

各コントロール画面は、初期反射音コントロール類、入力レベルメーター、ステレオ出力レベルメーター、初期反射音パターンのタイプセクター(TYPE)で構成されています。



INメーターは入力信号レベルを、OUTメーターはステレオ出力信号のレベルを表示します。

パラメーター	設定範囲	機能
ROOMSIZE	0.1 ~ 20.0	部屋の大きさ、つまり反射音の間隔
LIVENESS	0 ~ 10	反射音の減衰のしかた(0 = 反射音なし、10 = 反射音最多)
INI.DLY	0.0 ~ 500.0ms	反射音が出るまでの遅延時間
DIFF.	0 ~ 10	反射音の左右のひろがり
DENSITY	0 ~ 100%	反射音の密度
ER.NUM.	1 ~ 19	反射音の本数
HI.RATIO	0.1 ~ 1.0	フィードバックの高域成分の量
FB.GAIN	-99 ~ +99%	フィードバックの量
HPF	THRU, 21.2Hz ~ 8.00kHz	ハイパスフィルターのカットオフ周波数(THRU = フィルターをオフ)
LPF	50.0Hz ~ 16.0kHz, THRU	ローパスフィルターのカットオフ周波数(THRU = フィルターをオフ)
TYPE	Type-A, Type-B	初期反射音(ER)のパターンのタイプ

はじめに

操作の前に

各部の名称と機能

DME Managerの概要

コンフィグレーションの構築

Runモード

ソフトウェア「DME Manager」のその他の機能

コンポーネントガイド 第1部

コンポーネントガイド 第2部

フロントパネルの操作

GPIインターフェース

PCカード

ワードクロック

複数台のDME32システム


MIDI

I/Oオプション

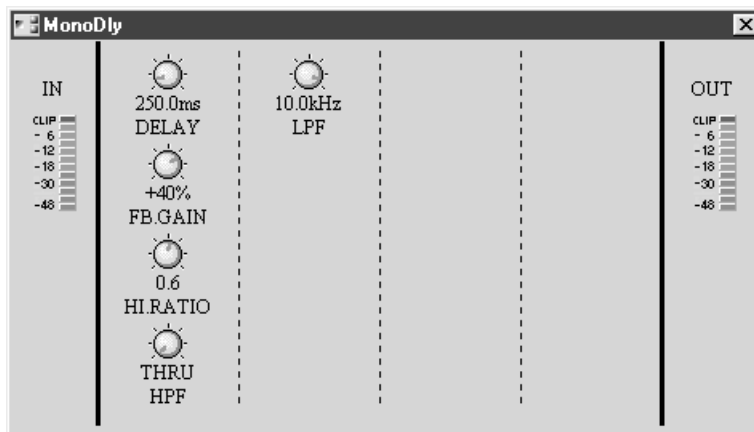
付録

Mono Delay

Mono Delayコンポーネントはシンプルなモノチャンネルのディレイです。

 Mono Delayコンポーネントには入力が1つ、出力が1つあります。

「Mono Delay」コントロール画面は、ディレイコントロール類、入力レベルメーター、出力レベルメーターで構成されています。



INメーターは入力信号レベルを、OUTメーターは出力信号のレベルを表示します。

パラメーター	設定範囲	機能
DELAY	0.0 ~ 2730.0ms	ディレイタイム
FB.GAIN	- 99 ~ + 99%	フィードバックの量(正相フィードバックではプラスの値、逆相フィードバックではマイナスの値)
HI.RATIO	0.1 ~ 1.0	フィードバックの高域成分の量
HPF	THRU, 21.2Hz ~ 8.00kHz	ハイパスフィルターのカットオフ周波数(THRU = フィルターをオフ)
LPF	50.0Hz ~ 16.0kHz, THRU	ローパスフィルターのカットオフ周波数(THRU = フィルターをオフ)

はじめに

操作の前に

各部の名称と機能

DME Managerの概要

コンフィグレーションの構築

Runモード

ソフトウェア "DME Manager" のその他の機能

コンポーネントガイド 第1部

コンポーネントガイド 第2部

フロントパネルの操作

GPI インターフェース

PCカード

ワードクロック

複数台の DME32 システム

MIDI

I/O オプション

付録

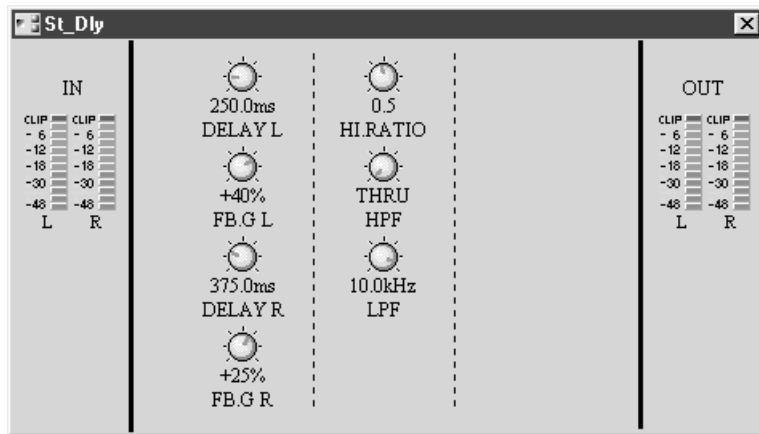
Stereo Delay

Stereo Delayコンポーネントは左右独立したディレイとフィードバックが調整できる2チャンネルディレイです。



Stereo Delayコンポーネントには入力が2つ、出力が2つあります。

「Stereo Delay」コントロール画面は、ディレイコントロール類、入力レベルメーター、出力レベルメーターで構成されています。



INメーターは入力信号レベルを、OUTメーターは出力信号のレベルを表示します。

パラメーター	設定範囲	機能
DELAY L	0.0 ~ 1350.0ms	Lチャンネルのディレイタイム
FB.G L	-99 ~ +99%	Lチャンネルのフィードバックの量(正相フィードバックではプラスの値、逆相フィードバックではマイナスの値)
DELAY R	0.0 ~ 1350.0ms	Rチャンネルのディレイタイム
FB.G R	-99 ~ +99%	Rチャンネルのフィードバックの量(正相フィードバックではプラスの値、逆相フィードバックではマイナスの値)
HI.RATIO	0.1 ~ 1.0	フィードバックの高域成分の量
HPF	THRU, 21.2Hz ~ 8.00kHz	ハイパスフィルターのカットオフ周波数(THRU = フィルターをオフ)
LPF	50.0Hz ~ 16.0kHz, THRU	ローパスフィルターのカットオフ周波数(THRU = フィルターをオフ)

はじめに

操作の前に

各部の名称と機能

DME Managerの概要

コンフィグレーションの構築

Runモード

ソフトウェア "DME Manager" のその他の機能

コンポーネントガイド 第1部

コンポーネントガイド 第2部

フロントパネルの操作

GPI インターフェース

PCカード

ワードクロック

複数台のDME32システム


MIDI

I/O オプション

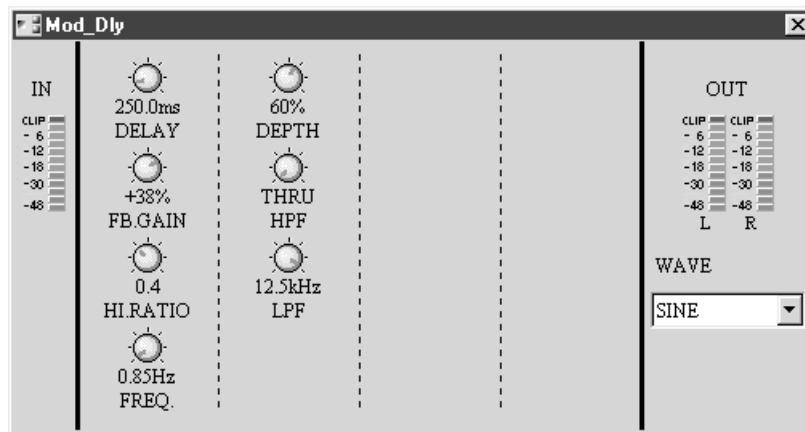
付録

Mod Delay

Mod Delayコンポーネントはモジュレーション付きのモノディレイです。

 Mod Delayコンポーネントには入力が1つとステレオ出力があります。

「Mod Delay」コントロール画面は、ディレイコントロール類、入力レベルメーター、ステレオ出力レベルメーターで構成されています。




INメーターは入力信号レベルを、OUTメーターはステレオ出力信号のレベルを表示します。

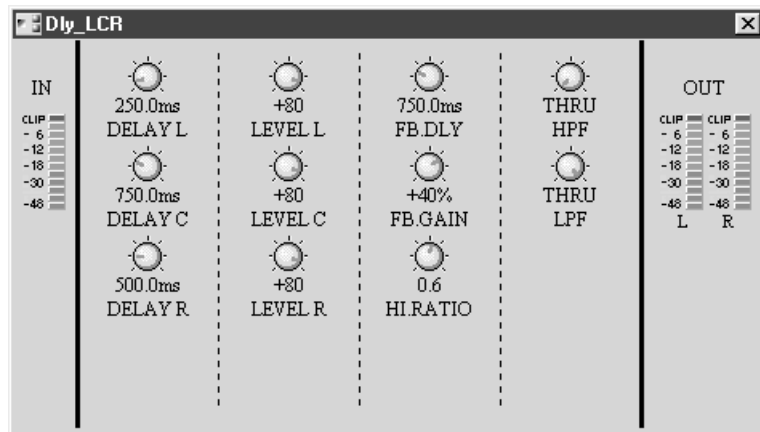
パラメーター	設定範囲	機能
DELAY	0.0 ~ 2725.0ms	ディレイタイム
FB.GAIN	- 99 ~ + 99%	フィードバックの量(正相フィードバックではプラスの値、逆相フィードバックではマイナスの値)
HI.RATIO	0.1 ~ 1.0	フィードバックの高域成分の量
FREQ.	0.05 ~ 40.00Hz	モジュレーションの速度
DEPTH	0 ~ 100%	モジュレーションの深さ
HPF	THRU, 21.2Hz ~ 8.00kHz	ハイパスフィルターのカットオフ周波数(THRU = フィルターをオフ)
LFP	50.0Hz ~ 16.0kHz, THRU	ローパスフィルターのカットオフ周波数(THRU = フィルターをオフ)
WAVE	SINE, TRI	モジュレーションの波形

Delay LCR

Delay LCRコンポーネントは左、センター、右の3タップ付きモノチャンネルディレイです。

 Delay LCRコンポーネントには入力1つとステレオ出力があります。

「Delay LCR」コントロール画面は、ディレイコントロール類、入力レベルメーター、ステレオ出力レベルメーターで構成されています。



INメーターは入力信号レベルを、OUTメーターはステレオ出力信号のレベルを表示します。

パラメーター	設定範囲	機能
DELAY L	0.0 ~ 2730.0ms	Lチャンネルのディレイタイム
DELAY C	0.0 ~ 2730.0ms	センターチャンネルのディレイタイム
DELAY R	0.0 ~ 2730.0ms	Rチャンネルのディレイタイム
LEVEL L	- 100 ~ + 100%	Lチャンネルのレベル
LEVEL C	- 100 ~ + 100%	センターチャンネルのレベル
LEVEL R	- 100 ~ + 100%	Rチャンネルのレベル
FB.DLY	0.0 ~ 2730.0ms	フィードバックのディレイタイム
FB.GAIN	- 99 ~ + 99%	フィードバックの量(正相フィードバックではプラスの値、逆相フィードバックではマイナスの値)
HI.RATIO	0.1 ~ 1.0	フィードバックの高域成分の量
HPF	THRU, 21.2Hz ~ 8.00kHz	ハイパスフィルターのカットオフ周波数(THRU = フィルターをオフ)
LPF	50.0Hz ~ 16.0kHz, THRU	ローパスフィルターのカットオフ周波数(THRU = フィルターをオフ)

はじめに

操作の前に

各部の名称と機能

DME Managerの概要

コンフィグレーションの構築

Runモード

ソフトウェア "DME Manager" のその他の機能

コンポーネントガイド 第1部

コンポーネントガイド 第2部

フロントパネルの操作

GPI インターフェース

PCカード

ワードクロック

複数台のDME32システム


MIDI

I/O オプション

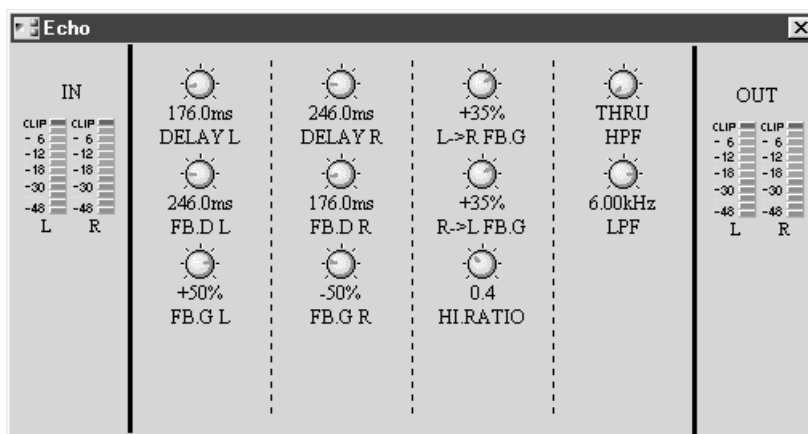
付録

Echo

Echoコンポーネントは左右独立したディレイとフィードバックが調整できる2チャンネルディレイで、左から右へまた右から左へのフィードバックも可能です。

 Echoコンポーネントには入力が2つ、出力が2つあります。

「Echo」コントロール画面は、エコーコントロール類、入力レベルメーター、出力レベルメーターで構成されています。




INメーターは入力信号レベルを、OUTメーターは出力信号のレベルを表示します。

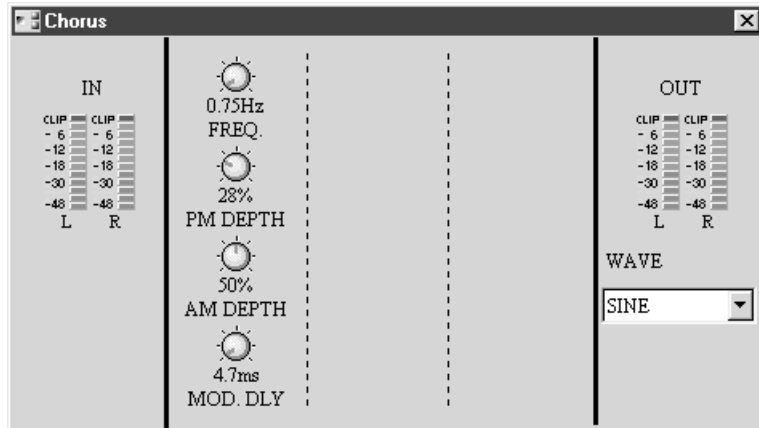
パラメーター	設定範囲	機能
DELAY L	0.0 ~ 1350.0ms	Lチャンネルのディレイタイム
FB.D L	0.0 ~ 1350.0ms	Lチャンネルのフィードバックのディレイタイム
FB.G L	- 99 ~ + 99%	Lチャンネルのフィードバック量(正相フィードバックではプラスの値、逆相フィードバックではマイナスの値)
DELAY R	0.0 ~ 1350.0ms	Rチャンネルのディレイタイム
FB.D R	0.0 ~ 1350.0ms	Rチャンネルのフィードバックのディレイタイム
FB.G R	- 99 ~ + 99%	Rチャンネルのフィードバック量(正相フィードバックではプラスの値、逆相フィードバックではマイナスの値)
L R FB.G	- 99 ~ + 99%	Lチャンネルの出力からRチャンネルにフィードバックする量(正相フィードバックではプラスの値、逆相フィードバックではマイナスの値)
R L FB.G	- 99 ~ + 99%	Rチャンネルの出力からLチャンネルにフィードバックする量(正相フィードバックではプラスの値、逆相フィードバックではマイナスの値)
HI.RATIO	0.1 ~ 1.0	フィードバックの高域成分の量
HPF	THRU, 21.2Hz ~ 8.00kHz	ハイパスフィルターのカットオフ周波数(THRU = フィルターをオフ)
LPF	50.0Hz ~ 16.0kHz, THRU	ローパスフィルターのカットオフ周波数(THRU = フィルターをオフ)

Chorus

Chorusコンポーネントは2チャンネルコーラス効果を作り出します。

 Chorusコンポーネントには入力が2つ、出力が2つあります。

「Chorus」コントロール画面は、コーラスコントロール類、入力レベルメーター、出力レベルメーター、モジュレーションウェーブセクター(WAVE)で構成されています。



INメーターは入力信号レベルを、OUTメーターは出力信号のレベルを表示します。

パラメーター	設定範囲	機能
FREQ.	0.05 ~ 40.00Hz	モジュレーションの速度
PM DEPTH	0 ~ 100%	パルスモジュレーションの深さ
AM DEPTH	0 ~ 100%	アンプリチュードモジュレーションの深さ
MOD.DLY	0.0 ~ 500.0ms	モジュレーションのディレイタイム
WAVE	SINE, TRI	モジュレーションの波形

はじめに

操作の前に

各部の名称と機能

DME Managerの概要

コンフィグレーションの構築

Runモード

ソフトウェア "DME Manager" のその他の機能

コンポーネントガイド 第1部

コンポーネントガイド 第2部

フロントパネルの操作

GPI インターフェース

PCカード

ワードクロック

複数台のDME32システム


MIDI

I/O オプション

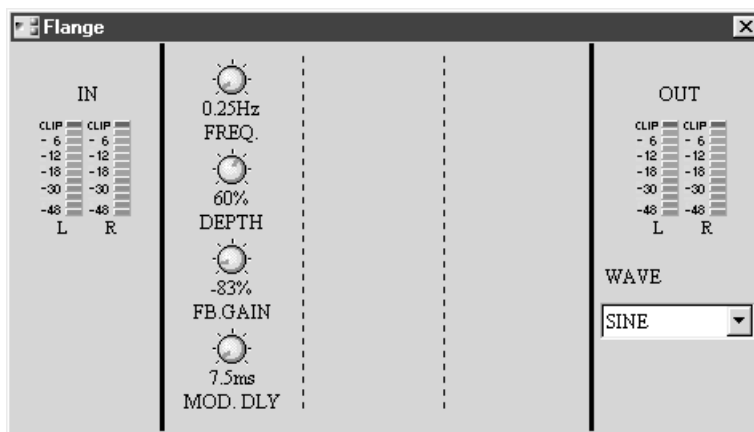
付録

Flange

Flangeコンポーネントは2チャンネルフランジ効果を作り出します。

 Flangeコンポーネントには入力2つ、出力2つあります。

「Flange」コントロール画面は、フランジャーコントロール類、入力レベルメーター、出力レベルメーター、モジュレーションウェーブセクター(WAVE)で構成されています。



INメーターは入力信号レベルを、OUTメーターは出力信号のレベルを表示します。

パラメーター	設定範囲	機能
FREQ.	0.05 ~ 40.00Hz	モジュレーションの速度
DEPTH	0 ~ 100%	モジュレーションの深さ
FB.GAIN	- 99 ~ + 99%	フィードバックの量(正相フィードバックではプラスの値、逆相フィードバックではマイナスの値)
MOD.DLY	0.0 ~ 500.0ms	モジュレーションのディレイタイム
WAVE	SINE, TRI	モジュレーションの波形

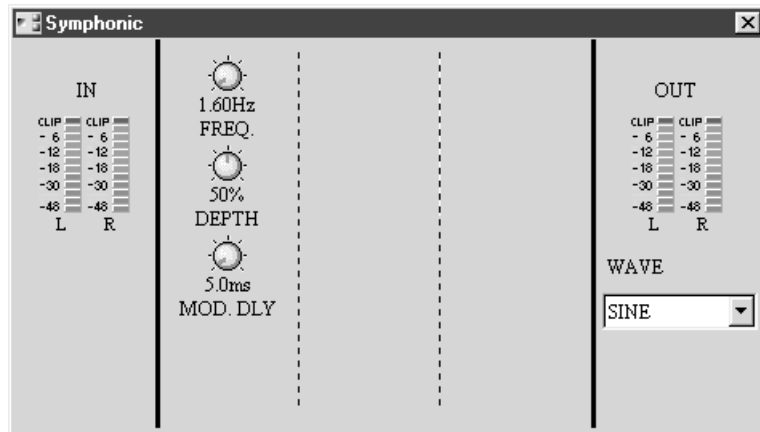
Symphonic

Symphonicコンポーネントは通常のコラスよりも豊かで2チャンネル変調効果が得られるヤマハ独自のエフェクトです。



Symphonicコンポーネントには入力が2つ、出力が2つあります。

「Symphonic」コントロール画面は、シンフォニックコントロール類、入力レベルメーター、出力レベルメーター、モジュレーションウェーブセクター(WAVE)で構成されています。



INメーターは入力信号レベルを、OUTメーターは出力信号のレベルを表示します。

パラメーター	設定範囲	機能
FREQ.	0.05 ~ 40.00Hz	モジュレーションの速度
DEPTH	0 ~ 100%	モジュレーションの深さ
MOD.DLY	0.0 ~ 500.0ms	モジュレーションのディレイタイム
WAVE	SINE, TRI	モジュレーションの波形

はじめに

操作の前に

各部の名称と機能

DME Managerの概要

コンフィグレーションの構築

Runモード

ソフトウェア "DME Manager" のその他の機能

コンポーネントガイド 第1部

コンポーネントガイド 第2部

フロントパネルの操作

GPIインターフェース

PCカード

ワードクロック

複数台のDME32システム

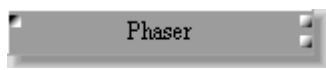
MIDI

I/Oオプション

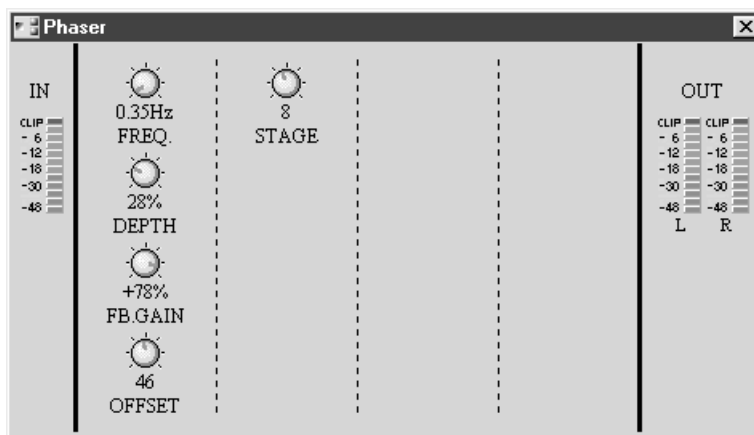
付録

Phaser

Phaserコンポーネントは2～16段の位相シフト付き2チャンネルフェイザー効果を作り出します。

 Phaserコンポーネントには入力が1つとステレオ出力があります。

「Phaser」コントロール画面は、フェイザーコントロール類、入力レベルメーター、ステレオ出力レベルメーターで構成されています。



INメーターは入力信号レベルを、OUTメーターは出力信号のレベルを表示します。

パラメーター	設定範囲	機能
FREQ.	0.05 ~ 40.00Hz	モジュレーションの速度
DEPTH	0 ~ 100%	モジュレーションの深さ
FB.GAIN	- 99 ~ + 99%	フィードバックの量(正相フィードバックではプラスの値、逆相フィードバックではマイナスの値)
OFFSET	0 ~ 100	フェイズシフトのかかる周波数のオフセット
STAGE	2, 4, 6, 8, 10, 12, 14, 16	フェイズシフトの段数

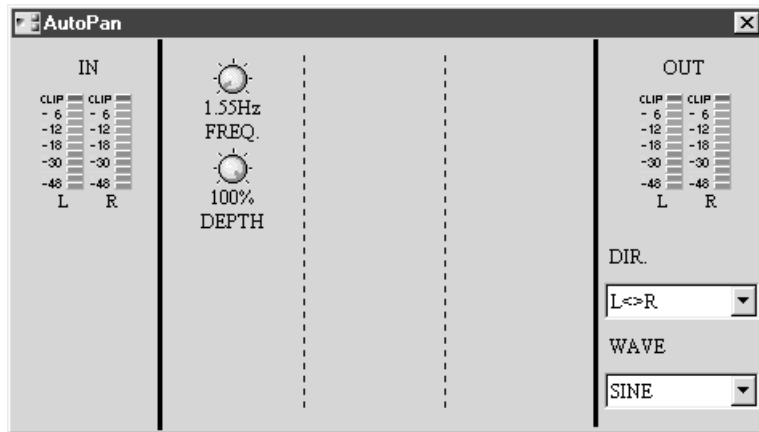
Auto Pan

Auto Panコンポーネントは2チャンネルのオートパンです。



Auto Panコンポーネントには入力2つ、出力2つあります。

「Auto Pan」コントロール画面は、オートパンコントロール類、入力レベルメーター、出力レベルメーター、方向セクター(DIR)およびモジュレーションウェーブセクター(WAVE)で構成されています。



INメーターは入力信号レベルを、OUTメーターは出力信号のレベルを表示します。

パラメーター	設定範囲	機能
FREQ.	0.05 ~ 40.00Hz	モジュレーションの速度
DEPTH	0 ~ 100%	モジュレーションの深さ
DIR.	†1	パンニング効果の方向
WAVE	SINE, TRI, SQR	モジュレーションの波形(正弦波、三角波、矩形波)

†1. L R, L R, L R, Turn L, Turn R

はじめに

操作の前に

各部の名称と機能

DME Managerの概要

コンフィグレーションの構築

Runモード

ソフトウェア "DME Manager" のその他の機能

コンポーネントガイド 第1部

コンポーネントガイド 第2部

フロントパネルの操作

GPI インターフェース

PCカード

ワードクロック

複数台のDME32システム


MIDI

I/O オプション

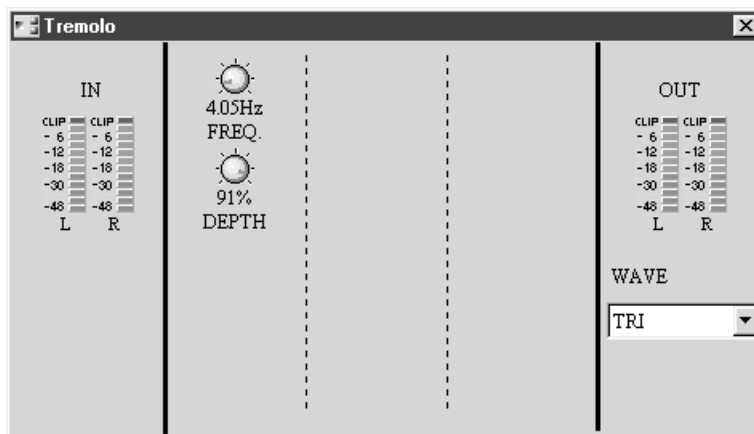
付録

Tremolo

Tremoloコンポーネントは2チャンネルトレモロ効果を作り出します。

 Tremoloコンポーネントには入力が2つ、出力が2つあります。

「Tremolo」コントロール画面は、トレモロコントロール類、入力レベルメーター、出力レベルメーター、モジュレーションウェーブセクター(WAVE)で構成されています。



INメーターは入力信号レベルを、OUTメーターは出力信号のレベルを表示します。

パラメーター	設定範囲	機能
FREQ.	0.05 ~ 40.00Hz	モジュレーションの速度
DEPTH	0 ~ 100%	モジュレーションの深さ
WAVE	SINE, TRI, SQR	モジュレーションの波形 (正弦波、三角波、矩形波)

はじめに

操作の前に

各部の名称と機能

DME Managerの概要

コンフィグレーションの構築

Runモード

ソフトウェア "DME Manager" のその他の機能

コンポーネントガイド 第1部

コンポーネントガイド 第2部

フロントパネルの操作

GPIインターフェース

PCカード

ワードクロック

複数台のDME32システム


MIDI

I/Oオプション

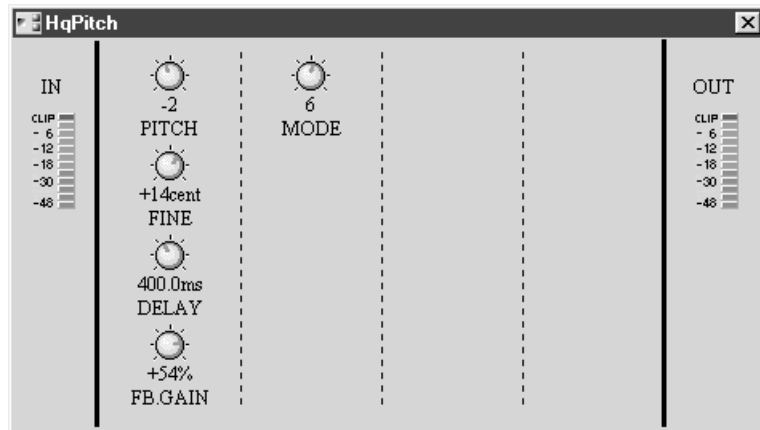
付録

HQ. Pitch

HQ Pitchコンポーネントでは安定したピッチシフトが得られます。

 HQ Pitchコンポーネントには入力が1つ、出力が1つあります。

「HQ Pitch」コントロール画面は、ピッチコントロール類、入力レベルメーター、出力レベルメーターで構成されています。



INメーターは入力信号レベルを、OUTメーターは出力信号のレベルを表示します。

パラメーター	設定範囲	機能
PITCH	- 12 ~ + 12 semitones	ピッチチェンジの変化量(半音単位)
FINE	- 50 ~ + 50 cents	ピッチチェンジの微調整(1セント単位)
DELAY	0.0 ~ 1000.0ms	ピッチチェンジのディレイタイム
FB.GAIN	- 99 ~ + 99%	フィードバックの量(正相フィードバックではプラスの値、逆相フィードバックではマイナスの値)
MODE	1 ~ 10	ピッチチェンジの精度

はじめに

操作の前に

各部の名称と機能

DME Managerの概要

コンフィグレーションの構築

Runモード

ソフトウェア "DME Manager" のその他の機能

コンポーネントガイド 第1部

コンポーネントガイド 第2部

フロントパネルの操作

GPI インターフェース

PCカード

ワードクロック

複数台のDME32システム

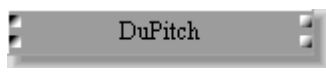
MIDI

I/O オプション

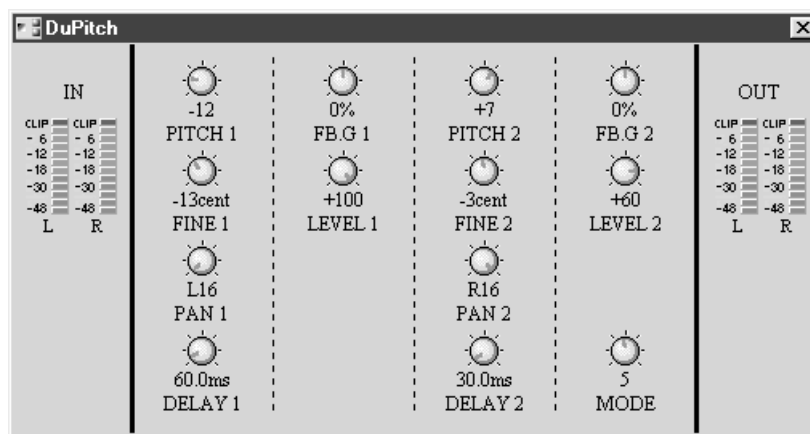
付録

Dual Pitch

Dual Pitchコンポーネントは左右で別々の音程に設定できる2チャンネルピッチシフトです。

 Dual Pitchコンポーネントには入力が2つ、出力が2つあります。

「Dual Pitch」コントロール画面は、ピッチコントロール類、入力レベルメーター、出力レベルメーターで構成されています。



INメーターは入力信号レベルを、OUTメーターは出力信号のレベルを表示します。

パラメーター	設定範囲	機能
PITCH 1	- 24 ~ + 24 semitones	ピッチチェンジ1の変化量(半音単位)
FINE 1	- 50 ~ + 50 cents	ピッチチェンジ1の微調整(1セント単位)
PAN 1	L16 ~ CENTER ~ R16	ピッチチェンジ1のパンポット
DELAY 1	0.0 ~ 1000.0ms	ピッチチェンジ1のディレイタイム
FB.G 1	- 99 ~ + 99%	ピッチチェンジ1のフィードバック量(正相フィードバックではプラスの値、逆相フィードバックではマイナスの値)
LEVEL 1	- 100 ~ + 100	ピッチチェンジ1のレベル(正相フィードバックではプラスの値、逆相フィードバックではマイナスの値)
PITCH 2	- 24 ~ + 24 semitones	ピッチチェンジ2の変化量(半音単位)
FINE 2	- 50 ~ + 50 cents	ピッチチェンジ2の微調整(1セント単位)
PAN 2	L16 ~ CENTER ~ R16	ピッチチェンジ2のパンポット
DELAY 2	0.0 ~ 1000.0ms	ピッチチェンジ2のディレイタイム
FB.G 2	- 99 ~ + 99%	ピッチチェンジ2のフィードバック量(正相フィードバックではプラスの値、逆相フィードバックではマイナスの値)
LEVEL 2	- 100 ~ + 100	ピッチチェンジ2のレベル(正相フィードバックではプラスの値、逆相フィードバックではマイナスの値)
MODE	1 ~ 10	ピッチチェンジの精度

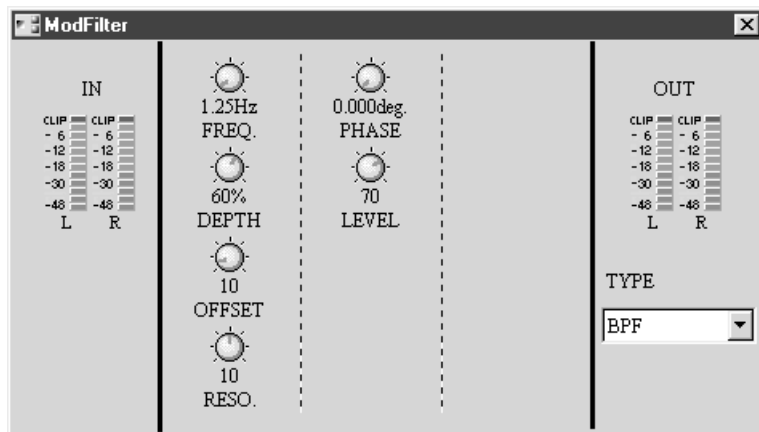
Mod Filter

Mod Filterコンポーネントは2チャンネル変調フィルターエフェクトです。



Mod Filterコンポーネントには入力が2つ、出力が2つあります。

「Mod Filter」コントロール画面は、変調フィルターコントロール類、入力レベルメーター、出力レベルメーター、フィルタータイプセレクター(TYPE)で構成されています。



INメーターは入力信号レベルを、OUTメーターは出力信号のレベルを表示します。

パラメーター	設定範囲	機能
FREQ.	0.05 ~ 40.00Hz	モジュレーションの速度
DEPTH	0 ~ 100%	モジュレーションの深さ
OFFSET	0 ~ 100	フィルターの周波数のオフセット
RESO.	0 ~ 20	フィルターのレゾナンス
PHASE	0.00 ~ 354.375°	LFOの左右の位相差
LEVEL	0 ~ 100	出力レベル
TYPE	LPF, HPF, BPF	フィルターのタイプ(ローパスフィルター、ハイパスフィルター、バンドパスフィルター)

はじめに

操作の前に

各部の名称と機能

DME Managerの概要

コンフィグレーションの構築

Runモード

ソフトウェア "DME Manager" のその他の機能

コンポーネントガイド 第1部

コンポーネントガイド 第2部

フロントパネルの操作

GPI インターフェース

PCカード

ワードクロック

複数台のDME32システム


MIDI

I/O オプション

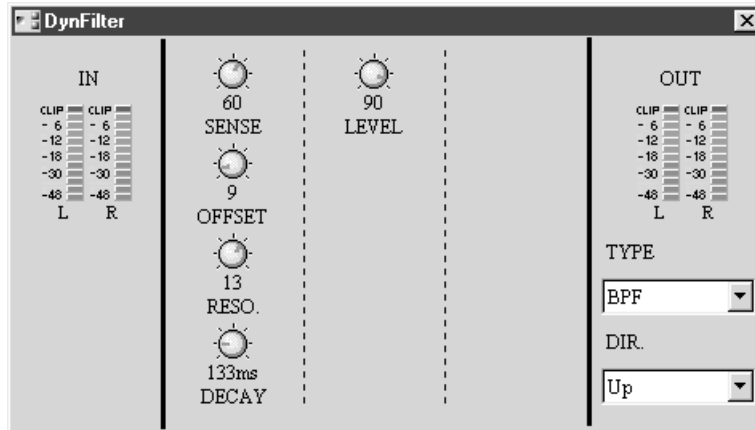
付録

Dyna Filter

Dyna Filterコンポーネントは2チャンネルダイナミックフィルター効果を作り出します。

 Dyna Filterコンポーネントには入力が入力が2つ、出力が2つあります。

「Dyna Filter」コントロール画面は、フィルターコントロール類、入力レベルメーター、出力レベルメーター、フィルタータイプセクター(TYPE)および方向セクター(DIR)で構成されています。



INメーターは入力信号レベルを、OUTメーターは出力信号のレベルを表示します。

パラメーター	設定範囲	機能
SENSE	0 ~ 100	入力感度
OFFSET	0 ~ 100	フィルターの周波数のオフセット
RESO.	0 ~ 20	フィルターのレゾナンス
DECA.	†1	フィルターの周波数の動く速さ
LEVEL	0 ~ 100	出力レベル
TYPE	LPF, HPF, BPF	フィルターのタイプ
DIR.	Up, Down	入力に応じてフィルターの周波数の動く方向

†1. 6ms ~ 46.0sec(fs = 44.1kHz), 5ms ~ 42.3sec(fs = 48kHz)

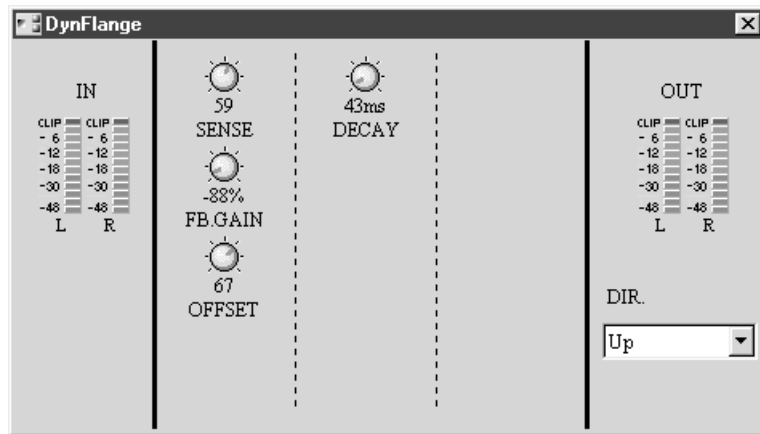
Dyna Flange

Dyna Flangeコンポーネントは2チャンネルダイナミックフランジ効果を作り出します。



Dyna Flangeコンポーネントには入力2つ、出力2つあります。

「Dyna Flange」コントロール画面は、フランジャーコントロール類、入力レベルメーター、出力レベルメーター、方向セクター(DIR)で構成されています。



INメーターは入力信号レベルを、OUTメーターは出力信号のレベルを表示します。

パラメーター	設定範囲	機能
SENSE	0 ~ 100	入力感度
FB. GAIN	- 99 ~ + 99%	フィードバックの量(正相フィードバックではプラスの値、逆相フィードバックではマイナスの値)
OFFSET	0 ~ 100	ディレイタイムのオフセット量
DECAY	†1	共鳴周波数の動く速さ
DIR.	Up, Down	入力に応じて共鳴周波数の動く方向

†1. 6ms ~ 46.0sec(fs = 44.1kHz), 5ms ~ 42.3sec(fs = 48kHz)

はじめに

操作の前に

各部の名称と機能

DME Managerの概要

コンフィグレーションの構築

Runモード

ソフトウェア "DME Manager" のその他の機能

コンポーネントガイド 第1部

コンポーネントガイド 第2部

フロントパネルの操作

GPI インターフェース

PCカード

ワードクロック

複数台の DME32 システム

MIDI

I/O オプション

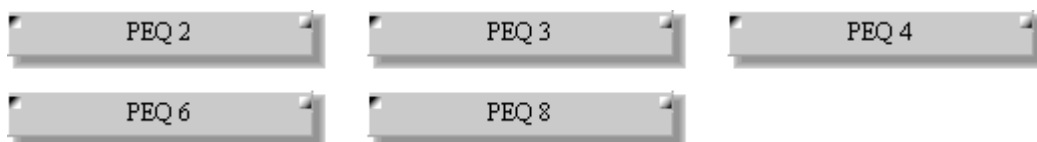
付録

EQ(イコライザー)

EQグループには8種類のコンポーネントがあり、5種類のPEQ(パラメトリックイコライザー)、3種類のGEQ(グラフィックイコライザー)があります。

PEQ(パラメトリックイコライザー)

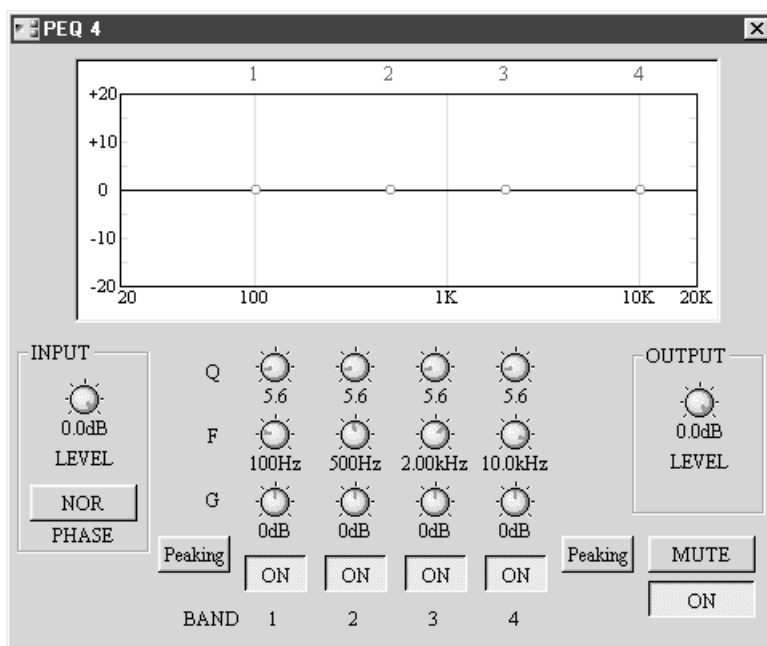
PEQ(パラメトリックイコライザー)は指定周波数の信号をブースト/カットします。



各PEQコンポーネントに入出力が1つずつあります。

いずれのPEQコンポーネントもバンド数が異なるだけで他はまったく同じなので、ここでは「4 BAND PEQ」コントロール画面だけをご紹介します。

どの「PEQ」コントロール画面も、EQグラフ、INPUT、EQ BAND、OUTPUTの各セクションから構成されています。

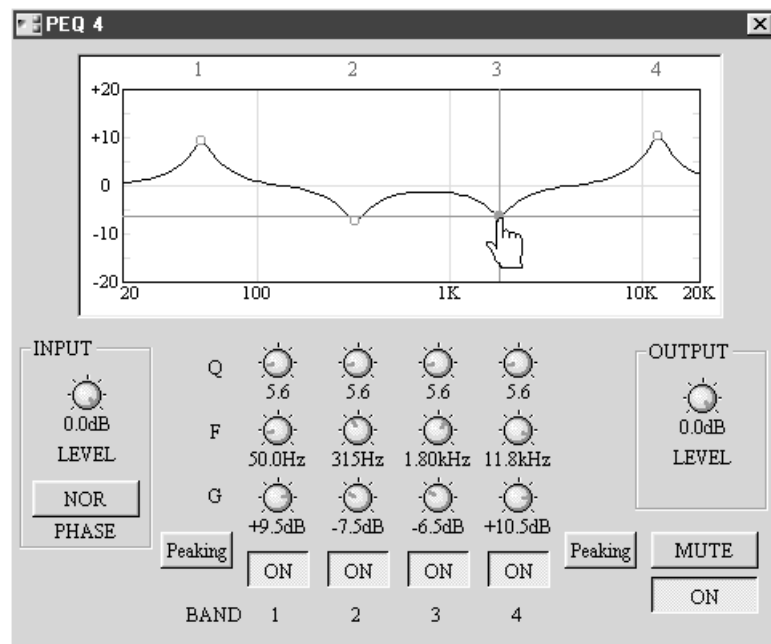


PEQコンポーネントパラメーター

セクション	パラメーター	設定範囲	機能
ON/OFF		ON/OFF	コンポーネントをオン/オフします。
INPUT	LEVEL	mute ~ 0.0dB	入力信号レベルを設定します。
	PHASE	NOR/REV	入力信号を反転します。
EQ BAND	Q	10 ~ 0.10	各バンドの選択度を設定します。
	F	20.0Hz ~ 20.0kHz	各バンドの周波数を設定します。
	G	- 18dB ~ + 18dB	各バンドのゲインを設定します。
	ON/OFF	ON/OFF	各バンドをオン/オフします。
	Type ^{†1}	Peaking/L.Shelf or H.Shelf	バンドのフィルタータイプを設定します。
OUTPUT	LEVEL	mute ~ 0.0dB	出力信号レベルを設定します。
MUTE		ON/OFF	出力をミュートします。

†1. 最高バンドと最低バンドのみ

画面上部のEQグラフでは次の例のようにEQ設定をグラフで表示します。各EQバンドの番号がグラフの上に表示されています。



各バンドの周波数(F)パラメーター、ゲイン(G)パラメーターは回転ノブを使うだけでなく、EQグラフ上に表示されている小さな丸印をドラッグして設定することもできます。カーソルをこの丸印の上に移動すると矢印が手の形になるので、曲線をドラッグして望ましい設定に変更します。

はじめに

操作の前に

各部の名称と機能

DME Managerの概要

コンフィグレーションの構築

Runモード

ソフトウェア "DME Manager" のその他の機能

コンポーネントガイド 第1部

コンポーネントガイド 第2部

フロントパネルの操作

GPI インターフェース

PCカード

ワードクロック

複数台の DME32 システム

MIDI

I/O オプション

付録

GEQ

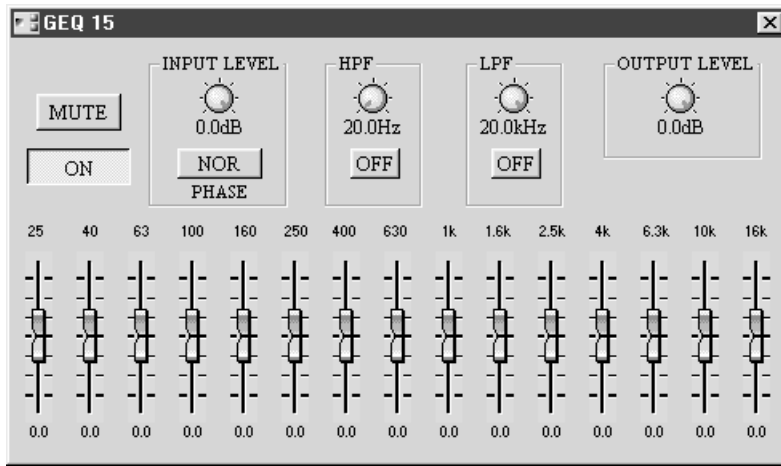
GEQ(グラフィックイコライザー)はフェーダーを使用して指定周波数の信号をブースト/カットします。EQ曲線が表示されます。



各GEQコンポーネントに入出力が各1つずつあります。

いずれのGEQコンポーネントもバンド数が異なるだけでその他の部分はまったく同じなので、ここでは「15 BAND GEQ」コントロール画面だけをご紹介します。

どの「GEQ」コントロール画面も、EQグラフ、INPUT、HPF、LPF、EQ BAND、OUTPUTの各セクションから構成されています。バンド中心周波数は各フェーダーの上に表示されています。

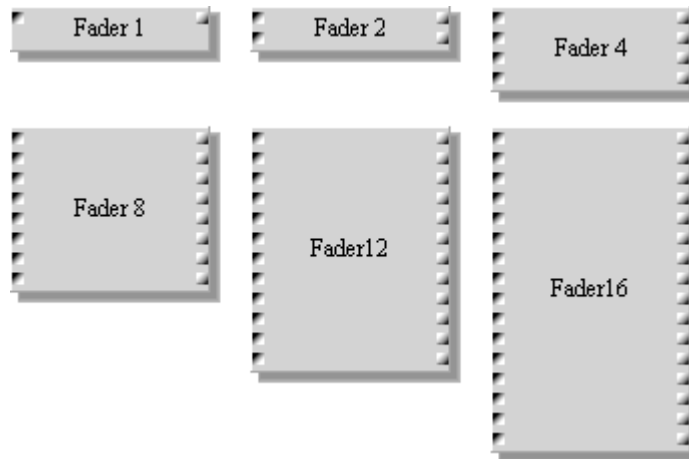


GEQコンポーネントパラメーター

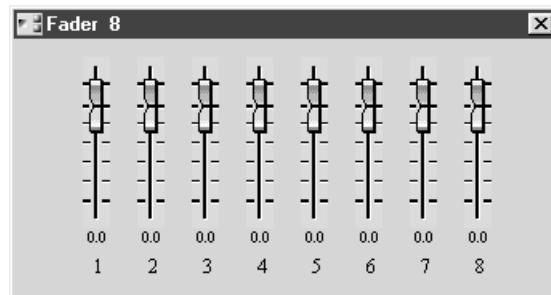
セクション	パラメーター	設定範囲	機能
ON/OFF		ON/OFF	コンポーネントをオン/オフします。
INPUT	LEVEL	mute ~ 0.0dB	入力信号レベルを設定します。
	PHASE	NOR/REV	入力信号を反転します。
HPF	Frequency	20.0Hz ~ 20.0kHz	HPFカットオフ周波数を設定します。
	ON	ON/OFF	HPFをオン/オフします。
LPF	Frequency	20.0Hz ~ 20.0kHz	LPFカットオフ周波数を設定します。
	ON	ON/OFF	LPFをオン/オフします。
EQバンド	Gain	- 15dB ~ + 15dB	各バンドのゲインを設定します。
OUTPUT	LEVEL	mute ~ 0.0dB	出力信号レベルを設定します。
MUTE		ON/OFF	出力をミュートします。

Fader(フェーダー)

Faderコントロールグループにはそれぞれ1、2、4、8、12、16チャンネルバージョンの6つのコンポーネントがあります。各チャンネルには入出力が各1つ、フェーダーがあります。



各Faderコンポーネントはチャンネル数が異なるだけで他はまったく同じなので、ここでは8チャンネルの「Fader Controller」コントロール画面だけをご紹介します。



Faderコンポーネントパラメーター

パラメーター	設定範囲	機能
フェーダー	mute ~ 10.0dB	各チャンネルの出力信号レベルを調整します。

はじめに

操作の前に

各部の名称と機能

DME Managerの概要

コンフィグレーションの構築

Runモード

ソフトウェア「DME Manager」のその他の機能

コンポーネントガイド 第1部

コンポーネントガイド 第2部

フロントパネルの操作

GPIインターフェース

PCカード

ワードクロック

複数台のDME32システム

MIDI

I/Oオプション


付録

Filter(フィルター)

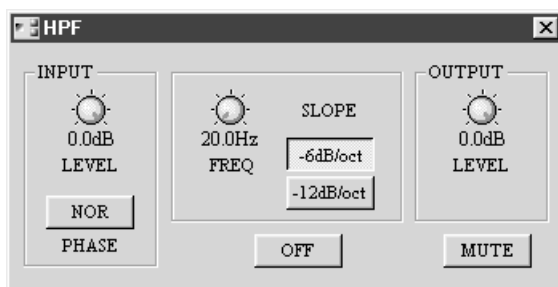
FilterグループはHPF(ハイパスフィルター)、LPF(ローパスフィルター)、BPF(バンドパスフィルター)、NOTCH(ノッチフィルター)の4種類のコンポーネントがあります。

HPF(ハイパスフィルター)

HPF(ハイパスフィルター)は指定周波数より下の信号を減衰させ、指定周波数以上の信号をそのまま通過させます。

 HPFコンポーネントには入出力が各1つずつあります。

「HPF」コントロール画面は、INPUT、フィルター、OUTPUTの3つの部分から構成されます。



HPFコンポーネントパラメーター

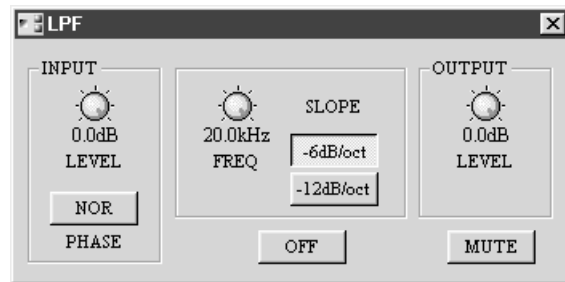
セクション	パラメーター	設定範囲	機能
ON/OFF		ON/OFF	コンポーネントをオン / オフします。
INPUT	LEVEL	mute ~ 0.0dB	入力信号レベルを設定します。
	PHASE	NOR/REV	入力信号を反転します。
フィルター	FREQ	20.0Hz ~ 20.0kHz	HPFカットオフ周波数を設定します。
	SLOPE	- 6dB/oct, - 12dB/oct	フィルタースロープを選択します。
OUTPUT	LEVEL	mute ~ 0.0dB	出力信号レベルを設定します。
MUTE		ON/OFF	出力をミュートします。

LPF(ローパスフィルター)

LPF(ローパスフィルター)は指定周波数より上の信号を減衰させ、指定周波数以下の信号をそのまま通過させます。

LPF LPFコンポーネントには入出力が各1つずつあります。

「LPF」コントロール画面は、INPUT、フィルター、OUTPUTの3つの部分から構成されます。



LPFコンポーネントパラメーター

セクション	パラメーター	設定範囲	機能
ON/OFF		ON/OFF	コンポーネントをオン/オフします。
INPUT	LEVEL	mute ~ 0.0dB	入力信号レベルを設定します。
	PHASE	NOR/REV	入力信号を反転します。
フィルター	FREQ	20.0Hz ~ 20.0kHz	LPFカットオフ周波数を設定します。
	SLOPE	- 6dB/oct, - 12dB/oct	フィルタースロープを選択します。
OUTPUT	LEVEL	mute ~ 0.0dB	出力信号レベルを設定します。
MUTE		ON/OFF	出力をミュートします。

はじめに

操作の前に

各部の名称と機能

DME Managerの概要

コンフィグレーションの構築

Runモード

ソフトウェア "DME Manager" のその他の機能

コンポーネントガイド 第1部

コンポーネントガイド 第2部

フロントパネルの操作

GPI インターフェース

PCカード

ワードクロック

複数台のDME32システム

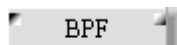
MIDI

I/O オプション

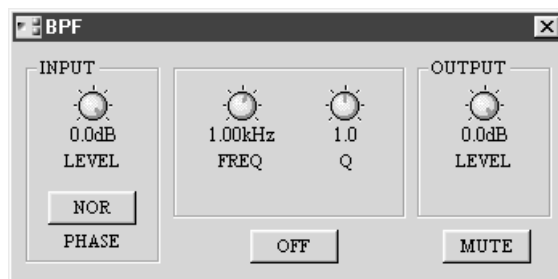
付録

BPF(バンドパスフィルター)

BPF(バンドパスフィルター)は指定中心周波数帯域の信号をそのまま通過させ、それ以外の帯域の信号を減衰させます。

 BPFコンポーネントには入出力が各1つずつあります。

「BPF」コントロール画面は、INPUT、フィルター、OUTPUTの3つの部分から構成されます。



BPFコンポーネントパラメーター

セクション	パラメーター	設定範囲	機能
ON/OFF		ON/OFF	コンポーネントをオン/オフします。
INPUT	LEVEL	mute ~ 0.0dB	入力信号レベルを設定します。
	PHASE	NOR/REV	入力信号を反転します。
フィルター	FREQ	20.0Hz ~ 20.0kHz	BPF中心周波数を設定します。
	Q	10 ~ 0.10	フィルターの選択度を設定します。
OUTPUT	LEVEL	mute ~ 0.0dB	出力信号レベルを設定します。
MUTE		ON/OFF	出力をミュートします。

はじめに

操作の前に

各部の名称
と機能DME
Manager
の概要コンフィグ
レーション
の構築

Runモード

ソフトウェア
"DME Manager"
のその他の機能コンポーネント
ガイド 第1部コンポーネント
ガイド 第2部フロント
パネルの
操作GPI
インター
フェース

PCカード

ワード
クロック複数台の
DME32
システム

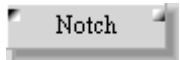
MIDI

I/O
オプション

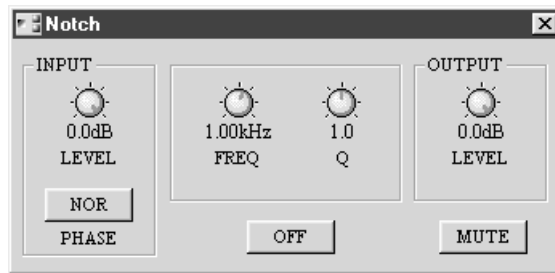
付録

Notch(ノッチフィルター)

Notch(ノッチフィルター)は指定中心周波数帯域の信号を減衰させ、それ以外の周波数帯域の信号をそのまま通過させます。

 Notchコンポーネントには入出力が各1つずつあります。

「Notch」コントロール画面は、INPUT、フィルター、OUTPUTの3つの部分から構成されます。



Notchコンポーネントパラメーター

セクション	パラメーター	設定範囲	機能
ON/OFF		ON/OFF	コンポーネントをオン/オフします。
INPUT	LEVEL	mute ~ 0.0dB	入力信号レベルを設定します。
	PHASE	NOR/REV	入力信号を反転します。
フィルター	FREQ	20.0Hz ~ 20.0kHz	ノッチフィルターの中心周波数を設定します。
	Q	10 ~ 0.10	フィルターの選択度を設定します。
OUTPUT	LEVEL	mute ~ 0.0dB	出力信号レベルを設定します。
MUTE		ON/OFF	出力をミュートします。

はじめに

操作の前に

各部の名称と機能

DME Managerの概要

コンフィグレーションの構築

Runモード

ソフトウェア "DME Manager" のその他の機能

コンポーネントガイド 第1部

コンポーネントガイド 第2部

フロントパネルの操作

GPI インターフェース

PCカード

ワードクロック

複数台の DME32 システム

MIDI

I/O オプション

付録

Input/Output

Input/Outputグループには8つのコンポーネントがあります。4つのInputコンポーネントはスロットインプット1～32用、もう4つのOutputコンポーネントはスロットアウトプット1～32用に使います。

Input(インプット)

各Inputコンポーネントには8つの出力があります。



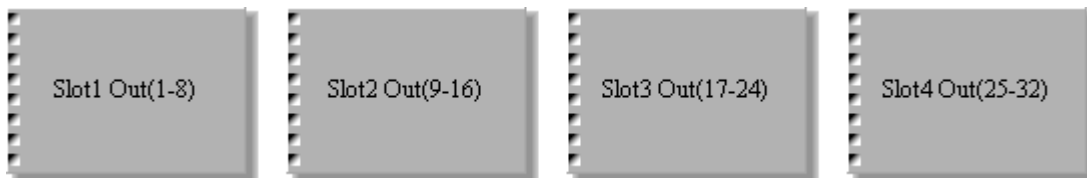
Inputコンポーネントのコントロール画面はありません。

InputコンポーネントはそれぞれDME32本体の4つのI/Oスロットに対応します。

SLOT	コンポーネント
1	Slot 1 In(1 ~ 8)
2	Slot 2 In(9 ~ 16)
3	Slot 3 In(17 ~ 24)
4	Slot 4 In(25 ~ 32)

Output(出力)

各Outputコンポーネントには8つの入力があります。



Outputコンポーネントのコントロール画面はありません。

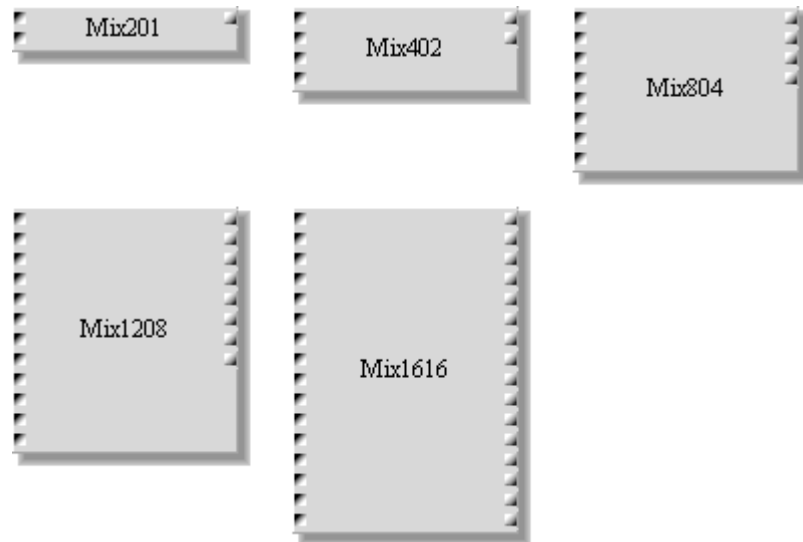
Outputコンポーネントは次のようにDME32本体の4つのI/Oスロットに対応します。

SLOT	コンポーネント
1	Slot 1 Ou(1 ~ 8)
2	Slot 2 Ou(9 ~ 16)
3	Slot 3 Ou(17 ~ 24)
4	Slot 4 Ou(25 ~ 32)

Matrix Mixer(マトリクスミキサー)

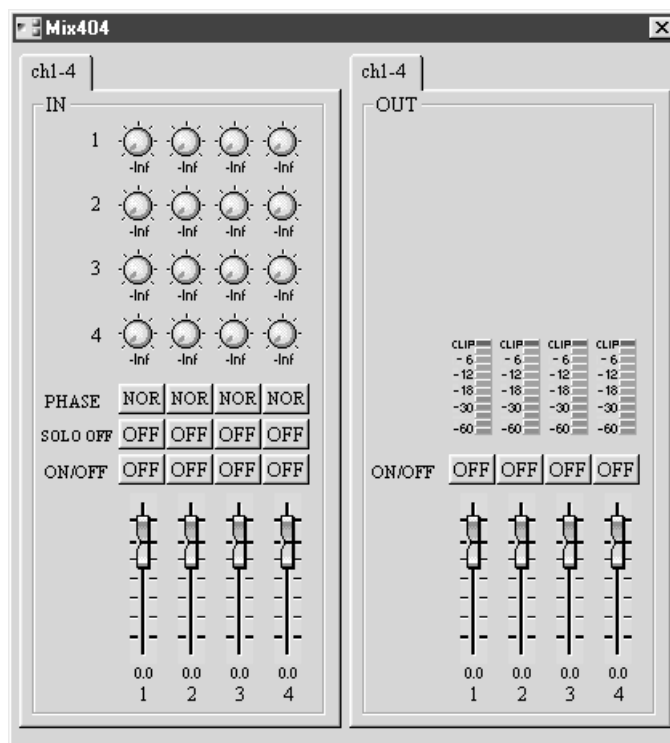
20種類のMatrix Mixerコンポーネントは入力数別に5つのグループ(2x、4x、8x、12x、16x)に分類されています。

以下の図はグループ分けされたMatrix Mixerコンポーネントです。



いずれのMatrix Mixerコンポーネントも入出力数以外はまったく同じなので、ここでは「Mixer404」コントロール画面のみをご紹介します。

「Matrix Mixer」コントロール画面には、[IN] 各種入力チャンネルコントロール類、[OUT] の各セクションと、出力チャンネル用のフェーダー、メーターがあります。



チャンネルがソロされていると[SOLO OFF]は[SOLO ON]になります。インプットチャンネルの[SOLO]ボタンをまとめて確認できないようなコントロール画面ではこの表示ボタンが便利です。

はじめに

操作の前に

各部の名称と機能

DME Managerの概要

コンフィグレーションの構築

Runモード

ソフトウェア「DME Manager」のその他の機能

コンポーネントガイド 第1部

コンポーネントガイド 第2部

フロントパネルの操作

GPIインターフェース

PCカード

ワードクロック

複数台のDME32システム

MIDI

I/Oオプション

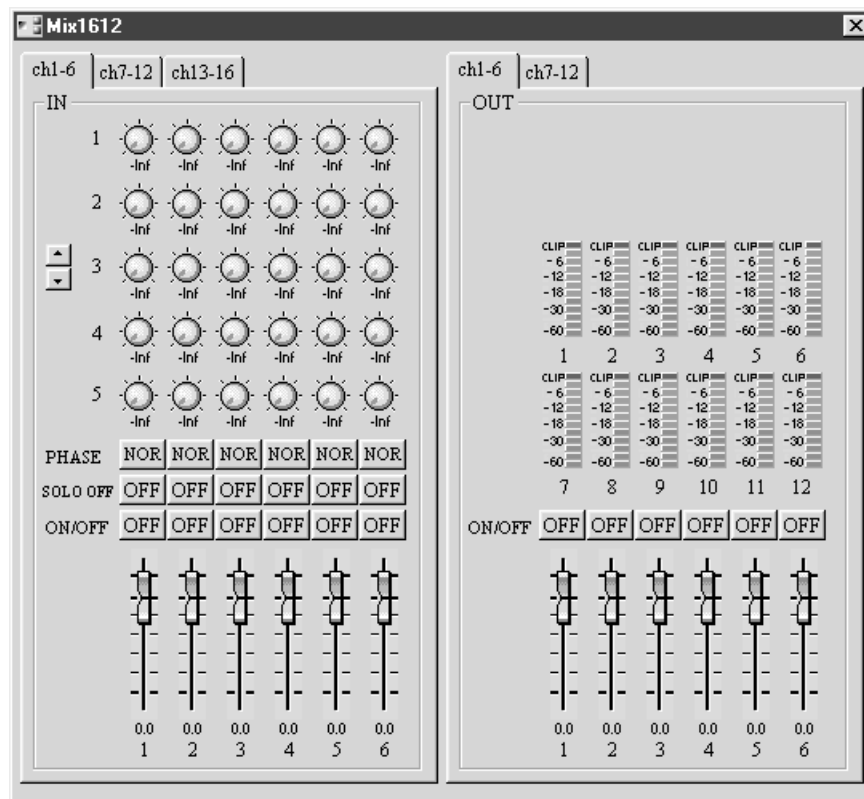
付録

OUTメーターは各出力信号のレベルを表示します。

セクション	パラメーター	設定範囲	機能
IN	バスレベル	mute ~ 10.0dB	出力チャンネルに入る各入力チャンネル信号のレベルを設定します。
	PHASE	NOR/REV	各入力チャンネル信号を反転します。
	SOLO	ON/OFF	各入力チャンネルをソロ状態にします。
	ON/OFF	ON/OFF	各入力チャンネルをオン / オフします。
	フェーダー	mute ~ 10.0dB	各入力チャンネルレベルを設定します。
OUT	ON/OFF	ON/OFF	各出力チャンネルをオン / オフします。
	フェーダー	mute ~ 10.0dB	各出力チャンネルレベルを設定します。

出力が1つだけのMatrix Mixerコンポーネントにはバスレベルコントロールがありません。また単一の出力チャンネルに送られる入力チャンネル信号のレベルは入力チャンネルフェーダーでのみ調整します。

7つ以上の入力または出力を持つMatrix Mixerコンポーネントは6チャンネルごとにブロックとして各ページにまとめられ、コントロール画面上部のタブをクリックして任意のブロックを選択します。下記は16x12Matrix Mixerの表示例です。



6つ以上の出力を持つコンポーネント(つまり入力チャンネルごとに6つ以上のバスレベルコントロールを持つコンポーネント)では、INセクションの左側にある上下の矢印をクリックすることでバスレベルを設定するコントロールノブをスクロール表示させます。



以下のMatrix Mixerが使用できます。

グループ	Matrix Mixer	入力	出力
2x	2x1	2	1
	2x2		2
4x	4x1	4	1
	4x2		2
	4x4		4
8x	8x1	8	1
	8x2		2
	8x4		4
	8x8		8
12x	12x1	12	1
	12x2		2
	12x4		4
	12x8		8
	12x12		12
16x	16x1	16	1
	16x2		2
	16x4		4
	16x8		8
	16x12		12
	16x16		16

はじめに

操作の前に

各部の名称
と機能DME
Manager
の概要コンフィグ
レーション
の構築

Runモード

ソフトウェア
"DME Manager"
のその他の機能コンポーネント
ガイド 第1部コンポーネント
ガイド 第2部フロント
パネルの
操作GPI
インター
フェース

PCカード

ワード
クロック複数台の
DME32
システム

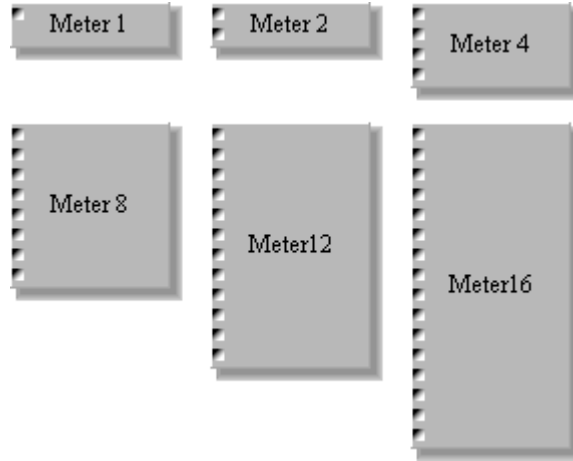
MIDI

I/O
オプション

付録

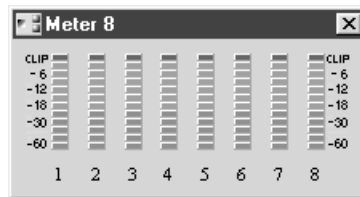
Meter(メーター)

Meterグループにはそれぞれ1、2、4、8、12、16チャンネルを持つ6つのコンポーネントがあります。



各Meterコンポーネントはチャンネル数が異なるだけで他はまったく同じなので、ここでは8チャンネルの「Meter 8」コントロール画面だけをご紹介します。

どのスイッチコントロール画面も、12セグメントのレベルメーターがあります。



Meterコンポーネントパラメーター

パラメーター	設定範囲	機能
Meter	- 60, - 30, - 18, - 12, - 6, CLIP	各チャンネルの信号レベルを表示します。

Misc(その他)

その他のグループにはGain Trimmer(ゲイントリマー)、Oscillator(オシレーター)、System Mute(システムミュート)の3種類のコンポーネントがあります。

Gain Trimmer(ゲイントリマー)

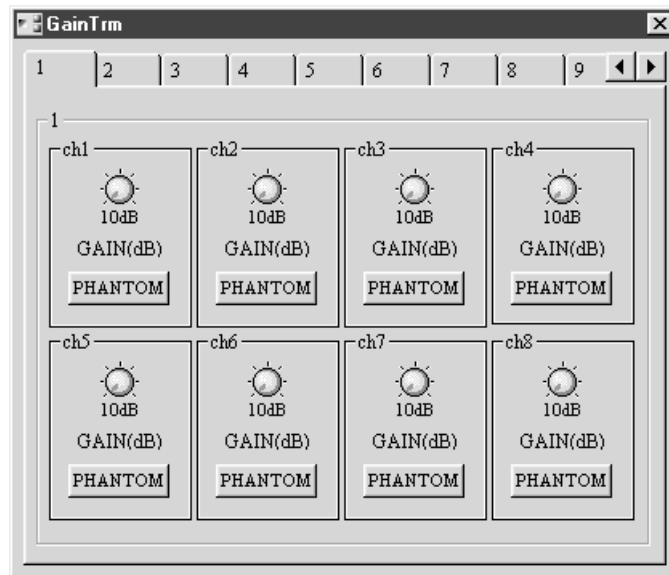
Gain TrimmerコンポーネントはヤマハA/DコンバーターAD824を最大で16台、呼び出しリモートコントロールします。詳細は258ページ参照ください。

複数台のDME32システムではGain Trimmerは1台目のDME32にだけ、1つのみ配置できます。

GainTrm

Gain Trimmerコンポーネントには入出力はありません。

「Gain Trimmer」コントロール画面は16台のAD824に対応する16の画面があります。タブの右上隅の矢印をクリックして表示します。各画面には8つの「GAIN」コントロールと8つの「PHANTOM」電源ボタンがあります。



Gain Trimmerコンポーネントパラメーター

パラメーター	設定範囲	機能
GAIN	10dB ~ - 62dB	各AD824チャンネルのヘッドアンプゲインを6dBステップで設定します。
PHANTOM	ON/OFF	各AD824チャンネルの+48V ファンタム電源をオン/オフします。

はじめに

操作の前に

各部の名称と機能

DME Managerの概要

コンフィグレーションの構築

Runモード

ソフトウェア「DME Manager」のその他の機能

コンポーネントガイド 第1部

コンポーネントガイド 第2部

フロントパネルの操作

GPIインターフェース

PCカード

ワードクロック

複数台のDME32システム

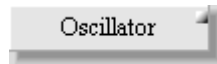
MIDI

I/Oオプション

付録

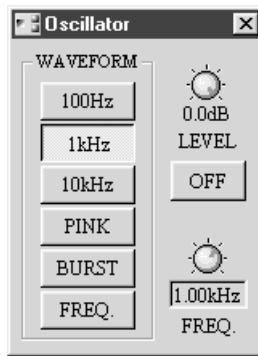
Oscillator(オシレーター)

Oscillatorコンポーネントは100Hz、1kHz、10kHzの正弦波、周波数可変の正弦波(10Hz～20kHz)、ピンクノイズ、バーストピンクノイズの各オシレーターがあります。必要に応じてこれをシステム内接続し、チェック、調整用に使用できます。バーストピンクノイズはリバース設定の試聴にも便利です。



Oscillatorコンポーネントには1つの出力があります。

「Oscillator」コントロール画面は、WAVEFORMセクション、周波数コントロール、出力レベルコントロールがあります。



[FREQ]コントロールノブのドラッグ操作に加えてコンピューターキーボードで周波数設定することもできます。[FREQ]コントロールノブの下値をマウスで選び、キーボードで値を入力し、Enterキーを押します。入力値が設定され[FREQ]コントロールノブがその値に合わせて変化します。

Oscillatorコンポーネントパラメーター

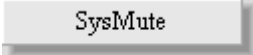
パラメーター	設定範囲	機能
WAVEFORM	100Hz	100Hz正弦波
	1kHz	1kHz正弦波
	10kHz	10kHz正弦波
	PINK	ピンクノイズ
	BURST	ピンクノイズバースト(4秒間隔で200msのパルス)
	FREQ	10Hz～20kHz正弦波を調節します。
LEVEL	mute～0.0dB	オシレーターの出力レベルを設定します。
ON/OFF	ON/OFF	オシレーターをオン/オフします。

注意: オシレーター使用時には突然大きなノイズが出てスピーカーなどを傷めな
いよう、音量レベルに十分ご注意ください。

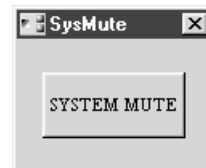
System Mute(システムミュート)

System Muteコンポーネントは、マウスをクリックするだけでシステム全体をミュートします。

複数台のDME32システムではSystem Muteは1台目のDME32にだけ、1つのみ配置できます。

 System Muteコンポーネントには入出力はありません。

「System Mute」コントロール画面には、1つだけ「SYSTEM MUTE」ボタンがあります。



「SYSTEM MUTE」ボタンをクリックすると、DME32システム全体(複数台システムでは、そのすべてのDME32も)の出力がすべてミュートされます。ボタンをもう一度クリックするとミュートは解除されます。

はじめに

操作の前に

各部の名称と機能

DME Managerの概要

コンフィグレーションの構築

Runモード

ソフトウェア "DME Manager" のその他の機能

コンポーネントガイド 第1部

コンポーネントガイド 第2部

フロントパネルの操作

GPI インターフェース

PCカード

ワードクロック

複数台のDME32システム

MIDI

I/O オプション

付録

Pan(パン)

Panグループには5つのコンポーネント(LCR、Pan、Surround 2 + 2、Surround 3 + 1、Surround 5.1)があります。

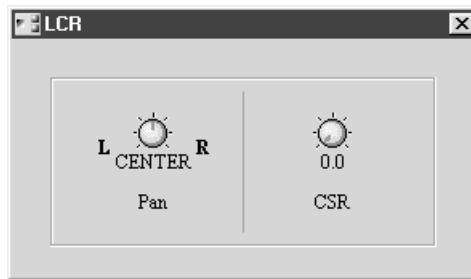
LCR

LCRコンポーネントには左 / センター / 右チャンネルパンがあります。



LCRコンポーネントは1つの入力と、左(L)、センター(C)、右(R)の3つの出力があります。

「LCR」コントロール画面は、[PAN]コントロールと[CSR](センター / サイド比)で構成されています。



LCRコンポーネントパラメーター

パラメーター	設定範囲	機能
PAN	L63 ~ CENTER ~ R63	入力信号を左右出力に振ります。
CSR	0.0 ~ 1.0	L/R/C出力に入るフロント / センター信号の量を調整します。

[CSR]コントロールを0に設定すると、フロントセンター信号はL、R出力にのみ入ります。これを0.5に設定するとフロントセンター信号はL、R、C出力に同等に入ります。1.0の設定ではフロントセンター信号はC出力にのみ入ります。

はじめに

操作の前に

各部の名称と機能

DME Managerの概要

コンフィグレーションの構築

Runモード

ソフトウェア "DME Manager" のその他の機能

コンポーネントガイド 第1部

コンポーネントガイド 第2部

フロントパネルの操作

GPI インターフェース

PCカード

ワードクロック

複数台の DME32 システム

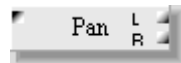
MIDI

I/O オプション

付録

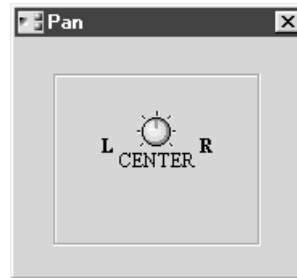
Pan

Panコンポーネントは基本的なパンコントロールです。



Panコンポーネントは1つの入力とL、R 2つの出力があります。

「Pan」コントロール画面には、1つのパンコントロールがあります。



Panコンポーネントパラメーター

パラメーター	設定範囲	機能
パン	L63 ~ CENTER ~ R63	入力信号を左右出力に振ります。

はじめに

操作の前に

各部の名称と機能

DME Managerの概要

コンフィグレーションの構築

Runモード

ソフトウェア "DME Manager" のその他の機能

コンポーネントガイド 第1部

コンポーネントガイド 第2部

フロントパネルの操作

GPI インターフェース

PCカード

ワードクロック

複数台の DME32 システム

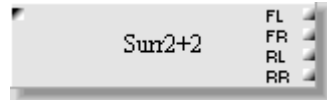
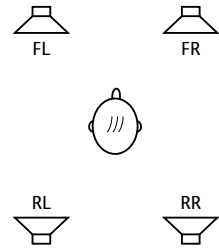
MIDI

I/O オプション

付録

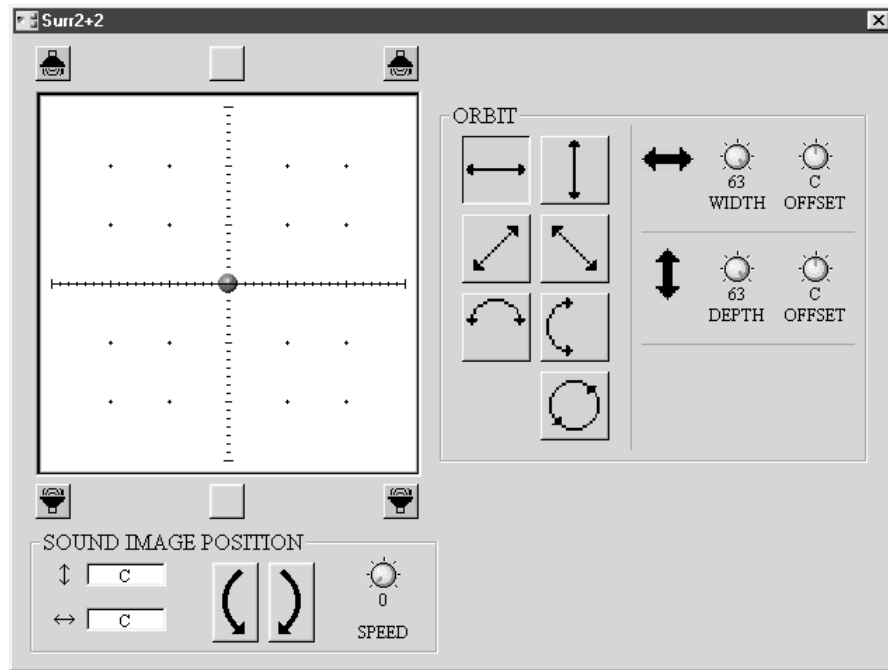
Surround 2 + 2

Surround 2 + 2コンポーネントにはフロント2チャンネル、リア2チャンネルの計4チャンネルサラウンドパンがあります。



Surround 2 + 2コンポーネントは1つの入力と、フロント左(FL)、フロント右(FR)、リア左(RL)、リア右(RR)という4つの出力があります。

「Surround 2 + 2」コントロール画面は、スピーカーボタン、[ORBIT] (軌道) コントロール、[SOUND IMAGE POSITION] (音像定位) コントロールと、指定した軌道と音像の定位を表示する2次元サラウンドパングラフで構成されています。



[ORBIT] を選択し [WIDTH] コントロール、[DEPTH] コントロールを設定したら、[SOUND IMAGE POSITION] ボタンをクリックすることで音像は指定軌道に従っていずれかの方向に移動します。マウスボタンを押したままにすると連続的に移動します。速度は [SPEED] コントロールノブで設定できます。ボタンの横にある2つの値は音像の正確な位置を示します。

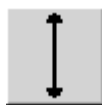
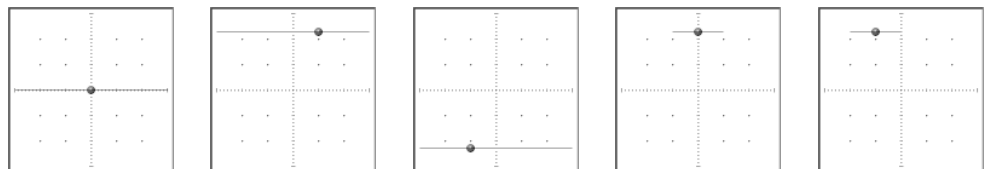


サラウンドパングラフ内でクリックすると、音像を直接移動したり、グラフのフロント/リアの辺に沿った6つのボタンの1つに移動することができます。スピーカーアイコンはコンポーネントの出力を表します。

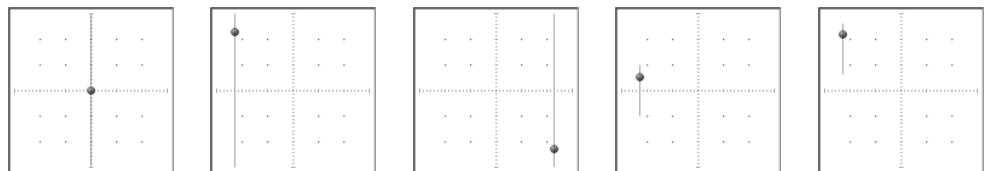
セクション	パラメーター	設定範囲	機能
ORBIT	ORBITボタン	以下参照。	音像の移動軌道を選択します。
	WIDTH	0 ~ 63/L63 ~ R63	軌道の幅を調整します。
	X OFFSET	L63 ~ C ~ R63	軌道のX(左/右)位置を調整します。
	DEPTH	0 ~ 63/F63 ~ R63	軌道の深さを調整します。
	Y OFFSET	F63 ~ C ~ R63	軌道のY(フロント/リア)位置を調整します。
SOUND IMAGE POSITION	SPEED	0 ~ 10	速度を設定します。



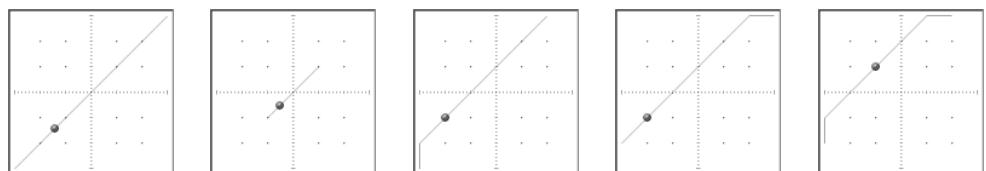
左/右 以下のように左右間の直線に沿って音像を移動します。WIDTH、X OFFSET、Y OFFSETパラメーターでこの軌道を調整します。



フロント/リア 以下のようにフロント/リア間の直線に沿って音像を移動します。DEPTH、X OFFSET、Y OFFSETパラメーターでこの軌道を調整します。



リア左/フロント右の斜線 以下のようにリア左とフロント右間の斜線に沿って音像を移動します。WIDTH、DEPTH、X OFFSET、Y OFFSETパラメーターでこの軌道を調整します。



はじめに

操作の前に

各部の名称と機能

DME Managerの概要

コンフィグレーションの構築

Runモード

ソフトウェア "DME Manager" のその他の機能

コンポーネントガイド 第1部

コンポーネントガイド 第2部

フロントパネルの操作

GPIインターフェース

PCカード

ワードクロック

複数台のDME32システム

MIDI

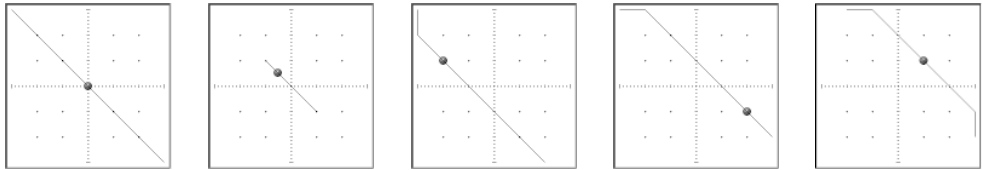
I/Oオプション

付録

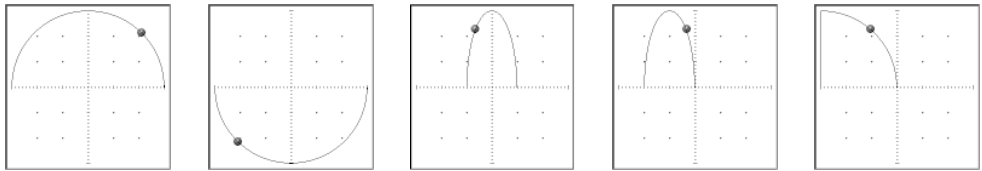
はじめに
操作の前に
各部の名称と機能
DME Managerの概要
コンフィグレーションの構築
Runモード
ソフトウェア "DME Manager" のその他の機能
コンポーネントガイド 第1部
コンポーネントガイド 第2部
フロントパネルの操作
GPI インターフェース
PCカード
ワードクロック
複数台の DME32 システム
MIDI
I/O オプション
付録



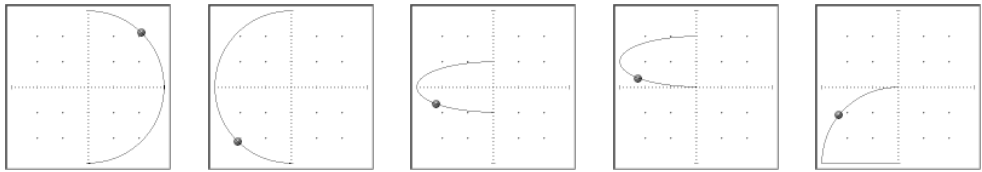
フロント左 / リア右の斜線 以下のようにフロント左とリア右間の斜線に沿って音像を移動します。WIDTH、DEPTH、X OFFSET、Y OFFSETパラメーターでこの軌道を調整します。



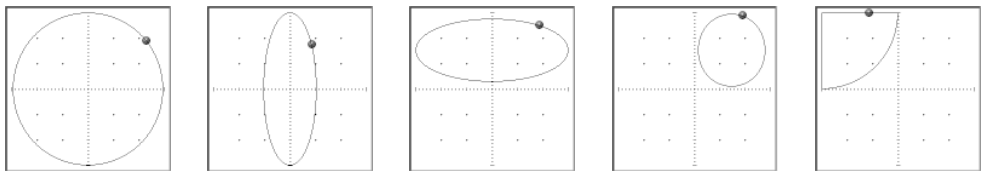
左 / 右曲線 以下のように左右間の弧に沿って音像を移動します。WIDTH、DEPTH、X OFFSET、Y OFFSETパラメーターでこの軌道を調整します。



フロント / リア曲線 以下のようにフロントとリア間の弧に沿って音像を移動します。WIDTH、DEPTH、X OFFSET、Y OFFSETパラメーターでこの軌道を調整します。

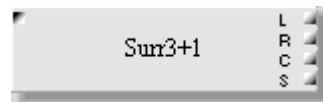
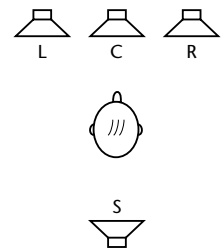


円 以下のように円に沿って音像を移動します。WIDTH、DEPTH、X OFFSET、Y OFFSETパラメーターでこの軌道を調整します。



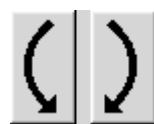
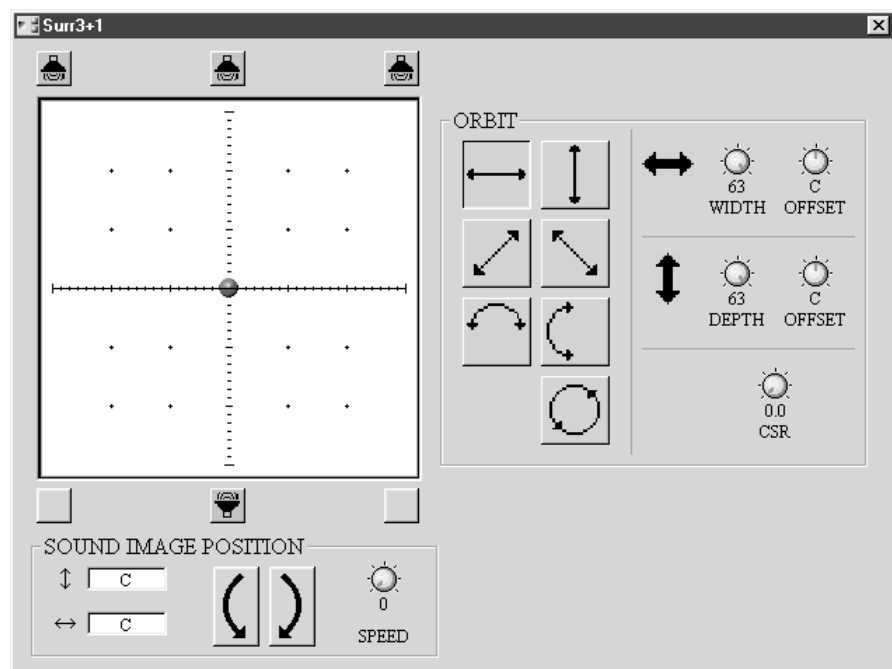
Surround 3 + 1

Surround 3 + 1コンポーネントにはフロント1チャンネル、リア3チャンネルの計4チャンネルサラウンドパンがあります。



Surround 3 + 1コンポーネントは1つの入力と、左(L)、センター(C)、右(R)、サラウンド(S)という4つの出力があります。

「Surround 3 + 1」コントロール画面は、スピーカーボタン、[ORBIT] (軌道) コントロール、[SOUND IMAGE POSITION] (音像定位) コントロールと、指定した軌道と音像の定位を表示する2次元サラウンドパングラフで構成されています。



軌道を選択し [WIDTH] コントロール、[DEPTH] コントロールを設定したら、[SOUND IMAGE POSITION] ボタンをクリックすることで音像は指定経路に従っていずれかの方向に移動します。マウスボタンを押したままにすると連続的に移動します。速度は [SPEED] コントロールノブで設定できます。ボタンの横にある2つの値は音像の正確な位置を示します。

はじめに

操作の前に

各部の名称と機能

DME Managerの概要

コンフィグレーションの構築

Runモード

ソフトウェア "DME Manager" のその他の機能

コンポーネントガイド 第1部

コンポーネントガイド 第2部

フロントパネルの操作

GPI インターフェース

PCカード

ワードクロック

複数台の DME32 システム

MIDI

I/O オプション

付録



サラウンドパングラフ内でクリックすると、音像を直接移動したり、グラフのフロント/リアの辺に沿った6つのボタンの1つに移動することができます。スピーカーアイコンはコンポーネントの出力を表します。

セクション	パラメーター	設定範囲	機能
ORBIT	ORBITボタン	以下参照。	音像の移動軌道を選択します。
	WIDTH	0 ~ 63/L63 ~ R63	軌道の幅を調整します。
	X OFFSET	L63 ~ C ~ R63	軌道のX(左/右)位置を調整します。
	DEPTH	0 ~ 63/F63 ~ R63	軌道の深さを調整します。
	Y OFFSET	F63 ~ C ~ R63	軌道のY(フロント/リア)位置を調整します。
	CSR	0.0 ~ 1.0	L/R/C出力に入るフロント/センター信号の量を調整します。
SOUND IMAGE POSITION	SPEED	0 ~ 10	速度を設定します。

[CSR]コントロールを0に設定すると、フロントセンター信号はL、R出力にのみ入ります。これを0.5に設定するとフロントセンター信号はL、R、C出力に同等に入ります。1.0の設定ではフロントセンター信号はC出力にのみ入ります。

はじめに

操作の前に

各部の名称と機能

DME Managerの概要

コンフィグレーションの構築

Runモード

ソフトウェア "DME Manager" のその他の機能

コンポーネントガイド 第1部

コンポーネントガイド 第2部

フロントパネルの操作

GPI インターフェース

PCカード

ワードクロック

複数台の DME32 システム

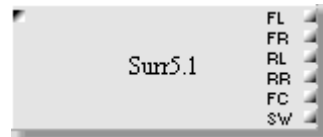
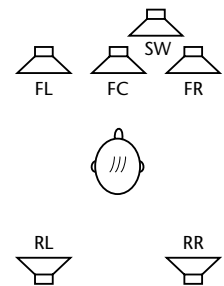
MIDI

I/O オプション

付録

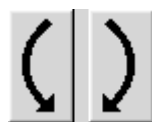
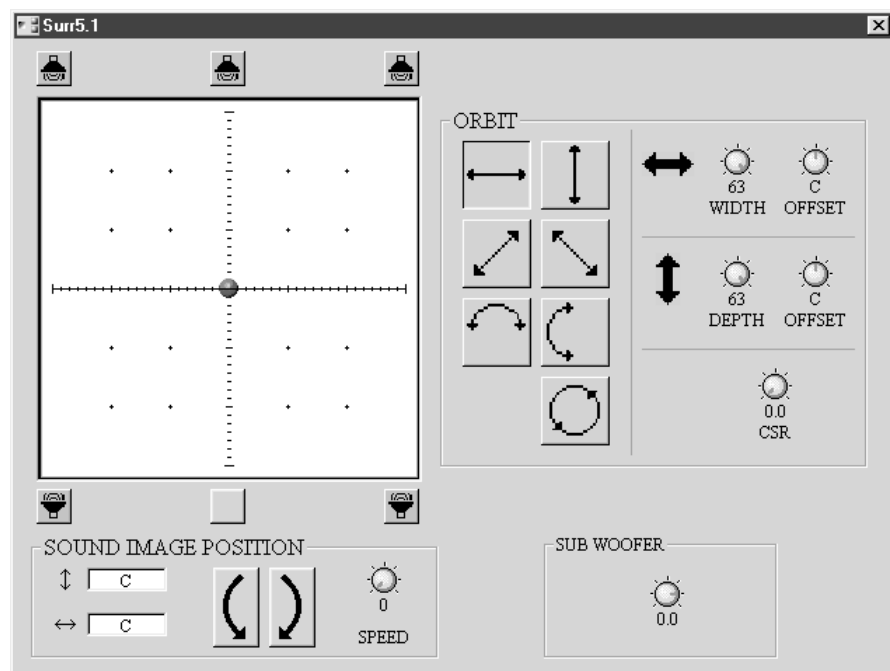
Surround 5.1

Surround 5.1コンポーネントにはフロント3チャンネル、リア2チャンネル、サブウーファー1チャンネルの計6チャンネルサラウンドパンがあります。



Surround 5.1コンポーネントは1つの入力、フロント左 (FL) フロントセンター (FC) フロント右 (FR) リア左 (RL) リア右 (RR) サブウーファー (SW) という6つの出力があります。

「Surround 5.1」コントロール画面は、スピーカーボタン、[ORBIT] (軌道) コントロール、[SOUND IMAGE POSITION] (音像定位) コントロール、[SUB WOOFER] コントロールと、指定した軌道と音像の定位を表示する2次元サラウンドパングラフで構成されています。



軌道を選択し [WIDTH] コントロール、[DEPTH] コントロールを設定したら、[SOUND IMAGE POSITION] ボタンをクリックすることで音像は指定軌道に従っていずれかの方向に移動します。マウスボタンを押したままにすると連続的に移動します。速度は [SPEED] コントロールノブで設定できます。ボタンの横にある2つの値は音像の正確な位置を示します。

はじめに

操作の前に

各部の名称と機能

DME Managerの概要

コンフィグレーションの構築

Runモード

ソフトウェア "DME Manager" のその他の機能

コンポーネントガイド 第1部

コンポーネントガイド 第2部

フロントパネルの操作

GPI インターフェース

PCカード

ワードクロック

複数台の DME32 システム

MIDI

I/O オプション

付録



サラウンドパングラフ内でクリックすると、音像を直接移動したり、グラフのフロント/リアの辺に沿った6つのボタンの1つに移動することができます。スピーカーアイコンはコンポーネントの出力を表します。

セクション	パラメーター	設定範囲	機能
ORBIT	ORBITボタン	以下参照。	音像の移動軌道を選択します。
	WIDTH	0 ~ 63/L63 ~ R63	軌道の幅を調整します。
	X OFFSET	L63 ~ C ~ R63	軌道のX(左/右)位置を調整します。
	DEPTH	0 ~ 63/F63 ~ R63	軌道の深さを調整します。
	Y OFFSET	F63 ~ C ~ R63	軌道のY(フロント/リア)位置を調整します。
	CSR	0.0 ~ 1.0	L/R/C出力に入るフロント/センター信号の量を調整します。
Subwoofer	Level	mute ~ 10.0dB	サブウーファー信号のレベルを調整します。
SOUND IMAGE POSITION	SPEED	0 ~ 10	速度を設定します。

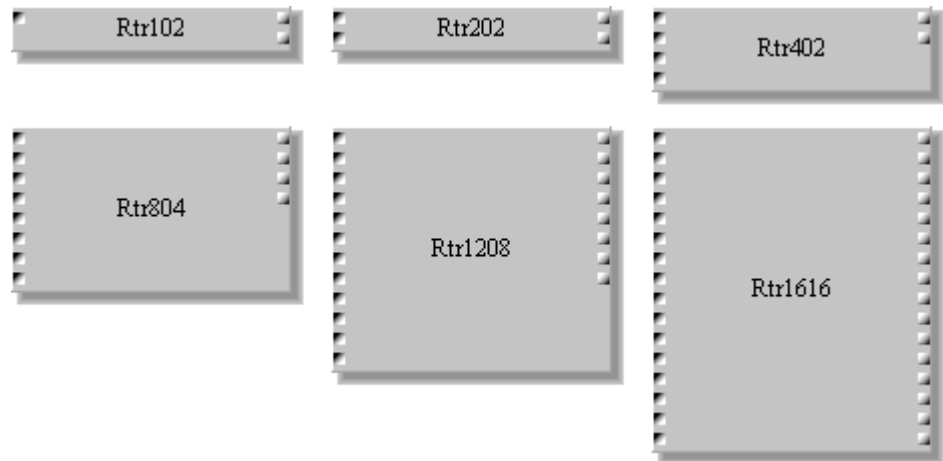
[CSR]コントロールを0に設定すると、フロントセンター信号はL、R出力にのみ入ります。これを0.5に設定するとフロントセンター信号はL、R、C出力に同等に入ります。1.0の設定ではフロントセンター信号はC出力にのみ入ります。

はじめに
操作の前に
各部の名称と機能
DME Managerの概要
コンフィグレーションの構築
Runモード
ソフトウェア "DME Manager" のその他の機能
コンポーネントガイド 第1部
コンポーネントガイド 第2部
フロントパネルの操作
GPI インターフェース
PCカード
ワードクロック
複数台の DME32 システム
MIDI
I/O オプション
付録

Router(ルーター)

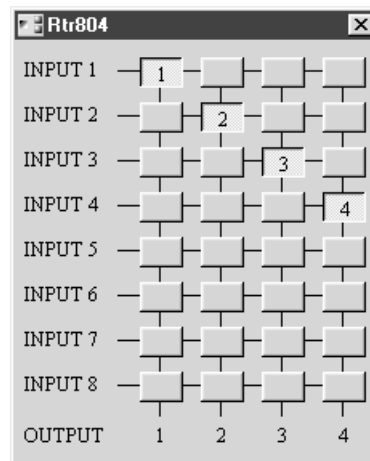
35種類のRouterが入力数別に6つのグループ(1x、2x、4x、8x、12x、16x)に分類されています。1x入力グループには5つのコンポーネントが含まれ、それぞれがx2、x4、x8、x12、x16の出力を持っています。その他のグループには各6つのコンポーネントが含まれ、それぞれx1、x2、x4、x8、x12、x16の出力があります。

以下の図はグループ分けされたRouterコンポーネントです。



いずれのRouterコンポーネントも入出力数以外は同じなので、ここでは「ROUTER8x4」コントロール画面のみをご紹介します。

「ROUTER」コントロール画面には、信号を入力から出力へ割り当てるルーティング用ボタンが表示されています。初期設定では各入力に対応する出力(たとえばINPUT 1はOUTPUT 1など)に割り当てられています。



1つの入力を複数の出力に割り当てることはできますが、複数の入力を同じ出力に割り当てることはできません。つまりルーターは入力信号を複数の出力に分配することはできますが、複数の入力信号をミックスすることはできません。入力信号をすでに使用している出力に割り当てると、それまで割り当てていた設定がキャンセルされます。

Routerコンポーネントボタンはパラメーターリンク機能でリンクすることはできません。

はじめに

操作の前に

各部の名称と機能

DME Managerの概要

コンフィグレーションの構築

Runモード

ソフトウェア "DME Manager" のその他の機能

コンポーネントガイド 第1部

コンポーネントガイド 第2部

フロントパネルの操作

GPIインターフェース

PCカード

ワードクロック

複数台のDME32システム

MIDI

I/Oオプション

付録

以下のルーターが使用できます。

グループ	ルーター	入力	出力
1x	1x2	1	2
	1x4		4
	1x8		8
	1x12		12
	1x16		16
2x	2x1	2	1
	2x2		2
	2x4		4
	2x8		8
	2x12		12
	2x16		16
4x	4x1	4	1
	4x2		2
	4x4		4
	4x8		8
	4x12		12
	4x16		16
8x	8x1	8	1
	8x2		2
	8x4		4
	8x8		8
	8x12		12
	8x16		16
12x	12x1	12	1
	12x2		2
	12x4		4
	12x8		8
	12x12		12
	12x16		16
16x	16x1	16	1
	16x2		2
	16x4		4
	16x8		8
	16x12		12
	16x16		16

はじめに

操作の前に

各部の名称と機能

DME Managerの概要

コンフィグレーションの構築

Runモード

ソフトウェア "DME Manager" のその他の機能

コンポーネントガイド 第1部

コンポーネントガイド 第2部

フロントパネルの操作

GPI インターフェース

PCカード

ワードクロック

複数台の DME32 システム

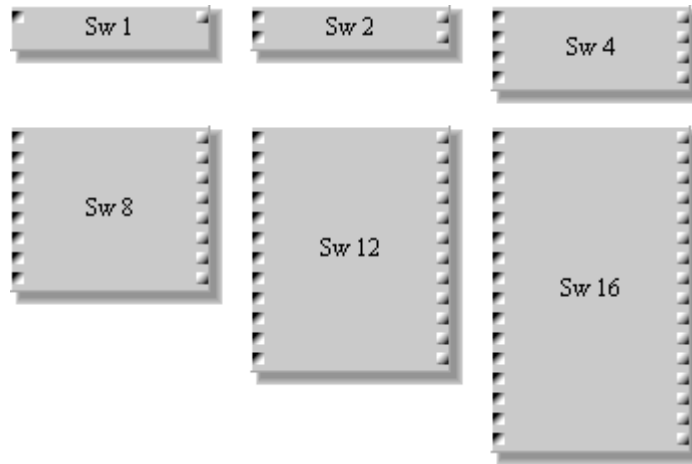
MIDI

I/O オプション

付録

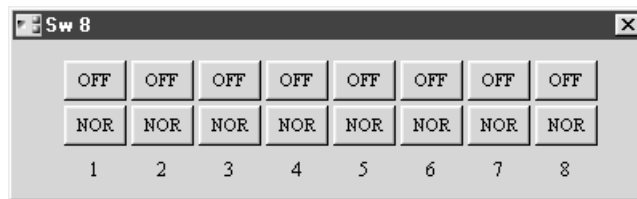
Switch(スイッチ)

Switchグループにはそれぞれ1、2、4、8、12、16チャンネルの6つのコンポーネントがあります。



各Switchコンポーネントはチャンネル数が異なるだけで他は同じです。ここでは8チャンネルの「Switch 8」コントロール画面だけをご紹介します。

どの「Switch」コントロール画面も、[ON/OFF] ボタンと[PHASE] ボタンがあります。



Switchコンポーネントパラメーター

パラメーター	設定範囲	機能
ON/OFF	ON/OFF	各チャンネルの出力をオン / オフします。
PHASE	NOR/REV	各入力信号の位相を反転させます。

はじめに

操作の前に

各部の名称と機能

DME Managerの概要

コンフィギュレーションの構築

Runモード

ソフトウェア "DME Manager" のその他の機能

コンポーネントガイド 第1部

コンポーネントガイド 第2部

フロントパネルの操作

GPI インターフェース

PCカード

ワードクロック

複数台の DME32 システム

MIDI

I/O オプション

付録

User Control(ユーザーコントロール)

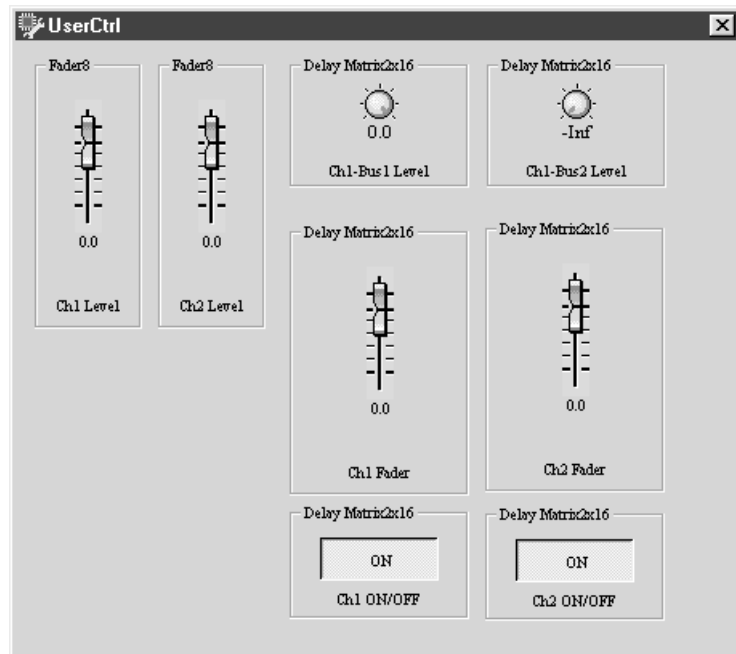
ユーザーコントロールはコンフィグレーション内の別のコンポーネントのロータリーコントロール、フェーダー、ボタンをコピーしてカスタマイズしたコントロール画面を作成します。ひとつのコントロール画面でいくつものパラメーターをコントロールできる便利なものです。

また、ユーザーコントロールは複雑なシステムにおいてシンプルな操作環境をつくることもできます。システム設計者は普通のユーザーが扱うコンポーネントパラメーターを決めてあげられます。たとえば、普通のユーザーがアクセス必要な個々のパラメーターをこの「User Control」コントロール画面にコピーしておくことができます。他のコンポーネントはパスワードプロテクトで触られるのを防ぐことができます。

UserCtrl

User Controlコンポーネントは入出力はありません。

以下の画面は別のコンポーネントからコピーしたパラメーターのある「User Control」画面例です。

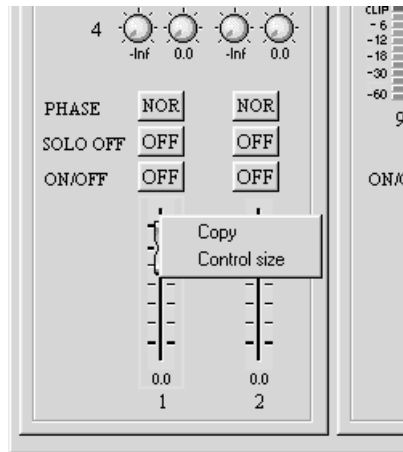


User Controlの作成

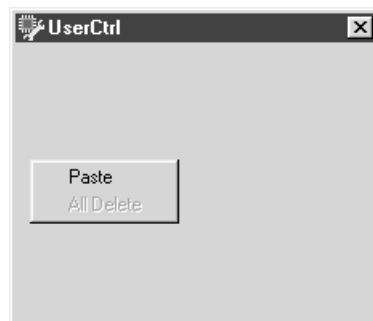
- 1 Edit モードを選択します。
詳細は47ページ「Edit モードの選択」を参照ください。
- 2 「Component」メニュー、あるいは「Component List」から「User Control」をコンフィグレーションに追加します。
「User Control」画面が開きます。



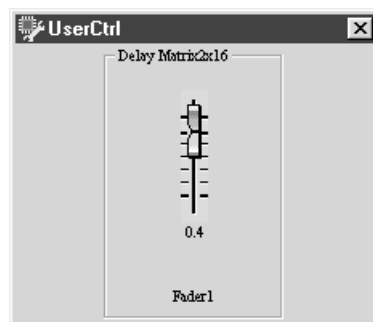
- 3 「User Control」画面に追加したいパラメーターがある「Component」コントロール画面を開きます。
- 4 パラメーターを選択し、Shiftキーを押しながらコントロールを右クリックします。
ポップアップメニューが表示されます。



- 5 [Copy]を選択します。
ポップアップメニューは閉じます。
- 6 「User Control」画面を選択し右クリックします。
ポップアップメニューが表示されます。



- 7 [Paste]を選択します。
コピーされたパラメーターがポップアップメニューに表示されます。



パラメーターをドラッグして画面内の境界に置きます。

はじめに

操作の前に

各部の名称と機能

DME Managerの概要

コンフィグレーションの構築

Runモード

ソフトウェア "DME Manager" のその他の機能

コンポーネントガイド 第1部

コンポーネントガイド 第2部

フロントパネルの操作

GPI インターフェース

PCカード

ワードクロック

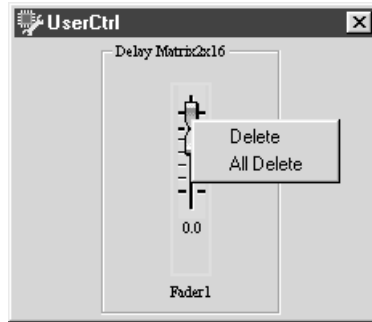
複数台の DME32 システム

MIDI

I/O オプション

付録

- はじめに
- 操作の前に
- 各部の名称と機能
- DME Managerの概要
- コンフィグレーションの構築
- Runモード
- ソフトウェア「DME Manager」のその他の機能
- コンポーネントガイド 第1部
- コンポーネントガイド 第2部
- フロントパネルの操作
- GPIインターフェース
- PCカード
- ワードクロック
- 複数台のDME32システム
- MIDI
- I/Oオプション
- 付録
- 8 手順3～7を繰り返して他のパラメーターを「User Control」画面にコピーします。
 - 9 コントロールを削除するには、選択した後Shiftキーを押しながらコントロールを右クリックします。
ポップアップメニューが表れます。



- 10 [Delete]を選択して指定したコントロールを削除するか、[All Delete]を選択してすべてのコントロールを削除します。

選択したコントロール、またはすべてのコントロールが削除されます。

User Controlをコンフィグレーションに保存してUser Controlの作成が一度終了したら、そのコンフィグレーションをコンパイルしてDME32本体へ転送します。それでUser Controlは使えるようになります。

「User Control」画面のパラメーターを調整するとコピー元のコンポーネントの該当パラメーターも調整されます。逆にコンポーネントのパラメーターを調整すると「User Control」画面のパラメーターも変化します。両方のパラメーターコントロールが画面に表示されている場合は、どちらかのコントロールを調整すると両方とも動くのがわかります。

「User Control」画面のパラメーターはコピー元のコンポーネントがパスワードでプロテクトされていても調整できます。詳細は85ページ「パスワードによるプロテクト」をご参照ください。コンポーネントは「Properties」画面のProtectで個々にプロテクトできます。詳細は82ページ「コンポーネントプロパティのカスタム化」をご参照ください。

User Controlの保存

User Controlの作成が済んだら、コンパイルしてDME32本体にコンフィグレーションを転送するか、ファイルにセーブしてください。

User Module(ユーザーモジュール)

User Moduleではコンポーネントのライブラリーを構成ブロックとして使用してカスタムのコンポーネントを作成します。頻繁に使うコンポーネントの組み合わせを管理する便利な方法です。User Moduleは再使用できタイトルを付けてディスクに保存できます。



User Moduleは初期設定では1つの入出力がありますが最高16個の入出力まで拡張可能です。

User Moduleの構築

- 1 Editモードを選択します。
47ページ「Editモードの選択」をご参照ください。
- 2 「Component」メニューまたは「Component List」からコンフィグレーションへ User Moduleを追加しダブルクリックします。
次の「User Module」画面が開きます。



初期設定では1つの入出力がありますが「Properties」画面で最高16個の入出力まで拡張できます。詳細は82ページ「コンポーネントプロパティのカスタム化」をご参照ください。

- 3 「Component」メニューまたは「Component List」から「User Module」画面に必要なコンポーネントを追加します。
コンポーネントを追加するとDSPパワーメーターが上がります。「User Module」画面でのコンポーネントの位置はGridコマンドとAlignコマンドで調整します。これはコンフィグレーション画面でのコンポーネントの位置揃えと同じ要領です。詳細は48ページ「コンポーネントの追加」をご参照ください。「User Module」画面のコンポーネントはコンフィグレーション画面と同じ要領で編集します。詳細は50ページ「コンポーネントの編集」をご参照ください。

はじめに

操作の前に

各部の名称と機能

DME Managerの概要

コンフィグレーションの構築

Runモード

ソフトウェア「DME Manager」のその他の機能

コンポーネントガイド 第1部

コンポーネントガイド 第2部

フロントパネルの操作

GPIインターフェース

PCカード

ワードクロック

複数台のDME32システム

MIDI

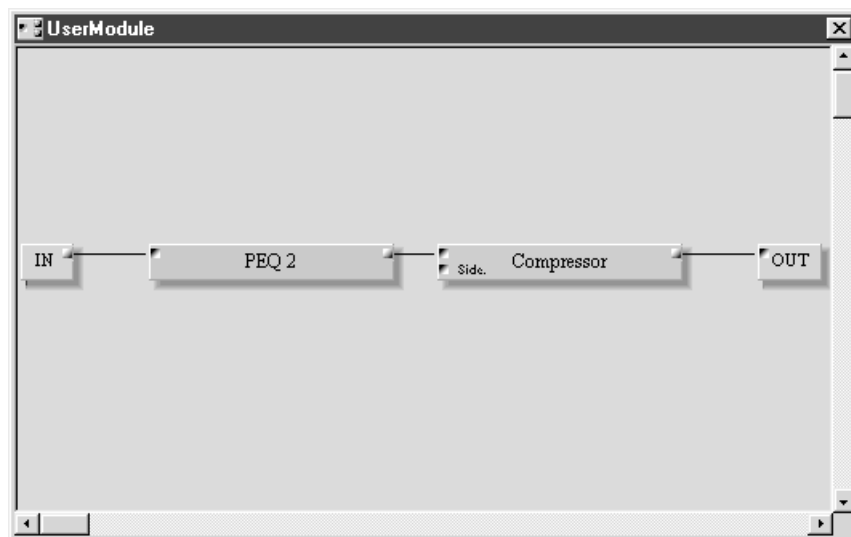
I/Oオプション

付録

4 Cableモードを選択しコンポーネントを配線します。

「User Module」画面のコンポーネントはコンフィグレーション画面でのコンポーネントと同様に配線できます。詳細は53ページ「配線の追加」、58ページ「配線の削除」をご参照ください。

次の例は基本的なUser Moduleです。

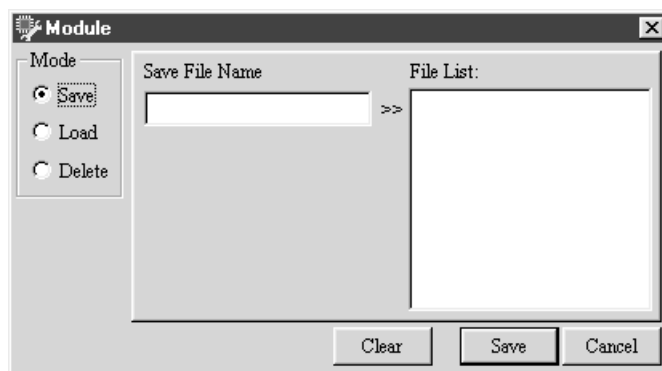


必要なコンポーネントを追加し配線したら「User Module」画面を閉じます。User Moduleはコンフィグレーション画面で他のコンポーネントに配線できます。

User Moduleの保存

次の手順でUser Moduleを保存します。

- 1 保存したいUser Moduleコンポーネントを選択します。
- 2 「Edit」メニューで「Module」を選択します。
またはショートカットメニューで「Module」を選択します。
次の「Module」画面が開きます。



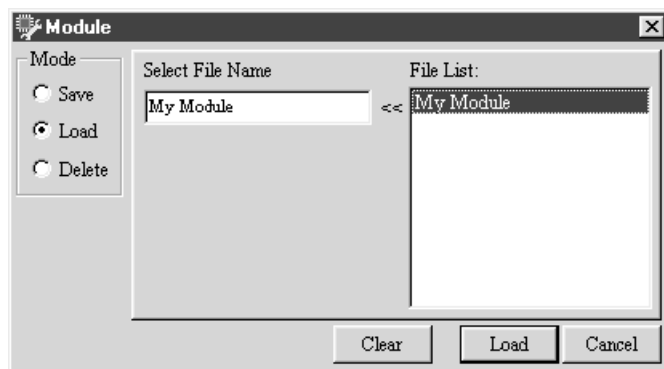
- 3 「Mode」欄で「Save」を選択します。

- 4 「Save File Name」欄でUser Moduleのタイトルを入力します。
タイトルは24文字まで入力できます。
別のタイトルに変更するには「Clear」ボタンをクリックしてクリアしてください。
- 5 「Save」をクリックします。
User Moduleが保存され「Module」画面が閉じます。
同じタイトルのモジュールがすでにあると、それを上書きしてよいか確認のメッセージが表示されます。「OK」をクリックして上書き保存するか、「Cancel」をクリックして操作を中止します。
「DME Manager」プログラムフォルダ内にある「Module」フォルダの中のUser Moduleには“ um ”というファイル拡張子が付きます。User ModuleファイルはWindowsのファイルと同じ要領で管理(コピー、削除、バックアップなど)できます。

User Moduleのロード

すでに保存してあるUser Moduleは以下の手順でロードします。

- 1 保存されたUser Moduleをロードする先のUser Moduleコンポーネントを選択します。
- 2 「Edit」メニューから「Module」を選択します。
またはショートカットメニューで「Module」を選択します。
「Module」画面が開きます。
- 3 「Mode」欄で「Load」を選択します。
- 4 「File List」からロードしたいモジュールを選択します。
選択したモジュールのタイトルが次のように「Select File Name」欄に表示されます。



別のモジュールを選択するには、まず「Clear」ボタンをクリックして選択をキャンセルしてください。

- 5 「Load」をクリックします。
選択モジュールがロードされ「Module」画面が閉じます。

はじめに

操作の前に

各部の名称と機能

DME Managerの概要

コンフィグレーションの構築

Runモード

ソフトウェア "DME Manager" のその他の機能

コンポーネントガイド 第1部

コンポーネントガイド 第2部

フロントパネルの操作

GPI インターフェース

PCカード

ワードクロック

複数台の DME32 システム

MIDI

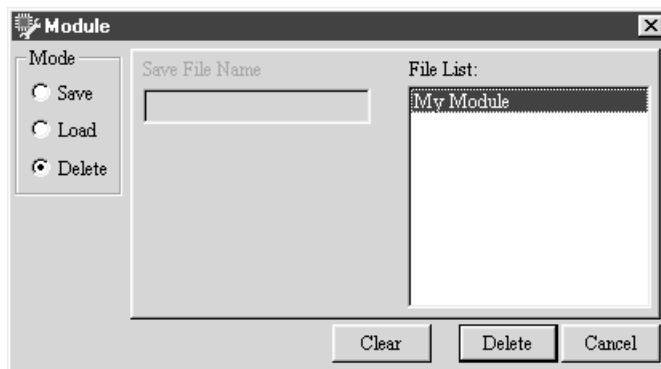
I/O オプション

付録

User Moduleの削除

すでに保存してあるUser Moduleは以下の手順で削除します。

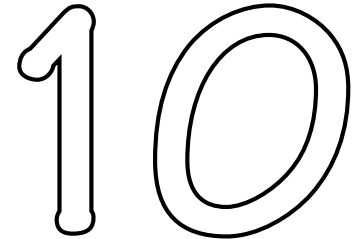
- 1 User Moduleを選択します。
この削除機能はコンフィグレーションで使用しているUser Moduleには影響ありません。
- 2 「Edit」メニューから[Module]を選択します。
またはショートカットメニューで[Module]を選択します。
「Module」画面が開きます。
- 3 「Mode」欄で[Delete]を選択します。
- 4 [File List]から削除したいモジュールを次のように選択します。



別のモジュールを選択するには、まず[Clear]ボタンをクリックして選択をキャンセルしてください。

- 5 [Delete]をクリックします。
選択モジュールが削除されます。

フロントパネルの操作



本章の目次

コンフィグレーションの呼び出し	200
シーンの保存	201
シーンの呼び出し	202
パラメーター編集と[USER DEFINE]キー	203
DME32へのアクセスの制限	205
ワードクロックソースの選択	211
I/Oスロットの確認	212
DME32の初期化	212
ファームウェアバージョンと電池の確認	212

はじめに

操作の前に

各部の名称と機能

DME Managerの概要

コンフィグレーションの構築

Runモード

ソフトウェア "DME Manager" のその他の機能

コンポーネントガイド 第1部

コンポーネントガイド 第2部

フロントパネルの操作

GPI インターフェース

PCカード

ワードクロック

複数台のDME32システム

MIDI

I/O オプション

付録

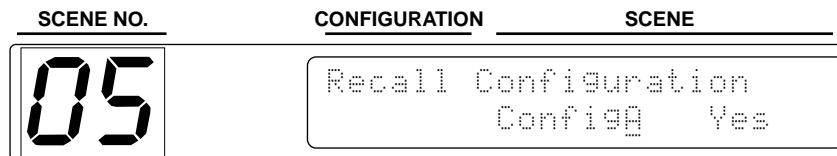
コンフィグレーションの呼び出し

コンフィグレーションはDME32フロントパネルから呼び出せます。

注意: コンフィグレーションを選択するとシステム設定が変わるので音量レベルが突然変わることがあり、スピーカーに損傷をきたす恐れもあります。十分ご注意ください。

- 1 [UTILITY]キーで“ Recall Configuration (コンフィグレーションリコール)”を選択します。

UTILITYインジケーターが点灯します。

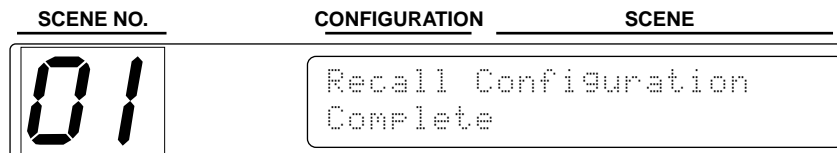


- 2 DATAホイールまたは[INC] [DEC]キーでコンフィグレーションAまたはBを選択します。

データの入っているコンフィグレーションメモリーのみ選択できます。

- 3 [VALUE]キーで選択内容を呼び出します。

DME32のコンフィグレーションが呼び出され、そのコンフィグレーションの以前に選択されていたシーンが呼び出されます。ディスプレイに“ Complete (完了)”というメッセージが表示されます。



- 4 UTILITYインジケーターが消灯するまで[UTILITY]キーを繰り返し押します。複数台のDME32システムでは選択したコンフィグレーションがカスケード接続により各ユニットで呼び出されます。

シーンの保存

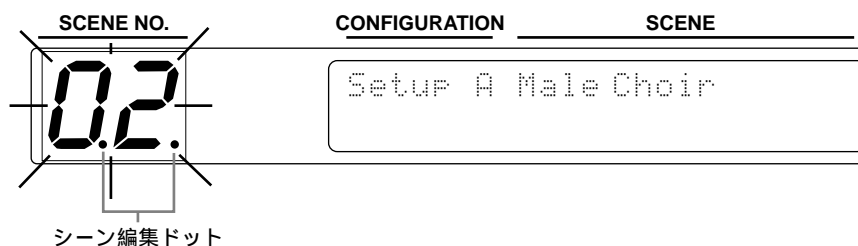
シーンの保存はDME32フロントパネルから操作できます。

注意: シーン保存時、保存不要な設定がそのシーンに入っていないことを確認してください。誤って設定を変更してしまったり他人が勝手に変更していることがあります。不確かな場合は最終シーンを呼び出し、必要な調整を行ってから保存してください。現在のシーンは後で必要な場合に備えて未使用のメモリーに保存するといいいでしょう。

全ての新しいコンフィグレーションはシーンメモリー01のDefault Sceneで作成されます。このシーンはコンポーネントパラメーターの初期値を持っていますが、他のシーンと同じで変更、タイトル付け、保存、呼び出しができます。削除はできません。

1 テンキーでシーンメモリー番号を入力します。

シーンメモリー番号がSCENE NO.インジケータに点滅し、ディスプレイにシーンタイトルが表示されます。

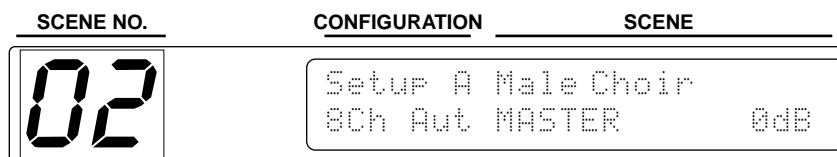


指定したメモリーにシーンが入っていないと“ NO DATA ”と表示されます。

保存機能を解除してシーンメモリー番号の点滅を止めるには、前のシーン番号を入力します。

2 [STORE]キーを押します。

現在の設定が指定したシーンメモリーに保存され、SCENE NO.インジケータの番号が点灯に変わります。シーン編集ドットが消灯し、ディスプレイのバリュー部が適宜更新されます。



新しく保存されたシーンのタイトルは前のままです。

複数台のシステムでは指定したシーンがカスケード接続によりすべてのDME32に保存されます。

はじめに

操作の前に

各部の名称と機能

DME Managerの概要

コンフィグレーションの構築

Runモード

ソフトウェア "DME Manager" のその他の機能

コンポーネントガイド 第1部

コンポーネントガイド 第2部

フロントパネルの操作

GPI インターフェース

PCカード

ワードクロック

複数台のDME32システム

MIDI

I/O オプション

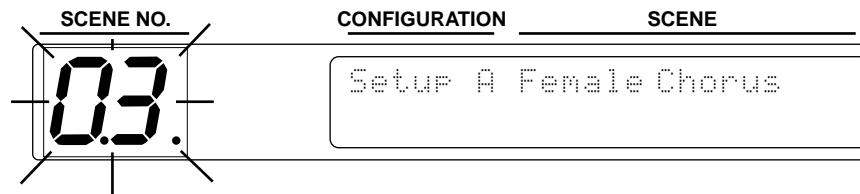
付録

シーンの呼び出し

シーンの呼び出しはDME32フロントパネルから操作できます。

注意: シーンを呼び出すとパラメーター設定が変わるので音量レベルが突然変わることがあり、スピーカーに損傷をきたす恐れもあります。十分ご注意ください。

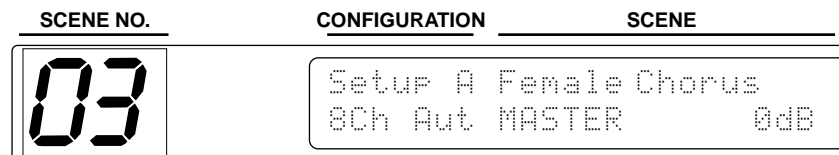
- 1 テンキーでシーンメモリー番号を入力します。
シーンメモリー番号がSCENE NO.インジケータに点滅し、ディスプレイにシーンタイトルが表示されます。



指定したメモリーにシーンが入っていないと“NO DATA”と表示されます。

呼び出し機能を解除してシーンメモリー番号の点滅を止めるには、前のシーン番号を入力します。

- 2 [RECALL]キーを押します。
指定したシーンが呼び出され、SCENE NO.インジケータの番号が点灯に変わります。シーン編集ドットが消灯し、ディスプレイのバリュー部が適宜更新されます。



複数台のシステムでは指定したシーンがカスケード接続を介してすべてのDME32に呼び出されます。

パラメーター編集と[USER DEFINE]キー

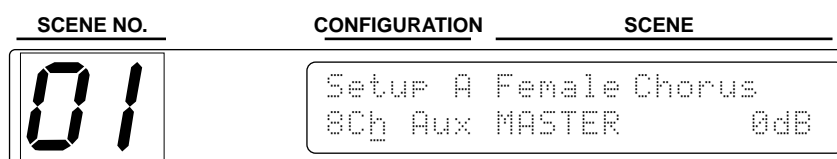
コンポーネントパラメーターはDME32フロントパネルから編集できます。フロントパネルでの編集は次の3つの手順で行います。

- 1)コンポーネントを選択
- 2)パラメーターを選択
- 3)バリューを変更

DME Managerで設定する[USER DEFINE]キーを使い、指定パラメーターに直接アクセスできます。詳細は88ページ「[USER DEFINE]キーの設定」をご参照ください。

1 [COMPONENT]キーを押します。

カーソルがディスプレイのコンポーネント部に移動し、COMPONENTインジケーターが点灯します。

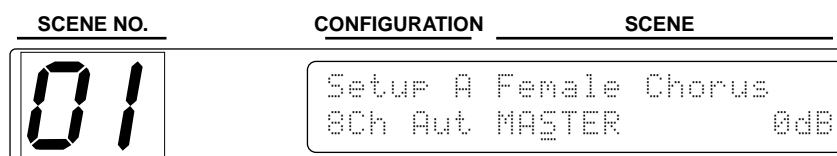


通常コンポーネント名は始めの7文字が表示されますが、このキーを押すとコンポーネント名が全文字で表示されます。もう一度押すと通常の表示に戻ります。

2 DATAホイールまたは[INC][DEC]キーでコンポーネントを選択します。

3 [PARAMETER]キーを押します。

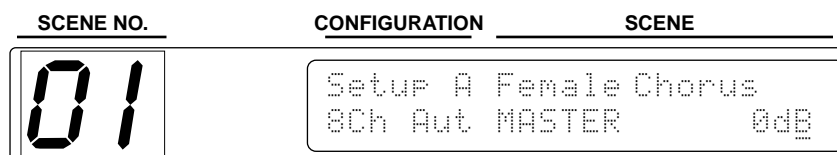
カーソルがディスプレイのパラメーター部に移動し、PARAMETERインジケーターが点灯します。



4 DATAホイールまたは[INC][DEC]キーでパラメーターを選択します。

5 [VALUE]キーを押します。

カーソルがディスプレイのバリュー部に移動し、VALUEインジケーターが点灯します。



はじめに

操作の前に

各部の名称と機能

DME Managerの概要

コンフィグレーションの構築

Runモード

ソフトウェア "DME Manager" のその他の機能

コンポーネントガイド 第1部

コンポーネントガイド 第2部

フロントパネルの操作

GPI インターフェース

PCカード

ワードクロック

複数台のDME32システム

MIDI

I/O オプション

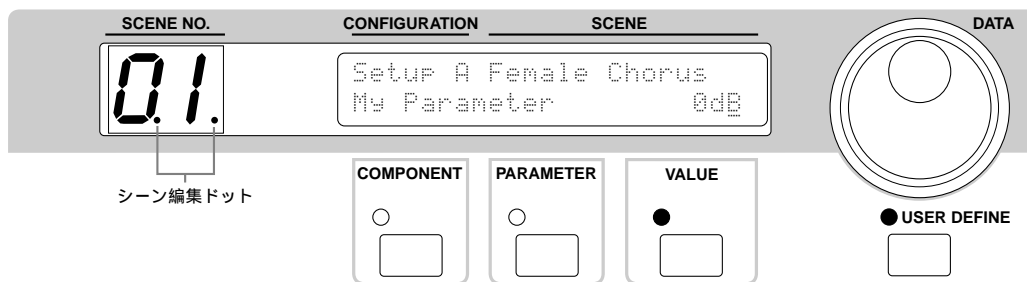
付録

6 DATAホイールまたは[INC][DEC]キーでバリュー(値)を変更します。

[COMPONENT][PARAMETER][VALUE]キーの代わりにカーソルキー(◀ / ▶)でディスプレイの各コンポーネント部、パラメーター部、バリュー部の間をカーソル移動できます。

パラメーターを編集するとシーン編集ドットがSCENE NO.インジケータに表示され、最後にシーンを呼び出してからパラメーターが編集されていることを示します。DME32に電源を入れたり、シーンを呼び出したりすると、最初のコンポーネントの最初のパラメーターが選択されます。ただし[USER DEFINE]キーにパラメーターが割り当てられている場合は、割り当てられているパラメーターが選択されます。

[USER DEFINE]キーを押すと、割り当てられているパラメーターが選択され、ディスプレイのコンポーネント部とパラメーター部に表示されます。カーソルは右側のバリュー部に移動し、USER DEFINEインジケータが点灯します。



[USER DEFINE]キーに割り当てられたパラメーターはDATAホイール、[INC][DEC]キーで編集します。

他のパラメーターも[COMPONENT][PARAMETER][VALUE]キーを使って編集できます。割り当てられたパラメーターを直接表示するには、もう一度[USER DEFINE]キーを押します。

USER DEFINEインジケータが点灯中はカーソルキー(◀ / ▶)は動きません。

DME32 へのアクセスの制限

プロテクト機能でDME32へのアクセスを制限できます。プロテクト機能にはScene Recall Only(シーン呼び出しのみ)とFull Protect(フルプロテクト)の2つのレベルがあります。

“ Scene Recall Only ”ではシーンを呼び出せませんが、その他の機能へはアクセスできません。

“ Full Protect ”ではどの機能にもアクセスできません。

ただしパスワード入力でプロテクトを一時解除すれば、許可の与えられたユーザーだけが編集作業を行えます。詳細は208ページ「プロテクトシステムの一時解除」をご参照ください。

複数台のDME32システムでは1台目のDME32のみプロテクト機能を設定すれば、他のDME32はカスケード接続を介してプロテクト機能の設定ができます。

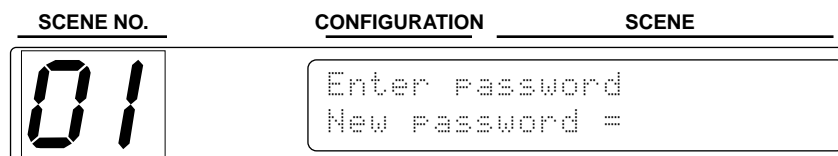
このプロテクト機能はDME32本体へのアクセス制限であり85ページで説明されているDME Managerで設定するプロテクトとは異なります。

パスワードの設定

以下はDME32の初期化後あるいは初めてパスワードを設定する方法です。すでに設定したパスワードを変更、削除するには209ページ、210ページをそれぞれお読みください。

- 1 [PROTECT]キーを押します。

“ Enter password ”とディスプレイに表示されPROTECTインジケーターが点灯します。



- 2 SCENE RECALLテンキーで4桁のパスワードを入力します。

数字を入力するたびに数字が表示されます。

間違った数字を入力した場合は[PROTECT]キーを押して最初からやり直します。4桁の番号の入力後[RECALL]キーが押されればパスワードは設定されます。

パスワードを設定せずにプロテクト機能を解除する場合は[PROTECT]キーを押します。プロテクト機能が解除されPROTECTインジケーターが消灯します。

- 3 4桁の数字を入力したら[RECALL]キーを押してパスワードを確定します。

パスワードが確定されプロテクトが作動します。

パスワードを忘れた場合

パスワードを忘れてしまった場合は、212ページ「ファームウェアバージョンと電池の確認」をご参照ください。

はじめに

操作の前に

各部の名称と機能

DME Managerの概要

コンフィグレーションの構築

Runモード

ソフトウェア "DME Manager" のその他の機能

コンポーネントガイド 第1部

コンポーネントガイド 第2部

フロントパネルの操作

GPIインターフェース

PCカード

ワードクロック

複数台のDME32システム

MIDI

I/Oオプション

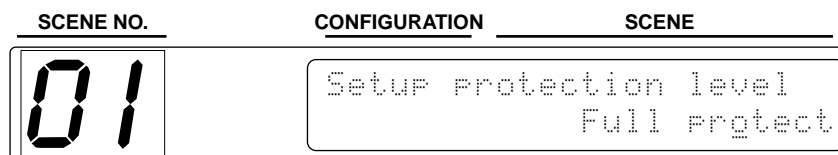
付録

Scene Recall Only(シーン呼び出しのみ)

“ Scene Recall Only ”を選択するとシーンの呼び出しはできますが、その他の機能へはアクセスできません。

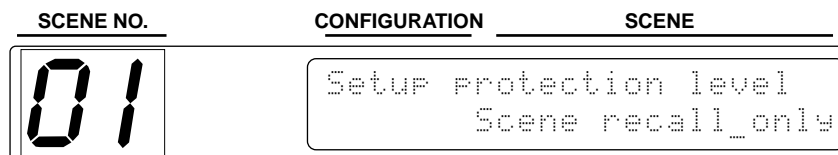
- 1 [UTILITY]キーで“ Setup protection level (プロテクトレベル設定)”を選択します。

UTILITYインジケータが点灯します。



Full Protectモードを選択すると“ Setup protection level ”はプロテクトを解除するまで選択できなくなります。[PROTECT]ボタンを押して正しいパスワードを入力してから[RECALL]ボタンを押してください。

- 2 DATAホイール、[INC][DEC]キーで次のように“ Scene recall only ”を選択します。



PROTECTインジケータが点灯します。

- 3 UTILITYインジケータが消灯するまで[UTILITY]キーを繰り返し押します。

“ Scene recall only ”を選択中はシーンの呼び出しは通常通りできコンポーネント、パラメーター、バリューも選択、確認できますが、パラメーターの編集はできません。

Scene Recall Onlyモードではメインディスプレイ、Setup protection levelディスプレイ、SLOTディスプレイのみ表示されます。

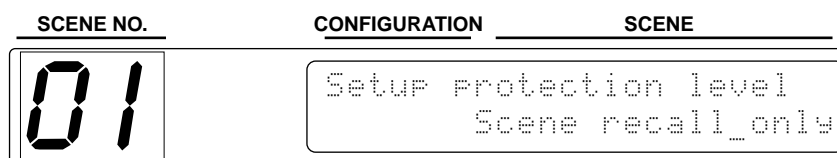
Scene Recall Onlyモードが選択されていてコンポーネントパラメーターを編集したいときは、Full Protectモード(207ページ)に切り替えてから一時的にプロテクトを解除(208ページ)します。

Full Protec(フルプロテクト)

“ Full Protect ”を選択するとすべての機能にアクセスできなくなります。ただしパスワードを入力すれば一時的にこの機能を解除して編集作業ができます。詳細は208ページ「プロテクトシステムの一時解除」をご参照ください。

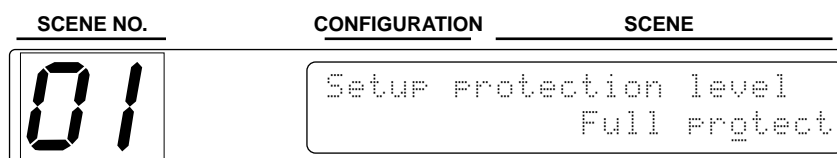
- 1 [UTILITY]キーで“ Setup protection level (プロテクトレベル設定) ”を選択します。

UTILITYインジケータが点灯します。



このとき、PROTECTインジケータが点灯します。

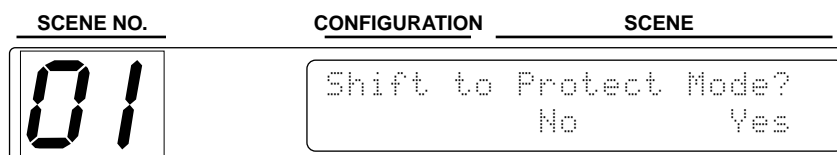
- 2 DATAホイール[INC][DEC]キーで“ Full protect ”を選択します。



このとき、PROTECTインジケータは消灯します。

- 3 UTILITYインジケータが消灯するまで[UTILITY]キーを繰り返し押します。
- 4 [PROTECT]キーを押します。

“ Shift to Protect Mode? ”が表示されます。



- 5 [VALUE]キーを押しFull Protectモードにします。[PARAMETER]キーを押すと中止されます。

Full Protectモードになると、PROTECTインジケータが点灯します。

Full Protectモードではコンポーネント、パラメータ、バリューを選択、確認できますが、編集したりシーンを呼び出したりはできません。

はじめに

操作の前に

各部の名称と機能

DME Managerの概要

コンフィグレーションの構築

Runモード

ソフトウェア "DME Manager" のその他の機能

コンポーネントガイド 第1部

コンポーネントガイド 第2部

フロントパネルの操作

GPI インターフェース

PCカード

ワードクロック

複数台のDME32システム

MIDI

I/O オプション

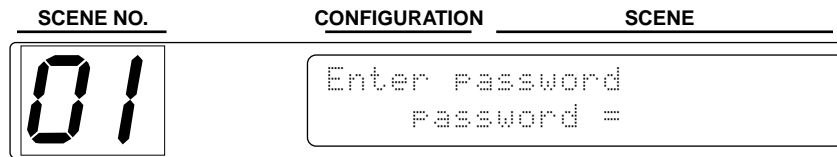
付録

プロテクトシステムの一時解除

許可されたユーザーがプロテクトシステムを一時解除して編集を行います。

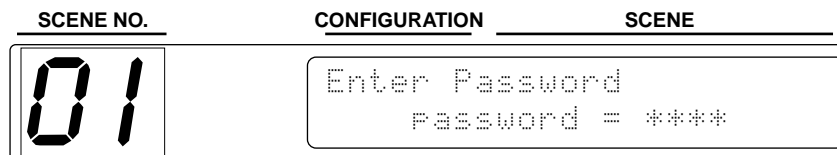
- 1 [PROTECT]キーを押します。

“ Enter password ”がディスプレイに表示されます。



- 2 [SCENE RECALL]テンキーでパスワードを入力します。

星印が各数字の代わりに表示されます。



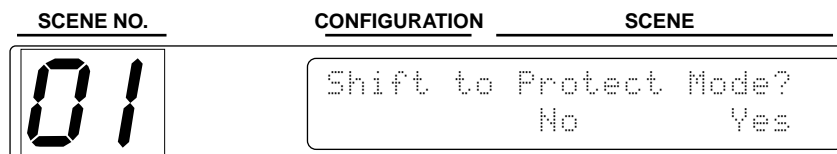
- 3 [RECALL]キーを押します。

正しいパスワードを入力するとプロテクトは効かなくなりPROTECTインジケーターが消灯します。パスワードが間違っていると“ Change password? ”がディスプレイに表示されます。パスワードを変更しないなら[VALUE]キーを押します。

プロテクトシステムを一時解除すると他のパラメーターも通常通り編集できます。

- 4 プロテクトシステムを再び作動させるには[PROTECT]キーを押します。

“ Shift to Protect Mode? ”が表示されます。



- 5 [VALUE]キーを押しFull Protectモードにします。または[PARAMETER]キーを押して中止します。

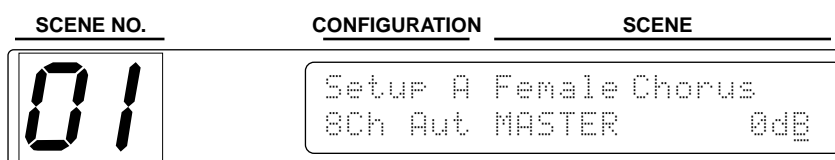
Full Protectモードになると、PROTECTインジケーターが点灯します。

パスワードを忘れた場合は212ページ「ファームウェアバージョンと電池の確認」をお読みください。

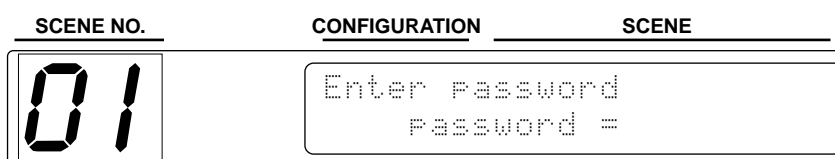
パスワードの変更

設定済のパスワードを変更できます。

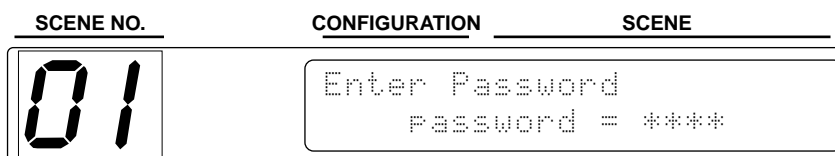
- 1 コンポーネント、パラメーター、バリューを選択します。
カーソルがディスプレイのバリュー部にあることを確認します。



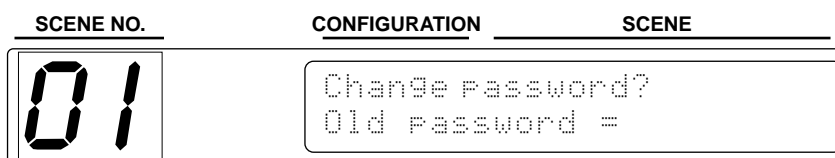
- 2 DATAまたは INC [DEC]キーでバリューを調整します。
“ Enter password ”がディスプレイに表示されます。



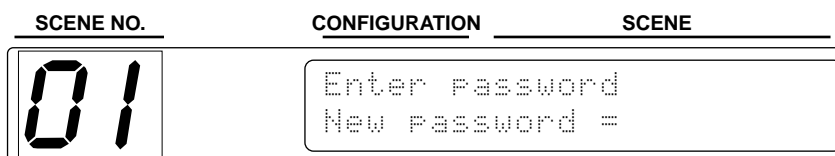
- 3 間違ったパスワードを入力します。
星印が各数字の代わりに表示されます。



- 4 [RECALL]キーを押します。
“ Change password? ”がディスプレイに表示されます。



- 5 設定済のパスワードを入力して [RECALL]キーを押します。
“ New password ”がディスプレイに表示されます。



- 6 新しいパスワードを入力し [RECALL]キーを押します。
新しいパスワードを確定します。

はじめに

操作の前に

各部の名称
と機能DME
Manager
の概要コンフィグ
レーション
の構築

Runモード

ソフトウェア
"DME Manager"
のその他の機能コンポーネント
ガイド 第1部コンポーネント
ガイド 第2部フロント
パネルの
操作GPI
インター
フェース

PCカード

ワード
クロック複数台の
DME32
システム

MIDI

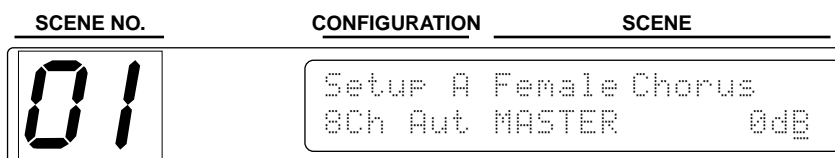
I/O
オプション

付録

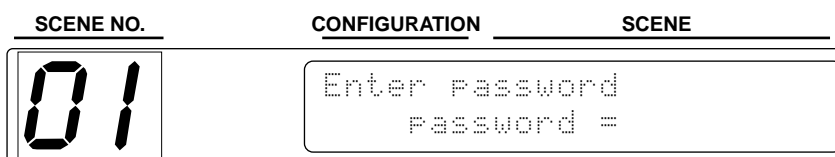
パスワードの削除

設定済のパスワードを変更します。

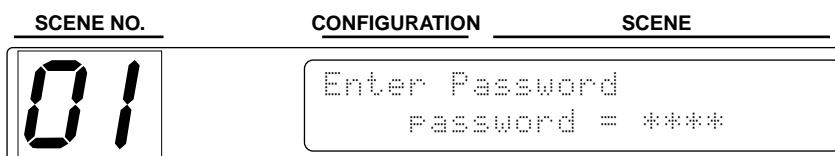
- 1 コンポーネント、パラメーター、バリューを選択します。
カーソルがディスプレイ内のバリュー部にあることを確認します。



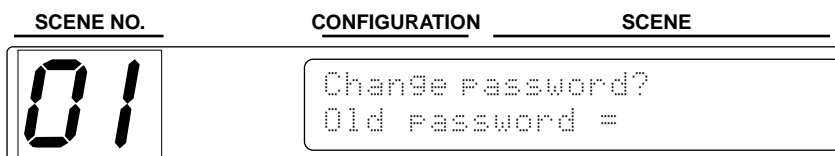
- 2 DATAまたは[INC] [DEC] ｷｰでバリューを調整します。
“Enter password”がディスプレイに表示されます。



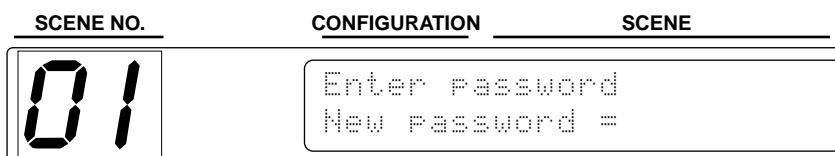
- 3 間違ったパスワードを入力します。
星印が各数字の代わりに表示されます。



- 4 [RECALL] ｷｰを押します。
“Change password?”がディスプレイに表示されます。



- 5 設定済のパスワードを入力して[RECALL] ｷｰを押します。
“New password”がディスプレイに表示されます。



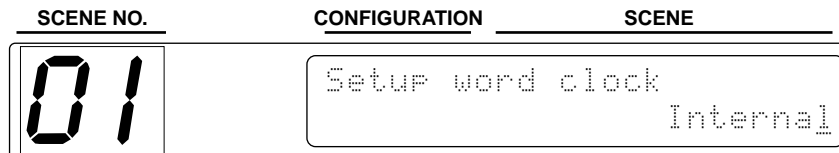
- 6 [PROTECT] ｷｰを押します。
パスワードが削除されPROTECTインジケーターが消灯します。

ワードクロックソースの選択

ワードクロックソースは231ページの説明のようにDME Managerでも設定できますが、DME32フロントパネルからも設定できます。フロントパネルからのワードクロックソース設定はDME Managerの設定よりも優先されます。

カスケード接続された2台目以降のDME32は、自動的にワードクロックをCASCADE IN端子から取り込むよう設定されるため、ワードクロックソースは1台目のDME32だけ設定できます。

- 1 [UTILITY] キーで“ Setup word clock (ワードクロック設定) ”を選択します。



- 2 DATAホイールまたは [INC] [DEC] キーでワードクロックソースを選択します。

ソース	内容
W.Clk In	BNC WORD CLOCK INからの外部ワードクロック
Internal	内部48 kHzワードクロック(初期設定)
Card1_1	スロット1、インプット1/2からの外部ワードクロック
Card1_3	スロット1、インプット3/4からの外部ワードクロック
Card1_5	スロット1、インプット5/6からの外部ワードクロック
Card1_7	スロット1、インプット7/8からの外部ワードクロック
Card2_1	スロット2、インプット1/2からの外部ワードクロック
Card2_3	スロット2、インプット3/4からの外部ワードクロック
Card2_5	スロット2、インプット5/6からの外部ワードクロック
Card2_7	スロット2、インプット7/8からの外部ワードクロック
Card3_1	スロット3、インプット1/2からの外部ワードクロック
Card3_3	スロット3、インプット3/4からの外部ワードクロック
Card3_5	スロット3、インプット5/6からの外部ワードクロック
Card3_7	スロット3、インプット7/8からの外部ワードクロック
Card4_1	スロット4、インプット1/2からの外部ワードクロック
Card4_3	スロット4、インプット3/4からの外部ワードクロック
Card4_5	スロット4、インプット5/6からの外部ワードクロック
Card4_7	スロット4、インプット7/8からの外部ワードクロック

DME32は指定されたソースに使用可能なワードクロック信号があるかどうかをチェックします。信号があればDME32はこの信号にロックし、LOCKインジケータが点灯します。選択ワードクロックが48kHzなら48kHzインジケータが点灯し、44.1kHzなら44.1kHzインジケータが点灯します。他のワードクロック周波数ではどのインジケータも点灯しません。

使用可能なワードクロック信号が見つからないと、DME32は作動せず、LOCKインジケータも点灯しません。この場合は他のワードクロックソースを選択するか、選択した外部ワードクロックソースを修正してください。外部ワードクロックソースの接続が外れていたり信号を供給するはずの機器の電源がオフの場合もインジケータは点灯しませんのでチェックしてください。

- 3 UTILITYインジケータが消灯するまで [UTILITY] キーを繰り返し押します。MY8-AE以外のデジタルI/Oカードを使用するときは、選択された入力に関係なくワードクロックをインプット1/2で受信します。

はじめに

操作の前に

各部の名称と機能

DME Managerの概要

コンフィギュレーションの構築

Runモード

ソフトウェア "DME Manager" のその他の機能

コンポーネントガイド 第1部

コンポーネントガイド 第2部

フロントパネルの操作

GPI インターフェース

PCカード

ワードクロック

複数台のDME32システム

MIDI

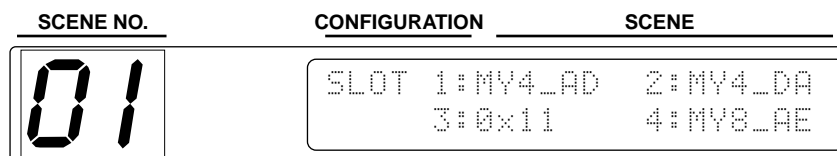
I/O オプション

付録

I/Oスロットの確認

各スロットに装着されているI/Oカードの種類を確認します。

- 1 [UTILITY]キーで“Slot (スロット)”を選択します。



カード未装着スロットは“0x11”と表示されます。

- 2 UTILITYインジケータが消灯するまで[UTILITY]キーを繰り返し押します。

DME32の初期化

DME32を初期設定にリセットする手順です。

- 1 DME32の電源をオフにします。
- 2 [RECALL]キーを押したままDME32に電源を入れます。
- 3 「Diagnostics(診断)」画面が表示されたら[RECALL]キーを押します。DME32が初期化されます。

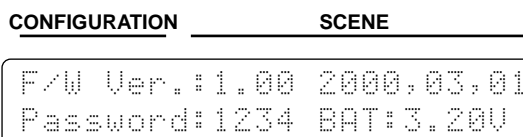
DME32を初期化すると、設定してあったパスワードはすべて削除されます。

複数台のDME32のシステムで台数を変更した場合はすべてのDME32を初期化してください。

ファームウェアバージョンと電池の確認

DME32のファームウェアのバージョン番号と日付、電池の電圧を確認する手順です。

- 1 DME32の電源をオフにします。
- 2 [UTILITY]キーを押したままDME32に電源を入れます。
ファームウェアの日付とバージョン番号、電池の電圧、パスワードが設定されている場合はパスワードが次のように表示されます。



パスワードが設定されていないと、その部分には“----”と表示されます。

GPI インターフェース

11

本章の目次

GPI インターフェースについて	214
GPI 端子	214
GPI 入力 の 割 り 当 て	216
GPI 出力 の 割 り 当 て	219
EMERGENCY(緊 急)モ ー ド	222

はじめに

操作の前に

各部の名称
と機能DME
Manager
の概要コンフィグ
レーション
の構築

Runモード

ソフトウェア
"DME Manager"
のその他の機能コンポーネント
ガイド 第1部コンポーネント
ガイド 第2部フロント
パネルの
操作GPI
インター
フェース

PCカード

ワード
クロック複数台の
DME32
システム

MIDI

I/O
オプション

付 録

GPIインターフェースについて

GPI(General Purpose Interface 汎用インターフェース)を使い、カスタムメイドのコントローラーや外部機器からDME32をリモートコントロールできます。DME32は16系統のGPI入出力を備えています。

GPI入力を使ってシーンやコンフィグレーションの呼び出し、コンポーネントパラメーターの調整ができます。またDME32がすべての出力をミュートするEMERGENCY(緊急)モード用にも設定できます。GPI入力トリガーされるとGPI出力を切り替えたり、シーンやコンフィグレーションをGPI入力呼び出すとプログラムチェンジメッセージを送信したり、あるいはコンポーネントパラメーターをGPI入力調整するとコントロールチェンジメッセージを送信したりする設定も可能です。

一方DME Manager、フロントパネル操作、GPI入力、あるいはMIDIプログラムチェンジ、コントロールチェンジでシーンやコンフィグレーションを呼び出したりコンポーネントパラメーターを調整したときに、GPI出力で外部機器をトリガーすることもできます。またパラメーターを指定したスレッシュホールドより上または下に調整したときにGPI出力の高低を切り替える設定も可能です。

複数台のDME32システムではすべてのGPIインターフェースを利用できるので、4台のDME32で最高64入力と64出力が得られます。

GPI端子

本機リアパネルのGPI端子は16ピン、ユーロブロック端子で、16ピン、ユーロブロックのプラグを接続します。

1番上の端子はGPI入力9～16用IN端子と+V端子です。

2番目の端子はGPI出力9～16用OUT端子とGND端子です。

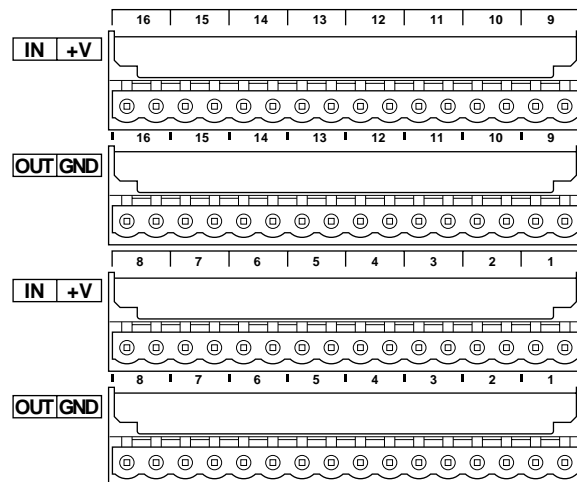
3番目の端子はGPI入力1～8用IN端子と+V端子です。

1番下の端子はGPI出力1～8用OUT端子とGND端子です。

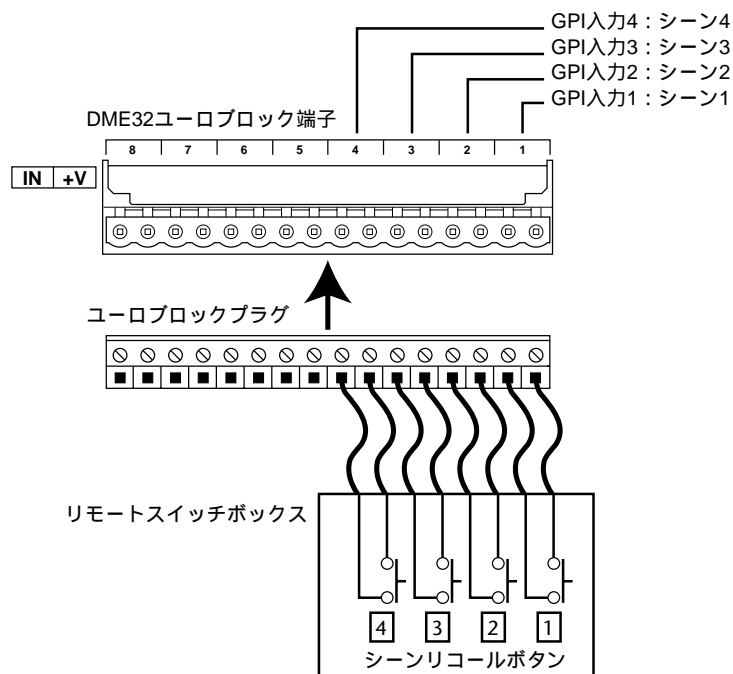
+V端子のオープン端子電圧は15Vです。+V端子から出る最大供給電流は6mAでLEDやインジケータに電流を供給します。

外部コントローラーや外部機器からユーロブロック端子への接続には、ユーロブロックプラグを使用します。裸線を該当の穴へ挿入しネジで止めて接続します。

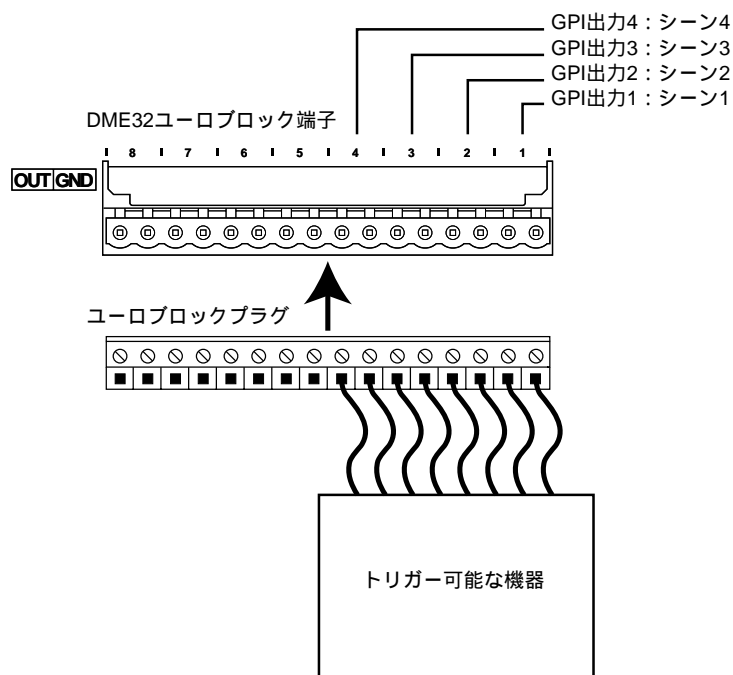
電磁波干渉を防ぐために接続ケーブルは必ずシールドタイプのケーブルを使用し、シールド側をGPI端子GNDに接続してください。



下図はGPI端子に簡単なスイッチボックスを接続してDME32をリモートコントロールする例です。シーン1～4がGPI入力1～4に割り当てられています。リモートスイッチボックスのボタンを押すと、該当シーンが呼び出されます。更に高度なシステムを使ってコンポーネントパラメータをリモートコントロールすることも可能です。



下図はGPI端子でDME32から外部機器をリモートコントロールする方法です。シーン1～4がGPI出力1～4に割り当てられています。シーン呼び出すと、該当するGPI出力のレベルがHiまたはLoに切り替わります。更に高度なシステムでは、コンポーネントパラメータをオン/オフしたりパラメータを指定スレッシュホールドより上または下に調整したりすると、GPI出力が切り替わります。



はじめに

操作の前に

各部の名称と機能

DME Managerの概要

コンフィグレーションの構築

Runモード

ソフトウェア "DME Manager" のその他の機能

コンポーネントガイド 第1部

コンポーネントガイド 第2部

フロントパネルの操作

GPI インターフェース

PCカード

ワードクロック

複数台のDME32システム

MIDI

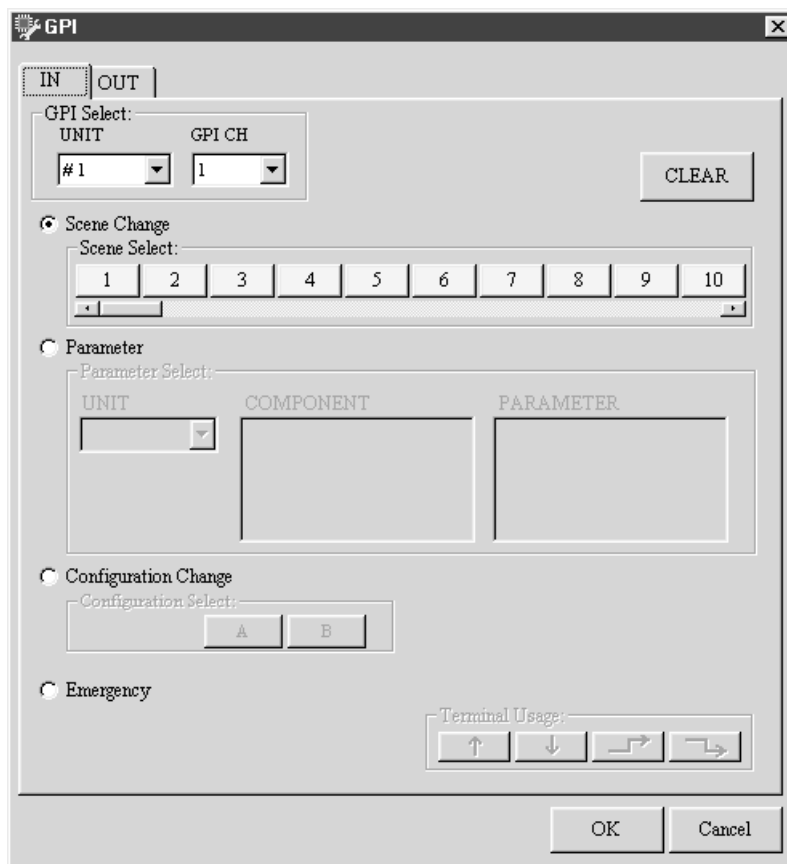
I/O オプション

付録

GPI入力割り当て

シーン1～99 / コンフィグレーションA、B / コンポーネントパラメーター / EMERGENCY入力をGPI入力に割り当てることができます。

- 1 「Tool」メニューから[GPI]を選択します。
「GPI」画面が開きます。
- 2 「IN」画面が表示されていない場合は「IN」タブをクリックします。
「IN」画面が表示されます。







- 3 DME32(GPI Select: UNIT)とGPI入力(GPI Select: GPI CH)を選択します。
- 4 シーンの割り当ては[Scene Change]ボタンをクリックし[Scene Select]ボタンを1～99から選んでクリックします。スクロールバーで全部のシーンボタンをスクロールできます。
- 5 コンポーネントパラメーターの割り当ては[Parameter]ボタンをクリックし、[DME32(UNIT)][COMPONENT][PARAMETER]を選択し、[Terminal Usage]を選択します。
- 6 コンフィグレーションの割り当ては[Configuration Change]ボタンをクリックし[Configuration Select]ボタンのAかBをクリックします。

- 7 EMERGENCY(緊急)モードに使う入力の割り当ては Emergency ボタンをクリックします。
詳細は222ページ「EMERGENCY(緊急)モード」をご参照ください。
- 8 GPI入力の割り当て設定を削除するには CLEAR ボタンをクリックします。
- 9 [OK]をクリックして設定を保存するか、しない場合は Cancel ボタンをクリックして前の設定にします。
「GPI」画面が閉じます。

GPI IN設定を有効にするには、コンフィグレーションをコンパイルしてDME32に転送する必要があります。詳細は46ページ「コンフィグレーションの構築と編集」をご参照ください。

GPI INパラメーター

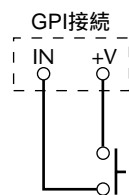
セクション	パラメーター	設定範囲	機能
GPI Select	UNIT	1 ~ 4	DME32を選択します。
	GPI CH	1 ~ 16	GPI入力を選択します。
Scene Change	Scene Select	1 ~ 99	選択GPI入力にシーンを割り当てます。
Parameter	UNIT	1 ~ 4	割り当てるパラメーターのあるDME32を選択します。
	COMPONENT	†1	パラメーターを割り当てるコンポーネントを選択します。
	PARAMETER	†2	割り当てるパラメーターを選択します。
Configuration Change	Configuration Select	A, B	選択GPI入力にコンフィグレーションを割り当てます。
Emergency			選択GPI入力をEMERGENCY(緊急)モード用に割り当てます。
Terminal Usage (パラメーターでのみ使用)			ノーマル
			リバース
			Lo Hi
			Hi Lo

†1. 現在のコンフィグレーションのコンポーネントを選択可能。
†2. 選択コンポーネントによって異なります。

GPI設定はコンフィグレーションに保存されます。

シーンとコンフィグレーションの呼び出し

この接続図はノーマルオープンスイッチ(開スイッチ)を使用してシーン、コンフィグレーションを呼び出す方法を示したものです。ボタンを押すと(INがHiになり)割り当てられたシーンまたはコンフィグレーションが呼び出されます。



はじめに

操作の前に

各部の名称と機能

DME Managerの概要

コンフィグレーションの構築

Runモード

ソフトウェア "DME Manager" のその他の機能

コンポーネントガイド 第1部

コンポーネントガイド 第2部

フロントパネルの操作

GPI インターフェース

PCカード

ワードクロック

複数台のDME32システム

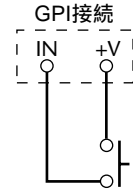
MIDI

I/O オプション

付録

パラメーターコントロール

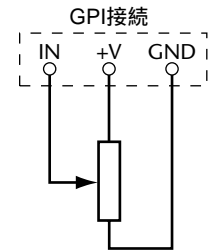
以下の表はノーマルオープンスイッチ(開スイッチ)でボタン(オン/オフパラメーター)、回転ノブ、スライダー、ポップアップメニューをコントロールする設定を示したものです。



Hi = スイッチ閉 Lo = スイッチ開

ターミナル ボタン	ノーマルオープンスイッチ		
	ボタン (ON/OFFパラメーター)	回転ノブ、スライダー	ポップアップメニュー
ノーマル	Hi = ON Lo = OFF	Hi = 最大値 Lo = 最小値	Hi = 一番上の設定 Lo = 一番下の設定
リバース	Hi = OFF Lo = ON	Hi = 最小値 Lo = 最大値	Hi = 一番下の設定 Lo = 一番上の設定
低 高	INがLoからHiになると (スイッチを押すと) オン/オフを切り替え	INがLoからHiになると (スイッチを押すと)最大 値/最小値を切り替え	INがLoからHiになると (スイッチを押すと)一番上 と下の設定を切り替え
高 低	INがHiからLoになると (スイッチを離すと) オン/オフを切り替え	INがHiからLoになると (スイッチを離すと)最大 値/最小値を切り替え	INがHiからLoになると (スイッチを離すと)一番上 と下の設定を切り替え

次の表は10k B型ボリュームを使用してボタン(オン/オフパラメーター)、回転ノブ、スライダー、ポップアップメニューをコントロールする設定を示したものです。ボリュームをIN、+V、GNDの各端子に接続すると、連続可変パラメーターのコントロールが可能です。



10k B型ボリューム

Hi = ボリューム最大値 Lo = ボリューム最小値

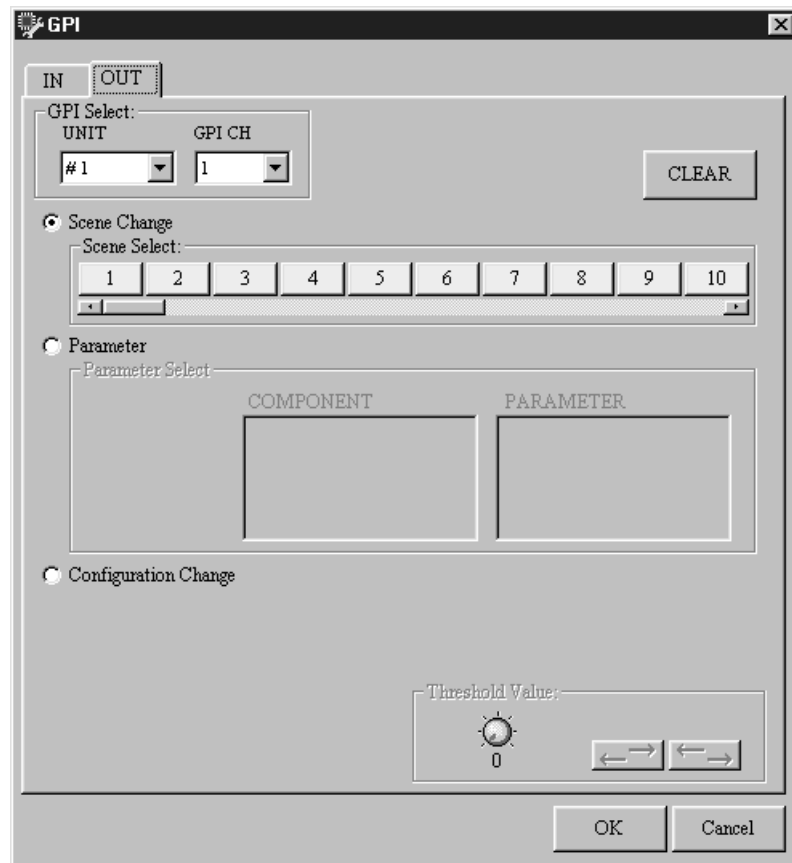
ターミナル ボタン	10k B型ボリューム		
	ボタン ^{†1} (ON/OFFパラメーター)	回転ノブ、スライダー	ポップアップメニュー
ノーマル	Hi = ON Lo = OFF	連続可変 Hi = 最大値 Lo = 最小値	連続可変 Hi = 一番上の設定 Lo = 一番下の設定
リバース	Hi = OFF Lo = ON	連続可変 Hi = 最小値 Lo = 最大値	連続可変 Hi = 一番下の設定 Lo = 一番上の設定
低 高	INがLoからHiになると (ボリュームが上がると) オン/オフを切り替え	INがLoからHiになると (ボリュームが上がると) 最大値/最小値を切り替え	INがLoからHiになると (ボリュームが上がると) 一番上と下の設定を切り替え
高 低	INがHiからLoになると (ボリュームが下がると) オン/オフを切り替え	INがHiからLoになると (ボリュームが下がると) 最大値/最小値を切り替え	INがHiからLoになると (ボリュームが下がると) 一番上と下の設定を切り替え

†1. LoとHiの間の移行はボリュームのセンター近くで生じます。

GPI出力の割り当て

シーン1~99 / コンフィグレーションA、B / コンポーネントパラメーターをGPI出力に割り当てることができます。

- 1 「Tool」メニューから[GPI]を選択します。
「GPI」画面が開きます。
- 2 「OUT」画面が表示されていない場合は「OUT」タブをクリックします。
「OUT」画面が表示されます。



- 3 DME32(GPI Select:UNIT)とGPI出力(GPI Select:GPI CH)を選択します。
- 4 シーンの割り当ては[Scene Change]ボタンをクリックし[Scene Select]ボタンを1~99から選んでクリックします。スクロールバーで全てのシーンボタンをスクロールできます。そしてターミナルボタンを設定します。
- 5 コンポーネントパラメーターの割り当ては[Parameter]ボタンをクリックし、[DME32(UNIT)][COMPONENT][PARAMETER]を選択します。そしてスレッシュホールドとターミナルボタンを設定します。
- 6 GPI出力の割り当て設定を削除するには[CLEAR]ボタンをクリックします。

はじめに

操作の前に

各部の名称と機能

DME Managerの概要

コンフィグレーションの構築

Runモード

ソフトウェア "DME Manager" のその他の機能

コンポーネントガイド 第1部

コンポーネントガイド 第2部

フロントパネルの操作

GPI インターフェース

PCカード

ワードクロック

複数台のDME32システム

MIDI

I/O オプション



付録

7 [OK]をクリックして設定を保存するか、しない場合は[Cancel]ボタンをクリックして前の設定にします。

「GPI」画面が閉じます。

GPI OUT設定を有効にするには、コンフィグレーションをコンパイルしてDME32に転送することが必要です。詳細は46ページ「コンフィグレーションの構築と編集」をご参照ください。

GPI OUTパラメーター

セクション	パラメーター	設定範囲	機能
GPI Select	UNIT	1 ~ 4	DME32を選択します。
	GPI CH	1 ~ 16	GPI出力を選択します。
Scene Change	Scene Select	1 ~ 99	選択GPI出力にシーンを割り当てます。
Parameter	COMPONENT	†1	割り当てるパラメーターを持つコンポーネントを選択します。
	PARAMETER	†2	割り当てるパラメーターを選択します。
Threshold Value	レベルコントロール	†3	GPI出力が切り替わる移行点を設定します。
	ターミナルボタン		Lo Hi
			Hi Lo

†1. 現在のコンフィグレーションのコンポーネントを選択可能。

†2. 選択コンポーネントによって異なります。

†3. 選択パラメーターによって異なります。

以下の図は高低切り替わったGPI OUT端子を示したものです。



GPI設定はコンフィグレーションに保存されます。

シーンとコンフィグレーションの呼び出し

GPI出力をシーンやコンフィグレーションに割り当てると、そのOUT端子が以下の表のようにスレッシュド値とターミナルボタンの設定に従ってHi/Loが切り替わります。

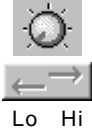
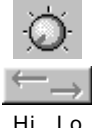
Hi = +5V Lo = 0V

Threshold Value	シーン、コンフィグレーションの呼び出し	
	リコール前	リコール後
 Lo Hi	OUT = Lo	OUT = Hi
 Hi Lo	OUT = Hi	OUT = Lo

パラメーターコントロール

GPI出力をボタン(オン/オフパラメーター)、回転ノブとスライダー、ポップアップメニューに割り当てると、下の表のようにスレッシュOLD値とターミナルボタンの設定に従ってOUT端子のHi/Loが切り替わります。

Hi = +5V Lo = 0V

スレッシュOLD値 & ターミナルボタン	パラメーターのタイプ		
	ボタン (ON/OFFパラメーター)	回転ノブ、スライダー	ポップアップメニュー
 Lo Hi	OFF = Lo ON = Hi	スレッシュOLD以下の値 = Lo スレッシュOLD以上の値 = Hi	スレッシュOLD以下の 設定 = Lo スレッシュOLD以上の 設定 = Hi
 Hi Lo	OFF = Hi ON = Lo	スレッシュOLD以下の値 = Hi スレッシュOLD以上の値 = Lo	スレッシュOLD以下の 設定 = Hi スレッシュOLD以上の 設定 = Lo

はじめに

操作の前に

各部の名称と機能

DME Managerの概要

コンフィグレーションの構築

Runモード

ソフトウェア "DME Manager" のその他の機能

コンポーネントガイド 第1部

コンポーネントガイド 第2部

フロントパネルの操作

GPI インターフェース

PCカード

ワードクロック

複数台の DME32 システム

MIDI

I/O オプション

付録

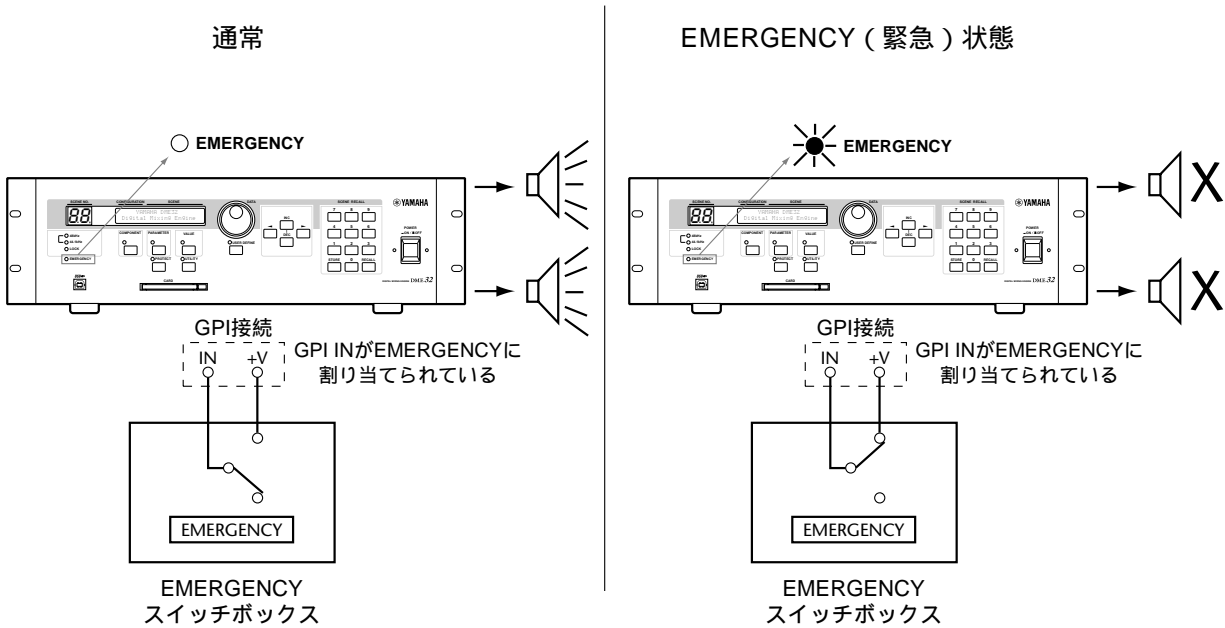
EMERGENCY(緊急)モード

GPI入力をEMERGENCY(緊急)モード専用に使⽤できます。このモードではDME32がすべての出力をミュートし、EMERGENCYインジケータが点灯します。

EMERGENCY(緊急)状態が解除されると通常動作に戻りEMERGENCYインジケータは消灯します。

複数台システムではすべてのDME32がカスケード接続により同時にEMERGENCY(緊急)モードに入ってしまいます。1台のDME32の1つのGPI入力だけを緊急用に設定してください。

次の図はEMERGENCY(緊急)モードに入ったときの動作です。



PCカード

12

本章の目次

PCカードとDME32	224
PCカードの挿入、取り出し	224
PCカードのフォーマット	225
PCカードへのコンフィグレーションの保存	226
PCカードからのコンフィグレーションのロード	227
PCカードからのコンフィグレーションの削除	228

はじめに

操作の前に

各部の名称
と機能DME
Manager
の概要コンフィグ
レーション
の構築

Runモード

ソフトウェア
"DME Manager"
のその他の機能コンポーネント
ガイド 第1部コンポーネント
ガイド 第2部フロント
パネルの
操作GPI
インター
フェース

PCカード

ワード
クロック複数台の
DME32
システム

MIDI

I/O
オプション

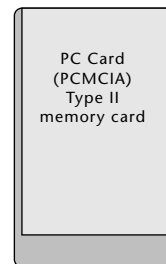
付録

PCカードとDME32

市販されているPCMCIAメモリーカード(PCカード)を使用してDME32のコンフィグレーションの保存やPCカードからのロードができます。DME32は任意のメモリーサイズのType IIメモリーカードに対応しています。コンフィグレーション1つに必要なメモリー容量は約600Kバイトです。

DME Managerを起動させているPCカードが使えるPCならダイレクトでコンフィグレーションをPCカードに保存でき、DME32へロードできます。詳細は62ページの「コンフィグレーションの保存」をご参照ください。同じようにDME32に保存されたコンフィグレーションをPCカードを介してPCに転送できます。

複数台のDME32システムでは1台目のDME32のCARDスロットのみを使用します。



PCカードの挿入、取り出し

PCカードの挿入、取り出しは、DME32の電源オン/オフに関係なくできます。

- 1 PCカードのラベル面を上向きにしてカードの端子側をCARDスロットに挿入します。
- 2 CARDスロット横のイジェクトボタンを押すとPCカードが取り出せます。DME32がコンフィグレーションの保存、ロード、削除中はPCカードを取り出さないでください。

はじめに

操作の前に

各部の名称と機能

DME Managerの概要

コンフィグレーションの構築

Runモード

ソフトウェア "DME Manager" その他の機能

コンポーネントガイド 第1部

コンポーネントガイド 第2部

フロントパネルの操作

GPI インターフェース

PCカード

ワードクロック

複数台のDME32システム

MIDI

I/O オプション

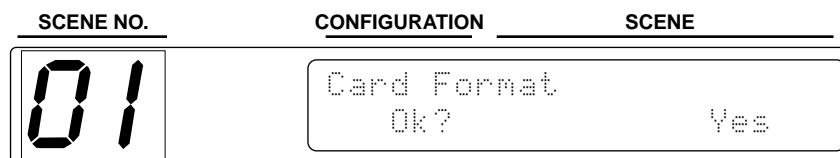
付録

PCカードのフォーマット

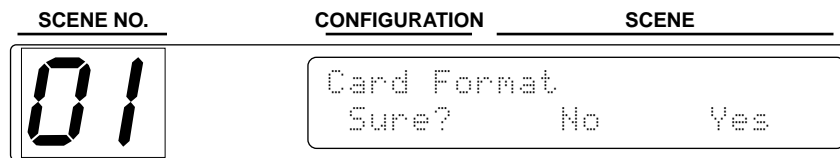
新しいPCカードや他の機器で使用したPCカードはDME32で使用する前に必ずフォーマットしてください。

注意: 保存されているデータはフォーマットするとすべて消去されます。PCカードを再使用する場合はフォーマット前に重要なデータが入っていないかどうか確認してください。

- 1 DME32のCARDスロットにPCカードを挿入します。
- 2 [UTILITY]キーで「 Card Format (カードフォーマット) 」を選択します。

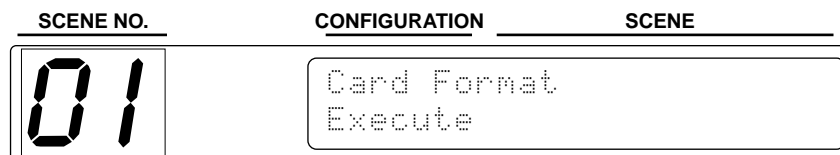


- 3 [VALUE]キーを押し次のディスプレイを表示します。

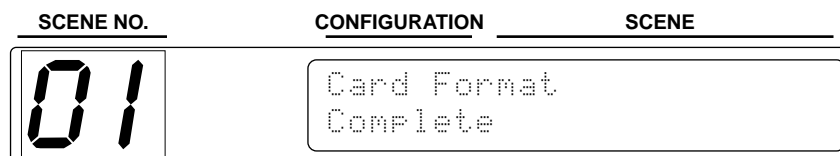


- 4 [VALUE]キーを押しPCカードをフォーマットするか、しない場合は [PARAMETER]キーを押し前のディスプレイに戻ります。

フォーマット中はメッセージ「 Execute 」が表示されます。



フォーマットが完了するとメッセージ「 Complete 」が表示されます。



PCカードがフォーマットされました。

- 5 UTILITYインジケータが消灯するまで [UTILITY]キーを繰り返し押します。

はじめに

操作の前に

各部の名称と機能

DME Managerの概要

コンフィグレーションの構築

Runモード

ソフトウェア "DME Manager" のその他の機能

コンポーネントガイド 第1部

コンポーネントガイド 第2部

フロントパネルの操作

GPI インターフェース

PCカード

ワードクロック

複数台のDME32システム

MIDI

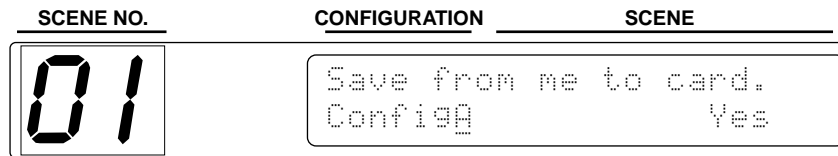
I/O オプション

付録

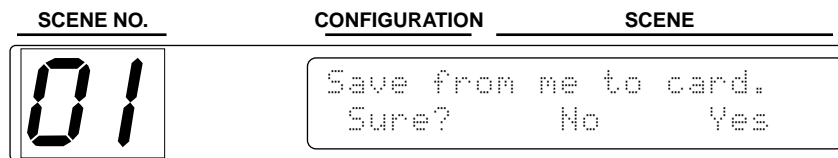
PCカードへのコンフィグレーションの保存

コンフィグレーションは個々のファイルとしてPCカードに保存でき、“CNF1.DME”というファイル名が番号順につきます。

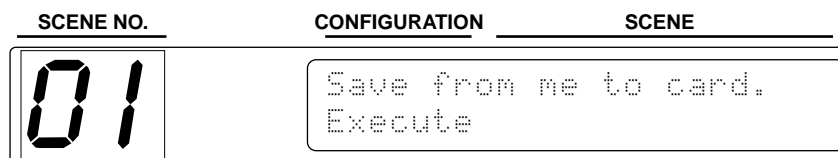
- 1 フォーマットしたPCカードをDME32本体のCARDスロットに挿入します。
- 2 [UTILITY]キーで“Save to card (カードに保存)”を選択します。



- 3 DATAホイールまたは[INC] [DEC]キーで保存したいコンフィグレーション (AまたはB)を選択します。
- 4 [VALUE]キーを押し次のメッセージを表示します。

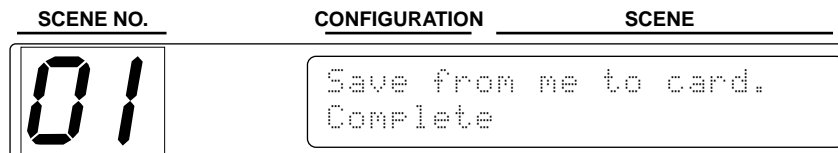


- 5 [VALUE]キーを押し選択したコンフィグレーションを保存するか、しない場合は[PARAMETER]キーを押して前のディスプレイに戻ります。
コンフィグレーション保存中はメッセージ“Execute”が表示されます。



PCカードのメモリー容量がいっぱいときは、メッセージ“Card full (カードのメモリーがいっぱい)”が表示されます。

保存が完了するとメッセージ“Complete”が表示されます。



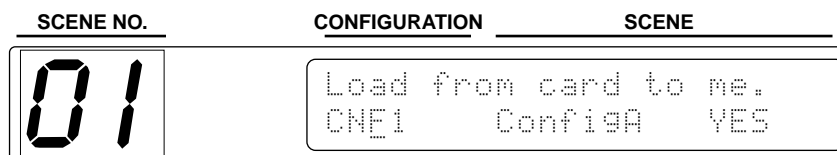
選択したコンフィグレーションがPCカードに保存されました。

- 6 UTILITYインジケータが消灯するまで[UTILITY]キーを繰り返し押します。

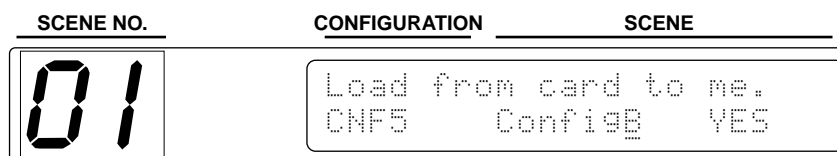
PCカードからのコンフィグレーションのロード

PCカードに保存されたコンフィグレーションをAまたはBとしてロードできます。

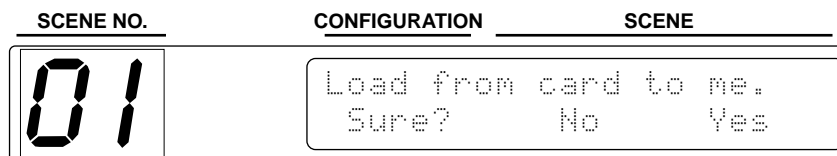
- 1 DME32本体のCARDスロットにPCカードを挿入します。
- 2 [UTILITY]キーで“ Load from card (カードからロード) ”を選択します。



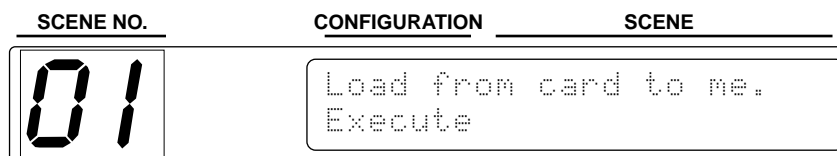
- 3 ディスプレイ内のカーソルをCOMPONENT部に移動しDATAホイールが [INC] [DEC]キーでロードしたいコンフィグレーションを選択します。
- 4 ディスプレイ内のカーソルを[PARAMETER]キーまたは[▶]キーでPARAMETER部に移動しロード先を選択します。



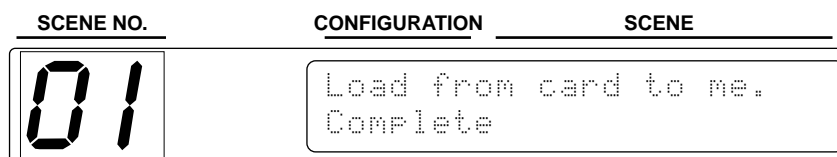
- 5 [VALUE]キーを押し次のディスプレイを表示します。



- 6 [VALUE]キーを押しコンフィグレーションをロードするか、しない場合は [PARAMETER]キーを押し前のディスプレイに戻ります。
コンフィグレーションロード中はメッセージ“ Execute ”が表示されます。



ロードが完了するとメッセージ“ Complete ”が表示されます。



選択したコンフィグレーションがDME32にロードされました。

- 7 UTILITYインジケータが消灯するまで [UTILITY]キーを繰り返し押します。

はじめに

操作の前に

各部の名称と機能

DME Managerの概要

コンフィグレーションの構築

Runモード

ソフトウェア "DME Manager" のその他の機能

コンポーネントガイド 第1部

コンポーネントガイド 第2部

フロントパネルの操作

GPI インターフェース

PCカード

ワードクロック

複数台のDME32システム

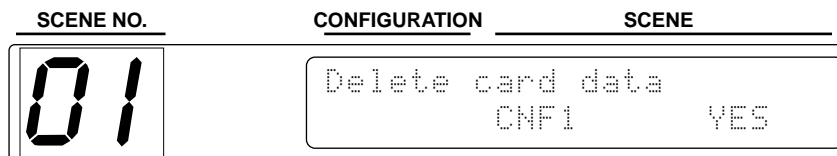
MIDI

I/O オプション

付録

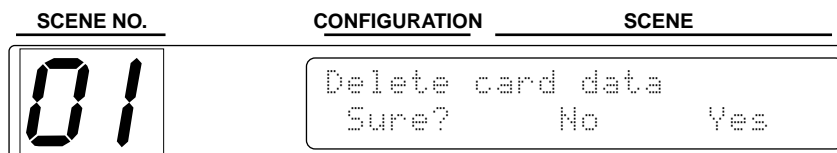
PCカードからのコンフィグレーションの削除

- 1 DME32本体のCARDスロットにPCカードを挿入します。
- 2 [UTILITY]キーで“ Delete card data (カードデータの削除) ”を選択します。

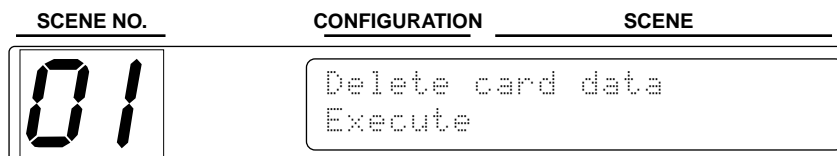


- 3 DATAホイールまたは[INC][DEC]キーで削除したいコンフィグレーションを選択します。

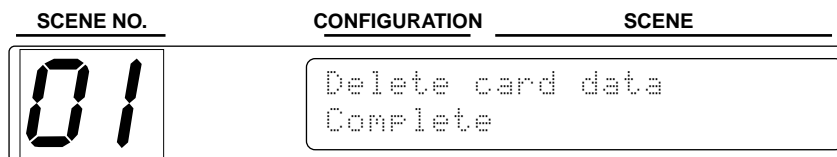
- 4 [VALUE]キーを押し次のディスプレイを表示します。



- 5 [VALUE]キーを押しコンフィグレーションを削除するか、しない場合は[PARAMETER]キーを押し前のディスプレイに戻ります。
コンフィグレーション削除中はメッセージ“ Execute ”が表示されます。



削除が完了するとメッセージ“ Complete ”が表示されます。



PCカードから選択コンフィグレーションが削除されました。

- 6 UTILITYインジケータが消灯するまで[UTILITY]キーを繰り返し押します。

ワードクロック

13

本章の目次

ワードクロックとDME32	230
ワードクロックの接続	231
ワードクロックソースの選択	231
ワードクロック接続例	233
BNCワードクロック分配のターミネート	236

はじめに

操作の前に

各部の名称
と機能

DME
Manager
の概要

コンフィグ
レーション
の構築

Runモード

ソフトウェア
"DME Manager"
のその他の機能

コンポーネント
ガイド 第1部

コンポーネント
ガイド 第2部

フロント
パネルの
操作

GPI
インター
フェース

PCカード

ワード
クロック

複数台の
DME32
システム

MIDI

I/O
オプション

付録

ワードクロックとDME32

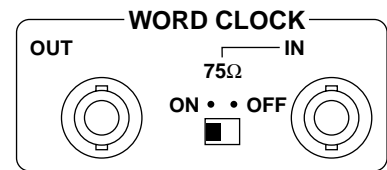
はじめに	
操作の前に	
各部の名称と機能	
DME Managerの概要	デジタルオーディオ機器はアナログオーディオ機器とは異なり、デジタルオーディオを機器間で転送するときに必ず同期させることが必要です。これを行わないと、データが正しく受信されなかったり、耳でも分かるようなノイズが生じたりします。このデジタル機器の同期には「ワードクロック」と呼ばれる信号を使用します。これはシステム内のデジタルオーディオワードをすべて同期させるクロック信号です。ワードクロックの同期とは、テープデッキやMIDIシーケンサーなどの同期に使われるSMPTE/EBUタイムコードやMIDIタイムコードとは異なり、各オーディオ機器内でデジタルオーディオを処理する回路が互いに同期した状態を指します。
コンフィグレーションの構築	一般的には、1台のデジタルオーディオ機器がワードクロックのマスターとなり、その他の機器がスレーブとなってワードクロックマスターに同期します。アナログ入出力だけを使用してDME32に接続している場合は特別なワードクロック設定は不要でDME32を内部ワードクロックに同期するよう設定できます。ところが他の機器とデジタル接続を行うと、まずどの機器をワードクロックのマスター、スレーブにするかを決定することが必要です。通常はDME32をワードクロックマスターとして使用しますが、場合によっては他の機器をワードクロックマスターに設定しDME32をワードクロックスレーブに設定することもあります。
Runモード	ワードクロック信号はBNCケーブルなど専用のケーブルで分配したり、AES/EBUなどのデジタルオーディオ接続によって受信します。AES/EBU接続ではオーディオ信号がなくてもワードクロック信号に同期、送信することができます。
ソフトウェア「DME Manager」のその他の機能	DME32を48kHzのワードクロックマスターとして使用したり、周波数が39.69kHz～50.88kHzの範囲の外部ワードクロックソースに対しスレーブとして同期させることもできます。外部ワードクロックはBNC WORDCLOCK IN端子またはデジタルI/Oカードの入力端子から受信します。複数台のDME32を使用したシステムではカスケード接続によって各DME32にワードクロック信号を分配します。詳細は237ページ「複数台のDME32システム」をご参照ください。
コンポーネントガイド 第1部	
コンポーネントガイド 第2部	
フロントパネルの操作	各機器で同一のワードクロックを共有するシステムでは、たとえ使用しない機器があっても、必ずすべての機器の電源をオンにすることが必要です。ワードクロックマスター機器の電源を最初に入れ、次にスレーブ機器の電源を入れます。電源を切るときは逆にスレーブ機器から順に電源を切ってください。使用前にワードクロックスレーブ機器がマスター機器にロックしていることを確認してください。大半の機器では、DME32のLOCKインジケータのようにワードクロックにロックしているかを表示するインジケータがフロントパネルにあります。詳細は該当機器の取扱説明書をご参照ください。
GPIインターフェース	
PCカード	
ワードクロック	ワードクロックソースを変更するときは、万一機器のロックが外れて不愉快なノイズが出てしまう場合に備え、パワーアンプやシステムの音量を下げてください。
複数台のDME32システム	
MIDI	
I/Oオプション	
付録	

ワードクロックの接続

BNCのWORD CLOCK IN端子とWORD CLOCK OUT端子で外部デジタルオーディオ機器とのワードクロック信号のやりとりを行います。ワードクロックソースを“ Word Clock In ”に設定すると、DME32はWORD CLOCK IN端子で受信したワードクロック信号にロックします。

WORD CLOCK OUT端子はワードクロックソースを“ Internal ”に設定したとき、内部ワードクロック信号を出力します。またワードクロックソースを“ Wordclock In ”に設定したときは、WORDCLOCK IN端子で受信したワードクロック信号を出力します。

WORD CLOCK 75 ON/OFFスイッチはWORD CLOCK IN端子に接続したワードクロック信号をターミネートします。接続例は236ページの「BNCワードクロック分配のターミネート」をご参照ください。

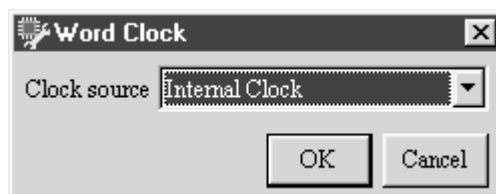


DME32リアパネルSLOTに別売デジタルI/Oカードを装着すれば外部ワードクロックがワードクロックソースになります。

ワードクロックソースの選択

注意: ワードマスターになっている機器 (例えば、AD824、DME32) でシステムのワードクロックを切り替えたとき、特に、DME32のSLOT入力にデジタルI/OカードMY8-ATを装着しているときに、DME32のアナログ出力端子からノイズが発生することがあります。ワードクロックを切り替える場合は、接続されたスピーカーなどを破損する恐れがあるため、パワーアンプあるいはDME32の電源を切ってから切り替えてください。

- 1 「Tool」メニューから[Word clock]を選択します。
以下の「Word Clock」画面が表示されます。



はじめに

操作の前に

各部の名称と機能

DME Managerの概要

コンフィグレーションの構築

Runモード

ソフトウェア "DME Manager" のその他の機能

コンポーネントガイド 第1部

コンポーネントガイド 第2部

フロントパネルの操作

GPI インターフェース

PCカード

ワードクロック

複数台のDME32システム

MIDI

I/O オプション

付録

下記の中からワードクロックソースを選択します。

ソース	内容
Word Clock In	BNC WORD CLOCK INからの外部ワードクロック
Internal	内部48 kHzワードクロック(デフォルト)
My slot 1 1/2	スロット1、インプット1/2からの外部ワードクロック
My slot 1 3/4	スロット1、インプット3/4からの外部ワードクロック
My slot 1 5/6	スロット1、インプット5/6からの外部ワードクロック
My slot 1 7/8	スロット1、インプット7/8からの外部ワードクロック
My slot 2 1/2	スロット2、インプット1/2からの外部ワードクロック
My slot 2 3/4	スロット2、インプット3/4からの外部ワードクロック
My slot 2 5/6	スロット2、インプット5/6からの外部ワードクロック
My slot 2 7/8	スロット2、インプット7/8からの外部ワードクロック
My slot 3 1/2	スロット3、インプット1/2からの外部ワードクロック
My slot 3 3/4	スロット3、インプット3/4からの外部ワードクロック
My slot 3 5/6	スロット3、インプット5/6からの外部ワードクロック
My slot 3 7/8	スロット3、インプット7/8からの外部ワードクロック
My slot 4 1/2	スロット4、インプット1/2からの外部ワードクロック
My slot 4 3/4	スロット4、インプット3/4からの外部ワードクロック
My slot 4 5/6	スロット4、インプット5/6からの外部ワードクロック
My slot 4 7/8	スロット4、インプット7/8からの外部ワードクロック

- 2 ワードクロックソースを選択し [OK] をクリックして設定を保存するか、しない場合は [Cancel] をクリックして変更せずに終了します。

「Word Clock」画面が閉じます。

ワードクロック設定を有効にするにはコンフィグレーションをコンパイルしDME32に送信する必要があります。詳細は46ページ「コンフィグレーションの構築と編集」をご参照ください。

コンフィグレーションをDME32に転送すると、DME32は設定ソースに使用可能なワードクロック信号があるかどうかをチェックします。信号があればDME32はこの信号にロックし、LOCKインジケータが点灯します。選択ワードクロックが48kHzなら48kHzインジケータが点灯し、44.1kHzなら44.1kHzインジケータが点灯します。いずれのインジケータも他のワードクロック周波数では点灯しません。

使用可能なワードクロック信号が見つからないと、DME32は作動せず、LOCKインジケータも点灯しません。この場合は他のワードクロックソースを選択するか、選択した外部ワードクロックソースを修正してください。外部ワードクロックソースの接続が外れていたり信号を供給するはずの機器の電源がオフになっていてもこの症状が発生します。

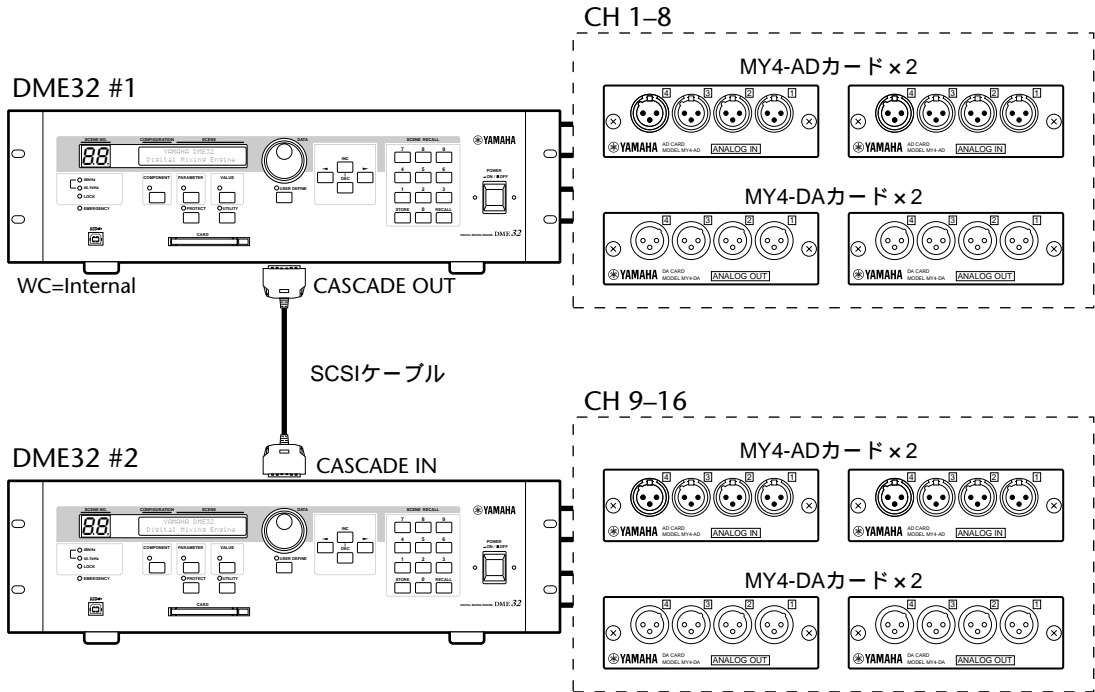
MY8-AE以外のデジタルI/Oカードを使用すると入力選択設定にかかわらずインプット1/2から入力される外部ワードクロックが使用されます。

ワードクロックソースはDME32のフロントパネルから選択することも可能です。詳細は211ページ「ワードクロックソースの選択」をご参照ください。

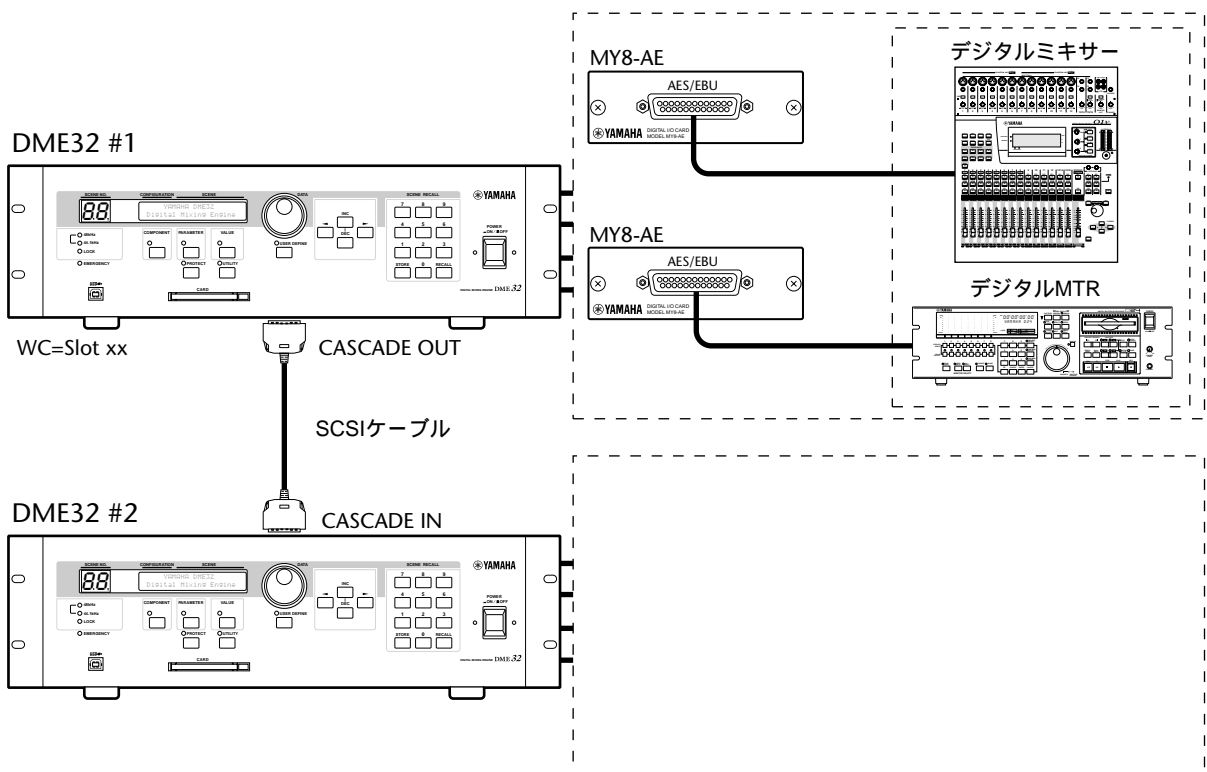
複数台のDME32システムではワードクロック設定は1台目のDME32だけの設定によって自動でワードクロックを受け取ります。

ワードクロック接続例

下図は2台のDME32とI/OカードMY4-ADおよびMY4-DAを使用してワードクロックシステムを設定する例です。DME32 #1はワードクロックマスターでワードクロックソースは“ Internal ”に設定します。DME32 #2はワードクロックスレーブでワードクロックソースは自動的に“ Cascade ”に設定されます。



下図は外部機器(この例ではデジタルミキサーまたはデジタルMTR)をワードクロックマスターとしたワードクロックシステム例です。DME32 #1とDME32 #2は共にワードクロックスレーブです。DME32 #1のワードクロックソースはSLOT端子に設定します。DME32 #2では自動的に“ Cascade ”に設定されます。



はじめに

操作の前に

各部の名称と機能

DME Managerの概要

コンフィグレーションの構築

Runモード

ソフトウェア“DME Manager”のその他の機能

コンポーネントガイド 第1部

コンポーネントガイド 第2部

フロントパネルの操作

GPIインターフェース

PCカード

ワードクロック

複数台のDME32システム

MIDI

I/Oオプション

付録

下図はDME32とアナログ入出力にADコンバーターAD824とDAコンバーターDA824を各4台ずつ使用したワードクロックシステム例です。DME32 #1はワードクロックマスターでワードクロックソースを“ Internal ”に設定、その他のDME32はカスケード接続でワードクロック信号を受信し、ワードクロックソースは自動的に“ Cascade ”に設定されます。各DAコンバーターDA824はSLOT入力端子からワードクロック信号を受信し、各ADコンバーターAD824はDME32 #1からBNCケーブル接続でワードクロック信号を受信します。

はじめに

操作の前に

各部の名称と機能

DME Managerの概要

コンフィグレーションの構築

Runモード

ソフトウェア“DME Manager”その他の機能

コンポーネントガイド 第1部

コンポーネントガイド 第2部

フロントパネルの操作

GPIインターフェース

PCカード

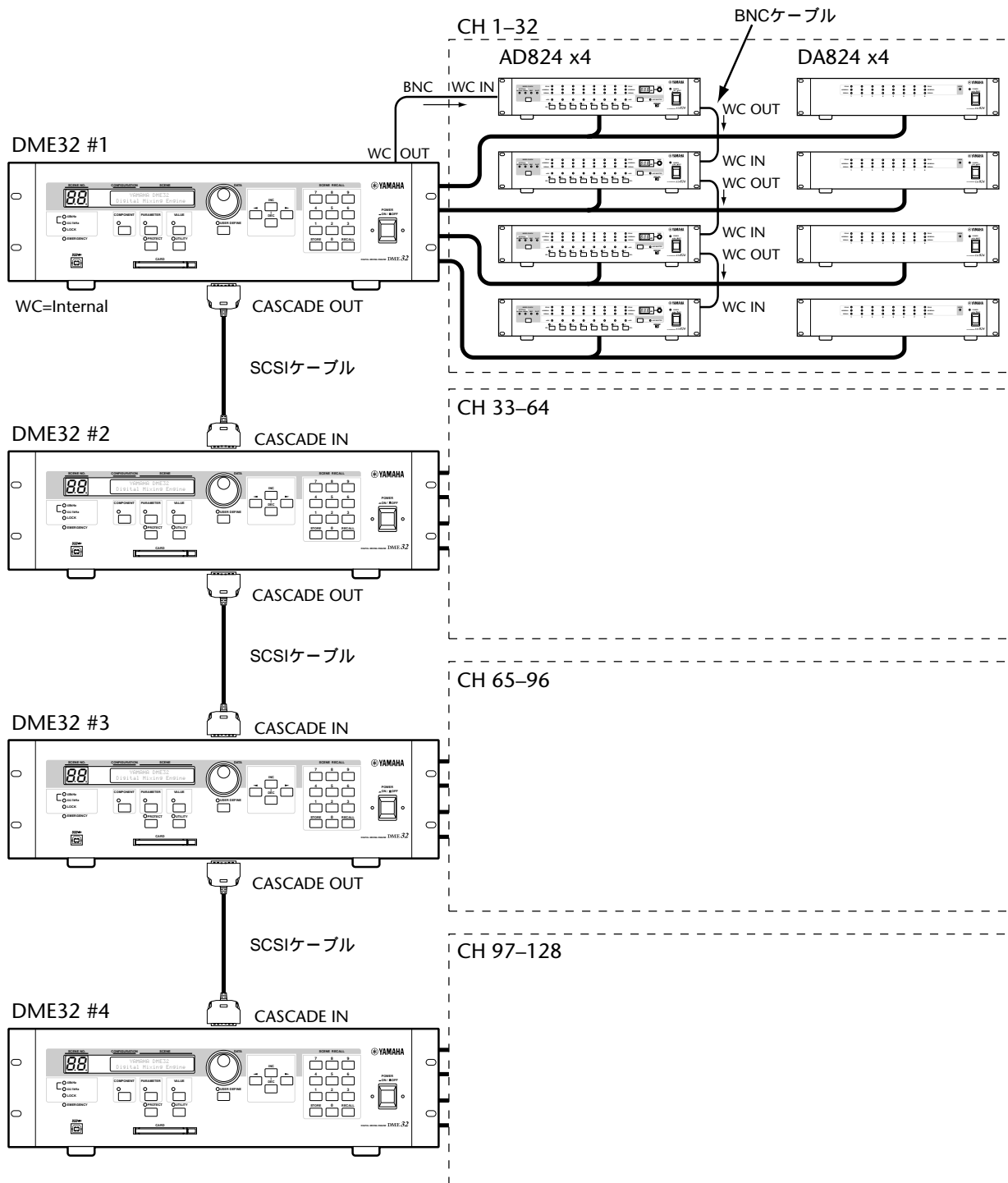
ワードクロック

複数台のDME32システム

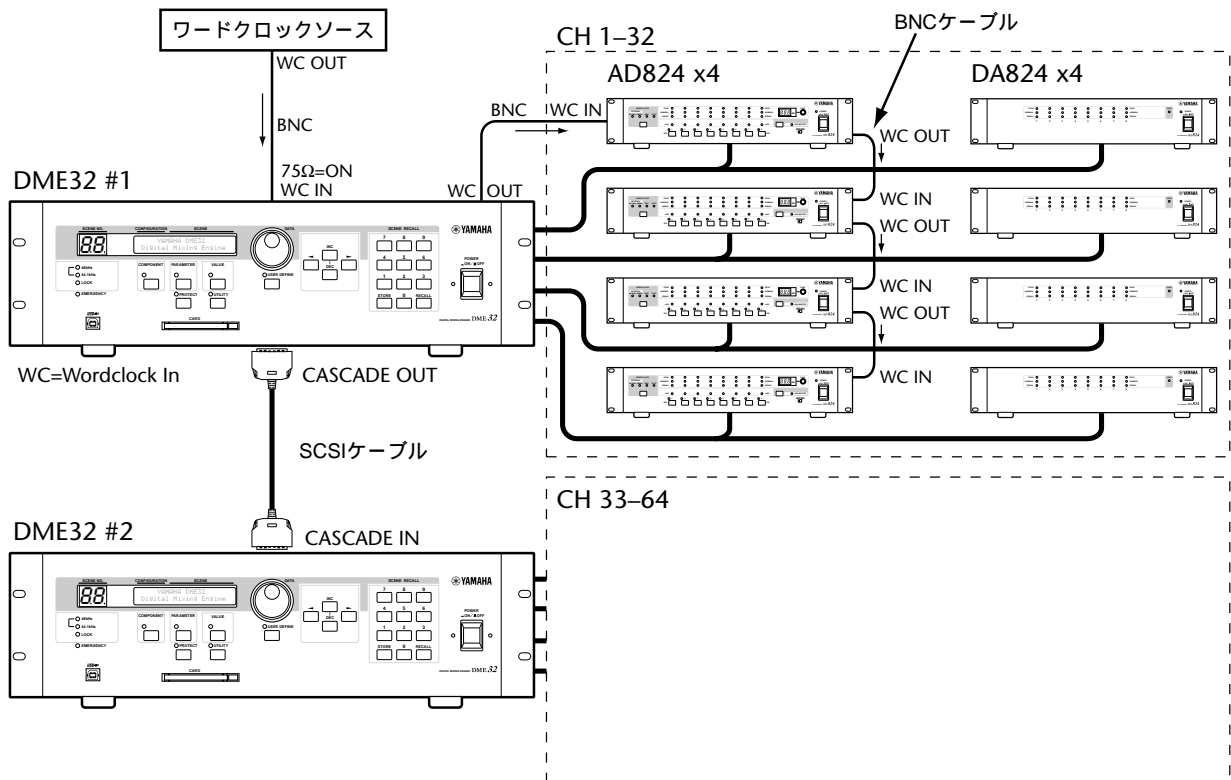
MIDI

I/O オプション

付録



下図は外部ワードクロックソースをBNCケーブル接続で取り込むワードクロックシステム例です。DME32 #1とDME32 #2は共にワードクロックスレーブで、DME32 #1のワードクロックソースは“ Wordclock In ”に、DME32 #2のワードクロックソースは自動的に“ Cascade ”に設定されます。DME32 #1のWORD CLOCK 75 スイッチはONに設定します。各DAコンバーター-DA824はSLOT入力端子からワードクロック信号を受信し、各ADコンバーター-AD824はDME32 #1からのBNCケーブル接続でワードクロック信号を受信します。



はじめに

操作の前に

各部の名称と機能

DME Managerの概要

コンフィグレーションの構築

Runモード

ソフトウェア“DME Manager”のその他の機能

コンポーネントガイド 第1部

コンポーネントガイド 第2部

フロントパネルの操作

GPIインターフェース

PCカード

ワードクロック

複数台のDME32システム

MIDI

I/Oオプション

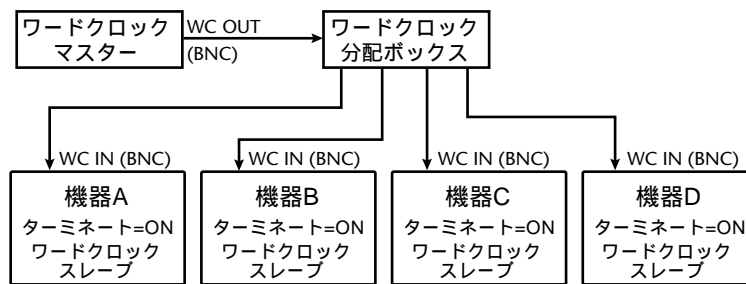
付録

BNCワードクロック分配のターミネート

ワードクロック信号をBNCケーブルで分配するときは、必ず正しい方法でターミネートしてください。ターミネートは接続の方法にもよりますが、通常は最後の機器で行います。DME32のWORD CLOCK 75 スイッチを使用すれば、DME32を様々な方法で接続できます。以下にワードクロック信号を分配し機器をターミネートする3つの例を説明します。

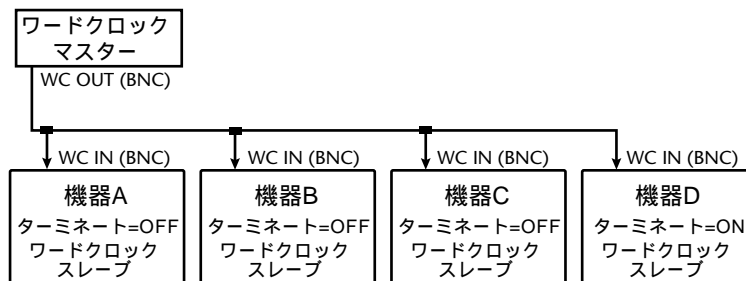
ワードクロック分配ボックス

この例は専用のワードクロック分配ボックスを使用してワードクロック信号を各機器にそれぞれ分配しています。分配されるすべての機器をターミネートします。



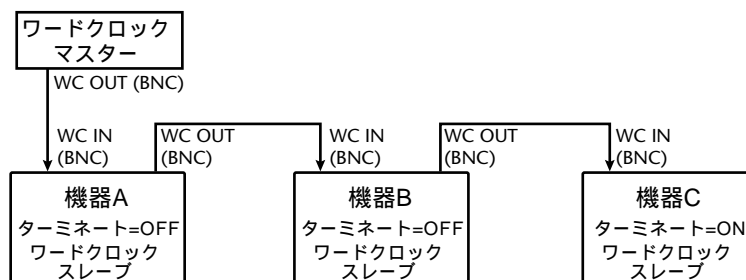
バスによる分配

この例は共通のバスを使用してワードクロックを分配しています。最後の機器だけをターミネートします。



デージーチェーンによる分配

この例はデージーチェーン状に接続してワードクロックを次の機器へと順に分配していき、最後の機器だけをターミネートします。この分配方法は、システムが大きい場合はおすすめできません。



複数台のDME32 システム

14

本章の目次

複数台のDME32システム	238
複数台システムでの注意	238
カスケード接続	239
複数台の接続例	240

はじめに

操作の前に

各部の名称
と機能

DME
Manager
の概要

コンフィグ
レーション
の構築

Runモード

ソフトウェア
"DME Manager"
のその他の機能

コンポーネント
ガイド 第1部

コンポーネント
ガイド 第2部

フロント
パネルの
操作

GPI
インター
フェース

PCカード

ワード
クロック

複数台の
DME32
システム

MIDI

I/O
オプション

付録

複数台のDME32システム

複数のDME32をカスケード接続して入出力チャンネル数を増やすことができます。最高4台のDME32がカスケード接続でき、合計128入力、128出力のシステムが組みます。またカスケード接続によりDSP処理力が増し、DME ManagerのCascadeコンポーネントを使いカスケード接続したDME32間で信号を分配できます。詳細は94ページ「カスケード」をご参照ください。

複数台のDME32システムで拡張できる入出力数。

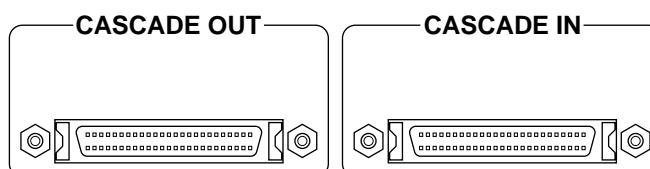
台数(DME32)	I/O	
	入力	出力
1	32チャンネル	32チャンネル
2	64チャンネル	64チャンネル
3	96チャンネル	96チャンネル
4	128チャンネル	128チャンネル

複数台システムでの注意

- 全てのDME32の電源は10秒以内に入れてください。
- 「Run Mode Controller」画面でシーンの保存、呼び出しを行うとカスケード接続された全てのDME32でそのシーンが保存、呼び出しされます。
- 「Run Mode Controller」画面でコンフィグレーションの呼び出しを行うとカスケード接続されたすべてのDME32でそのコンフィグレーションが呼び出しされます。
- DME32フロントパネル操作でシーンの保存、呼び出し、コンフィグレーションが呼び出しができるのは1台目のDME32だけです。
- パスワードプロテクト設定は1台目のDME32だけの設定で済みます。
- 1台目のDME32のMIDI端子だけを使用します。
- 1台目のDME32のPC CARDスロットだけを使用します。
- カスケード接続された全てのDME32のGPI端子が使用でき、4台で最大64のGPI入力、64のGPI出力が得られます。
- ワードクロック設定は1台目のDME32でのみ設定が必要です。他のDME32はカスケード接続により自動でワードクロックを受け取ります。

カスケード接続

複数台のシステムでのデジタルオーディオ信号とコントロール信号は、DME32本体のCASCADE IN端子、CASCADE OUT端子で送受信します。標準のSCSIケーブルで接続します。DME32のCASCADE端子は50ピン・ハーフピッチのSCSI端子で、50ピン・ハーフピッチ・ピンタイプのSCSIプラグを接続できます。信頼性のある動作をするには、必ず高品質のSCSIケーブルをご使用ください。



SCSIケーブルの最長が10メートルを越えないようにご注意ください。

複数台のシステムでは各DME32に電源を入れる順序は特に決められていませんが、10秒以内にすべての電源を入れてください。電源を入れると各ユニットに自動でID番号が割り当てられます。CASCADE IN端子に何も接続していないDME32は自動的にID #1となり、CASCADE OUT端子に何も接続していないDME32には最後のID番号が付きます。

複数台のシステムでMIDIを使用するときは、1台目のDME32にのみMIDI接続を行い、残りのDME32へのMIDI接続は不要です。1台目のDME32がたとえばシーン10に割り当てられたプログラムチェンジメッセージを受信すると、カスケード接続によりすべてのDME32でシーン10が呼び出されます。

複数台のシステムではDME Managerを起動するPCを必ず1台目のDME32になるよう接続してください。残りのDME32へのコントロール信号はカスケード接続によって送信されます。

注意: 複数台のDME32システムの台数を増設したり減らしたりした場合、すべてのDME32を初期化してください(212ページ参照)

はじめに

操作の前に

各部の名称と機能

DME Managerの概要

コンフィギュレーションの構築

Runモード

ソフトウェア "DME Manager" のその他の機能

コンポーネントガイド 第1部

コンポーネントガイド 第2部

フロントパネルの操作

GPI インターフェース

PCカード

ワードクロック

複数台のDME32システム

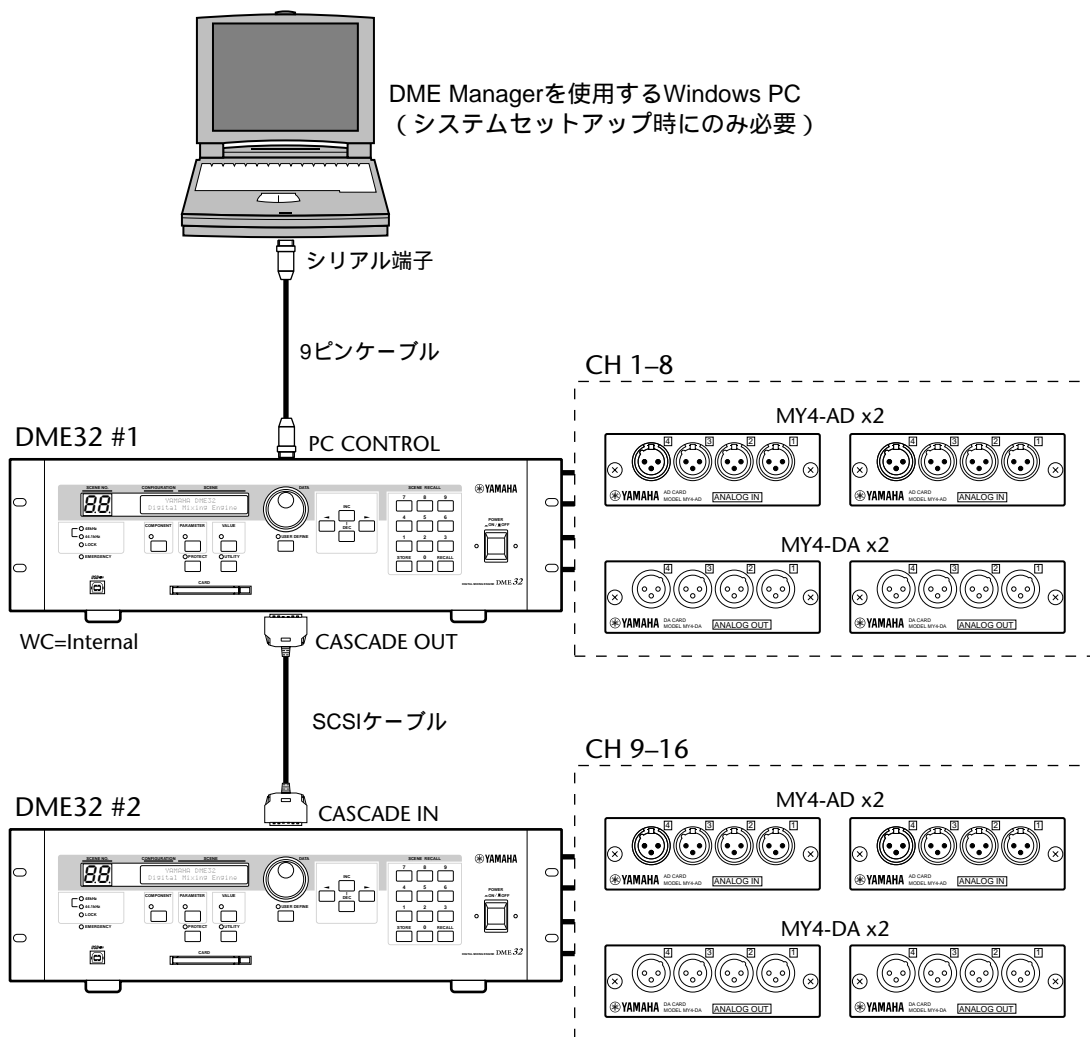
MIDI

I/O オプション

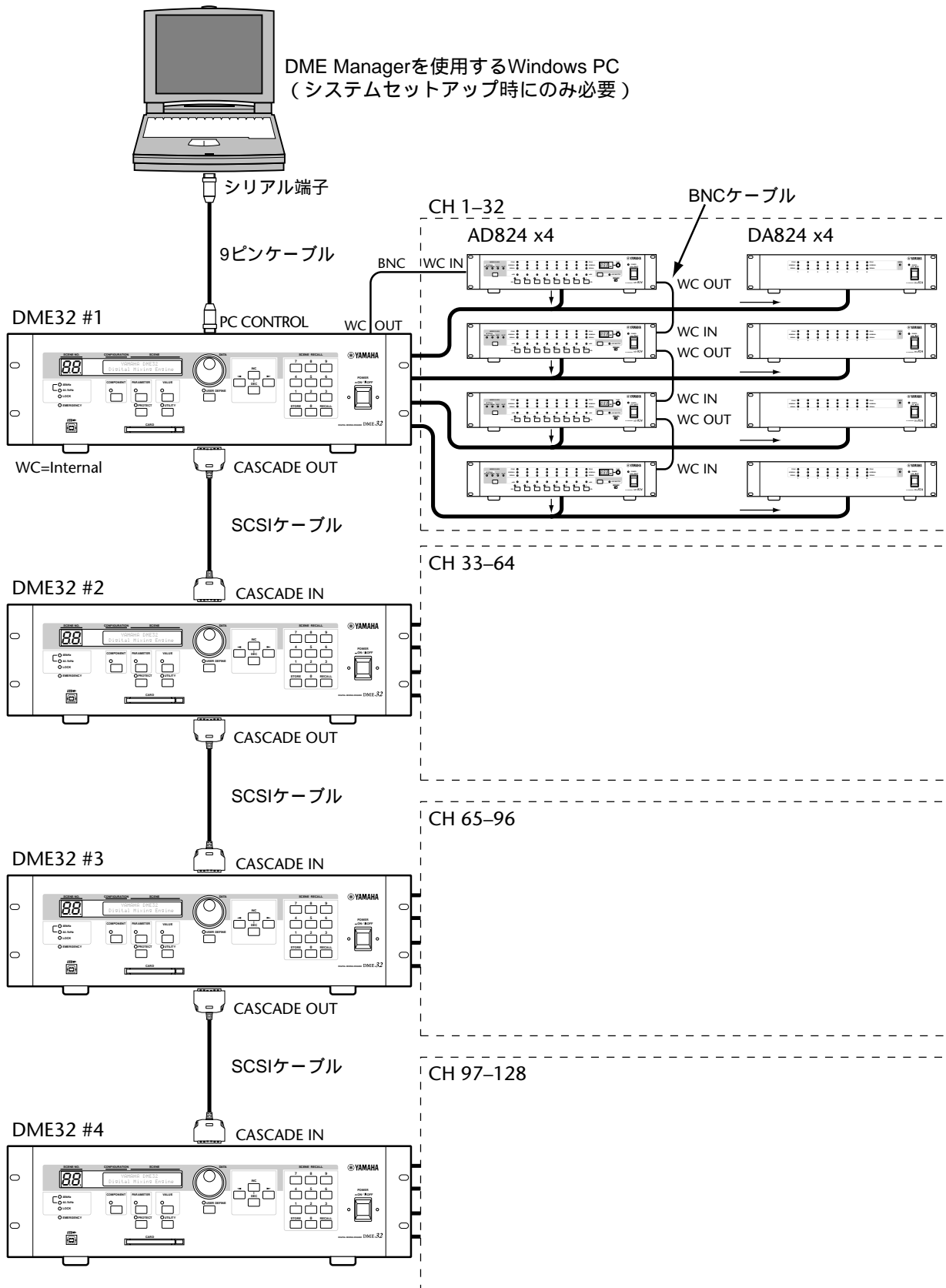
付録

複数台の接続例

次の例は2台のDME32をカスケード接続して、I/OカードMY4-ADおよびMY4-DAを装着したアナログ入力16系統、アナログ出力16系統のシステム例です。DME32 #1には自動的にID #1が割り当てられます。これはCASCADE IN端子に何も接続されていないからです。一方、DME32 #2のCASCADE OUT端子には何も接続されていないので、ID 2が自動的に割り当てられます。DME32 #1はワードクロックマスターでそのワードクロックソースは「Internal」に設定します。DME32 #2のワードクロックソースは自動的に「Cascade」に設定されます。



次ページの例は4台のDME32をカスケード接続した入力128系統、出力128系統のシステム例です。DME32 #1は CASCADE IN端子には何も接続されていないので、自動的にID #1が割り当てられます。またDME32 #4はCASCADE OUT端子に何も接続されていないので自動的にID 4が割り当てられます。DME32 #1はワードクロックマスターでそのワードクロックソースは「Internal」に設定します。DME32 #2のワードクロックソースは自動的に「Cascade」に設定されます。各DA824はそのSLOT端子からワードクロックを受信し、各AD824はDME32 #1からBNCケーブル接続でワードクロック信号を受信します。



はじめに

操作の前に

各部の名称
と機能

DME
Manager
の概要

コンフィグ
レーション
の構築

Runモード

ソフトウェア
"DME Manager"
のその他の機能

コンポーネント
ガイド 第1部

コンポーネント
ガイド 第2部

フロント
パネルの
操作

GPI
インター
フェース

PCカード

ワード
クロック

複数台の
DME32
システム

MIDI

I/O
オプション

付録

15

本章の目次

MIDIとDME32	244
MIDI端子	244
MIDI設定	245
シーンとコンフィグレーションのプログラムチェンジへの割り当て	246
コンポーネントパラメーターのコントロールチェンジへの割り当て	248
コンポーネントパラメーターとパラメーターチェンジ	250
MIDI設定の保存	251
MIDI設定のロード	252
MIDI設定の削除	252

はじめに

操作の前に

各部の名称
と機能DME
Manager
の概要コンフィグ
レーション
の構築

Runモード

ソフトウェア
"DME Manager"
のその他の機能コンポーネント
ガイド 第1部コンポーネント
ガイド 第2部フロント
パネルの
操作GPI
インター
フェース

PCカード

ワード
クロック複数台の
DME32
システム

MIDI

I/O
オプション

付録

MIDIとDME32

DME32は次のMIDIメッセージに対応します。

- ・ シーン / コンフィグレーションをリモートリコールするプログラムチェンジ
- ・ パラメーターをリモートコントロールするコントロールチェンジ
- ・ パラメーターをリモートコントロールするパラメーターチェンジ(システムエクスクルーシブ)

シーンとコンフィグレーションをMIDIプログラムチェンジに割り当て、外部MIDI機器から呼び出せます。詳細は246ページ「シーンとコンフィグレーションのプログラムチェンジへの割り当て」をご参照ください。

DME32はプログラムチェンジメッセージを受信したり、割り当てられたシーンやコンフィグレーションを呼び出すとき、GPIインターフェースで別の機器をトリガーできます。またDME ManagerやDME32フロントパネルのコントロール類、GPIインターフェースなどでシーンやコンフィグレーションを呼び出す際にDME32からプログラムチェンジメッセージを送信できます。プログラムチェンジに割り当てられたシーン、コンフィグレーションのプログラムチェンジメッセージだけが送信されます。

コンポーネントパラメーターをMIDIコントロールチェンジに割り当て、別のMIDI機器からコントロールできます。詳細は248ページ「コンポーネントパラメーターのコントロールチェンジへの割り当て」をご参照ください。

DME32はコントロールチェンジメッセージを受信したり、割り当てられたパラメーターをコントロールするとき、GPIインターフェースで外部機器をトリガーできます。またDME ManagerやDME32フロントパネルのコントロール類、GPIインターフェースなどでコンポーネントパラメーターを調整する際にDME32からコントロールチェンジメッセージを送信できます。コントロールチェンジに割り当てられたパラメーターのコントロールチェンジメッセージのみが送信されます。

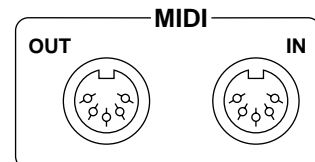
コンポーネントパラメーターはパラメーターチェンジメッセージでもコントロールできます。詳細は250ページ「コンポーネントパラメーターとパラメーターチェンジ」をご参照ください。

「MIDI Setup」画面にはMIDIチャンネル設定だけでなくDME32のプログラムチェンジ、コントロールチェンジの送受信設定パラメーターもあります。詳細は245ページ「MIDI設定」をご参照ください。

MIDI端子

MIDI IN端子、MIDI OUT端子は外部MIDI機器とMIDIメッセージを送受信します。MIDI IN端子はMIDIメッセージを受信しMIDI OUT端子は送信します。また「MIDI Setup」画面のECHO設定によりMIDI OUT端子をTHRU端子としても使用できます。「MIDI Setup」画面でDME32が送受信するMIDIチャンネルとメッセージタイプも設定します。詳細は245ページ「MIDI設定」をご参照ください。

複数台のDME32システムでは1台目のDME32のMIDI端子のみを使用します。



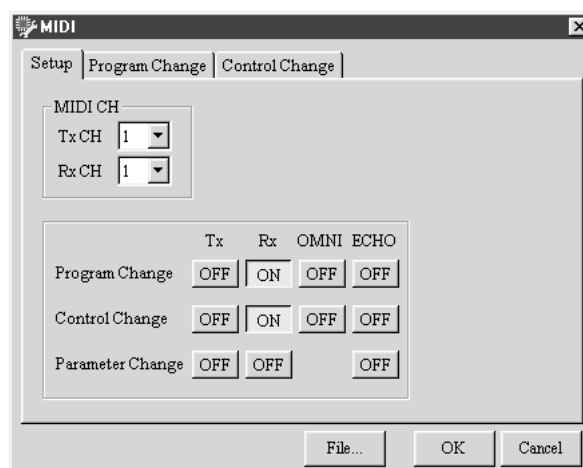
MIDI設定

「MIDI Setup」画面ではMIDIメッセージの送受信チャンネルと、本機の各メッセージ（プログラムチェンジ、コントロールチェンジ、パラメーターチェンジ）の処理方法を設定します。

- 1 「Tools」メニューから[MIDI] を選択します。

「MIDI」画面が表示されます。

- 2 「Setup」画面が表示されていなければ「Setup」タブをクリックします。



MIDI Setupパラメーター:

セクション	パラメーター	設定範囲	機能
MIDI CH	Tx CH	1 ~ 16	MIDIメッセージの送信チャンネルと、パラメーターチェンジメッセージを送信するデバイスチャンネルを選択します。
	Rx CH	1 ~ 16	MIDIメッセージの受信チャンネルと、パラメーターチェンジメッセージを受信するデバイスチャンネルを選択します。
Program Change	Tx	ON/OFF	割り当てられたシーンや設定を呼び出したときにプログラムチェンジメッセージを送信するかどうかを設定します。
	Rx	ON/OFF	プログラムチェンジメッセージを受信したときに割り当てられたシーンや設定を呼び出すかどうかを設定します。
	OMNI	ON/OFF	DME32が指定MIDIチャンネルでのみ受信したプログラムチェンジメッセージにตอบสนองするか、すべてのMIDIチャンネルで受信したプログラムチェンジメッセージにตอบสนองするかを設定します。
	ECHO	ON/OFF	MIDI IN端子で受信したプログラムチェンジメッセージをMIDI OUT端子にエコーする(そのまま出力)するかどうかを設定します。
Control Change	Tx	ON/OFF	割り当てられたパラメーターを調整したときにコントロールチェンジメッセージを送信するかどうかを設定します。
	Rx	ON/OFF	コントロールチェンジメッセージを受信したときに割り当てられたパラメーターを調整するかどうかを設定します。
	OMNI	ON/OFF	DME32が指定MIDIチャンネルのみで受信したコントロールチェンジメッセージにตอบสนองするかすべてのMIDIチャンネルで受信したコントロールチェンジメッセージにตอบสนองするかを設定します。
	ECHO	ON/OFF	MIDI IN端子で受信したコントロールチェンジメッセージをMIDI OUT端子にエコーする(そのまま出力)するかどうかを設定します。
Parameter Change	Tx	ON/OFF	コンポーネントパラメーターを調整したときにパラメーターチェンジメッセージを送信するかどうかを設定します。
	Rx	ON/OFF	パラメーターチェンジメッセージを受信したときにコンポーネントパラメーターを調整するかどうかを設定します。
	ECHO	ON/OFF	MIDI IN端子で受信したパラメーターチェンジメッセージをMIDI OUT端子にエコーする(そのまま出力)するかどうかを設定します。

はじめに

操作の前に

各部の名称と機能

DME Managerの概要

コンフィグレーションの構築

Runモード

ソフトウェア "DME Manager" のその他の機能

コンポーネントガイド 第1部

コンポーネントガイド 第2部

フロントパネルの操作

GPI インターフェース

PCカード

ワードクロック

複数台のDME32システム

MIDI

I/O オプション

付録

- 各パラメーターを設定後、[OK] をクリックして設定を保存するか、しない場合は [Cancel] をクリックして元の設定のままにします。

「MIDI」画面が閉じます。

MIDI設定はシーンやコンフィグレーションではなくDME32本体のシステムメモリーに保存されます。

シーンとコンフィグレーションのプログラムチェンジへの割り当て

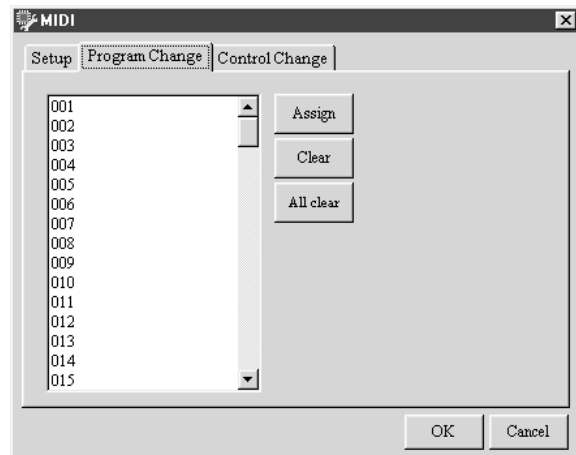
シーン1~99とコンフィグレーションA、BをMIDIプログラムチェンジ1~128に割り当てることができます。274ページのアサイン表を利用して割り当ててください。

- 「Tool」メニューから [MIDI] を選択します。

「MIDI」画面が表示されます。

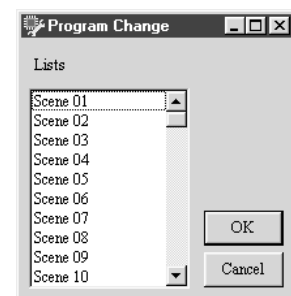
- 「Program Change」タブをクリックします。

「Program Change」画面が表示されます。



- 割り当てたいプログラムチェンジ番号を選択し [Assign] をクリックします。またはプログラムチェンジ番号を直接ダブルクリックでも選択できます。

「Lists」画面が表示されます。



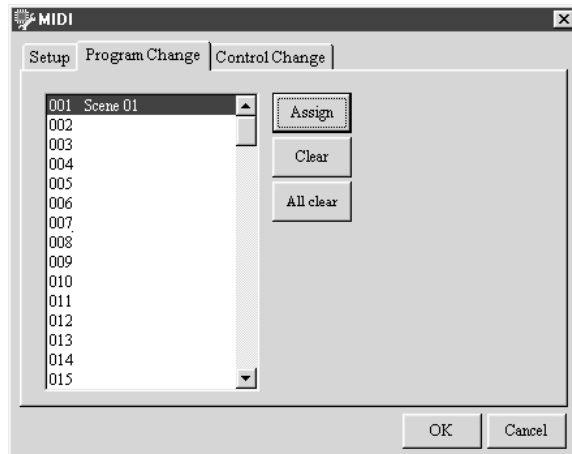
- Scene 01 ~ 99またはコンフィグレーションA、Bの中から選択します。

- 5 [OK] をクリックしてコンフィグレーションを保存するか、[Cancel] をクリックして元の設定にします。

「Lists」画面が閉じます。

選択したプログラムチェンジにシーンやコンフィグレーションがすでに割り当てられていると、それを上書きしてよいかどうかメッセージが表示されます。[OK] をクリックすると上書きされ、[キャンセル] をクリックすると以前の設定のまま変わりません。

「Program Change」画面には新しい割り当てが表示されます。



各割り当てを個別に削除するには、個々に選択して[Clear] をクリックします。

割り当てをすべて削除するには[All Clear] をクリックします。

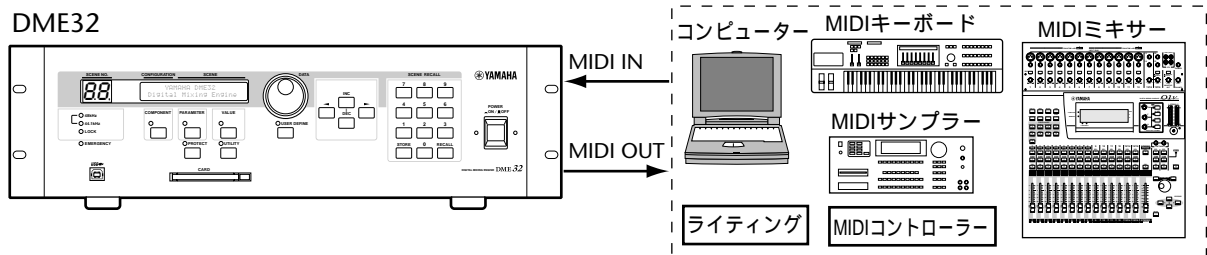
- 6 [OK] をクリックして割り当てを保存するか、しない場合は[Cancel] をクリックして元の設定にします。

「MIDI」画面が閉じます。

シーンとコンフィグレーションのプログラムチェンジへの割り当てはシーンやコンフィグレーションではなくDME32のシステムメモリーに保存されます。

シーンやコンフィグレーションを複数のプログラムチェンジに割り当てると、そのシーンやコンフィグレーションを呼び出したときに一番若い番号のプログラムチェンジが送信されます。

次の図はプログラムチェンジメッセージでDME32のシーンやコンフィグレーションをリモートコントロールできるMIDI機器類です。



はじめに

操作の前に

各部の名称と機能

DME Manager の概要

コンフィグレーションの構築

Runモード

ソフトウェア "DME Manager" のその他の機能

コンポーネントガイド 第1部

コンポーネントガイド 第2部

フロントパネルの操作

GPI インターフェース

PCカード

ワードクロック

複数台の DME32 システム

MIDI

I/O オプション

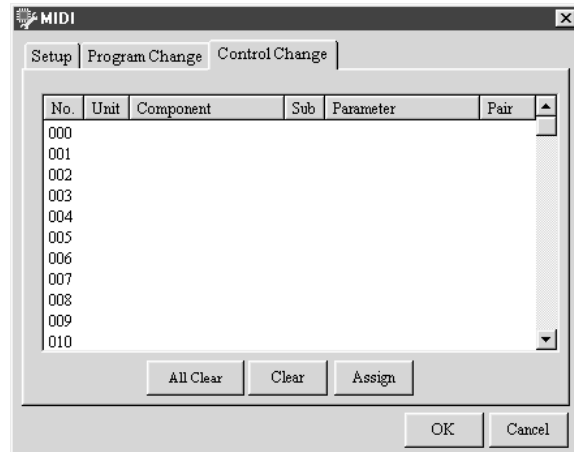
付録

コンポーネントパラメーターのコントロールチェンジへの割り当て

パラメーターをMIDIコントロールチェンジ0～119に割り当て、追加バイトを使い設定範囲の広いパラメーターを更に高精度でコントロールできます。280ページのアサイン表をお使いください。

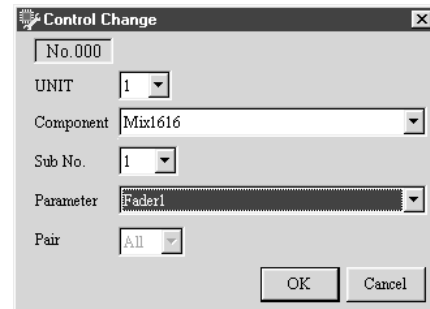
- 1 「Tool」メニューから[MIDI]を選択します。
「MIDI」画面が表示されます。

- 2 「Control Change」タブをクリックします。
「Control Change」画面が表示されます。



- 3 割り当てたいコントロールチェンジ番号を選択し[Assign]をクリックします。またはコントロールチェンジ番号を直接ダブルクリックでも選択できます。

「Control Change」画面が表示されます。



- 4 必要な設定を行って[OK]をクリックして選択内容を保存するか、[Cancel]をクリックして元の設定のままにします。

コントロールチェンジ画面が閉じます。

選択したコントロールチェンジにパラメーターがすでに割り当てられていると、それを上書きしてよいかどうかメッセージが表示されます。[OK]をクリックすると上書きされ、[キャンセル]をクリックすると以前の設定のままとなります。

「Control Change」画面のパラメーター：

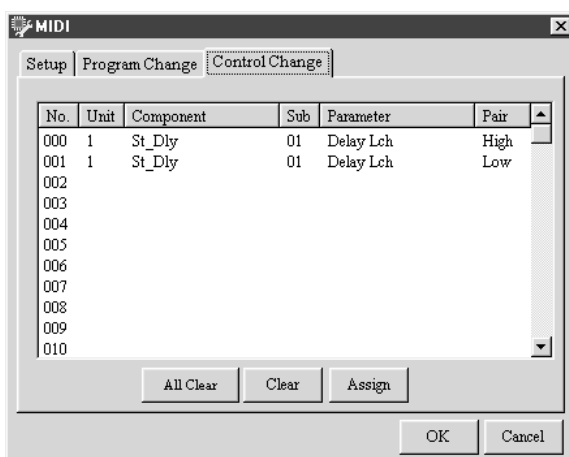
パラメーター	設定範囲	機能
UNIT	1 - 4	割り当てるパラメーターのあるDME32を選択します。
Component	†1	パラメーターを割り当てるコンポーネントを選択します。
Sub No.	1 - 256	同タイプのコンポーネントを複数含んでいるコンフィグレーションの各コンポーネントを選択します。
Parameter	†2	割り当てるパラメーターを選択します。
Pair	All, High, Low	1バイトまたは2バイトのコントロールチェンジを選択します。

†1. 使用できるコンポーネントをすべて選択できます。

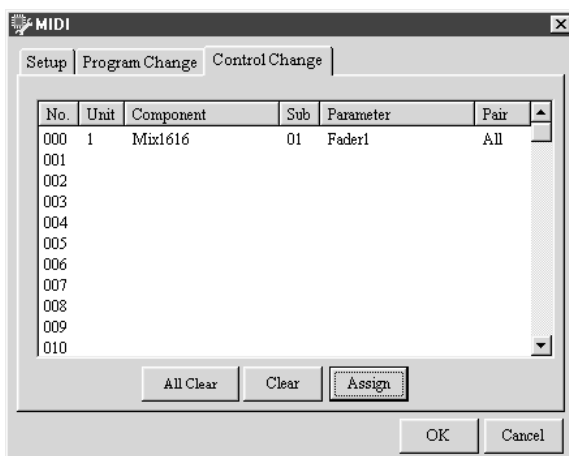
†2. 使用できるパラメーターは選択コンポーネントによって異なります。

Sub No.パラメーターは同じタイプのコンポーネントが複数ある設定で各コンポーネントを選択するのに使います。たとえばCompressorコンポーネントとCompressor(2)コンポーネントを使用した設定では、Sub No. 1でCompressorを、Sub No. 2でCompressor(2)を選択します。

Pairはパラメーターの可変範囲によって設定します。可変範囲が128ステップ以下なら、PairはAllに設定します。しかし、可変範囲が128ステップより大きい場合、PairがAllでは分解能が粗くなって正確にコントロールできません。このような場合、2つのNo.に同じパラメーターを設定し、一方のNo.のPairをHighに、もう一方のNo.のPairにLowを設定します。このような設定で、1つのパラメーターを2つのコントロールナンバーで正確にコントロールできます。



「Control Change」画面には新しい割り当てが表示されます。



各割り当てを削除するには、これを選択して「Clear」をクリックします。

割り当てをすべて削除するには「All Clear」をクリックします。

はじめに

操作の前に

各部の名称と機能

DME Managerの概要

コンフィグレーションの構築

Runモード

ソフトウェア「DME Manager」のその他の機能

コンポーネントガイド 第1部

コンポーネントガイド 第2部

フロントパネルの操作

GPIインターフェース

PCカード

ワードクロック

複数台のDME32システム

MIDI

I/Oオプション

付録

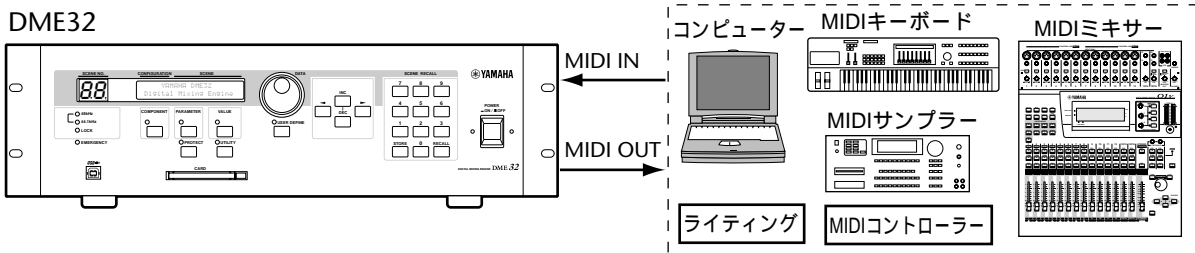
- 5 [OK] をクリックして割り当て設定を保存するか、[Cancel] をクリックして元の設定のままにします。

「MIDI」画面が閉じます。

パラメーターのコントロールチェンジへの割り当てはシーンやコンフィグレーションではなく本機のシステムメモリーに保存されます。

パラメーターを複数のコントロールチェンジに割り当てると、そのパラメーターを呼び出したときに一番若い番号のコントロールチェンジが送信されます。

次の図はコントロールチェンジメッセージでパラメーターをリモートコントロールするために、DME32と接続できるMIDI機器の種類です。



コンポーネントパラメーターとパラメーターチェンジ

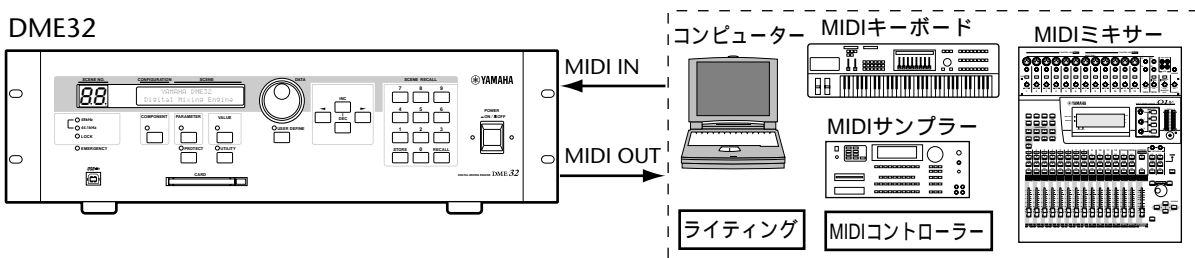
システムエクスクルーシブメッセージであるパラメーターチェンジを使い、別のMIDI機器からコンポーネントパラメーターをコントロールできます。Parameter Change TxパラメーターをON(245ページ参照)にすると、DME ManagerやDME32フロントパネルのコントロール類、GPIインターフェースなどでコンポーネントパラメーターを調整したときDME32はパラメーターチェンジメッセージを送信します。コントロールチェンジに割り当てられていないパラメーターのパラメーターチェンジメッセージのみが送信されます。

Parameter Change RxパラメーターをONに設定すると、パラメーターチェンジメッセージを本機に送ってコンポーネントパラメーターをリモートコントロールできます。

パラメーターチェンジを送受信するデバイスチャンネルは指定したMIDI送受信チャンネル(Tx, Rx)と同じです。

DME32がパラメーターチェンジメッセージを送受信する方法を指定するパラメーターは「MIDI Setup(セットアップ)」画面にあります。詳細は245ページ「MIDI設定」をご参照ください。

次の図はパラメーターチェンジメッセージでパラメーターをリモートコントロールするために、DME32と接続できるMIDI機器の種類です。



以下はパラメーターチェンジメッセージのフォーマットです。

```

STATUS      11110000 F0   System Exclusive Message
ID No.      01000011 43   Manufacturer's ID No.(YAMAHA)
SUB STATUS  0001nnnn 1n   parameter change or response n=0-15 (Device
                          Channel No.1-16)

GROUP ID    00111110 3e   MODEL ID
MODEL ID    00000101 05   Device code (DME32)
PARAM TYPE  00000000 00   byte operation for edit buffer (type)
DATA       00iiiiii dd0   DME id No. (#1:30h,#2:31h,#3:32h,#4:33h)
           0000aaaa dd1   Parameter No. (H high order bit)
           0000aaaa dd2   Parameter No. (H low order bit)
           0000aaaa dd3   Parameter No. (L high order bit)
           0000aaaa dd4   Parameter No. (L low order bit)
           0000dddd dd5   Parameter value (H high order 4 bit)
           0000dddd dd6   Parameter value (H low order 4 bit)
           0000dddd dd7   Parameter value (L high order 4 bit)
           0000dddd dd8   Parameter value (L low order 4 bit)
           11110111 F7   End Of Exclusive

```

Parameter No.の値はDME Managerで印刷できます。

MIDI設定の保存

- 1 「Tool」メニューから[MIDI]を選択します。メインの「MIDI」画面が表示されます。
- 2 [File]をクリックします。以下の「MIDI」画面が表示されます。



- 3 「Mode」欄で[Save]を選択します。
- 4 「Save File Name」欄でMIDI設定のタイトルを入力します。
タイトルには24文字まで使えます。入力し直したい場合は[Clear]ボタンをクリックしてクリアします。
- 5 [Save]をクリックします。
MIDI設定が保存され「MIDI」画面が閉じます。同じタイトルのファイルがすでにあると、上書きしてよいかを確認するメッセージが表示されるので、[OK]をクリックして上書きし続行するか、[Cancel]をクリックして操作をキャンセルします。
MIDI設定は「Midi」フォルダに保存されます。このフォルダはDME32 Managerのプログラムフォルダ内にあります。MIDI設定ファイルは通常のWindowsファイルと同様、コピー、削除、バックアップなどの編集 / 管理ができます。

MIDI設定のロード

- 1 「Tool」メニューから[MIDI]を選択します。メインの「MIDI」画面が表示されます。
- 2 [File]をクリックします。「MIDI」画面が表示されます。
- 3 「Mode」欄で[Load]を選択します。
- 4 「File List」からロードしたいMIDI設定を選択します。
選択した設定のタイトルが「Select File Name」欄に表示されます。

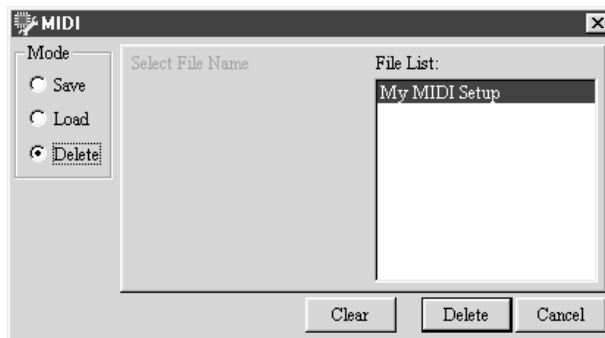


別の設定を選択する場合は[Clear]ボタンをクリックしてキャンセルします。

- 5 [Load]をクリックします。
選択したMIDI設定がロードされ「MIDI」画面が閉じます。

MIDI設定の削除

- 1 「Tool」メニューから[MIDI]を選択します。メインの「MIDI」画面が表示されます。
- 2 [File]をクリックします。「MIDI」画面が表示されます。
- 3 「Mode」欄で[Delete]を選択します。
- 4 「File List」から削除したいMIDI設定を選択します。
別の設定を選択する場合は[Clear]ボタンをクリックしてキャンセルします。



- 5 [Delete]をクリックします。
選択したMIDI設定を削除します。

I/Oオプション

16

本章の目次

I/OオプションとDME32	254
I/Oカードの仕様	255
I/Oカードの選択	255
I/Oカードの装着	257
AD824/DA824コンバーター	258

はじめに

操作の前に

各部の名称
と機能DME
Manager
の概要コンフィグ
レーション
の構築

Runモード

ソフトウェア
"DME Manager"
のその他の機能コンポーネント
ガイド 第1部コンポーネント
ガイド 第2部フロント
パネルの
操作GPI
インター
フェース

PCカード

ワード
クロック複数台の
DME32
システム

MIDI

I/O
オプション

付録

I/OオプションとDME32

はじめに	
操作の前に	DME32のアナログ・デジタル入出力には別売のmini YGDAI (Yamaha General Digital Audio Interface) カードを使います。このカードはアナログI/O用のものとデジタルI/O用のものとがあり、デジタルカードはデジタルオーディオの代表的なフォーマット (ADAT、AES/EBU、Tascam TDIF-1) をサポートしています。
各部の名称と機能	mini YGDAIカードはヤマハデジタルミキサー01VやデジタルMTR D24でも使われていますが、ヤマハデジタルレコーディングコンソール02R、03Dで使われているシングル、ダブルのYGDAIカードとは別物ですのでご注意ください。
DME Managerの概要	下記のmini YGDAIカードが現在発売されていますが、新製品などのmini YGDAIカードに関する最新の情報はヤマハホームページをご覧ください。 < http://www.yamaha.co.jp/product/proaudio/ >
コンフィグレーションの構築	
Runモード	MY8-AD 8アナログ入力 8チャンネルのアナログ入力カードです。8個のバランス型フォーン端子と20ビット・128倍オーバーサンプリングA/Dコンバーターを備えています。
ソフトウェア "DME Manager" のその他の機能	MY4-AD 4アナログ入力 4チャンネルのアナログ入力カードです。4個のバランス型XLR-3-31タイプ端子と24ビット・128倍オーバーサンプリングA/Dコンバーターを備えています。
コンポーネントガイド 第1部	MY4-DA 4アナログ出力 4チャンネルのアナログ出力カードです。4個のバランス型XLR-3-32タイプ端子と20ビット・128倍オーバーサンプリングD/Aコンバーターを備えています。
コンポーネントガイド 第2部	MY8-AT ADAT ADATフォーマットのデジタル入出力カードです。2つのAlesis ADATマルチチャンネルオプティカルデジタルインターフェースコネクタを備え、16・20・24ビットのワード長をサポートしています。
フロントパネルの操作	MY8-AE AES/EBU AES/EBUフォーマットのデジタル入出力カードです。25ピンD-subコネクタを備え、16・20・24ビットのワード長をサポートしています。
GPIインターフェース	MY8-TD Tascam TDIF-1 Tascam TDIF-1フォーマットのデジタル入出力カードです。25ピンD-subコネクタを備え、16・20・24ビットのワード長をサポートしています。
PCカード	MY8-TDカードには、接続機器を選択するスイッチがあります。そのカードをTascam DA-88と接続するときは" EXT:88 "に、DA-38あるいはその他の機器のときは" INT:38 " にそれぞれ設定してください。
ワードクロック	
複数台のDME32システム	
MIDI	
I/Oオプション	
付録	

I/Oカードの仕様

mini YGDAI I/Oカードの仕様。

カード	フォーマット	入力	出力	A/D	D/A	ワード長	端子
MY8-AD	アナログ入力	8		20ビット、 128倍			フォーン端子 (バランス型)×8
MY4-AD	アナログ入力	4		24ビット、 128倍			XLR-3-31端子 (バランス型)×4
MY4-DA	アナログ出力		4		20ビット、 128倍		XLR-3-32端子 (バランス型)×4
MY8-AT	ADAT	8	8			16, 20, 24	オプチカル×2
MY8-AE	AES/EBU	8	8			16, 20, 24	25ピンD-sub (ケーブルは別売)
MY8-TD	Tascam TDIF-1	8	8			16, 20, 24	25ピンD-sub BNCワードクロック出力端子

上記の表のように、アナログI/Oカードは入力、出力のいずれかのチャンネル、デジタルI/Oカードは入出力両チャンネルを備えています。

I/Oカードの選択

DME32には4つのI/Oスロットがあり、合計32系統の入出力が得られます。入出力は次の各スロットに対応します。

DME32 スロット	DME32 チャンネル	
	入力	出力
1	1 - 8	1 - 8
2	9 - 16	9 - 16
3	17 - 24	17 - 24
4	25 - 32	25 - 32

選択したカードの種類により使用できるチャンネル数が異なります。32系統の入力、32系統の出力をすべて使用するには4枚のデジタルI/Oカードを装着することが必要です。たとえば8チャンネルアナログ入力カードMY8-ADを4枚装着すると32系統の入力すべてを利用できますが出力チャンネルは使用できません。32系統の入力、32系統の出力をアナログ信号に使用するには、ヤマハADコンバーターAD824およびDAコンバーターDA824を使用します。詳細は258ページ「AD824/DA824コンバーター」をご参照ください。

アナログとデジタルのI/Oカードを組み合わせることもできます。たとえば2枚の8チャンネルアナログ入力カードMY8-ADをスロット1と2に装着すればインプットチャンネル1～16がアナログ入力に使用できます。また2枚のデジタルI/Oカードをスロット3と4に装着すればインプットチャンネル、アウトプットチャンネル17～32をデジタル入出力に使用できます。

デジタルI/Oカード使用時は4つのI/Oスロットのいずれかのスロットを外部ワードクロックソースとして選択できます。詳細は229ページ「ワードクロック」をご参照ください。

他のデジタルオーディオ機器にDME32を接続するには、AES/EBU、ADAT、Tascam TDIF-1の中から接続機器が対応するフォーマットを選択し、必要なI/Oカードを装着します。

はじめに

操作の前に

各部の名称と機能

DME Managerの概要

コンフィグレーションの構築

Runモード

ソフトウェア "DME Manager" のその他の機能

コンポーネントガイド 第1部

コンポーネントガイド 第2部

フロントパネルの操作

GPI インターフェース

PCカード

ワードクロック

複数台のDME32システム

MIDI

I/O オプション

付録

DME32を別のヤマハデジタルオーディオ機器に接続する際の使用カードは以下のとおりです。正しいインターフェースフォーマット(AES/EBU、ADAT、Tascam TDIF-1)で接続してください。

モデル名	スロットI/O総数		最大カード搭載数	フォーマット	使用カード	DME32用カード
	出力	入力				
Yamaha AD824	8		1	ADAT	MY8-AT	MY8-AT
				Tascam TDIF-1	MY8-TD	MY8-TD
				AES/EBU	MY8-AE	MY8-AE
Yamaha DA824		8	1	ADAT	MY8-AT	MY8-AT
				Tascam TDIF-1	MY8-TD	MY8-TD
				AES/EBU	MY8-AE	MY8-AE
Yamaha D24	8	8	4	ADAT	MY8-AT	MY8-AT
				Tascam TDIF-1	MY8-TD	MY8-TD
				AES/EBU	MY8-AE	MY8-AE
Yamaha 01V	8	8	1	ADAT	MY8-AT	MY8-AT
				Tascam TDIF-1	MY8-TD	MY8-TD
				AES/EBU	MY8-AE	MY8-AE
Yamaha 02R	16	32	シングル4枚 またはダブル2枚	ADAT	CD8-AT	MY8-AT
				Tascam TDIF-1	CD8-TDII	MY8-TD
				AES/EBU	CD8-AEまたは CD8-AE-S	MY8-AE
Yamaha 03D	8	8	1	ADAT	CD8-AT	MY8-AT
				Tascam TDIF-1	CD8-TDII	MY8-TD
				AES/EBU	CD8-AEまたは CD8-AE-S	MY8-AE

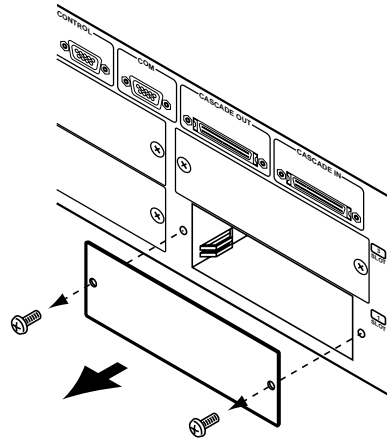
機器によってはADAT I/Oカード使用時にワードクロックのロックに問題が生じることがありますので、その場合ワードクロック信号は別のフォーマットのI/Oカードから受信するようにしてください。

詳細はお近くのヤマハ販売店にご相談ください。

I/Oカードの装着

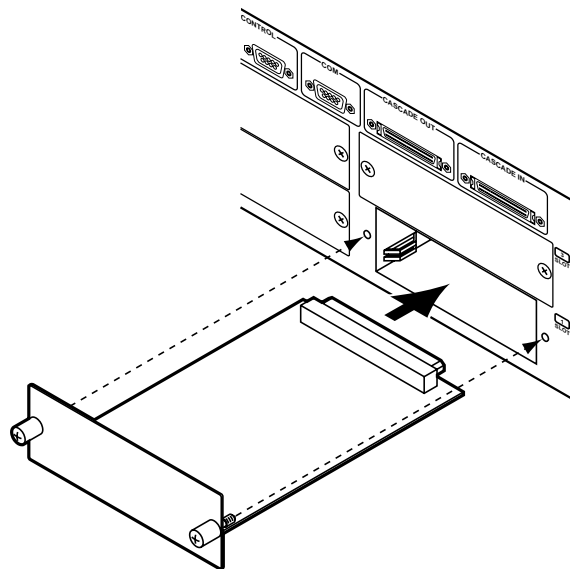
mini YGDAIカードをDME32に取付ける手順です。

- 1 DME32の電源をオフにします。
- 2 次の図のように2本の固定ネジをゆるめスロットカバーを取り外します。



カバーとネジは今後のために安全な場所に保管してください。

- 3 次の図のようにスロット内のガイドレールにカードの両端を合わせ、カードをスロットに挿入します。カードの端子部分がDME32の端子に正しくはまるよう、カードをいっぱいまで押し込んでください。



- 4 カードに取付けられているネジでカードを固定します。このネジをゆるいままにしておくと、アースが正しくとれないことがありますので注意してください。

スロット機能を使用して各スロットに装着されているI/Oカードの種類を確認することができます。詳細は212ページ「I/Oスロットの確認」をご参照ください。

はじめに

操作の前に

各部の名称と機能

DME Managerの概要

コンフィグレーションの構築

Runモード

ソフトウェア "DME Manager" のその他の機能

コンポーネントガイド 第1部

コンポーネントガイド 第2部

フロントパネルの操作

GPIインターフェース

PCカード

ワードクロック

複数台のDME32システム

MIDI

I/Oオプション

付録

AD824/DA824 コンバーター

はじめに

操作の前に

各部の名称と機能

DME Manager の概要

コンフィグレーションの構築

Runモード

ソフトウェア "DME Manager" のその他の機能

コンポーネントガイド 第1部

コンポーネントガイド 第2部

フロントパネルの操作

GPI インターフェース

PCカード

ワードクロック

複数台の DME32 システム

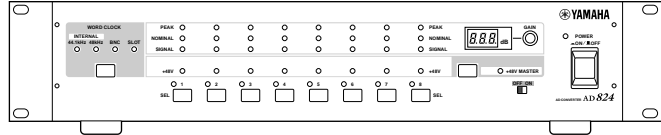
MIDI

I/O オプション

付録

AD824

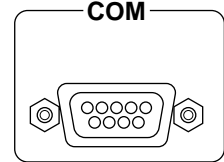
高性能8チャンネルのアナログ デジタルコンバーターです。24ビットリニアアナログ デジタル変換、128倍オーバーサンプリングにより標準ダイナミックレンジ110dBが得られます。別売のヤマハ mini YGDA(YAMAHA General Digital Audio Interface)カードを背面のスロットに装着することにより様々なデジタル入力インターフェースとして、AES/EBU、ADAT、Tascam TDIF-1など主要デジタルオーディオフォーマットに対応します。アナログ入力はバランス型XLR端子です。



またAD824の入力チャンネルにはINSERT IN/OUTの2つのTRSフォーン端子、高性能マイクプリアンプ、個別切り替え可能な48Vのファンタム電源、ゲイン調整用ツマミを搭載したバランス型アナログインサート端子を備えています。

またAD824の入力チャンネルにはINSERT IN/OUTの2つのTRSフォーン端子、高性能マイクプリアンプ、個別切り替え可能な48Vのファンタム電源、ゲイン調整用ツマミを搭載したバランス型アナログインサート端子を備えています。

DME32のCOM端子(右図)を9ピンシリアルケーブルでAD824のCOM PC/RS422端子に接続すれば、DME ManagerでAD824のリモート/リコールコントロールが可能です。

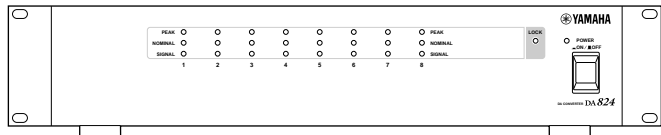


AD824のCOM PC/RS422スイッチは、DME32または別のAD824に接続時には“RS422”に設定します。

DME Managerには特にAD824と併用するためのGrain Trimmerコンポーネントがあります。詳細は177ページ「Gain Trimmer(ゲイントリマー)」をご参照ください。

DA824

高性能8チャンネルのデジタル アナログコンバーターです。24ビットリニアデジタル アナログ変換、128倍オーバーサンプリングにより標準ダイナミックレンジ110dBが得られます。別売のヤマハ mini YGDA(YAMAHA General Digital Audio Interface)カードを背面のスロットに装着することにより様々なデジタル入力インターフェースとして、AES/EBU、ADAT、Tascam TDIF-1など主要デジタルオーディオフォーマットに対応します。アナログ出力にはバランス型XLR端子およびフォーン端子があります。

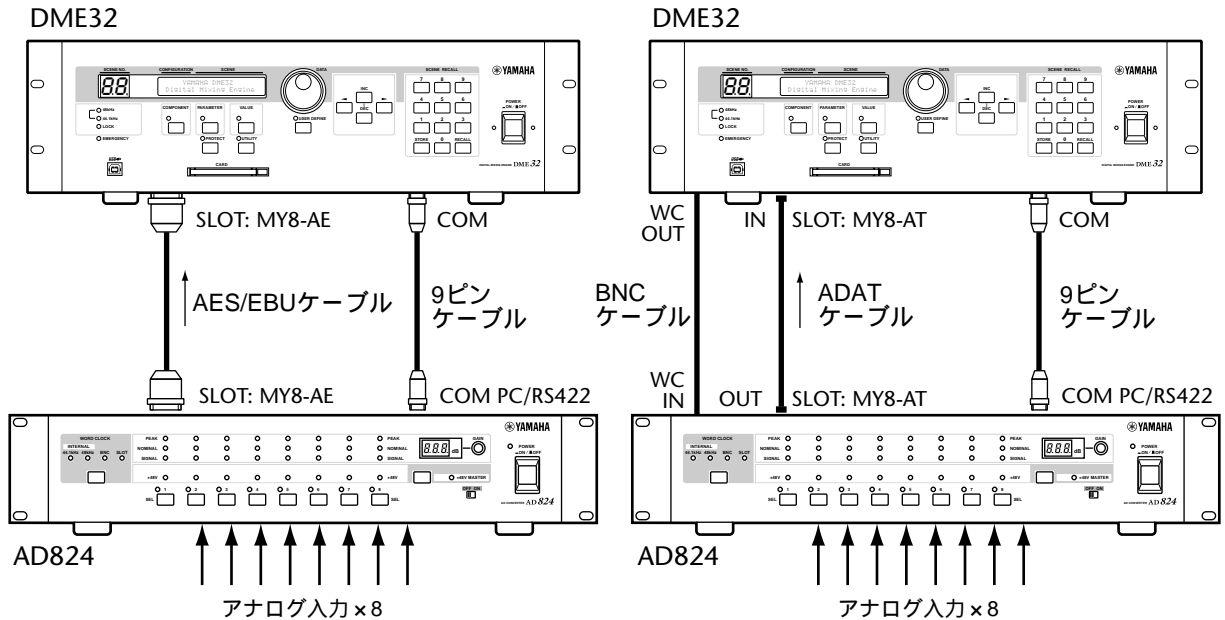


AD824とDA824についての詳細はお近くのヤマハ販売店にお問い合わせください。次頁はAD824とDA824の使用接続例です。

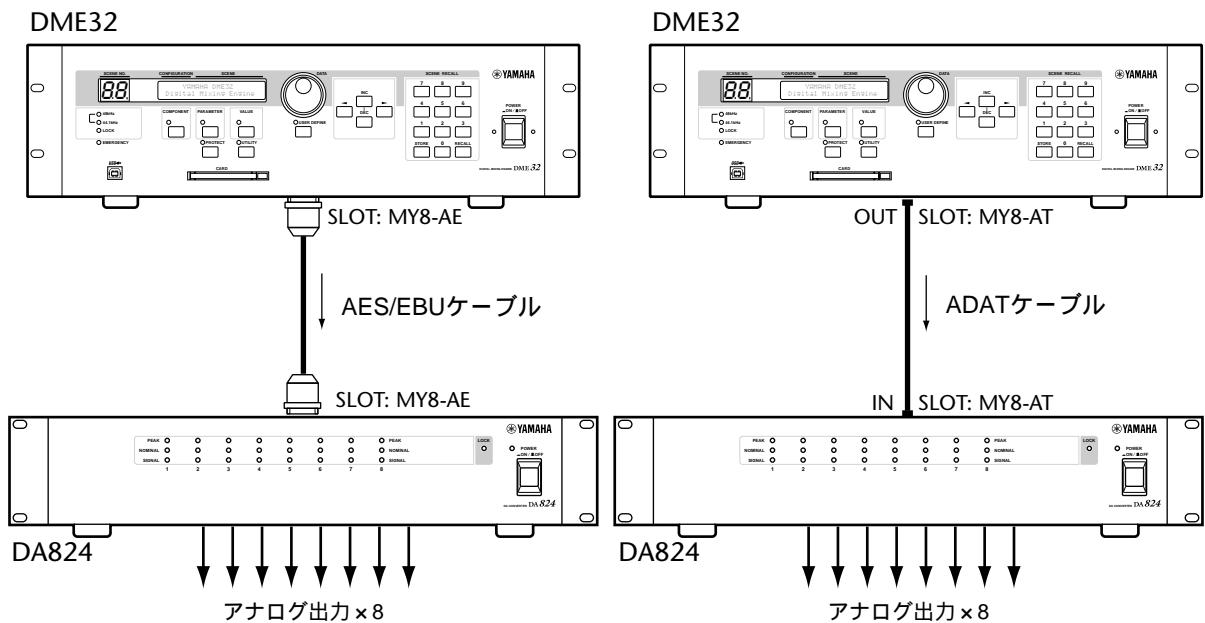
AD824とDA824についての詳細はお近くのヤマハ販売店にお問い合わせください。次頁はAD824とDA824の使用接続例です。

接続例

次の接続例はAES/EBUインターフェース、ADATインターフェースを使用したADコンバーターAD824とDME32の接続例です。この接続例では各スロットにつき8系統の入力のみ可能で、8系統の出力はできません。



次の接続例は、AES/EBUインターフェース、ADATインターフェースを使用したDAコンバーターDA824とDME32の接続例です。上の接続例と同様、この接続例では各スロットにつき8系統の出力のみ可能で、8系統の入力はできません。



はじめに

操作の前に

各部の名称と機能

DME Managerの概要

コンフィグレーションの構築

Runモード

ソフトウェア "DME Manager" のその他の機能

コンポーネントガイド 第1部

コンポーネントガイド 第2部

フロントパネルの操作

GPIインターフェース

PCカード

ワードクロック

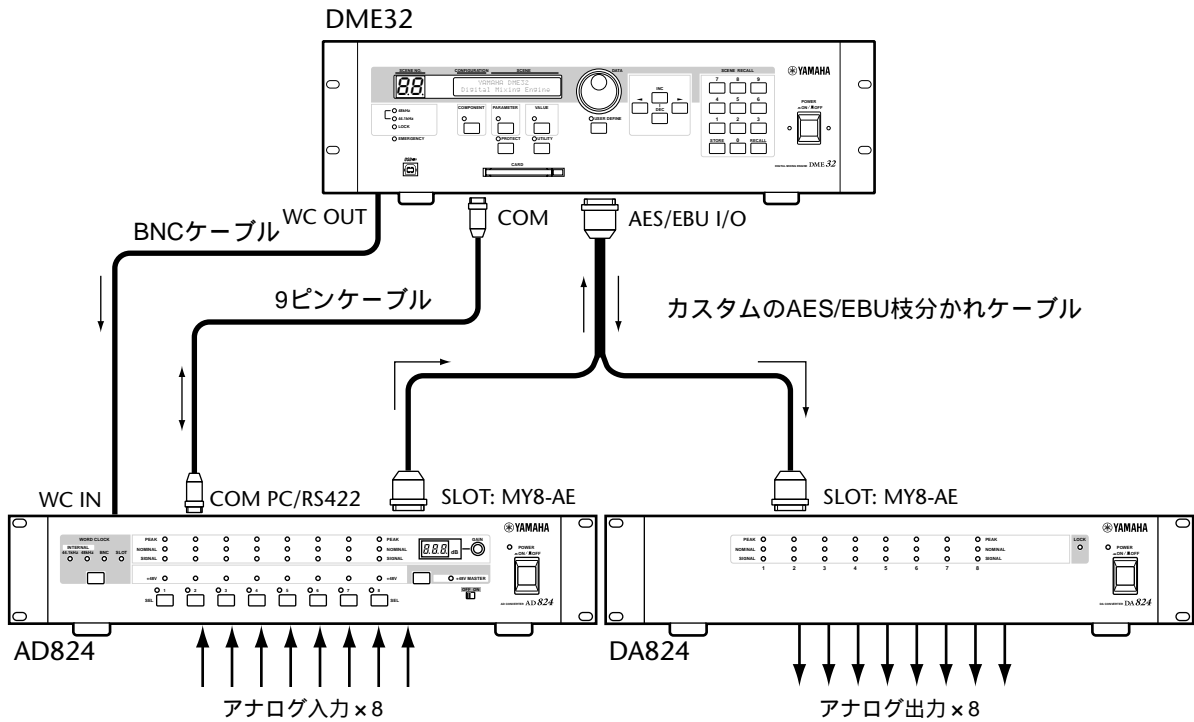
複数台のDME32システム

MIDI

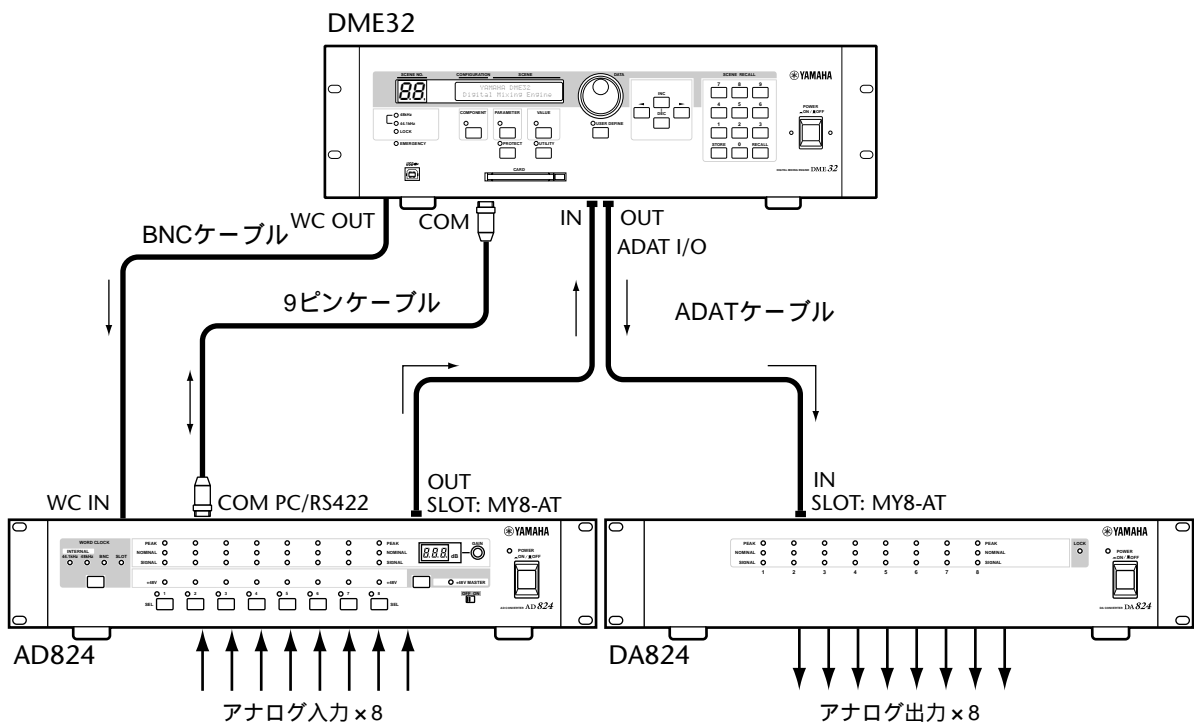
I/Oオプション

付録

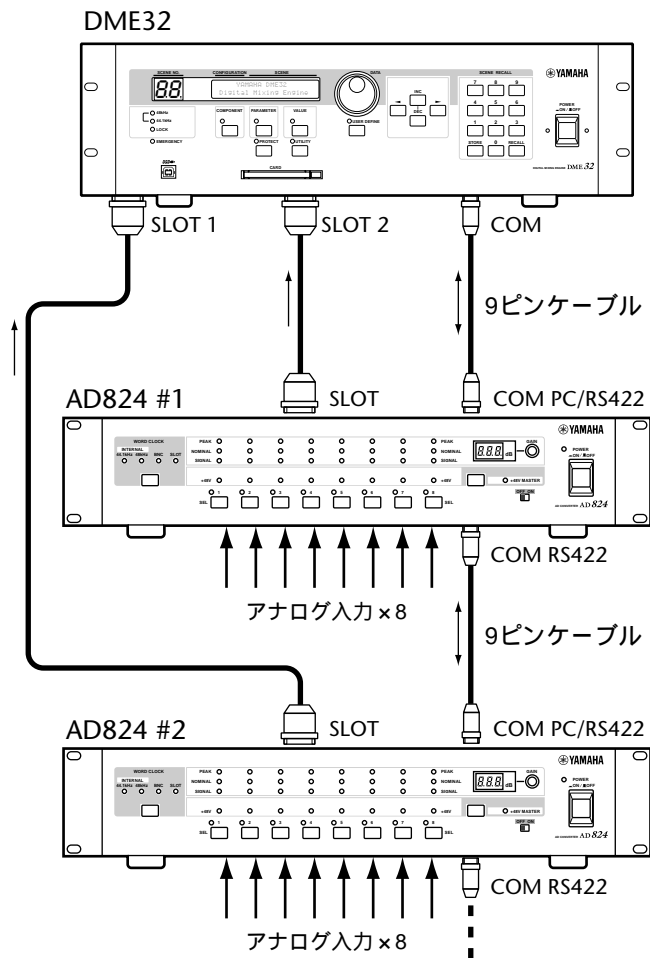
次の例はADコンバーターAD824とDAコンバーターDA824の両方を、MY8-AE I/OカードとカスタムのAES/EBU枝分かれケーブルを使用して、1台のDME32スロットに接続する方法です。この接続例では各スロットごとに8系統の入出力がともに可能です。AES/EBUインターフェースのピン配線については各MY8-AE I/Oカードに記載されています。DME32がワードクロックマスターでAD824はBNCケーブル接続でワードクロックを受け取ります。DA824はスロット入力から受け取ります。



次の例はADコンバーターAD824とDAコンバーターDA824の両方を、MY8-AT I/OカードとADATケーブルを使用して、1台のDME32スロットに接続する方法です。上の接続例と同様、この接続例では各スロットごとに8系統の入出力がともに可能です。DME32がワードクロックマスターでAD824はBNCケーブル接続でワードクロックを受け取ります。DA824はスロット入力から受け取ります。



最後の例は複数のAD824と1台のDME32をAD824のCOM端子で接続する方法です。



はじめに

操作の前に

各部の名称
と機能DME
Manager
の概要コンフィグ
レーション
の構築

Runモード

ソフトウェア
"DME Manager"
のその他の機能コンポーネント
ガイド 第1部コンポーネント
ガイド 第2部フロント
パネルの
操作GPI
インター
フェース

PCカード

ワード
クロック複数台の
DME32
システム

MIDI

I/O
オプション

付録

付 録

17

本章の目次

故障かな？と思ったら	264
コンポーネントネームリスト	267
DME32エラーメッセージ	272
DME Managerエラーメッセージ	273
仕 様	275
コントロールI/O	275
コネクタピンアサイン	276
DME32寸法図	278
プログラムチェンジアサイン表	279
コントロールチェンジアサイン表	280
MIDIデータフォーマット	283
用語集	286
索 引	288

はじめに

操作の前に

各部の名称
と機能DME
Manager
の概要コンフィグ
レーション
の構築

Runモード

ソフトウェア
"DME Manager"
のその他の機能コンポーネント
ガイド 第1部コンポーネント
ガイド 第2部フロント
パネルの
操作GPI
インター
フェース

PCカード

ワード
クロック複数台の
DME32
システム

MIDI

I/O
オプション

付 録

故障かな？と思ったら

はじめに

操作の前に

思ったとおりに動かない、何かおかしいと思ったら、状況を確認した上で以下のような対処をしてみてください。

各部の名称と機能

DME32

DME Managerの概要

DME32に電源が入らない。

- 電源コードが適切なコンセントに差し込まれているか確認してください。詳細は12ページ「電源コードの接続」をご参照ください。
- DME32の電源スイッチがONになっているか確認してください。詳細は12ページ「電源オン/オフ」をご参照ください。
- それでも電源が入らない場合はお近くのヤマハ販売店にご連絡ください。

コンフィグレーションの構築

Runモード

DME32とDME Manager間でのやりとりができない。

- DME32に電源が入っていること、DME Managerを起動し開いていること、接続ケーブルが正しく接続されていることを確認してください。
- 9ピンシリアル接続の場合はDME32のリアパネルにあるPC Controlスイッチ設定がお使いのPCのシリアルポートのタイプ(RS232CまたはRS422)と一致していることを確認してください。PCのシリアルポートが正しく作動するか確認してください。[システム] [コントロールパネル]を開き「デバイスマネージャー」タブをクリックしてください。詳細はWindowsの説明書をご参照ください。
- 9ピンシリアル接続で「COM port open error (COMポートオープンエラー)」メッセージが表示されたら、テキストエディターでDMEフォルダ内の「setup.ini」ファイルを開きCOM設定が正しいか確認してください。たとえばCOMポート2を使用している場合の設定は「COM2」です。それでも直らない場合は他の機器がそのCOMポートを使用しているためポートが使用不可になっていないかチェックしてください。
- USB接続の場合はPCのUSBポートが正しく作動するか確認してください。[システム] [コントロールパネル]を開き「デバイスマネージャー」タブをクリックしてください。詳細はWindowsの説明書をご参照ください。

コンポーネントガイド 第1部

コンポーネントガイド 第2部

フロントパネルの操作

GPIインターフェース

PCカード

ワードクロック

複数台のDME32システム

MIDI

I/Oオプション

付録

呼び出したいコンフィグレーションメモリーを選択できない。

- 呼び出せるのはデータの入ったコンフィグレーションメモリーだけです。詳細は200ページ「コンフィグレーションの呼び出し」をご参照ください。

SCENE No.インジケーターが点滅している。

- これは異常ではありません。最後に呼び出した(または保存した)以外のシーンメモリーが選択されていることを表示します。詳細は201、202ページをご参照ください。

LOCKインジケーターが点灯しない。

- DME32が選択ワードクロックソースのワードクロックにロックしていません。別のワードクロックソースを選択してください。詳細は231ページ「ワードクロックソースの選択」をご参照ください。

48kHz/44.1kHzインジケーターが点灯しない。

- これは異常ではありません。48kHz/44.1kHz以外の外部ワードクロックソースを使用していることを表示します。

オーディオの入出力ができない。

- I/Oカードが正しく挿入されネジでしっかり固定されているか確認してください。詳細は257ページ「I/Oカードの装着」をご参照ください。また212ページ「I/Oスロットの確認」をご参照ください。

ワードクロックマスター機器でワードクロックソースを変更するとアナログ出力からノイズが発生する。

- これは異常ではありません。MY8-AT I/Oカードを挿入していると生じやすい症状です。スピーカーの損傷を防ぐためにパワーアンプのレベルを下げるか、あらかじめDME32をオフにしてください。

シーンやコンフィグレーションがいつのまにか呼び出される。

- シーンやコンフィグレーションがMIDIプログラムチェンジに割り当てられ、外部MIDIメッセージによって呼び出されていませんか？詳細は246ページ「シーンとコンフィグレーションのプログラムチェンジへの割り当て」をご参照ください。
- シーンやコンフィグレーションがGPI入力に割り当てられ、外部トリガー信号に反応していませんか？詳細は216ページ「GPI入力の割り当て」をご参照ください。

コンポーネントパラメーターがいつのまにか調整されている。

- ・同じリンクグループ内の別のパラメーターと一緒に調整されていませんか? 詳細は80ページ「コンポーネントパラメーターのリンク」をご参照ください。
- ・パラメーターがMIDIパラメーターチェンジに割り当てられ、外部MIDIメッセージにตอบสนองしていませんか? 詳細は248ページ「コンポーネントパラメーターのコントロールチェンジへの割り当て」をご参照ください。
- ・パラメーターがパラメーターチェンジに割り当てられ、外部MIDI機器によって呼び出されていませんか? 詳細は250ページ「コンポーネントパラメーターとパラメーターチェンジ」をご参照ください。
- ・パラメーターがGPI入力に割り当てられていませんか? 詳細は216ページ「GPI入力の割り当て」をご参照ください。

シーンの保存、呼び出しやコンポーネントパラメーターの編集ができない。

- ・Full Protectモードがオンになっていませんか? 207ページ「Full Protec(フルプロテクト)」をご参照ください。

シーンを呼び出せるが保存やコンポーネントパラメーターの編集ができない。

- ・Scene Recall Onlyモードがオンになっていませんか? 206ページ「Scene Recall Only(シーンの呼び出しのみ)」をご参照ください。

DME32のパスワードを忘れた。

- ・212ページ「DME32の初期化」をご参照ください。

MIDIメッセージの送受信ができない。

- ・MIDI接続を確認してください。
- ・接続MIDI機器がオンになっており、選択MIDIチャンネルで送受信できるよう設定されているか確認してください。
- ・MIDI Setup画面の設定をチェックしてください。245ページ「MIDI設定」をご参照ください。

MIDIプログラムチェンジメッセージでシーンを呼び出せない。

- ・DME32がプログラムチェンジメッセージを受信できるよう設定され、MIDI受信チャンネルの設定が正しいことを確認してください。245ページ「MIDI設定」をご参照ください。
- ・送信するプログラムチェンジがシーンに割り当てられているか確認してください。246ページ「シーンとコンフィグレーションのプログラムチェンジへの割り当て」をご参照ください。
- ・呼び出せるのはデータの入っているシーンだけです。

MIDIコントロールチェンジメッセージでコンポーネントパラメーターをコントロールできない。

- ・DME32がコントロールチェンジメッセージを受信できるよう設定され、MIDI受信チャンネルの設定が正しいことを確認してください。245ページ「MIDI設定」をご参照ください。
- ・送信されるコントロールチェンジがコンポーネントパラメーターに割り当てられているか確認してください。248ページ「コンポーネントパラメーターのコントロールチェンジへの割り当て」をご参照ください。

MIDIパラメーターチェンジメッセージでコンポーネントパラメーターをコントロールできない。

- ・DME32がパラメーターチェンジメッセージを受信できるよう設定されていることを確認してください。245ページ「MIDI設定」をご参照ください。

複数台のDME32システムでワードクロックソースをDME32#1でしか設定できない。

- ・これは異常ではありません。その他のDME32はカスケード接続でワードクロック信号を自動受信します。

EMERGENCYインジケーターが点灯する。

- ・EMERGENCY(緊急)用に割り当てられたGPI入力トリガーされたためです。原因を調べEMERGENCY状態を解除してください。222ページ「EMERGENCY(緊急)モード」をご参照ください。

複数台走行ができない。

- ・各DME32間のカスケード接続をチェックしてください。239ページ「カスケード接続」をご参照ください。

はじめに

操作の前に

各部の名称と機能

DME Managerの概要

コンフィグレーションの構築

Runモード

ソフトウェア「DME Manager」のその他の機能

コンポーネントガイド 第1部

コンポーネントガイド 第2部

フロントパネルの操作

GPIインターフェース

PCカード

ワードクロック

複数台のDME32システム

MIDI

I/Oオプション

付録

DME Manager

はじめに	Windows 98でコンポーネントコントロール画面の動作がおかしい。	コンフィグレーションをコンパイルできない。
操作の前に	<ul style="list-style-type: none"> Windows 98のコントロールパネルの「画面」を開き「効果」をクリックし、「ドラッグ中にウィンドウの内容を表示する」のタブをオフにしてください。 	<ul style="list-style-type: none"> コンフィグレーションのコンパイルには少量のDSP処理パワーが必要ですが、DSPパワーメーターが100%を表示しなくてもコンパイルできない場合があります。これはメーターがおよその使用量を表示しているためで、その精度はコンフィグレーション内のコンポーネントのタイプやコンポーネントの追加/配線順序によって影響を受けます。不要なコンポーネントを削除してもう一度コンパイルしてください。
各部の名称と機能	コンポーネントを追加できない。	コンポーネントのタイトルがよく見えな
DME Managerの概要	<ul style="list-style-type: none"> DMEマネージャーがRunモードかCableモードではありませんか？コンポーネントを追加できるのはEditモードのみです。48ページ「コンポーネントの追加」をご参照ください。 	<ul style="list-style-type: none"> タイトルの字のサイズを小さくしてください。82ページ「コンポーネントプロパティのカスタム化」をご参照ください。
コンフィグレーションの構築	<ul style="list-style-type: none"> DSPパワーメーターが100%になっていませんか？48ページ「コンポーネントの追加」をご参照ください。 	
Runモード	<ul style="list-style-type: none"> 追加しようとしたコンポーネントのタイプがコンフィグレーションにすでに入っていないませんか？入出力などのコンポーネントはコンフィグレーションごとに1つのみ使用可能です。 任意のコンフィグレーションに最高159個までの同一コンポーネントが追加できます(例:「Fader 4」コンポーネントを159個)。 	
ソフトウェア「DME Manager」のその他の機能	<ul style="list-style-type: none"> 配線の追加、削除ができない。 	
コンポーネントガイド 第1部	<ul style="list-style-type: none"> DMEマネージャーがRunモードかEditモードではありませんか？配線を追加、削除できるのはCableモードのみです。53ページ「配線の追加」をご参照ください。 	
コンポーネントガイド 第2部	Run Mode Controllerにアクセスできない。	
フロントパネルの操作	<ul style="list-style-type: none"> Run Mode ControllerはRunモード時にのみ表示されます。 	
GPIインターフェース	Run Mode Controllerからコンフィグレーションを保存できない。	
PCカード	<ul style="list-style-type: none"> これは異常ではありません。Run Mode Controllerでコンフィグレーションの保存はできません。コンフィグレーションの転送は「Data Transfer」画面を使用してください。64ページ「DME32へのコンフィグレーションの送信」をご参照ください。 	
ワードクロック	コンポーネントのコントロールを編集できない。	
複数台のDME32システム	<ul style="list-style-type: none"> コンポーネントのプロテクトが正しくチェックされていますか？82ページ「コンポーネントプロパティのカスタム化」をご参照ください。 	
MIDI		
I/Oオプション		
付録		

コンポーネントネームリスト

以下のリストは表示されるコンポーネント名、コンポーネントアイコン、DME32本体に表示されるコンポーネント名のリストです。CascadeコンポーネントはDME32ディスプレイ表示と同じです。ただしカスタマイズ可能です。詳細は82ページ「コンポーネントプロパティのカスタム化」をご参照ください。

コンポーネント	コンポーネントリスト	コンポーネントアイコン	DME32ディスプレイ
Automatic Mixer (オートマッチックミキサー)	2-Ch Auto Mixer	AutoMx2	AutoMx2
	4-Ch Auto Mixer	AutoMx4	AutoMx4
	8-Ch Auto Mixer	AutoMx8	AutoMx8
Cascade (カスケード)	1 ~ 16	1	1 Cascade
		2	2 Cascade
		3	3 Cascade
		4	4 Cascade
		5	5 Cascade
		6	6 Cascade
		7	7 Cascade
		8	8 Cascade
		9	9 Cascade
		10	10 Cascade
		11	11 Cascade
		12	12 Cascade
		13	13 Cascade
		14	14 Cascade
		15	15 Cascade
		16	16 Cascade
	17 ~ 32	17	17 Cascade
		18	18 Cascade
		19	19 Cascade
		20	20 Cascade
21		21 Cascade	
22		22 Cascade	
23		23 Cascade	
24		24 Cascade	
25		25 Cascade	
26		26 Cascade	
27		27 Cascade	
28		28 Cascade	
29		29 Cascade	
30		30 Cascade	
31		31 Cascade	
32		32 Cascade	

はじめに

操作の前に

各部の名称と機能

DME Managerの概要

コンフィグレーションの構築

Runモード

ソフトウェア "DME Manager" のその他の機能

コンポーネントガイド 第1部

コンポーネントガイド 第2部

フロントパネルの操作

GPI インターフェース

PCカード

ワードクロック

複数台のDME32システム

MIDI

I/O オプション

付録

	コンポーネント	コンポーネントリスト	コンポーネントアイコン	DME32ディスプレイ		
はじめに	Crossover (クロスオーバー)	2-Way 12dB/oct	2way 12dB/oct	2way 12dB/oct		
操作の前に		2-Way 24dB/oct	2way 24dB/oct	2way 24dB/oct		
		2-Way 36dB/oct	2way 36dB/oct	2way 36dB/oct		
		2-Way 48dB/oct	2way 48dB/oct	2way 48dB/oct		
		3-Way 12dB/oct	3way 12dB/oct	3way 12dB/oct		
各部の名称と機能		3-Way 24dB/oct	3way 24dB/oct	3way 24dB/oct		
		3-Way 36dB/oct	3way 36dB/oct	3way 36dB/oct		
		3-Way 48dB/oct	3way 48dB/oct	3way 48dB/oct		
		4-Way 12dB/oct	4way 12dB/oct	4way 12dB/oct		
DME Managerの概要		4-Way 24dB/oct	4way 24dB/oct	4way 24dB/oct		
コンフィギュレーションの構築	4-Way 36dB/oct	4way 36dB/oct	4way 36dB/oct			
	4-Way 48dB/oct	4way 48dB/oct	4way 48dB/oct			
Runモード	Crossover Processor (クロスオーバープロセッサ)	2-Way Processor	2wayProcessor	2wayProcessor		
	3-Way Processor	3wayProcessor	3wayProcessor			
	4-Way Processor	4wayProcessor	4wayProcessor			
ソフトウェア "DME Manager" のその他の機能	Delay(ディレイ)	Delay 1 Out	Delay 1out	Delay 1out		
		Delay 2 Out	Delay 2out	Delay 2out		
		Delay 3 Out	Delay 3out	Delay 3out		
		Delay 4 Out	Delay 4out	Delay 4out		
		Delay 5 Out	Delay 5out	Delay 5out		
		Delay 6 Out	Delay 6out	Delay 6out		
		Delay 7 Out	Delay 7out	Delay 7out		
		Delay 8 Out	Delay 8out	Delay 8out		
コンポーネントガイド 第1部	Delayed Mixer (ディレイドミキサー)	2x	Delayed Mixer 2x2	Dly202	Dly202	
コンポーネントガイド 第2部			Delayed Mixer 2x4	Dly204	Dly204	
			Delayed Mixer 2x8	Dly208	Dly208	
			Delayed Mixer 2x12	Dly212	Dly212	
		フロントパネルの操作	4x	Delayed Mixer 4x2	Dly402	Dly402
Delayed Mixer 4x4				Dly404	Dly404	
Delayed Mixer 4x8				Dly408	Dly408	
Delayed Mixer 4x12				Dly412	Dly412	
GPIインターフェース		8x	Delayed Mixer 4x16	Dly416	Dly416	
			Delayed Mixer 8x2	Dly802	Dly802	
			Delayed Mixer 8x4	Dly804	Dly804	
			Delayed Mixer 8x8	Dly808	Dly808	
PCカード	Delayed Mixer 8x12	Dly812	Dly812			
	Delayed Mixer 8x16	Dly816	Dly816			
	ワードクロック		Delayed Mixer 8x12	Dly812	Dly812	
			Delayed Mixer 8x16	Dly816	Dly816	
複数台のDME32システム				Delayed Mixer 8x12	Dly812	Dly812
				Delayed Mixer 8x16	Dly816	Dly816
	MIDI			Delayed Mixer 8x12	Dly812	Dly812
				Delayed Mixer 8x16	Dly816	Dly816
I/Oオプション				Delayed Mixer 8x12	Dly812	Dly812
				Delayed Mixer 8x16	Dly816	Dly816
	付録			Delayed Mixer 8x12	Dly812	Dly812
				Delayed Mixer 8x16	Dly816	Dly816

コンポーネント	コンポーネントリスト	コンポーネントアイコン	DME32ディスプレイ
Dynamics (ダイナミクス)	Compander	Compander	Compander
	Compressor	Compressor	Compressor
	De-Esser	De-Esser	De-Esser
	Ducker	Ducker	Ducker
	Expander	Expander	Expander
	Gate	Gate	Gate
	Stereo Compander	StCompander	StCompander
	Stereo Compressor	StCompressor	StCompressor
	Stereo De-Esser	StDe-Esser	StDe-Esser
	Stereo Ducker	StDucker	StDucker
	Stereo Expander	StExpander	StExpander
Effect(エフェクト)	Reverb Hall	RevHall	RevHall
	Reverb Room	RevRoom	RevRoom
	Reverb Stage	RevStage	RevStage
	Reverb Plate	RevPlate	RevPlate
	Early Ref.	EarlyRef	EarlyRef
	Gate Reverb	GateReverb	GateReverb
	Reverse Gate	ReverseGate	ReverseGate
	Mono Delay	MonoDly	MonoDly
	Stereo Delay	St_Dly	St_Dly
	Mod Delay	Mod_Dly	Mod_Dly
	Delay LCR	Dly_LCR	Dly_LCR
	Echo	Echo	Echo
	Chorus	Chorus	Chorus
	Flange	Flange	Flange
	Symphonic	Symphonic	Symphonic
	Phaser	Phaser	Phaser
	Auto Pan	AutoPan	AutoPan
	Tremolo	Tremolo	Tremolo
	HQ Pitch	HqPitch	HqPitch
	Dual Pitch	DuPitch	DuPitch
Mod. Filter	ModFilter	ModFilter	
Dyna.Filter	DynFilter	DynFilter	
Dyna.Flange	DynFlange	DynFlange	
EQ(イコライザー)	2-Band PEQ	PEQ 2	PEQ 2
	3-Band PEQ	PEQ 3	PEQ 3
	4-Band PEQ	PEQ 4	PEQ 4
	6-Band PEQ	PEQ 6	PEQ 6
	8-Band PEQ	PEQ 8	PEQ 8
	7-Band GEQ	GEQ 7	GEQ 7
	15-Band GEQ	GEQ 15	GEQ 15
	31-Band GEQ	GEQ 31	GEQ 31

はじめに

操作の前に

各部の名称と機能

DME Managerの概要

コンフィグレーションの構築

Runモード

ソフトウェア "DME Manager" のその他の機能

コンポーネントガイド 第1部

コンポーネントガイド 第2部

フロントパネルの操作

GPIインターフェース

PCカード

ワードクロック

複数台のDME32システム

MIDI

I/Oオプション

付録

	コンポーネント	コンポーネントリスト	コンポーネントアイコン	DME32ディスプレイ	
はじめに	Fader(フェーダー)	Fader 1	Fader 1	Fader 1	
操作の前に		Fader 2	Fader 2	Fader 2	
		Fader 4	Fader 4	Fader 4	
		Fader 8	Fader 8	Fader 8	
		Fader 12	Fader12	Fader12	
		Fader 16	Fader16	Fader16	
各部の名称と機能	Filter(フィルター)	HPF	HPF	HPF	
DME Managerの概要		LPF	LPF	LPF	
		BPF	BPF	BPF	
		Notch	Notch	Notch	
コンフィグレーションの構築	Input/Output (インプット/アウトプット)	Input	Slot 1 In (1-8)	Slot1 In(1-8)	Slot1 In(1-8)
Runモード			Slot 2 In (9-16)	Slot2 In(9-16)	Slot2 In(9-16)
			Slot 3 In (17-24)	Slot3 In(17-24)	Slot3 In(17-24)
			Slot 4 In (25-32)	Slot4 In(25-32)	Slot4 In(25-32)
		ソフトウェア "DME Manager" のその他の機能	Output	Slot 1 Out (1-8)	Slot1 Out(1-8)
Slot 2 Out (9-16)				Slot2 Out(9-16)	Slot2 Out(9-16)
Slot 3 Out (17-24)				Slot3 Out(17-24)	Slot3 Out(17-24)
Slot 4 Out (25-32)				Slot4 Out(25-32)	Slot4 Out(25-32)
コンポーネントガイド 第1部	2x	Mixer 2x1	Mix201	Mix201	
		Mixer 2x2	Mix202	Mix202	
コンポーネントガイド 第2部	4x	Mixer 4x1	Mix401	Mix401	
		Mixer 4x2	Mix402	Mix402	
		Mixer 4x4	Mix404	Mix404	
フロントパネルの操作	8x	Mixer 8x1	Mix801	Mix801	
		Mixer 8x2	Mix802	Mix802	
		Mixer 8x4	Mix804	Mix804	
		Mixer 8x8	Mix808	Mix808	
GPIインターフェース	12x	Mixer 12x1	Mix1201	Mix1201	
		Mixer 12x2	Mix1202	Mix1202	
		Mixer 12x4	Mix1204	Mix1204	
		Mixer 12x8	Mix1208	Mix1208	
		Mixer 12x12	Mix1212	Mix1212	
PCカード	16x	Mixer 16x1	Mix1601	Mix1601	
		Mixer 16x2	Mix1602	Mix1602	
		Mixer 16x4	Mix1604	Mix1604	
		Mixer 16x8	Mix1608	Mix1608	
		Mixer 16x12	Mix1612	Mix1612	
		Mixer 16x16	Mix1616	Mix1616	
ワードクロック	Matrix Mixer (マトリックスミキサー)	Mixer 16x1	Mix1601	Mix1601	
		Mixer 16x2	Mix1602	Mix1602	
		Mixer 16x4	Mix1604	Mix1604	
		Mixer 16x8	Mix1608	Mix1608	
		Mixer 16x12	Mix1612	Mix1612	
		Mixer 16x16	Mix1616	Mix1616	
複数台のDME32システム	Meter(メーター)	Meter 1	Meter 1	Meter 1	
		Meter 2	Meter 2	Meter 2	
		Meter 4	Meter 4	Meter 4	
		Meter 8	Meter 8	Meter 8	
		Meter 12	Meter12	Meter12	
		Meter 16	Meter16	Meter16	
MIDI	I/Oオプション	Misc(その他)	Gain Trimmer	GainTrm	
		Oscillator	Osillator	Osillator	
		System Mute	SysMute	SysMute	
付録					

コンポーネント	コンポーネントリスト	コンポーネントアイコン	DME32ディスプレイ	
Pan(パン)	LCR	LCR	LCR	
	Pan	Pan	Pan	
	Surround 2+2	Surr2+2	Surr2+2	
	Surround 3+1	Surr3+1	Surr3+1	
	Surround 5.1	Surr5.1	Surr5.1	
Router(ルーター)	1x	Router 1x2	Rtr102	Rtr102
		Router 1x4	Rtr104	Rtr104
		Router 1x8	Rtr108	Rtr108
		Router 1x12	Rtr112	Rtr112
		Router 1x16	Rtr116	Rtr116
	2x	Router 2x1	Rtr201	Rtr201
		Router 2x2	Rtr202	Rtr202
		Router 2x4	Rtr204	Rtr204
		Router 2x8	Rtr208	Rtr208
		Router 2x12	Rtr212	Rtr212
	4x	Router 2x16	Rtr216	Rtr216
		Router 4x1	Rtr401	Rtr401
		Router 4x2	Rtr402	Rtr402
		Router 4x4	Rtr404	Rtr404
		Router 4x8	Rtr408	Rtr408
	8x	Router 4x12	Rtr412	Rtr412
		Router 4x16	Rtr416	Rtr416
		Router 8x1	Rtr801	Rtr801
		Router 8x2	Rtr802	Rtr802
		Router 8x4	Rtr804	Rtr804
	12x	Router 8x8	Rtr808	Rtr808
		Router 8x12	Rtr812	Rtr812
		Router 8x16	Rtr816	Rtr816
		Router 12x1	Rtr1201	Rtr1201
		Router 12x2	Rtr1202	Rtr1202
	16x	Router 12x4	Rtr1204	Rtr1204
		Router 12x8	Rtr1208	Rtr1208
		Router 12x12	Rtr1212	Rtr1212
		Router 12x16	Rtr1216	Rtr1216
		Router 16x1	Rtr1601	Rtr1601
	Router 16x2	Rtr1602	Rtr1602	
	Router 16x4	Rtr1604	Rtr1604	
	Router 16x8	Rtr1608	Rtr1608	
	Router 16x12	Rtr1612	Rtr1612	
	Router 16x16	Rtr1616	Rtr1616	
Switch(スイッチ)	Switch 1	Sw 1	Sw 1	
	Switch 2	Sw 2	Sw 2	
	Switch 4	Sw 4	Sw 4	
	Switch 8	Sw 8	Sw 8	
	Switch 12	Sw 12	Sw 12	
	Switch 16	Sw 16	Sw 16	
User Contro(ユーザーコントロール)		UserCtrl	UserCtrl	
User Modul(ユーザーモジュール)		UserModule	UserModule	

はじめに

操作の前に

各部の名称と機能

DME Managerの概要

コンフィグレーションの構築

Runモード

ソフトウェア "DME Manager" のその他の機能

コンポーネントガイド 第1部

コンポーネントガイド 第2部

フロントパネルの操作

GPI インターフェース

PCカード

ワードクロック

複数台のDME32システム

MIDI

I/O オプション

付録

DME32 エラーメッセージ

DME32にエラーメッセージが表示されたら以下の表を参照して対策を施してください。

	メッセージ	原因	対策
はじめに			
操作の前に			
各部の名称と機能	***** WARNING ***** LOW BATTERY	内蔵バックアップ電池の寿命が近づいています。	コンフィグレーションのデータをPCまたはPCMCIAカードにセーブしてからお買い上げの販売店へ電池の交換を依頼してください。
DME Managerの概要	ABORTED-TooMany Errors!	ファームウェアのダウンロード中に複数のエラーが生じました。	もう一度ダウンロードしてください。
コンフィグレーションの構築	Application Prog Error!	アプリケーションプログラムがフラッシュROMに登録されていません。	アプリケーションプログラムをフラッシュROMに登録してください。
Runモード	CASCADE ERR (My ID:)	DME32に電源を入れるとID番号をチェックします。この番号が一致しないと接続エラーが生じます。	カスケードケーブルが正しい順序で接続されているか確認してください。
ソフトウェア "DME Manager" のその他の機能	CPU Address Error!	SH2エラートラップが生じました。	
	DMA Address Error!		
コンポーネントガイド 第1部	DME I/F ERR	複数台のDME32システムで通信ができませんでした。カスケードケーブルの接続が外れているか電源の入っていないDME32があります。	カスケードケーブルを点検しすべてのDME32に電源が入っているか確認してください。
	Ext RAM Read/Write err!	外部RAM読み込み / 書き込み中にエラーが生じました。	
コンポーネントガイド 第2部	Flash ROM checksum err!	フラッシュROMの書き込みエラーが生じました。	
	Flash ROM device err!	メーカーコードまたはデバイスコードのエラーが生じました。	
フロントパネルの操作	Flash ROM Write Error!	SH2エラートラップが生じました。	
	Flash ROM write error!	フラッシュROMの消去エラーが生じました。	
GPIインターフェース	Illegal Instruction!	SH2エラートラップが生じました。	
	Illegal interrupt!		
	Illegal slot!		
PCカード	NMI Request!		
	TIME OUT ERR	複数台のDME32システムに電源を入れると、CASCADE IN端子にケーブルを接続したDME32は次のDME32からの接続確認を待ちます。この確認が10秒以内に受信されないとタイムアウトエラーが生じます。	カスケード接続したDME32はそれぞれ10秒以内の間隔で電源を入れてください。またすべてのDME32がオンになっていること、カスケードケーブルが正しく接続されていることを確認してください。
ワードクロック	Unexpected vector!	SH2エラートラップが生じました。	
	User Break!		
複数台のDME32システム			
MIDI			
I/Oオプション			
付録			

DME Manager エラーメッセージ

DME Managerにエラーメッセージが表示されたら以下の表を参照して対策を施してください。

メッセージ	原因	対策
Cannot compile because configuration contains no components!	コンポーネントのっていないコンフィグレーションをコンパイルしようとしてしました。	コンポーネントを適宜追加してからコンパイルしてください。
Cannot display more than 32 meters!	32個を超えるメーターを表示しようとしてしました。	同時に表示できるメーターは32個までです。
COM port open error 5	COMポートが別のデバイスで使用されていません。	COMポートを使用しているデバイスをオフにしてください。 DMEフォルダ内の「setup.ini」ファイルを開きCOM設定が正しいか確認してください。たとえばCOM2ポートを使用している場合は「COM2」に設定してください。
Component position error!	コンフィグレーションを表示させようとしてエラーが生じました。	コンフィグレーションをもう一度開くか、DME32からもう一度コンフィグレーションを受信してください。
Configuration must be compiled before saving!	コンパイルされていないコンフィグレーションを保存しようとしてしました。	コンフィグレーションをコンパイルしてから保存してください。
Configuration must be compiled before sending!	コンパイルされていないコンフィグレーションをDME32に送信しようとしてしました。	コンフィグレーションをコンパイルしてからもう一度送信してください。
DME32 and DME Manager configurations do not match!	DME ManagerとDME32のコンフィグレーションデータが一致しません。	データを一致させるか、コンフィグレーションをもう一度送信してください。
DME32 not found!	DME Managerを立ち上げたときにDME32が検出されませんでした。	DME Managerだけを使用するか、DME32の接続をチェックしてDME Managerを再起動させてください。
Error reading file!	ファイルを開こうとしてエラーが生じました。対象ファイルはすでに使用中であるか保存されていない可能性があります。	ファイルが使用中か、保存されているかを確認してからもう一度開いてください。
Error receiving configuration!	DME32からコンフィグレーションを受信中にエラーが生じました。	DME32の接続をチェックしてからもう一度受信してください。
Error sending configuration!	DME32からコンフィグレーションを送信中にエラーが生じました。	DME32の接続をチェックしてからもう一度送信してください。
Error writing file!	ファイルに書き込み中にエラーが生じました。対象ファイルはすでに使用中であるか書き込み保護されています。	別のファイル名を入力するか、書き込み保護を解除してからもう一度保存してください。
Grid spacing is too large or too small!	指定したグリッドの間隔が大きすぎるか小さすぎます。	有効な範囲内の間隔を入力してください。
Incorrect password!	入力したパスワードが違います。	正しいパスワードを入力してください。
No configuration selected!	コンフィグレーションを選択せずに送信しようとしてしました。	コンフィグレーションを選択してから送信してください。
"NO DATA" is an invalid file name!	ファイル名に「NO DATA」は使用できません。	「NO DATA」以外の名前を入力してください。
Not a DME file!	DMEファイル以外のファイルを開こうとしてしました。	DMEファイルのみを開いてください。
Printer setup error!	プリンターセットアップ情報を読み込み中にエラーが生じました。プリンターが正しく設定されていないか適切なドライバーが使用できません。	プリンターを正しくセットアップしてください。

はじめに

操作の前に

各部の名称と機能

DME Managerの概要

コンフィグレーションの構築

Runモード

ソフトウェア "DME Manager" のその他の機能

コンポーネントガイド 第1部

コンポーネントガイド 第2部

フロントパネルの操作

GPI インターフェース

PCカード

ワードクロック

複数台のDME32システム

MIDI

I/O オプション

付録

	メッセージ	原因	対策
はじめに	The DME32 configuration data has changed. Receive data from DME32?	DME32上でコンフィグレーションデータが変更されました。たとえばワードクロック設定をフロントパネルから変更したり、PCカードからコンフィグレーションをロードした可能性があります。	[OK] をクリックしてDME32から最新のコンフィグレーションデータを受信してください。
操作の前に			
各部の名称と機能	This component is protected!	プロテクトされたコンポーネントを編集しようとした。	コンポーネントのプロテクトを解除してから編集してください。
	This operation is protected!	プロテクトされた操作を行おうとした。	OperationまたはComponentのプロテクトを解除してから操作してください。
DME Manager の概要	Too many components for DME32 #!	指定したDME32のコンポーネントが最大数を越えました。	未使用のコンポーネントを削除してリソース容量を増やしてから新しいコンポーネントを追加してください。
コンフィグレーションの構築	You must enter a title for the configuration!	コンフィグレーションを送信しようとしたが、コンフィグレーションが選択されていないかタイトルが入力されていません。	コンフィグレーションを選択するかタイトルを入力してから送信してください。
Runモード	You must enter a title for the user module!	ユーザーモジュールを保存しようとしたが、タイトルが入力されていません。	タイトルを入力してから保存してください。
ソフトウェア "DME Manager" のその他の機能			
コンポーネントガイド 第1部			
コンポーネントガイド 第2部			
フロントパネルの操作			
GPI インターフェース			
PCカード			
ワードクロック			
複数台のDME32システム			
MIDI			
I/O オプション			
付録			

仕 様

サンプリング 周波数	内部	48kHz
	外部	39.69 ~ 50.88kHz
シグナルディレイ		0.21ms(インット1からアウトット1へダイレク トケーブル、fs = 48kHz)
メモリー	コンフィグレーション	2 (A, B)
	シーン	コンフィグレーション1つにつき、99個
ディスプレイ		24桁×2行LCD バックライト付き
シーンナンバー		7セグメントLED×2
インジケーター	ワードクロック	48kHz、44.1kHz、LOCK
	Emergency(緊急)モード	EMERGENCY
	その他	COMPONENT、PARAMETER、VALUE、PROTECT、 UTILITY、USER DEFINE
PCカードスロット		PCMCIAタイプIIメモリーカード
電源		100V、50/60Hz
消費電力		40W
最大外形寸法(W × H × D)		480 × 141.5 × 375.2mm
重量		9.5kg
動作保証温度		10 ~ 35
保管温度		- 20 ~ 60
電源コード長		2.5m
付属品		電源コード、CD-ROM(DME Managerプログラム)、 9ピンD-subクロスケーブル、16ピンユーロブロックプ ラグ、取扱説明書、ACプラグ変換アダプター
オプション		MY8、MY4 mini YGDAI I/Oカード

コントロールI/O

入出力端子	フォーマット	レベル	仕様コネクタ
WORD CLOCK INPUT		TTL 75 (ON/OFF)	BNC
WORD CLOCK OUTPUT		TTL	BNC
MIDI IN	MIDI		DIN 5ピン
MIDI OUT	MIDI		DIN 5ピン
CASCADE IN			ハーフピッチ50ピン
CASCADE OUT			ハーフピッチ50ピン
USB	USB		USBタイプBオス
PC CONTROL		RS232C/RS422	9ピンD-sub
COM		RS422	9ピンD-sub
GPI IN(× 16)		0 ~ 5V	ユーロブロック
GPI OUT(× 16)		0 ~ 5V	ユーロブロック
GPI +V(× 16)		6mA max	ユーロブロック
SLOT(× 4)	mini YGDAI		

はじめに

操作の前に

各部の名称
と機能DME
Manager
の概要コンフィグ
レーション
の構築

Runモード

ソフトウェア
"DME Manager"
のその他の機能コンポーネント
ガイド 第1部コンポーネント
ガイド 第2部フロント
パネルの
操作GPI
インター
フェース

PCカード

ワード
クロック複数台の
DME32
システム

MIDI

I/O
オプション

付 録

コネクタピンアサイン

はじめに

操作の前に

各部の名称
と機能DME
Manager
の概要コンフィグ
レーション
の構築

Runモード

ソフトウェア
"DME Manager"
のその他の機能コンポーネント
ガイド 第1部コンポーネント
ガイド 第2部フロント
パネルの
操作GPI
インター
フェース

PCカード

ワード
クロック複数台の
DME32
システム

MIDI

I/O
オプション

付録

PCコントロール(RS232C)端子

ピン	名称	In/Out	ピン	名称	In/Out
1	未使用		6	DSR	In
2	RxD	In	7	RTS	Out
3	TxD	Out	8	CTS	In
4	DTR	Out	9	未使用	
5	GND				

PCコントロール(RS422)端子

ピン	名称	In/Out	ピン	名称	In/Out
1	未使用		6	Rx+	In
2	Rx-	In	7	RTS	Out
3	Tx-	Out	8	CTS	In
4	Tx+	Out	9	未使用	
5	GND				

CASCADE OUT端子

ピン	名称	ピン	名称
1	GND	26	GND
2	Bus 1 ~ 4 in+	27	Bus 1 ~ 4 in-
3	Bus 5 ~ 8 in+	28	Bus 5 ~ 8 in-
4	Bus 9 ~ 12 in+	29	Bus 9 ~ 12 in-
5	Bus 13 ~ 16 in+	30	Bus 13 ~ 16 in-
6	Bus 17 ~ 20 in+	31	Bus 17 ~ 20 in-
7	Bus 21 ~ 24 in+	32	Bus 21 ~ 24 in-
8	Bus 25 ~ 28 in+	33	Bus 25 ~ 28 in-
9	Bus 29 ~ 32 in+	34	Bus 29 ~ 32 in-
10	GND	35	GND
11	Sum 1 ~ 4 out+	36	Sum 1 ~ 4 out-
12	Sum 5 ~ 8 out+	37	Sum 5 ~ 8 out-
13	Sum 9 ~ 12 out+	38	Sum 9 ~ 12 out-
14	Sum 13 ~ 16 out+	39	Sum 13 ~ 16 out-
15	Sum 17 ~ 20 out+	40	Sum 17 ~ 20 out-
16	Sum 21 ~ 24 out+	41	Sum 21 ~ 24 out-
17	Sum 25 ~ 28 out+	42	Sum 25 ~ 28 out-
18	Sum 29 ~ 32 out+	43	Sum 29 ~ 32 out-
19	Wordclock out	44	Wordclock in
20	GND	45	GND
21	Control Rx+	46	Control Rx-
22	Control Tx+	47	Control Tx-
23	ID out	48	GND
24	ID out(GND)	49	GND
25	GND	50	GND

CASCADE IN端子

ピン	名称	ピン	名称
1	GND	26	GND
2	Bus 1 ~ 4 out+	27	Bus 1 ~ 4 out-
3	Bus 5 ~ 8 out+	28	Bus 5 ~ 8 out-
4	Bus 9 ~ 12 out+	29	Bus 9 ~ 12 out-
5	Bus 13 ~ 16 out+	30	Bus 13 ~ 16 out-
6	Bus 17 ~ 20 out+	31	Bus 17 ~ 20 out-
7	Bus 21 ~ 24 out+	32	Bus 21 ~ 24 out-
8	Bus 25 ~ 28 out+	33	Bus 25 ~ 28 out-
9	Bus 29 ~ 32 out+	34	Bus 29 ~ 32 out-
10	GND	35	GND
11	Sum 1 ~ 4 in+	36	Sum 1 ~ 4 in-
12	Sum 5 ~ 8 in+	37	Sum 5 ~ 8 in-
13	Sum 9 ~ 12 in+	38	Sum 9 ~ 12 in-
14	Sum 13 ~ 16 in+	39	Sum 13 ~ 16 in-
15	Sum 17 ~ 20 in+	40	Sum 17 ~ 20 in-
16	Sum 21 ~ 24 in+	41	Sum 21 ~ 24 in-
17	Sum 25 ~ 28 in+	42	Sum 25 ~ 28 in-
18	Sum 29 ~ 32 in+	43	Sum 29 ~ 32 in-
19	Wordclock in	44	Wordclock out
20	GND	45	GND
21	Control Tx+	46	Control Tx-
22	Control Rx+	47	Control Rx-
23	ID in(GND)	48	GND
24	ID in	49	GND
25	GND	50	GND

はじめに

操作の前に

各部の名称
と機能DME
Manager
の概要コンフィグ
レーション
の構築

Runモード

ソフトウェア
"DME Manager"
のその他の機能コンポーネント
ガイド 第1部コンポーネント
ガイド 第2部フロント
パネルの
操作GPI
インター
フェース

PCカード

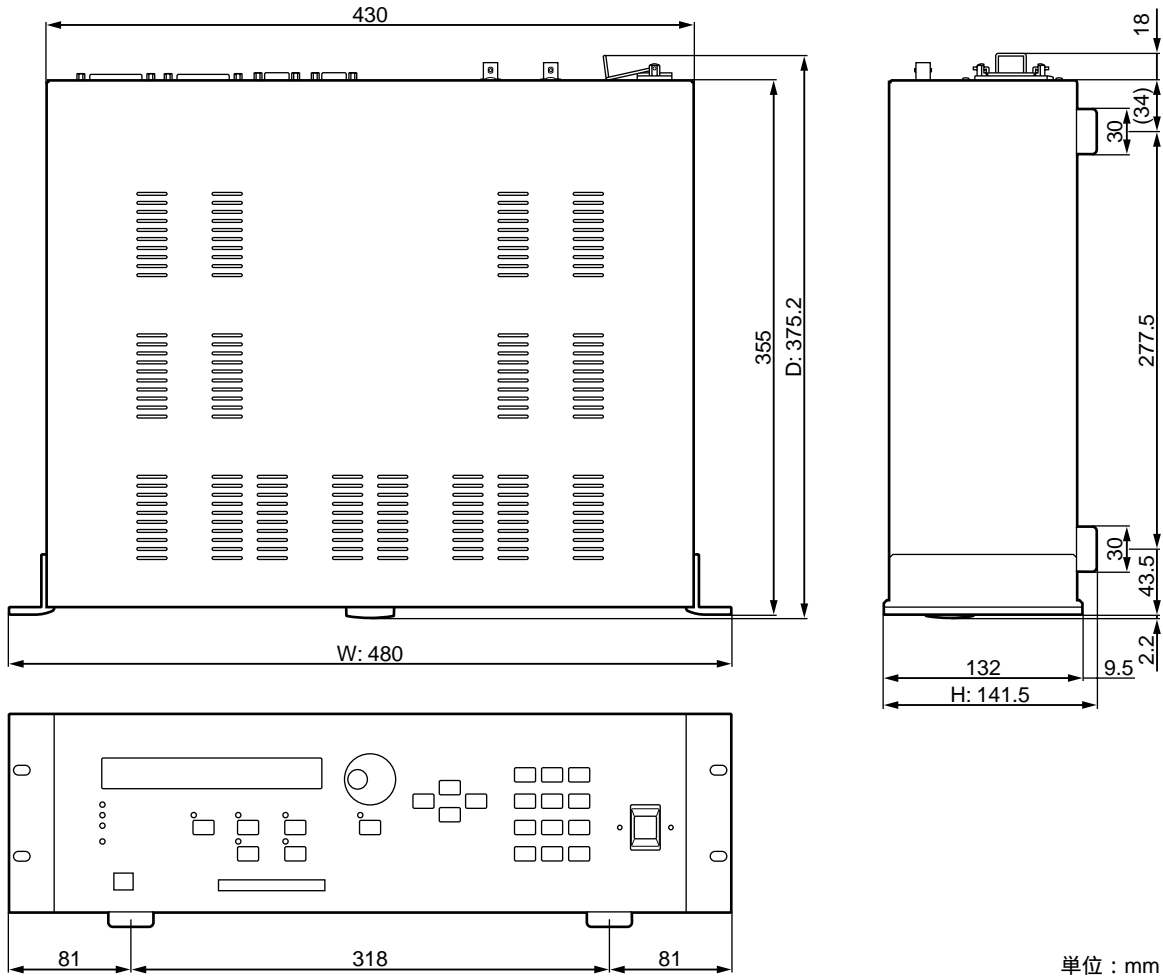
ワード
クロック複数台の
DME32
システム

MIDI

I/O
オプション

付録

DME32 寸法図



単位：mm

仕様および外観は、改良のため予告なく変更することがあります。

- はじめに
- 操作の前に
- 各部の名称と機能
- DME Manager の概要
- コンフィグレーションの構築
- Runモード
- ソフトウェア "DME Manager" のその他の機能
- コンポーネントガイド 第1部
- コンポーネントガイド 第2部
- フロントパネルの操作
- GPI インターフェース
- PCカード
- ワードクロック
- 複数台の DME32 システム
- MIDI
- I/O オプション
- 付録

プログラムチェンジアサイン表

Program Change	Scene / Configuration
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	
16	
17	
18	
19	
20	
21	
22	
23	
24	
25	
26	
27	
28	
29	
30	
31	
32	
33	
34	
35	
36	
37	
38	
39	
40	
41	
42	
43	

Program Change	Scene / Configuration
44	
45	
46	
47	
48	
49	
50	
51	
52	
53	
54	
55	
56	
57	
58	
59	
60	
61	
62	
63	
64	
65	
66	
67	
68	
69	
70	
71	
72	
73	
74	
75	
76	
77	
78	
79	
80	
81	
82	
83	
84	
85	
86	

Program Change	Scene / Configuration
87	
88	
89	
90	
91	
92	
93	
94	
95	
96	
97	
98	
99	
100	
101	
102	
103	
104	
105	
106	
107	
108	
109	
110	
111	
112	
113	
114	
115	
116	
117	
118	
119	
120	
121	
122	
123	
124	
125	
126	
127	
128	

- はじめに
- 操作の前に
- 各部の名称と機能
- DME Managerの概要
- コンフィグレーションの構築
- Runモード
- ソフトウェア "DME Manager" のその他の機能
- コンポーネントガイド 第1部
- コンポーネントガイド 第2部
- フロントパネルの操作
- GPI インターフェース
- PCカード
- ワードクロック
- 複数台の DME32 システム
- MIDI
- I/O オプション
- 付録

コントロールチェンジアサイン表

	Control Change	Unit	Component	Sub. No	Parameter	Pair
はじめに	0					
操作の前に	1					
	2					
各部の名称と機能	3					
	4					
	5					
DME Managerの概要	6					
	7					
コンフィグレーションの構築	8					
	9					
	10					
Runモード	11					
	12					
	13					
ソフトウェア "DME Manager" のその他の機能	14					
	15					
	16					
コンポーネントガイド 第1部	17					
	18					
	19					
コンポーネントガイド 第2部	20					
	21					
	22					
フロントパネルの操作	23					
	24					
	25					
GPI インターフェース	26					
	27					
	28					
PCカード	29					
	30					
	31					
ワードクロック	32					
	33					
	34					
複数台のDME32システム	35					
	36					
	37					
MIDI	38					
	39					
	40					
I/O オプション	41					
	42					
	43					
付録	44					
	45					
	46					

Control Change	Unit	Component	Sub. No	Parameter	Pair
47					
48					
49					
50					
51					
52					
53					
54					
55					
56					
57					
58					
59					
60					
61					
62					
63					
64					
65					
66					
67					
68					
69					
70					
71					
72					
73					
74					
75					
76					
77					
78					
79					
80					
81					
82					
83					
84					
85					
86					
87					
88					
89					
90					
91					
92					
93					
94					

はじめに

操作の前に

各部の名称と機能

DME Managerの概要

コンフィグレーションの構築

Runモード

ソフトウェア "DME Manager" のその他の機能

コンポーネントガイド 第1部

コンポーネントガイド 第2部

フロントパネルの操作

GPI インターフェース

PCカード

ワードクロック

複数台の DME32 システム

MIDI

I/O オプション

付録

	Control Change	Unit	Component	Sub. No	Parameter	Pair
はじめに	95					
	96					
操作の前に	97					
	98					
	99					
各部の名称と機能	100					
	101					
	102					
DME Managerの概要	103					
	104					
	105					
コンフィグレーションの構築	106					
	107					
	108					
Runモード	109					
	110					
	111					
ソフトウェア "DME Manager" のその他の機能	112					
	113					
	114					
コンポーネントガイド 第1部	115					
	116					
	117					
コンポーネントガイド 第2部	118					
	119					
フロントパネルの操作						
GPIインターフェース						
PCカード						
ワードクロック						
複数台のDME32システム						
MIDI						
I/Oオプション						
付録						

MIDIデータフォーマット

1. 機能

1.1 PROGRAM CHANGE

Program Change Messageを受信すると、[Midi Program Change Assign Table]に従って、SceneをRecallします。

Program Change Messageを送信する場合には、[Midi Program Change Assign Table]に従って、Program No.を送信します。そのMemory No.が複数のProgram No.に割り当てられている場合には、一番若いProgram No.を送信します。

1.2 CONTROL CHANGE

Control Change Messageを受信すると、[Midi Control Change Assign Table]に従って、Parameterがエディットされます。

[Midi Control Change Assign Table]で設定されているパラメーターがエディットされた場合には、そのcontrol cahnge no.でControl Change Messageで送信します。1つのパラメーターが複数アサインされている場合には、一番若いControl No.で送信します。

1.3 PARAMETER CHANGE

各種parameterの設定値の変更を送受信します。送信は、[Param. change Tx]がONであれば、設定値を変更したときに行います。受信は、[Param. Change Rx]がONであればいつでも行います。

2. 本体の設定や操作

2.1 MIDI-SETUP

2.1.1 MIDI Channel

2.1.1.1 Transmit channel

送信に使用するMIDI channelを設定します。

2.1.1.2 Receive channel

受信に使用するMIDI channelを設定します。MIDI情報は、基本的にMIDI Channelが一致しないと受信しませんが、OMNIがONになっている場合には、その限りではありません。

2.1.2 ON/OFF

2.1.2.1 Program change

受信や送信の可・不可を設定します。また、OMNIをONにすると、MIDI channelの関わりなく受信を行います。ECHOがONの場合には、channelに関わらずECHOします。

2.1.2.2 Control change

受信や送信の可・不可を設定します。また、OMNIをONにすると、MIDI channelの関わりなく受信を行います。ECHOがONの場合には、channelに関わらずECHOします。

2.1.2.3 Parameter change

受信や送信の可・不可を設定します。ECHOがONになっていれば、channelに関わらずECHOします。

はじめに

操作の前に

各部の名称
と機能DME
Manager
の概要コンフィグ
レーション
の構築

Runモード

ソフトウェア
"DME Manager"
のその他の機能コンポーネント
ガイド 第1部コンポーネント
ガイド 第2部フロント
パネルの
操作GPI
インター
フェース

PCカード

ワード
クロック複数台の
DME32
システム

MIDI

I/O
オプション

付録

はじめに

操作の前に

各部の名称と機能

DME Managerの概要

コンフィグレーションの構築

Runモード

ソフトウェア "DME Manager" のその他の機能

コンポーネントガイド 第1部

コンポーネントガイド 第2部

フロントパネルの操作

GPI インターフェース

PCカード

ワードクロック

複数台の DME32 システム

MIDI

I/O オプション

付 録

2.2 MIDI-Program change assign table

Program Change No.と、Scene no.との対応表で、自由に設定が可能です。

2.3 MIDI-Control change assign table

Control change no.と、パラメーターとの対応表で、自由に設定可能です。受信の際には勿論、送信の際にも使用します。TX ONの場合には、アサインされているパラメーターを変更したときに出力されます。

3. MIDI Format 一覧

3.1 CHANNEL MESSAGE

command	rx/tx	function
Bn CONTROL CHANGE	rx/tx	パラメーターのコントロール(Control Change Assign Tableを使用)
Cn PROGRAM CHANGE	rx/tx	シーンメモリーの切り替え(Program Change Tableを使用)

3.2 PARAMETER CHANGE

Parameter type	rx/tx	function
0x00	rx/tx	edit buffer (byte operation format)

4. MIDI Format 詳細仕様

4.1 CONTROL CHANGE (Bn)

《 受信 》

[Control Change RX]がONで、[Rx CH]が一致した場合に受信します。ただし[OMNI]がONの場合、チャンネルに関わらず受信します。

[Control Change ECHO]がONの場合には、ECHOします。

[control assign table]の設定に従って、パラメーターを制御します。

《 送信 》

[Control Change TX]がONの場合、[control assign table]で設定されているパラメーターを操作したときに、[Tx CH]のチャンネルで送信します。

[Control Change ECHO]がONの場合には、ランニング・ステータスを活かしながら、自身の出力とマージします。

STATUS	1011nnnn Bn	Control Change
DATA	0ccccccc cc	Control No. (0-119)
	0vvvvvvvv vv	Control Value (0-127)

control valueをパラメーター値に変換する計算式は以下の通り。

$$C = 128 \text{ (byte parameter)}$$

$$16384 \text{ (word parameter)}$$

S = パラメーターの全可変ステップ数

$$C / S = X \text{ 余り } Y$$

$$\text{INT}((Y+1)/2) = Z$$

(MIDI DATA - Z) < 0 の場合	param = 0
((MIDI DATA - Z)/X) > MAXの場合	param = MAX
それ以外の場合	param = INT((MIDI DATA - Z)/X)

4.2 PROGRAM CHANGE (Cn)

《 受信 》

[Program Change RX]がONで、[Rx CH]が一致した場合に受信します。ただし[OMNI]がONの場合、チャンネルに関わらず受信します。

[Program Change ECHO]がONの場合には、ECHOします。

[Program change table]の設定に従って、Scene Memoryをリコールします。

《 送信 》

[Program Change TX]がONの場合、リコールしたときに[Program change table]の設定に従い、[Tx CH]のチャンネルで送信します。

リコールしたmemory no.が複数のprogram no.に割り当てられている場合には、一番若いprogram no.を送信します。

[Program Change ECHO]がONの場合には、ECHOします。

STATUS	1100nnnn Cn	Program Change
DATA	0nnnnnnn nn	Program No. (0-127)

4.3 PARAMETER CHANGE (byte operation for type 0x00:edit buffer)

《 受信 》

[Parameter Change RX]がONで、[Rx CH]とSUB STATUSに含まれるDevice Channelが一致した場合に受信します。

[Parameter Change ECHO]がONの場合には、ECHOします。

受信しだい、指定のパラメーターを制御します。

《 送信 》

[Parameter Change TX]がONで、[Control Assign Table]には設定されていないパラメーターを変更した場合、[Tx CH]のDevice Channelで送信します。

[Parameter Change ECHO]がONの場合には、メッセージをそのまま送信します。

STATUS	11110000 F0	System Exclusive Message
ID No.	01000011 43	Manufacturer's ID No.(YAMAHA)
SUB STATUS	0001nnnn 1n	parameter change or response for request n=0-15(Device Channel No.1-16)
GROUP ID	00111110 3E	group ID (digital mixer)
MODEL ID	00000101 05	Device code (DME32)
PARAM TYPE	00000000 00	byte operation for edit buffer
DATA	0000aaaa dd1	parameter No.(H high order bit)
	0000bbbb dd2	parameter No.(H low order bit)
	0000cccc dd3	parameter No.(L high order bit)
	0000dddd dd4	parameter No.(L low order bit)
	0000eeee dd5	parameter value(H high order bit)
	0000ffff dd6	parameter value(H low order bit)
	0000gggg dd7	parameter value(L high order bit)
	0000hhhh dd8	parameter value(L low order bit)
EOX	11110111 F7	End Of Exclusive

はじめに

操作の前に

各部の名称と機能

DME Managerの概要

コンフィグレーションの構築

Runモード

ソフトウェア "DME Manager" のその他の機能

コンポーネントガイド 第1部

コンポーネントガイド 第2部

フロントパネルの操作

GPI インターフェース

PCカード

ワードクロック

複数台のDME32システム

MIDI

I/O オプション

付録

用語集

はじめに	
操作の前に	ADATフォーマット ADAT互換デジタルオーディオ機器で使われる標準のデジタルオーディオ接続フォーマット。8チャンネルのデジタルオーディオがオプティカルケーブル・Tosリンク接続で転送されます。
各部の名称と機能	Adjusting Gc Gc(カットオフ周波数におけるゲイン)を調整できるフィルターです。Gc = - 3dBにするとButterworth filterになります。SLOP&TYPE に12dB/oct Adjusting Gc、24dB/oct Adjusting Gc、24dB/oct Adjusting Gcを選んで、Gc = - 6dB にするとLinkwitz-Riley filterになります。また、Gcを - 3dBより大きくするとカットオフ周波数付近がブーストされます。
DME Managerの概要	AES/EBUフォーマット AES(Audio Engineering Society)とEBU(European Broadcasting Union)により規定されたデジタルオーディオフォーマットで、プロ機器間でデジタルオーディオデータをやりとりするときに使用します。1系統の接続だけで2チャンネル分のデジタルオーディオ(左/奇数、右/偶数)を送信でき、通常XLRタイプの端子を使用します。
コンフィグレーションの構築	Bessel 位相特性を重視した特性で、減衰特性はButterworthより緩やかですが、方形波を通過させた場合に波形の乱れがありません。
Runモード	Butterworth 最も一般的な特性で、特に断わらないかぎり、フィルターということ Butterworth特性を示します。通過域は平坦で、カットオフ周波数におけるゲインは - 3dBです。
ソフトウェア "DME Manager"のその他の機能	Cableモード 各コンポーネントを結線するためのDME Managerのモード。
コンポーネントガイド 第1部	DSP(デジタルシグナルプロセッサ) 大量のデータを高速かつリアルタイムで処理するために特別に設計されたチップ。デジタルオーディオデータを処理するのに最適。
コンポーネントガイド 第2部	Editモード コンフィグレーションを構築、編集するためのDME Managerのモードです。オフラインでシーンの編集、チェックをするときにもこのモードを使います。
フロントパネルの操作	EMERGENCY(緊急)モード このモードでは全てのDME32の出力をミュート(消音)し、EMERGENCYインジケータが点灯します。GPI入力の一つをEMERGENCY用に割り当てでき、その入力トリガーされるとEMERGENCY(緊急)モードになります。
GPIインターフェース	FS サンプリング周波数の略語。
PCカード	GPI(General Purpose Interface:汎用インターフェース) カスタムメイドのコントローラーや外部機器からDME32の16のGPI入出力を使ってリモートコントロールできます。
ワードクロック	Linkwitz-Riley フィルターの次数は2の累乗で、LPFとHPFの出力を電圧合成したとき、全帯域でゲインが0dBになるような特性です。Butterworthと同じように、通過域は平坦ですが、カットオフ周波数におけるゲインは - 6dBです。
複数台のDME32システム	MIDI(Musical Instrument Digital Interface) 電子楽器やオーディオ機器間でデータ転送を行うための国際的に承認された標準規格。
MIDI	PCM(CIA Personal Computer Memory Card International Association) PCカードの標準規格を決めている組織です。
I/Oオプション	
付録	

PCカード パーソナルコンピュータや電子機器で使われる小型のクレジットカード・サイズの機器です。PCカードには厚さにより3つのタイプがあります。一番薄いのタイプ1(通常メモリーRAMやメモリーROMに使われます)、次に薄いのタイプ2(FAX/モデムなどに使われます)、一番厚いのタイプ3(ハードディスクドライブ用に使われます)です。

RS-232C シリアル機器の接続フォーマットで、約15mまでの送信が可能です。通常は9ピンコネクタあるいは25ピンD-subコネクタを使用します。

RS-422 シリアル機器のバランス接続フォーマットで、約1kmまでの送信が可能です。RS-232Cに比べて高速のデータ転送が可能で信頼性があります。

Runモード DME32システムをリアルタイムでコントロールするためのDME Managerのモードです。コントロール内容はコントロールパラメーターの編集、シーンの保存、呼び出し、コンフィグレーションの呼び出しです。

USB(ユニバーサルシリアルバス) 外部機器をコンピュータに接続するためのシリアルバスで、最大12Mbps速度でのデータ転送が可能です。

WC Word Clock(ワードクロック)の略語。

オーバーサンプリング 量子化の誤差によるノイズを軽減するための技術で、オーディオは公称サンプリング周波数よりもかなり高いレートでサンプリングされます。

コンパイル DME32が理解し動作できるようにコンフィグレーション情報を翻訳処理することで、コンフィグレーションはDME32に保存あるいは転送される前にコンパイルする必要があります。

コンフィグレーション DME32のオーディオシステムを構築するコンポーネントや結線の配置。DME32にはAとB、2つのコンフィグレーションが保存できます。

サンプリングレート A/D変換中にアナログオーディオ信号がサンプリングされる1秒あたりの回数。

コンポーネント DME32のコンフィグレーション内のブロックは各コンポーネントで構成されます。ミキサー、コンプレッサー、エフェクト、クロスオーバーなどの完全なオーディオプロセッサもあれば、フェーダー、スイッチ、パンコントロール、メーターなどのパーツもあります。User Module(ユーザーモジュール)を使いコンポーネントをカスタマイズできます。

シーン DME32のシーンはコンポーネントパラメーター設定をスナップショットとして保持できます。最大99個のシーンを各コンフィグレーションに保存できます。

初期設定 工場から出荷されてから最初に装置の電源を入れたときの設定内容。「デフォルト設定」「工場出荷時設定」とも呼ばれる。

ファームウェア 読み出し専用メモリー(ROM)に保存されているソフトウェアです。DME32のシステムソフトウェアは再プログラム可能な特別なタイプのメモリー(フラッシュROM)に保存されています。

ミニYGDA(Yamaha General Digital Audio Interface) ヤマハのデジタルMTR D24やデジタルミキサー01V、そしてデジタルミキシングエンジンDME32で使われる第2世代のインターフェースシステム。

ワードクロック デジタルオーディオシステムに接続されているすべての機器のデータ処理回路を同期させるクロック信号。ワードクロックの周波数はサンプリングレートと等しい。

はじめに

操作の前に

各部の名称と機能

DME Managerの概要

コンフィグレーションの構築

Runモード

ソフトウェア "DME Manager" のその他の機能

コンポーネントガイド 第1部

コンポーネントガイド 第2部

フロントパネルの操作

GPIインターフェース

PCカード

ワードクロック

複数台のDME32システム

MIDI

I/Oオプション

付録

索引

はじめに

操作の前に

各部の名称
と機能DME
Manager
の概要コンフィグ
レーション
の構築

Runモード

ソフトウェア
"DME Manager"
のその他の機能コンポーネント
ガイド 第1部コンポーネント
ガイド 第2部フロント
パネルの
操作GPI
インター
フェース

PCカード

ワード
クロック複数台の
DME32
システム

MIDI

I/O
オプション

付 録

記号

2-Way Crossoverコンポーネント . 96
 3-Way Crossover Processorコンポー
 ネント 109
 3-Way Crossoverコンポーネント . 98
 4-Way Crossover Processorコンポー
 ネント 114
 4-Way Crossoverコンポーネント 101
 44.1kHzインジケータ 19
 48kHzインジケータ 19
 75 ON/OFFスイッチ 21

A

AC INソケット 12, 21
 AD824/DA824コンバーター 258
 AD824コンバーター 258
 ADAT I/Oカード 254
 ADATフォーマット 286
 Adjusting Gc 95
 AES/EBU I/Oカード 254
 AES/EBUフォーマット 286
 Alignコマンド 37, 41, 50
 「Alt」メニュー 43
 Auto Mixerコンポーネント 92
 Auto Panコンポーネント 157

B

Bessel 95, 286
 BPFコンポーネント 170
 Bring to front 82
 Butterworth 95, 286

C

Cableコマンド 37, 41, 43
 Cableモード 24, 53, 286
 CARDイジェクトボタン 20
 CARDスロット 20, 224
 CASCADE IN端子 22, 239, 277
 CASCADE OUT端子 22, 239, 276
 Cascadeコマンド 40
 Cascadeコンポーネント 94
 Chorusコンポーネント 153
 Closeコマンド 36
 Companderコンポーネント 127
 Compileコマンド 36, 41, 43
 Component color 82
 Component Listコマンド 39, 41
 COMPONENTキー /
 インジケータ 19
 Componentメニュー 39
 Compressorコンポーネント 130

COM端子 22, 258
 Control Size 84
 Copy 193
 Copyコマンド 37, 41
 Crossover Processor
 コンポーネント 104
 Crossoverコンポーネント 95
 Cutコマンド 37, 41

D

DA824コンバーター 258
 Data Transferコマンド 36
 DATAホイール 18
 De-Esserコンポーネント 133
 Delay LCRコンポーネント 151
 Delayed Mixerコンポーネント 124
 Delayコンポーネント 122
 Delete 50
 Deleteコマンド 37, 41
 DME Manager
 Windows 98 15
 アップグレード 14
 インストール 13
 エラーメッセージ 273
 起動 14
 再インストール 14
 終了 14
 特長 6
 パスワードによるプロテクト ... 85
 DME Managerのインストール 13
 DME Managerの起動 14
 DME32
 DME32とは? 2
 エラーメッセージ 272
 初期化 212
 寸法図 278
 特長 4
 フロントパネル 18
 リアパネル 21
 DME32からのコンフィグレーション
 の受信 65
 DME32の初期化 212
 DME32の設置 7
 DME32へのアクセスの制限 205
 DME32へのコンフィグレーション
 の送信 64
 DSP 286
 DSPパワーメーター 29
 Dual Pitchコンポーネント 160
 Duckerコンポーネント 135
 Duplicate 50
 Duplicateコマンド 37, 41
 Dyna Filterコンポーネント 162

Dyna Flangeコンポーネント 163
 Dynamicsコンポーネント 127

E

Early Ref.コンポーネント 146
 Echoコンポーネント 152
 ECHO設定 244
 Editコマンド 37, 41, 43
 Editメニュー 37
 Editモード 24, 286
 選択 47
 Effectコンポーネント 144
 EMERGENCY(緊急)
 モード 214, 222, 286
 EMERGENCYインジケータ 19
 EMERGENCYモード
 割り当て 216
 EQコンポーネント 164
 Execute 64, 66
 Exitコマンド 36
 Expanderコンポーネント 137

F

Faderコンポーネント 167
 Fileメニュー 36
 Filterコンポーネント 168
 Flangeコンポーネント 154
 FS 286
 Full Protect 205, 207

G

Gain Trimmerコンポーネント 177
 Gate Reverbコンポーネント 147
 Gateコンポーネント 140
 GEQコンポーネント 166
 GPI 286
 複数台システム 238
 割り当て 216, 219
 GPIインターフェース 214
 GPIコマンド 38
 GPI端子 22, 214
 Grid 51
 Gridコマンド 38

H

Height 82
 Helpメニュー 40
 HPFコンポーネント 168
 HQ Pitchコンポーネント 159

はじめに	User Module	83, 195	ク	コンポーネント	32	
	Delete	198		グリッド	30, 50	
	Load	197		ケ	2-Way Crossover	96
	Save	196			2-Way Crossover Processor ...	104
構築	195	3-Way Crossover	98			
削除	198	3-Way Crossover Processor ...	109			
操作の前に	削除	198	ケーブルツール	4-Way Crossover	101	
	配線	196		4-Way Crossover Processor ...	114	
	保存	196		Auto Mixer	92	
	ロード	197		Auto Pan	157	
各部の名称と機能	UTILITYキー / インジケーター	20	コ	BPF	170	
	構築	192		Cascade	94	
DME Manager の概要	VALUEキー / インジケーター	20		User Control	195	
	Viewメニュー	38		User Module	195	
コンフィグレーションの構築	Viewメニュー	38	コンフィグレーション	46		
	故障かな?と思ったら	264	コネクタピンアサイン	276		
Runモード	Width	82	コピー	50		
	Windowメニュー	40	Copy	193		
	WORD CLOCK 75 ON/OFF		User Control	194		
	スイッチ	21	コントロール画面	33		
ソフトウェア "DME Manager" のその他の機能	WORD CLOCK IN端子	21	コントロールチェンジ			
	WORD CLOCK OUT端子	21	アサイン表	280		
コンポーネントガイド 第1部	Word Clockコマンド	38	設定	245		
	Zoomコマンド	38	割り当て	248		
コンポーネントガイド 第2部	「Zoom」メニュー	52	コントロールチェンジアサイン表	280		
	ア		コントロールチェンジへの			
フロントパネルの操作	アップグレード	14	割り当て	248		
	アナログI/O	254	コンパイル	287		
GPI インターフェース	エ		コンフィグレーション			
	エフェクトコンポーネント	144	PCカードからのロード	227		
PCカード	エラーメッセージ	272, 273	PCカードへの保存	226		
	オ		画面	28		
ワードクロック	オートミキサーコンポーネント	92	画面のズーム	52		
	オーバーサンプリング	287	コンパイル	63		
複数台のDME32システム	カ		最小化	28		
	カーソル	33	最大化	28		
MIDI	カーソルキー	20	削除	228		
	回転ノブ	34	終了	62		
I/O オプション	回転ノブ	34	新規画面の開き方	47		
	カスケード	238, 239	定義	287		
付 録	カスケードコンポーネント	94	開いている画面の選択	48		
	カット	50	プリント	89		
	カバー取り付け用のネジ穴	20	プログラムチェンジへの			
	キ		割り当て	246		
	キーボードのショートカット	44	別名で保存	62		
			保存	62		
			保存済の開き方	47		
			呼び出し	76, 200		
			リストア	28		
			コンフィグレーション画面			
			画面内の各セクション	31		
			セクションのサイズ変更	61		
			複数台のコンフィグレーション	60		
			コンフィグレーション画面の終了	62		
			コンフィグレーションのコンパイル	63		
			コンフィグレーションの呼び出し	76, 200		
			コンポーネント	32		
			2-Way Crossover	96		
			2-Way Crossover Processor ...	104		
			3-Way Crossover	98		
			3-Way Crossover Processor ...	109		
			4-Way Crossover	101		
			4-Way Crossover Processor ...	114		
			Auto Mixer	92		
			Auto Pan	157		
			BPF	170		
			Cascade	94		
			Chorus	153		
			Compannder	127		
			Component List	42		
			Compressor	130		
			Crossover	95		
			Crossover Processor	104		
			De-Esser	133		
			DELAY	105		
			Delay	122		
			Delay LCR	151		
			Delayed Mixer	124		
			Dual Pitch	160		
			Ducker	135		
			Dyna Filter	162		
			Dyna Flange	163		
			Dynamics	127		
			Early Ref.	146		
			Echo	152		
			Effect	144		
			EQ	164		
			Expander	137		
			Fader	167		
			Filter	168		
			Flange	154		
			Gain Trimmer	177		
			Gate	140		
			Gate Reverb	147		
			GEQ	166		
			HPF	168		
			HQ. Pitch	159		
			Input	172		
			LCR	180		
			LPF	169		
			Matrix Mixer	173		
			Meter	176		
			Misc	177		
			Mod Delay	150		
			Mod Filter	161		
			Mono Delay	148		
			Notch	171		
			Oscillator	178		
			Output	172		
			Pan	180, 181, 183, 185, 187		
			PEQ	164		
			Phaser	156		
			Reverb Hall	144		

Reverb Plate 144
 Reverb Room 144
 Reverb Stage 144
 Reverse Gate 147
 Router 189
 Stereo Compander 127
 Stereo Compressor 130
 Stereo De-Esser 133
 Stereo Delay 149
 Stereo Ducker 135
 Stereo Expander 137
 Stereo Gate 140
 Surround 2 + 2 182
 Surround 3 + 1 185
 Surround 5.1 187
 Switch 191
 Symphonic 155
 System Mute 179
 Tremolo 158
 User Control 192
 User Module 195
 位置調整 49
 エフェクト 144
 オートミキサー 92, 93
 外観をカスタム化 82
 カスケード 94
 クロスオーバープロセッサ 104,
 105, 107, 109, 111, 113,
 115, 117, 119, 121
 コントロール画面 33
 サイズ変更 84
 その他 177, 179
 ダイナミクス .. 127, 129, 131, 133,
 135, 137, 139, 141
 追加 48
 定義 287
 編集 50
 コンポーネントパラメーターと
 パラメーターチェンジ 250
 コンポーネントパラメーターの
 リンク 80
 コンポーネントプロパティの
 カスタム化 82
 コンポーネントリスト 39, 42

サ
 削除
 PCカードからの削除 228
 User Control 194
 User Module 198
 配線 58
 パスワード 87, 210
 パラメーターのリンク 80
 サンプリングレート 287

シ
 シーン
 オフライン編集 78
 定義 287
 プログラムチェンジへの
 割り当て 246
 保存 72, 201
 呼び出し 74, 202
 シーンのオフライン編集 78
 シーンの保存 72, 201
 シーンの呼び出し 74, 202
 シーン編集ドット 18, 201, 202
 仕様 275
 ショートカットメニュー 41
 初期化 212
 初期設定 287
 シリアル接続 11

ス
 ズーム 30
 ステータスバー 27
 スライダー 34
 スレッシュホールド 214
 スレッシュホールド値 220

セ
 設定 245
 接続
 カスケード 239
 接続例 240
 ワードロック 231, 233
 接続例 240, 259

ソ
 操作の前に 9
 その他のコンポーネント 177, 179

タ
 ターミナルボタン 218, 220
 タイトル 78, 82
 タイトルバー 25
 ダイナミクスコンポーネント 127,
 129, 131, 133, 135, 137, 139,
 141

ツ
 ツールバー 26
 追加
 個別に配線 53
 コンポーネント 48
 パラメーターをグループに
 リンク 80
 複数まとめて配線 55

テ
 ディスプレイ 18
 テキスト入力欄 35
 電源オン / オフ 12
 電源コードの接続 12
 電池の電圧 212

ト
 特長 4, 6
 トリガー 214

ニ
 入出力ノード 32

ノ
 ノード 32

ハ
 パスワード 85
 Component 85
 DME32での削除 210
 DME32での設定 205
 DME32でのパスワードを
 忘れた場合 205
 DME32での変更 209
 Off 85
 Operation 85
 削除 87
 設定 86
 変更 87
 忘れた場合 87
 パスワードによるプロテクト 85
 パスワードを忘れた
 DME Manager 87
 パスワードを忘れたら
 DME32 212
 パラメーターのリンク 80
 パラメーターリンク 39
 パラメーターをグループにリンク . 80

フ
 ファームウェア 287
 ファームウェア 212
 複数台システム 238
 複数台システムでの注意 238
 複数台のDME32システム 238
 プリント機能 89
 プログラムチェンジ
 アサイン表 279
 プログラムチェンジアサイン表 .. 279
 プログラムチェンジへの割り当て 246
 プロテクトシステムの一時的解除 .. 208
 フロントパネル 18

はじめに

操作の前に

各部の名称
と機能

DME
Manager
の概要

コンフィグ
レーション
の構築

Runモード

ソフトウェア
"DME Manager"
のその他の機能

コンポーネント
ガイド 第1部

コンポーネント
ガイド 第2部

フロント
パネルの
操作

GPI
インター
フェース

PCカード

ワード
ロック

複数台の
DME32
システム

MIDI

I/O
オプション

付 録

	へ	
はじめに	ペースト	50
	編集	
	DME Manager	71
操作の前に	DME32フロントパネル	203
	コンフィグレーション	46
	コンポーネント	50
各部の名称 と機能	シーンのオフライン編集	78
	パラメーターのリンク	80
	ホ	
DME Manager の概要	保存	62, 196
	ボタン	34
コンフィグ レーション の構築	ポップアップメニュー	35
	メ	
Runモード	メイン画面	25
	モ	
ソフトウェア "DME Manager" のその他の機能	モード	24
	ユ	
コンポーネント ガイド 第1部	ユーロブロックコネクタ	22
	リ	
コンポーネント ガイド 第2部	リアパネル	21
	ワ	
フロント パネルの 操作	ワードクロック	211, 231, 233, 236
	ワードクロック分配の	
	ターミネート	236
GPI インター フェース	割り当て	
	GPI出力の割り当て	219
	GPI入力 of 割り当て	216
PCカード	[USER DEFINE]キー	88
	コントロールチェンジへの	
	割り当て	248
	プログラムチェンジへの	
	割り当て	246
複数台の DME32 システム		
MIDI		
I/O オプション		
付 録		

Function...		Transmitted	Recognized	Remarks
Basic Channel	Default Changed	1-16 1-16	1-16 1-16	Memorized
Mode	Default Messages Altered	X X *****	OMNI OFF/OMNI ON X X	Memorized
Note Number	True Voice	X *****	X X	
Velocity	Note On Note Off	X X	X X	
After Touch	Keys Ch's	X X	X X	
Pitch bend		X	X	
Control Change	0-119	0	0	Assignable
Prog Change	:True#	0-127 *****	0-127 X	Assignable
System Exclusive		0	0	Parameter Change
System Common	:Song Pos :Song Sel :Tune	X X X	X X X	
System Real Time	:Clock :Commands	X X	X X	
Aux Messages	:Local ON/OFF :All Notes OFF :Active Sense :Reset	X X X X	X X X X	
Notes				

Mode 1: OMNI ON, POLY
Mode 3: OMNI OFF, POLY

Mode 2: OMNI ON, MONO
Mode 4: OMNI OFF, MONO

O: Yes
X: No

サービスについて

保証書

この商品には保証書がついています。販売店でお渡していますから、ご住所・お名前・お買上げ年月日・販売店名など所定事項の記入および記載内容をおたしかめのうえ、大切に保管してください。

保証書は当社がお客様に保証期間内の無償サービスをお約束するもので、この商品の保証期間はお買上げ日より1年です。

保証期間内の転居や、ご贈答用に購入された場合などで、記載事項の変更が必要なときは、事前・事後を問わずお買上げ販売店かお客様ご相談窓口、またはヤマハ電気音響製品サービス拠点へご連絡ください。継続してサービスできるように手配いたします。

損害に対する責任

この商品(搭載プログラムを含む)の使用または使用不能により、お客様に生じた損害(事業利益の損失、事業の中断、事業情報の損失、その他の特別損失や逸失利益)については、当社は一切その責任を負わないものとします。また、如何なる場合でも、当社が負担する損害賠償額は、お客様がお支払になったこの商品の代価相当額をもって、その上限とします。

調整・故障の修理

「故障かな?」と思われる症状のときは、この説明書をもう一度よくお読みになり、電源・接続・操作などをおたしかめください。それでもなお改善されないときには、お買上げ販売店へご連絡ください。調整・修理いたします。

調整・修理にさいしては保証書をご用意ください。保証規定により、調整・修理サービスをいたします。また、故障した製品をお持ちいただくか、サービスにお伺いするのも保証書に書かれています。

修理サービスは保証期間が過ぎた後も引き続きおこなわれ、そのための補修用性能部品が用意されています。性能部品とは製品の機能を維持するために不可欠な部品のことをいい、PA製品ではその最低保有期間は製造打切後8年です。この期間は経済産業省の指導によるものです。

お客様ご相談窓口

ヤマハPA製品にかんするご質問・ご相談は下記のお客様ご相談窓口へ、アフターサービスについてのお問合わせはヤマハ電気音響製品サービス拠点へおよせください。

お客様ご相談窓口：ヤマハプロオーディオ製品に対するお問合せ窓口

ヤマハ・プロオーディオ・インフォメーションセンター

Tel: 03-5791-7678 Fax: 03-5488-5085 (電話受付 = 祝祭日を除く月～金 / 11:00～19:00)

E-mail: painfo@post.yamaha.co.jp

営業窓口

PA営業部

北海道営業所	☎ 011-512-6106	〒064-0810	札幌市中央区南十条西1-1-50
仙台営業所	☎ 022-222-6214	〒980-0804	仙台市青葉区大町2-2-10
東京事業所	☎ 03-5488-5480	〒108-8568	東京都港区高輪2-17-11
名古屋営業所	☎ 052-232-5744	〒460-8588	名古屋市中区錦1-18-28
大阪事業所	☎ 06-6647-8359	〒556-0011	大阪市浪速区難波中1-13-17
九州営業所	☎ 092-412-5556	〒812-8508	福岡市博多区博多駅前2-11-4
PA営業課	☎ 03-5488-5472	〒108-8568	東京都港区高輪2-17-11
PA推進室	☎ 053-460-2455	〒430-8650	浜松市中沢町10-1

ヤマハ電気音響製品サービス拠点：修理受付および修理品お預かり窓口

北海道サービスステーション	☎ 011-512-6108	〒064-8543	札幌市中央区南十条西1-1-50	ヤマハセンター内
仙台サービスステーション	☎ 022-236-0249	〒984-0015	仙台市若林区卸町5-7	仙台卸商共同配送センター 3F
首都圏サービスセンター	☎ 03-5762-2121	〒143-0006	東京都大田区平和島2-1-1	京阪トラクターミナル14号棟A-5F
浜松サービスステーション	☎ 053-465-6711	〒435-0016	浜松市和田町200	ヤマハ(株)和田工場6号館2階
名古屋サービスセンター	☎ 052-652-2230	〒454-0058	名古屋市中川区玉川町2-1-2	ヤマハ(株)名古屋流通センター3F
大阪サービスセンター	☎ 06-6877-5262	〒565-0803	吹田市新芦屋下1-16	ヤマハ(株)千里丘センター内
四国サービスステーション	☎ 087-822-3045	〒760-0029	高松市丸亀町8-7	(株)ヤマハミュージック神戸 高松店内
広島サービスステーション	☎ 082-874-3787	〒731-0113	広島市安佐南区西原6-14-14	
九州サービスステーション	☎ 092-472-2134	〒812-8508	福岡市博多区博多駅前2-11-4	
本社/CSセンター	☎ 053-465-1158	〒435-0016	浜松市和田町200	ヤマハ(株)和田工場6号館2階

所在地・電話番号などは変更されることがあります。
2001年5月現在



ヤマハ株式会社
PA営業部PA営業課 ☎ 03-5488-5472
〒108-8568 東京都港区高輪2-17-11